

第3回朝霞市総合計画審議会
次 第

日時 令和6年3月26日(火)
午前10時から
場所 朝霞市役所 別館2階
全員協議会室

1 開 会

2 議 事

- (1) 第2回総合計画審議会の議事のまとめ
- (2) 基礎調査の結果について(報告)
- (3) 市民意識調査等の結果について(報告)
- (4) 市民ワークショップの意見について(報告)
- (5) 将来人口推計について
- (6) 朝霞市が目指すべき方向性について

3 閉 会

第2回総合計画審議会の議事のまとめ

(1)第2回審議会(令和5年10月31日開催)の議事内容

①市民意識調査、青少年アンケートの調査項目に対し、意見を伺った。

(主な意見)

- ・調査の表紙に、この調査があなたのためにどう役立つか記載してはどうか。
- ・今後のまちづくりの方向性の設問に、40、50代が住みやすい視点が必要ではないか。
- ・スマートフォンで回答しやすいよう配慮が必要ではないか。

②基礎調査の取りまとめ状況について報告し、内容について意見を伺った。

(主な意見)

- ・都市比較のチャート図について、外に向かうほど良い指標となるように統一した方がわかりやすい。

(2) 審議会後の状況

- ・基礎調査について、審議会の意見を踏まえて追加修正するとともに、内容を追加した。
- ・市民意識調査等について、以下のとおり実施した。

① 市民意識調査

調査対象・人数 市内在住の18歳以上の者 ・ 3,000人
 調査期間 令和5年11月24日(金)送付、12月25日(月)回答期限
 回答数・回答率 965人 ・ 32.2%

② 青少年アンケート

調査対象・人数 市内在住の12歳以上18歳未満の者 ・ 1,000人
 調査期間 令和5年11月24日(金)送付、12月25日(月)回答期限
 回答数・回答率 271人 ・ 27.1%

③ 子育て世帯調査

調査対象・人数 市内居住の全5歳児の保護者 ・ 1,203人
 調査期間 令和5年12月15日(金)送付、1月15日(月)回答期限
 回答数・回答率 715人 ・ 59.4%

④ 転入・転出者意識調査

調査対象・人数 調査期間中に総合窓口課で転出入手続をする者 ・ 208人
 調査期間 令和5年12月15日(金)配布開始、1月15日(月)回答期限
 回答数・回答率 (転入)16人 ・ 11.3% (転出)9人 ・ 13.6%

⑤ 中学生の意見聴取

調査対象・人数 市内小学校5年生、市内中学校2年生 ・ 2385人
 調査期間 令和6年1月15日(月)配付、令和6年1月22日(月)回答期限
 回答数・回答率 1381人 ・ 57.9%

⑥ 市民ワークショップ

日時 令和6年1月20日(土) 午後1時～午後5時
 場所 ゆめばれす(朝霞市民会館) 新館2階 高砂の間
 参加者 計28人

⑦ 分野別市民懇談会(部会ごとに開催、全5回)

日時 令和6年2月17日(土)～18日(日)
 場所 中央公民館・コミュニティセンター 第1、第2集会室
 参加者 計64人(全5回の合計)

第6次朝霞市総合計画策定に向けた
基礎調査 報告（案）

令和6年（2024年）3月

朝霞市

【 目 次 】

1	基礎調査の目的と内容.....	3
	（1）基礎調査の目的.....	3
	（2）基礎調査の内容.....	3
2	時代潮流—朝霞市を取り巻く外部環境.....	4
	（1）整理の視点.....	4
	（2）朝霞市を取り巻く外部環境としての時代潮流.....	4
3	主要統計指標の都市比較—統計から見た朝霞市の内部環境.....	9
	【整理の視点等】.....	9
	（1）整理の視点.....	9
	（2）比較対象都市と調査項目.....	9
	【分野ごとの調査結果】.....	13
	（1）人口（その1：人口動態）.....	13
	（2）人口（その2：人口構成）.....	14
	（3）産業.....	18
	（4）就労.....	19
	（5）所得・住宅・生活環境.....	21
	（6）健康・医療、安全安心等.....	23
	（7）行財政.....	25
4	課題の整理～時代潮流と統計指標から～.....	31
	（1）人口増加傾向を可能な限り維持するとともに、いずれ訪れる人口減少局面に備える必要がある.....	31
	（2）社会変革の進展を好機と捉え、移住・定住等を促していく必要がある.....	32
	（3）「子育てがしやすいまち」を実感できるよう、子育て支援と教育の充実が必要である.....	33
	（4）豊かで安全・安心な、朝霞市での暮らしの魅力向上に向けた取組が重要である.....	34
	（5）デジタルを活用した効率的・効果的な行政運営と、健全な財政運営が重要である.....	35

1 基礎調査の目的と内容

(1) 基礎調査の目的

本市は、令和8年度（2026年度）から令和17年度（2035年度）の10年間を計画期間とする、第6次朝霞市総合計画（以下「第6次総合計画」）の策定を進めているところである。

本調査は、第6次総合計画の策定にあたり、本市を取り巻く外部環境としての時代潮流の整理、主要統計指標の都市比較を通じた本市の内部環境の考察、課題の整理等を実施して、計画策定の基礎資料とすることを目的としている。

(2) 基礎調査の内容

本調査では、次の内容を実施している。

<基礎調査の内容>

①時代潮流—朝霞市を取り巻く外部環境

- ・人口減少と高齢化の進行、子ども・子育て支援の充実と教育の新たな展開等、時代潮流の整理

②主要統計指標の都市比較—統計から見た朝霞市の内部環境

- ・主要統計指標による本市の人口、産業、行財政等の状況把握と、比較対象都市との比較分析

③課題の整理～時代潮流と統計指標から～

- ・①②を踏まえ、人口増加傾向を可能な限り維持するとともに、いずれ訪れる人口減少局面に備える必要がある等の課題を整理

2 時代潮流—朝霞市を取り巻く外部環境

(1) 整理の視点

①本市が第6次総合計画策定の背景として特に踏まえるべき潮流

ここで言う「時代潮流」は、本市が、第6次総合計画策定の背景として特に踏まえるべきと考えられる潮流であり、本市における市民生活や自治体運営に大きな影響を及ぼしうる、国や社会経済全体の動向とした。

②10年間という長期計画策定の背景として踏まえるべき潮流

「時代潮流」は、10年間という長期計画策定の背景として踏まえるべき潮流であり、短期的・一時的な流行やトレンドではなく、長期的な視点から考慮すべきと考えられる国や社会経済全体の動向とした。

(2) 朝霞市を取り巻く外部環境としての時代潮流

上記の視点から、国の動向や、我が国の社会全般の動向等を時代潮流として次の8項目に整理した。

①人口減少と高齢化の進行

②新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機とした社会変革の進展

③子ども・子育て支援の充実と教育の新たな展開

④人生100年時代の到来とQOL（生活の質）の重視

⑤社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）と多様性（ダイバーシティ）の尊重

⑥安全・安心な暮らしに対する意識の高まり

⑦持続可能な社会の構築に向けた取組の進展

⑧DX（デジタル・トランスフォーメーション）の進展

①人口減少と高齢化の進行

総務省「国勢調査」によれば、令和2年（2020年）における我が国の総人口は、1億2,614万6千人であり、平成27年（2015年）と比較して100万人近い減少となった。国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という）「日本の将来推計人口（令和5年推計）」によれば、我が国の総人口は今後も減少傾向で推移し、令和52年（2070年）には8,700万人となるものと推計されている。

また、令和2年（2020年）における総人口に占める65歳以上人口の割合（高齢化率）は28.6%であり、平成27年（2015年）と比較して2ポイント程度上昇した。社人研によれば、我が国の高齢化率は今後も上昇傾向で推移し、令和52年（2070年）には38.7%となるものと推計されている。

このような人口減少と高齢化の進行は、労働力人口等の減少などにつながって経済の停滞を招くだけでなく、社会保障費の増加等により地方自治体など公共機関の財政ひっ迫を招く。さらには、コミュニティの担い手の減少につながって地域社会の機能低下を招くなど、我が国の社会経済のあらゆる側面に多大な影響を及ぼすものと懸念されている。

②新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機とした社会変革の進展

令和2年（2020年）より世界的な感染拡大がみられた新型コロナウイルス感染症は、各国の社会経済のみならず、人々の働き方や日常的な行動に至るまで、大きな影響を及ぼした。

我が国では、一人ひとりの健康や医療提供体制のひっ迫をはじめ、経済の面では消費の縮小等が、また、社会の面では人々の孤独・孤立の深刻化などが問題となった。

一方、感染症の感染拡大を契機として、テレワーク、オンライン授業、ネットショッピング、キャッシュレス決済など就業、学習、日常的な買い物まで様々な場面でのオンライン化が進んだことにより、人々の暮らしや働き方の変革が急速に進展した。

このような変革を背景として、ヒトやモノ等の流れが大きく変化した。その結果、人々の居住地選定や企業の立地選定の自由度が増し、都市部から地方への人の移住や企業の移転もみられている。

③子ども・子育て支援の充実と教育の新たな展開

令和4年(2022年)の合計特殊出生率は1.26であり、人口の維持に必要な水準(人口置換水準)である2.07を大きく下回る状況が続いている。厚生労働省「人口動態統計」によれば、令和4年(2022年)の出生者数は770,759人であり、平成27年(2015年)と比較して20万人以上の減少となって、少子化傾向に歯止めが掛からない状況にある。

国は、令和5年(2023年)に「こども家庭庁」を設置し、“こどもまんなか社会”の実現を掲げ、こどもが健やかで安全・安心に成長できる環境の提供、結婚・妊娠・出産・子育てに夢や希望を感じられる社会の実現、少子化の克服などの政策を強力に推進しようとしている。

他方、学校教育については、GIGAスクール構想が令和元年(2019年)から積極的に推進され、ICTを活用した指導などが浸透しつつある。

また、文部科学省「平成29・30・31年改訂学習指導要領」が、令和3年度(2021年度)からは小学校・中学校ともに全面実施となった。新たな時代に対応できる「生きる力」の育成の重要性、子ども一人ひとりに寄り添った教育の重要性がうたわれ、インクルーシブ教育、ESD教育(持続可能な社会の創り手となることができるようにするための教育)や、外国語教育、プログラミング教育などが展開されている。

④人生100年時代の到来とQOL(生活の質)の重視

厚生労働省「簡易生命表」によれば、令和4年(2022年)の我が国の平均寿命は、男性81.05歳、女性87.09歳となっている。最近2年は前年を下回る状況が続いているものの、世界的に見ても依然として長寿であり、我が国は「人生100年時代」の実現に近い国の一つとなっている。

100年という長い人生をより充実したものにするため、子どもから高齢者まで全ての国民に活躍の場があり、全ての人々が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会をつくることが重要な課題となっている。

他方、厚生労働省によれば、令和元年(2019年)の我が国の健康寿命(健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間)は、男性72.68歳、女性は75.38歳となっている。平均寿命と比較して10歳程度の差が見られることから、健康寿命の延伸が課題とされている。

QOL(生活の質)を重視する観点から、特に、長い人生を健やかに過ごすための健康づくりや、就労や地域活動への参加など、社会への参画促進に向けた取組が求められている。

⑤社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）と多様性（ダイバーシティ）の尊重

社会経済情勢が著しく変化し、人と人の直接的なつながりが希薄になる中、自殺、子どもや高齢者に対する虐待等、社会的な孤独・孤立を一因とする問題が深刻化している。

また、SNSを通じた人権侵害等の新たな人権問題の顕在化、障害者、性的少数者、外国人等に対する根強い差別の存在、政治参画・経済参画の分野で格差が著しいジェンダーギャップ指数（男性に対する女性の割合）など、我が国には未だ様々な差別・偏見が存在している。

このような社会的な孤立や、差別・偏見は、それ自体が社会問題であるだけでなく、多様な人々の活躍を妨げ、社会の活性化を阻害する要因にもなっており、解消に向けた継続的な取組が求められている。

このような社会的背景や、平成27年（2015年）に国連が提唱したSDGs（持続可能な開発目標）の理念を踏まえ、我が国でも社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）や多様性（ダイバーシティ）の尊重という考え方が広がりつつある。誰もがその人らしく活躍できる社会の実現に向け、国や地方自治体だけでなく、事業者、地域社会、国民一人ひとりに至るまで、様々な場面における取組が求められている。

⑥安全・安心な暮らしに対する意識の高まり

国は、平成26年（2014年）に「国土強靱化基本計画」を閣議決定した。この計画では、強さとしなやかさを備えた国土・地域・経済社会の構築を推進するとともに、地方自治体においても「国土強靱化地域計画」を定め、取組を進めるよう求めている。

我が国は、近年でも地震災害、風水害といった自然災害に見舞われ、安全・安心な暮らしに対する人々の意識も高まっている。人口の大都市部への集中や、高齢化が進む中、防災・減災のための体制整備やインフラ整備、自助・共助の取組の進展など、災害に強いまちづくりが改めて求められている。

他方、我が国では刑法犯認知件数、交通事故発生件数とも減少傾向にあるが、近年ではインターネットを利用したサイバー犯罪や特殊詐欺等が増加しており、危険運転致死傷の事件数も高い水準となっている。子どもや高齢者が被害者となる痛ましい事件・事故が引き続き発生しており、安全・安心なまちづくりへの関心が高まっている。このようなことから、警察等関係機関と地域との連携のもと、人々の防犯意識等をさらに高めながら、子どもから高齢者まで誰もが安全・安心に暮らせる環境をつくることが求められている。

⑦持続可能な社会の構築に向けた取組の進展

地球規模での大規模な気候変動は、自然災害の激甚化、人々の生活環境の悪化、生物多様性の喪失などを世界各地で引き起こしている。令和5年

(2023年)に開催されたCOP28(国連気候変動枠組条約第28回締約国会議)では、目標達成に向けた取組の進捗状況が議論されるなど、持続可能な社会の構築に向けた気候変動対策が世界的に推進されている。

他方、国連は、平成27年(2015年)にSDGs(持続可能な開発目標)を採択し、2030年までに、“誰一人取り残さない”持続可能なより良い世界を目指す決意を示している。このSDGsは、17のゴールと169ターゲットから構成され、保健、教育、エネルギー、産業、自然環境、パートナーシップなど幅広い分野にわたってあらゆる主体が取り組むものとされ、国・地方自治体、事業者、国民一人ひとりといった様々な主体による推進が期待されている。

このような国際的な潮流のもと、我が国でも、令和2年(2020年)のカーボンニュートラル宣言や、クリーンエネルギーへの転換等を目指したGX(グリーン・トランスフォーメーション)の推進などを通じ、気候変動対策への注力を進めている。

⑧DX(デジタル・トランスフォーメーション)の進展

インターネットをはじめとしたICTの著しい発展により、社会経済システム全体から人々の日常生活全般に至るまで、大きな変革が生じている。

DX(デジタル・トランスフォーメーション)とは、「ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること」とされており、世界各国において国をあげた取組が推進されている。

このような潮流の中、国は、令和3年(2021年)9月にデジタル庁を設置し、マイナンバーカードの利用促進と利便性の向上、スマートフォン用電子証明書搭載サービスの推進、地方公共団体の基幹業務システムの統一・標準化、オンライン診療の促進等を通じ、誰一人取り残されない人に優しいデジタル化を目指している。

加えて、国は、ICTを活用して地方を活性化することを目的として、令和3年(2021年)に「デジタル田園都市国家構想」を掲げ、次いで令和4年(2022年)には「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を示した。デジタル基盤の整備やデジタル人材の育成・確保、誰一人取り残されないための取組の推進等を通じ、デジタルの力による社会課題の解決と地方の魅力の向上を図るものとしている。

3 主要統計指標の都市比較—統計から見た朝霞市の内部環境

【整理の視点等】

(1) 整理の視点

①主要統計指標の把握

本市が第6次総合計画策定において考慮すべきと考えられる市の内部環境を整理するため、ここでは、人口、産業、就労、所得・住宅・生活環境や、健康・医療、安全安心等に関する主要統計指標の数値を把握した。

②都市比較を通じた本市の特性の把握

本市の特性を把握するため、(2)に掲げるように、ここでは人口移動や地域活性化等に関して競合・協力関係にあると見られる都市（隣接都市、および東部東上線沿線都市の10市）との偏差値比較を行った。

(2) 比較対象都市と調査項目

(1) ②において言及した比較対象都市は、次のとおりである。ただし、さいたま市は、隣接都市であるが政令指定都市であり人口規模が極めて大きいことから、比較対象として適切でないと考え除外した。そのうえで、参考として埼玉県の数値を付した。

調査した分野や統計指標等は、次ページに示すとおりである。

<比較対象都市>

	人口※	選定理由等
朝霞市	144,062	本市
川越市	353,183	東武東上線沿線都市
東松山市	90,651	東武東上線沿線都市
戸田市	141,887	隣接都市
志木市	76,416	隣接都市、東武東上線沿線都市
和光市	83,962	隣接都市、東武東上線沿線都市
新座市	165,730	隣接都市、東武東上線沿線都市
富士見市	112,839	東武東上線沿線都市
坂戸市	99,763	東武東上線沿線都市
鶴ヶ島市	70,190	東武東上線沿線都市
ふじみ野市	114,156	東武東上線沿線都市

※人口は令和5年（2023年）1月1日現在

<調査項目一覧>

	番号	統計指標	出典
人口 (その1)	1	人口増減率	総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」2023年
	2	自然増減率	総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」2023年
	3	社会増減率	総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」2023年
	4	世帯増減率	総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」2023年
	5	25～39歳有配偶率（男性）	総務省「国勢調査」2020年
	6	25～39歳有配偶率（女性）	総務省「国勢調査」2020年
	7	合計特殊出生率	埼玉県「埼玉県の合計特殊出生率」2022年
人口 (その2)	1	年少人口比率	総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」2023年
	2	生産年齢人口比率	総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」2023年
	3	老年人口比率	総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」2023年
	4	後期高齢者比率	総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」2023年
	5	平均年齢	総務省「国勢調査」2020年
	6	1世帯あたり人員	総務省「国勢調査」2020年
	7	外国人人口比	総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」2023年
産業	1	1次産業就業人口比率	総務省「国勢調査」2020年
	2	2次産業就業人口比率	総務省「国勢調査」2020年
	3	3次産業就業人口比率	総務省「国勢調査」2020年
	4	従業者1人あたり製造品出荷額等	経済産業省「工業統計調査」2020年
	5	従業者1人あたり製造品粗付加価値額	経済産業省「工業統計調査」2020年
	6	小売業従業者1人あたり年間商品販売額	総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」2021年
	7	小売業売り場面積あたり年間商品販売額	総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」2021年
就労	1	労働力率	総務省「国勢調査」2020年
	2	30～49歳女性労働力率	総務省「国勢調査」2020年
	3	高齢者労働力率	総務省「国勢調査」2020年
	4	15～29歳完全失業率	総務省「国勢調査」2020年
	5	昼夜間人口比率	総務省「国勢調査」2020年
	6	通勤時間（持家世帯）	総務省「住宅土地統計」2018年
	7	自市内従業割合	総務省「国勢調査」2020年
所得・住宅・生活環境	1	納税義務者1人あたり所得	総務省「市町村税課税状況等の調」2022年
	2	1m ² あたり住宅地平均地価	国土交通省「都道府県地価調査」2022年
	3	持家世帯比率	総務省「国勢調査」2020年
	4	1住宅あたり延べ床面積	総務省「住宅土地統計」2018年
	5	空き家率	総務省「住宅土地統計」2018年
	6	汚水処理人口普及率	国土交通省・農林水産省・環境省調 2021年度
	7	1人あたり都市公園面積	国土交通省「都市公園整備水準調書」2021年度
健康・医療・安全安心等	1	1万人あたり病床数	厚生労働省「医療施設調査」2021年
	2	1万人あたり医師数	厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」2020年
	3	65歳平均自立期間（男性）	埼玉県「埼玉県の健康寿命」2021年
	4	65歳平均自立期間（女性）	埼玉県「埼玉県の健康寿命」2021年
	5	要介護（要支援）認定率	埼玉県「統計からみた埼玉縣市町村のすがた2023」より2020年度
	6	千人あたり刑法犯認知件数	埼玉県警算出 2021年
	7	千人あたり交通事故件数	交通事故総合分析センター算出 2021年
行財政	1	1人あたり地方税収額	総務省「市町村別決算状況調」2021年度
	2	経常収支比率	総務省「市町村別決算状況調」2021年度
	3	実質公債費比率	総務省「市町村別決算状況調」2021年度
	4	将来負担比率	総務省「市町村別決算状況調」2021年度
	5	財政力指数	総務省「市町村別決算状況調」2021年度
	6	自主財源比率	総務省「市町村別決算状況調」2021年度

<統計用語解説>

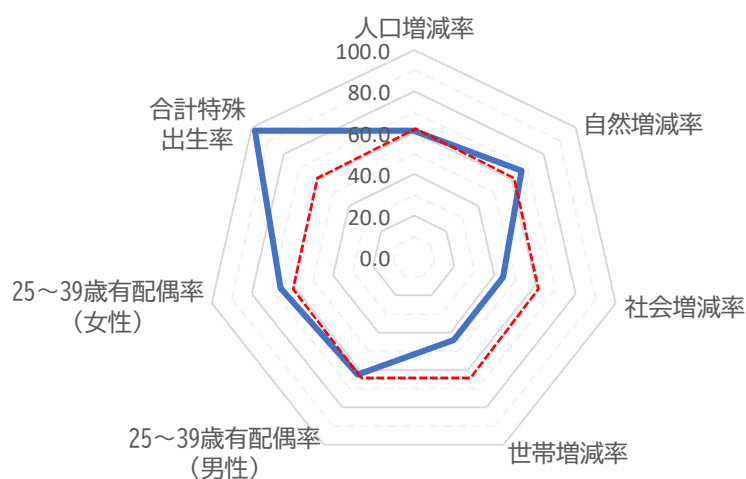
	番号	統計指標	出典
人口 (その1)	1	人口増減率	住民基本台帳人口（総数）の対前年増減率。ここでは、2023年1月1日時点人口の2022年1月1日時点人口に対する増減を表す。
	2	自然増減率	住民基本台帳人口（総数）に対する過去1年間の自然増減数（出生者数－死亡者数）の割合。
	3	社会増減率	住民基本台帳人口（総数）に対する過去1年間の社会増減数（転入者数－転出者数）の割合。
	4	世帯増減率	世帯数（総数）の対前年増減率。ここでは、2023年1月1日時点世帯数の2022年1月1日時点世帯数に対する増減を表す。
	5	25～39歳有配偶率（男性）	母集団（ここでは25～39歳男性）に占める配偶関係「有配偶」の者の割合。
	6	25～39歳有配偶率（女性）	母集団（ここでは25～39歳女性）に占める配偶関係「有配偶」の者の割合。
	7	合計特殊出生率	15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が一生の間に生む子どもの数に相当する。
人口 (その2)	1	年少人口比率	住民基本台帳人口（総数）に占める年少人口（0～14歳）の割合。
	2	生産年齢人口比率	住民基本台帳人口（総数）に占める生産年齢人口（15～64歳）の割合。
	3	老年人口比率	住民基本台帳人口（総数）に占める老年人口（65歳以上）の割合。
	4	後期高齢者比率	住民基本台帳人口（総数）に占める後期高齢者（75歳以上）人口の割合。
	5	平均年齢	常住する者の年齢（各歳）に各歳別人口を乗じ、これを各歳別人口の合計で除したものに、満年齢で把握しているため0.5歳を加えて調整した値。
	6	1世帯あたり人員	住民基本台帳人口（総数）を世帯数（総数）で除した値。
	7	外国人人口比	住民基本台帳人口（総数）に占める住民基本台帳人口（外国人）の割合。
産業	1	1次産業就業人口比率	当地に常住する就業者（総数）に占める第1次産業（農業、林業、漁業）に就業する者の割合。
	2	2次産業就業人口比率	当地に常住する就業者（総数）に占める第2次産業（製造業、建設業、等）に就業する者の割合。
	3	3次産業就業人口比率	当地に常住する就業者（総数）に占める第3次産業（情報通信業、卸売業・小売業、教育・学習支援、医療・福祉等）に就業する者の割合。
	4	従業者1人あたり製造品出荷額等	当地の製造業事業所における、1年間の製造品出荷額や加工賃収入額等を、従業者数で除した値。
	5	従業者1人あたり製造品粗付加価値額	当地の製造業事業所における、1年間の製造品粗付加価値額を、従業者数で除した値。
	6	小売業従業者1人あたり年間商品販売額	当地の小売業事業所における、1年間の商品販売額（有体商品であり不動産や有価証券を含まない）を、従業者数で除した値。
	7	小売業売り場面積あたり年間商品販売額	当地の小売業事業所における、1年間の商品販売額を、売り場面積（倉庫等を除く）で除した値。

	番号	統計指標	出典
就 労	1	労働力率	15歳以上人口に占める労働力人口（働く意思がある人の数であり、就業者と完全失業者の合計）の割合。
	2	30～49歳女性労働力率	母集団（ここでは30～49歳女性）に占める労働力人口の割合。
	3	高齢者労働力率	母集団（ここでは65歳以上の男女）に占める労働力人口の割合。
	4	15～29歳完全失業率	母集団（ここでは15～29歳の男女）に占める完全失業者の割合。
	5	昼夜間人口比率	夜間人口（常住する者の数）に対する、昼間人口（夜間人口から他地域への通勤者等を除き、他地域からの通勤者等を加えた人口）の比。
	6	通勤時間（持家世帯）	家計の主たる収入を得ている人の、徒歩やバス・鉄道など普段利用している交通機関による、自宅から勤務先までの通常の片道所要時間。
	7	自市内従業割合	当地に常住する就業者（総数）に占める、当地にて従業（自市内で従業）する者の割合。
所 得 ・ 住 宅 ・ 生 活 環 境	1	納税義務者1人あたり所得	住民税所得割の課税対象となった年間所得金額を、納税義務者数で除した値。
	2	1m ² あたり住宅地平均地価	住宅地について、基準地の地価を単純平均した地価。
	3	持家世帯比率	住宅に住む一般世帯に対する、持家に住む世帯の割合。
	4	1住宅あたり延べ床面積	住宅の延床面積を、住宅数で除した値。
	5	空き家率	住宅数に対する、空き家の割合。ここで空き家とは、人が居住していない住宅を指し、別荘などの二次的住宅、賃貸住宅の空室などを含む。
	6	汚水処理人口普及率	常住人口に対する、公共下水道・集落排水・コミュニティプラント・合併浄化槽等の生活排水処理施設を利用できる人口の割合。
	7	1人あたり都市公園面積	都市計画区域内に設置された都市公園の面積を、都市計画区域内人口で除した値。
健 康 ・ 医 療 、 安 全 安 心 等	1	1万人あたり病床数	病院・一般診療所における病床数（ベッド数）の合計を、常住人口で除した値。
	2	1万人あたり医師数	病院・一般診療所における医師数の合計を、常住人口で除した値。
	3	65歳平均自立期間（男性）	埼玉県では、『65歳に達した県民が、健康で自立した生活を送る期間、具体的には「要介護2」以上になるまでの期間』を健康寿命と定めている。
	4	65歳平均自立期間（女性）	
	5	要介護（要支援）認定率	65歳以上の者（第1号被保険者）の数に占める、要介護（要支援）認定者数の割合。
	6	千人あたり刑法犯認知件数	警察において認知した犯罪（刑法犯）発生件数の合計を、常住人口で除した値。
	7	千人あたり交通事故件数	交通事故の発生件数の合計を、常住人口で除した値。ここでは、人身事故のみを扱い物損事故は含んでいない。
行 財 政	1	1人あたり地方税収額	地方税（個人市民税・法人市民税、固定資産税、軽自動車税、たばこ税など）の総額を、常住人口で除した値。
	2	経常収支比率	一般財源（地方税・地方交付税交付金など）に占める経常費用（人件費・扶助費・公債費など）の割合。
	3	実質公債費比率	標準財政規模（標準的な状況のもとで通常収入が見込まれる、経常的一般財源の規模）に占める、地方債の返済額の割合。
	4	将来負担比率	標準財政規模に占める、地方債など現在抱えている負債の割合。地方公社や出資法人（第三セクターなど）に係る負債も含む。
	5	財政力指数	基準財政収入額（標準的な税収入の一定割合により算定した額）を基準財政需要額（標準的な行政を実施する際に必要な一般財源額）で除した値。
	6	自主財源比率	歳入総額に占める自主財源（市税、分担金及び負担金、使用料、手数料、財産収入。寄附金など）の割合。

【分野ごとの調査結果】

(1) 人口（その1：人口動態）

	人口増減率	自然増減率	社会増減率	世帯増減率	25～39歳有配偶率（男性）	25～39歳有配偶率（女性）	合計特殊出生率
	%	%	%	%	%	%	
朝霞市	0.33	0.01	0.32	1.03	48.03	58.90	1.25
(偏差値)	60.7	66.6	44.3	43.8	62.8	66.1	97.5
川越市	▲ 0.01	▲ 0.51	0.49	1.12	43.91	55.60	1.10
東松山市	0.29	▲ 0.61	0.90	1.87	41.94	54.60	1.05
戸田市	0.40	0.00	0.40	1.23	47.98	58.73	1.06
志木市	▲ 0.23	▲ 0.33	0.10	0.66	48.03	58.20	1.15
和光市	0.26	0.11	0.15	1.17	47.42	56.01	1.08
新座市	▲ 0.23	▲ 0.50	0.28	1.06	43.55	56.37	1.03
富士見市	0.37	▲ 0.37	0.74	1.40	45.39	52.68	1.06
坂戸市	▲ 0.23	▲ 0.62	0.39	1.30	45.78	53.80	0.99
鶴ヶ島市	0.17	▲ 0.54	0.71	1.81	39.88	52.48	1.04
ふじみ野市	▲ 0.11	▲ 0.57	0.46	0.90	41.39	57.32	1.04
(比較都市平均)	0.07	▲ 0.39	0.46	1.25	44.53	55.58	1.06
埼玉県	▲ 0.07	▲ 0.50	0.44	1.12	43.56	55.03	1.17

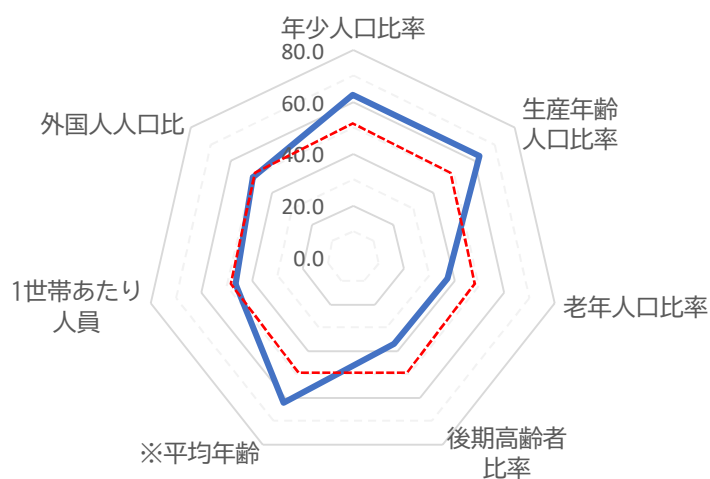


- ✓ 比較対象都市の多くが自然減（出生者数が死亡者数を下回る）にある中、本市は自然増（出生者数が死亡者数を上回る）を保っている。
- ✓ この自然増には、若年層（ここでは25～39歳）の有配偶率が高く、合計特殊出生率が最も高い状況が寄与しているものと思われる。
- ✓ 他方、本市は社会増（転入者数が転出者数を上回る）の状況にはあるものの、その水準は比較対象都市よりやや低くなっている。

(2) 人口（その2：人口構成）

	年少人口比率	生産年齢人口比率	老年人口比率	後期高齢者比率	※平均年齢	1世帯あたり人員	外国人人口比
	%	%	%	%	歳	人	%
朝霞市	13.33	67.15	19.53	10.52	43.2	2.10	2.93
(偏差値)	62.7	62.4	37.2	37.1	62.0	46.5	49.2
川越市	11.81	61.17	27.02	14.75	47.6	2.15	2.67
東松山市	11.50	58.73	29.77	14.80	47.5	2.18	3.31
戸田市	13.94	69.41	16.65	8.72	41.6	2.09	5.36
志木市	12.78	62.46	24.75	13.63	45.6	2.14	2.67
和光市	12.99	68.93	18.08	9.37	41.9	1.97	2.88
新座市	12.36	61.89	25.75	14.47	46.3	2.15	2.41
富士見市	12.16	63.69	24.15	13.64	45.6	2.09	2.56
坂戸市	10.95	58.95	30.10	16.10	47.6	2.13	3.08
鶴ヶ島市	10.67	60.11	29.23	15.00	47.4	2.16	2.49
ふじみ野市	12.33	62.18	25.49	14.78	46.4	2.14	2.58
(比較都市平均)	12.15	62.75	25.10	13.53	45.8	2.12	3.00
埼玉県	11.66	61.55	26.80	14.29	46.9	2.15	2.82

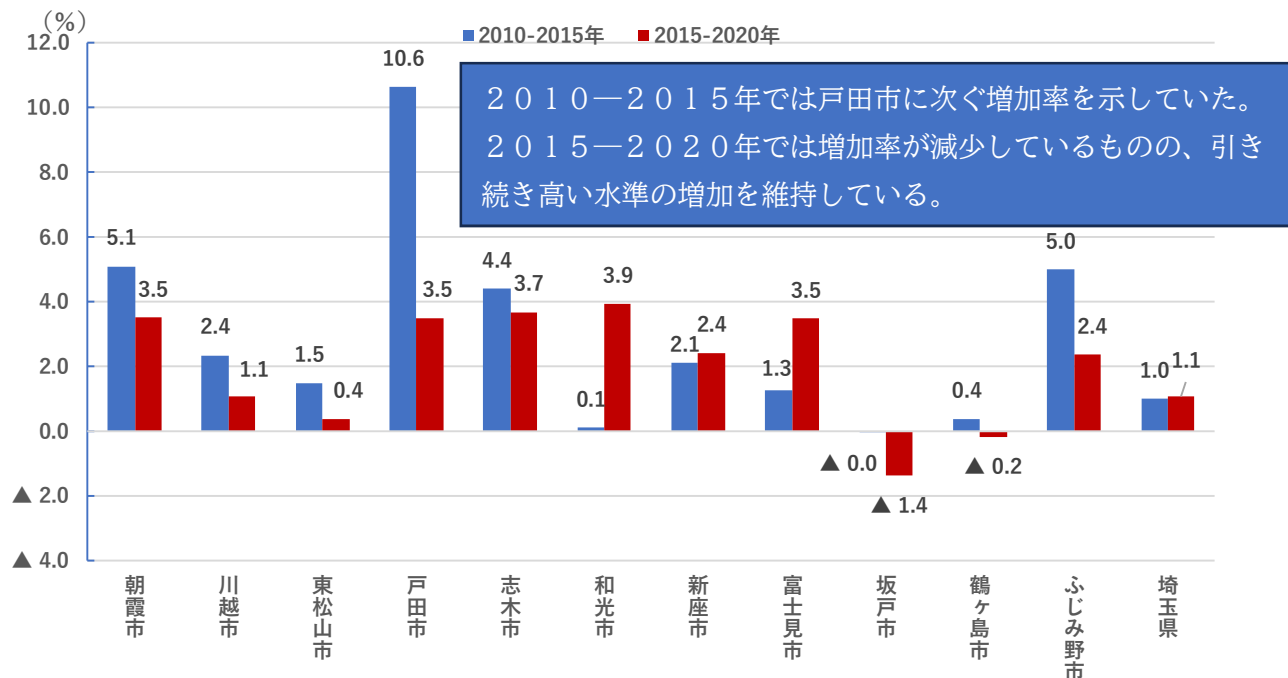
※数値が小さい方が好ましいと考えられる指標については、100－偏差値の値を表示した。



- ✓ 年少人口比率・生産年齢人口比率とも比較対象都市平均を上回り、平均年齢も低いことから、「人口構造が最も若い都市の一つ」といえる。
- ✓ 老年人口比率（高齢化率）、後期高齢者比率とも戸田市・和光市に次いで低く、現状では、この2市と同様に高齢化は顕著でない。
- ✓ 世帯あたり人員は比較対象都市平均を下回り、単身世帯が相対的にやや多い。なお、外国人人口比は比較対象都市と同等の水準にある。

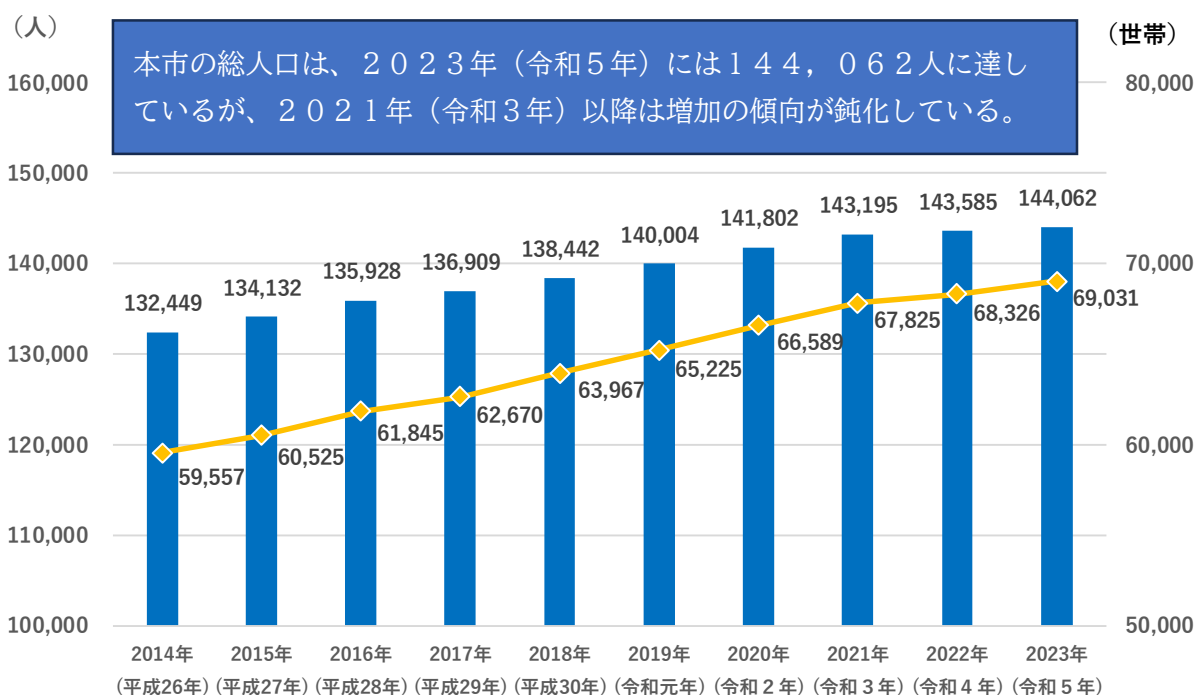
■ 人口に関する補足資料

1. 5年間の人口増減率の比較（国勢調査人口ベース）



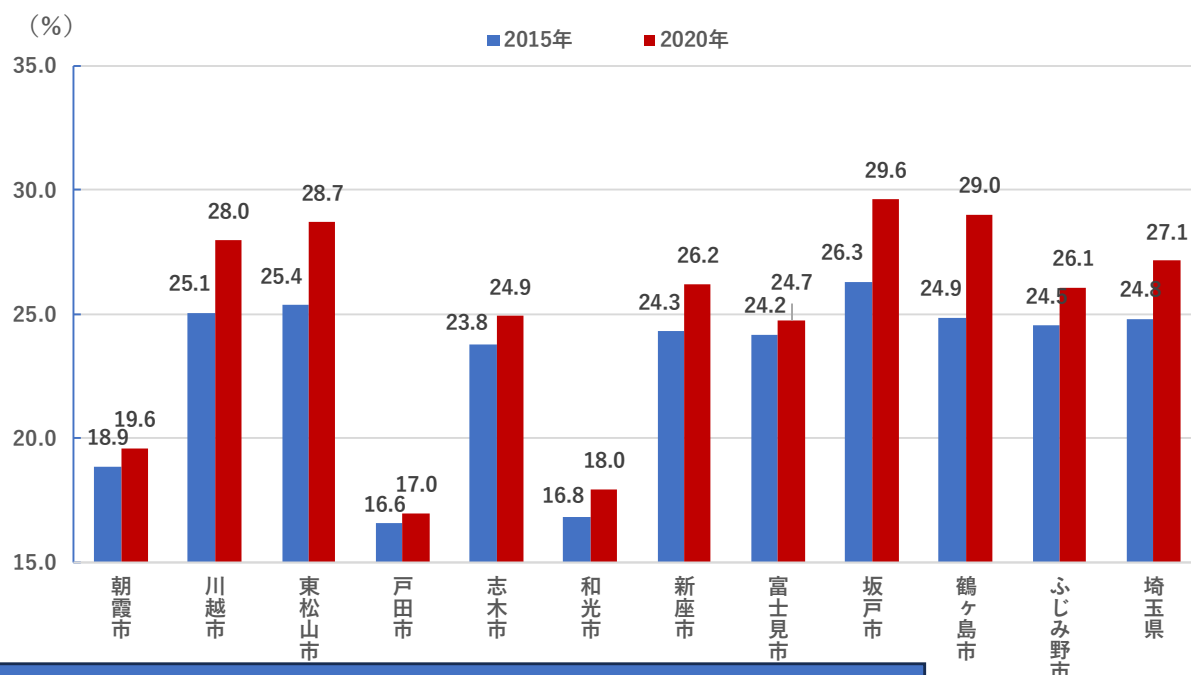
出典：総務省「国勢調査」

2. 本市の総人口・世帯数の推移（人口推計検討資料より再掲）



資料：埼玉県「埼玉県町（丁）字別人口調査結果報告」（各年1月1日時点）

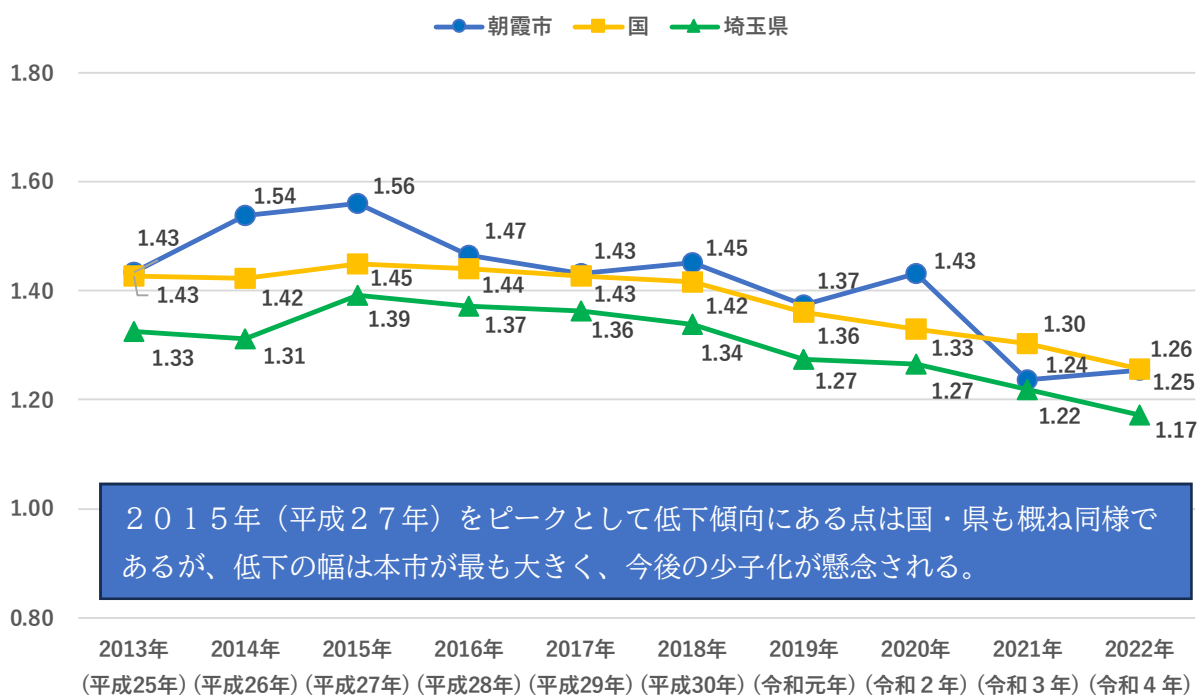
3. 高齢化率の比較（国勢調査人口ベース）



本市は戸田市・和光市と同様に高齢化率が低い自治体であり、高齢化の進行も緩やかである。

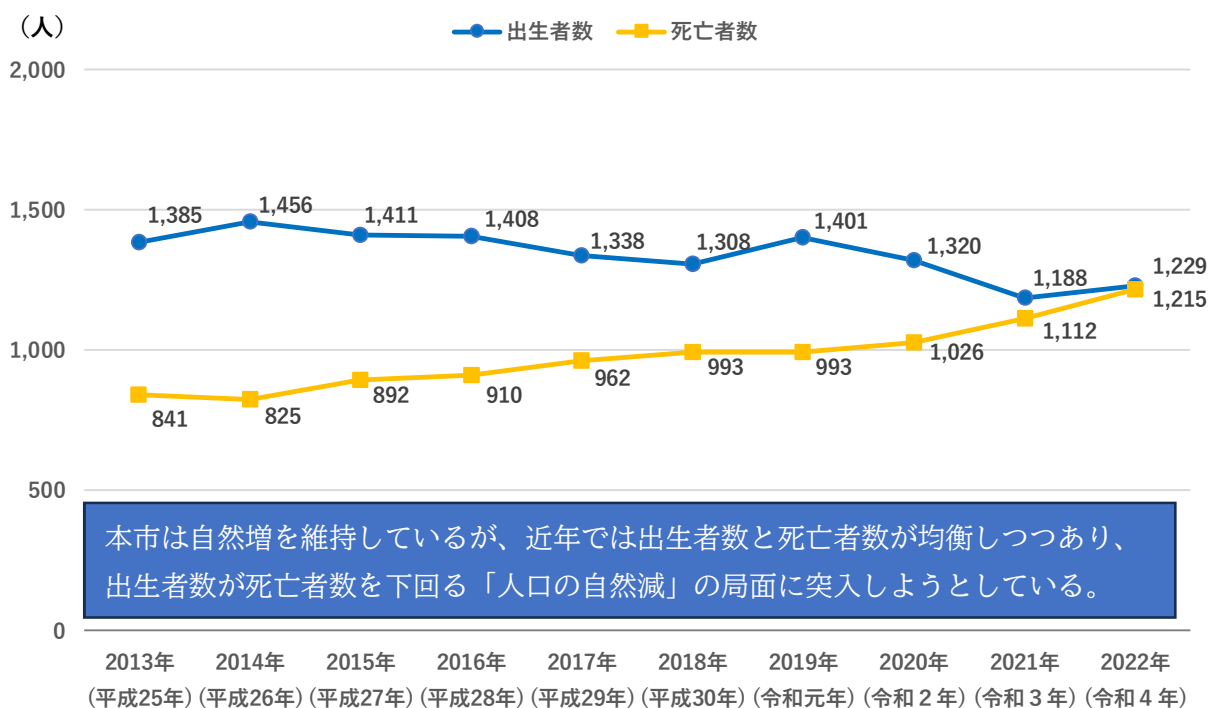
出典：総務省「国勢調査」

4. 本市・国・県の合計特殊出生率の推移（人口推計検討資料より再掲）



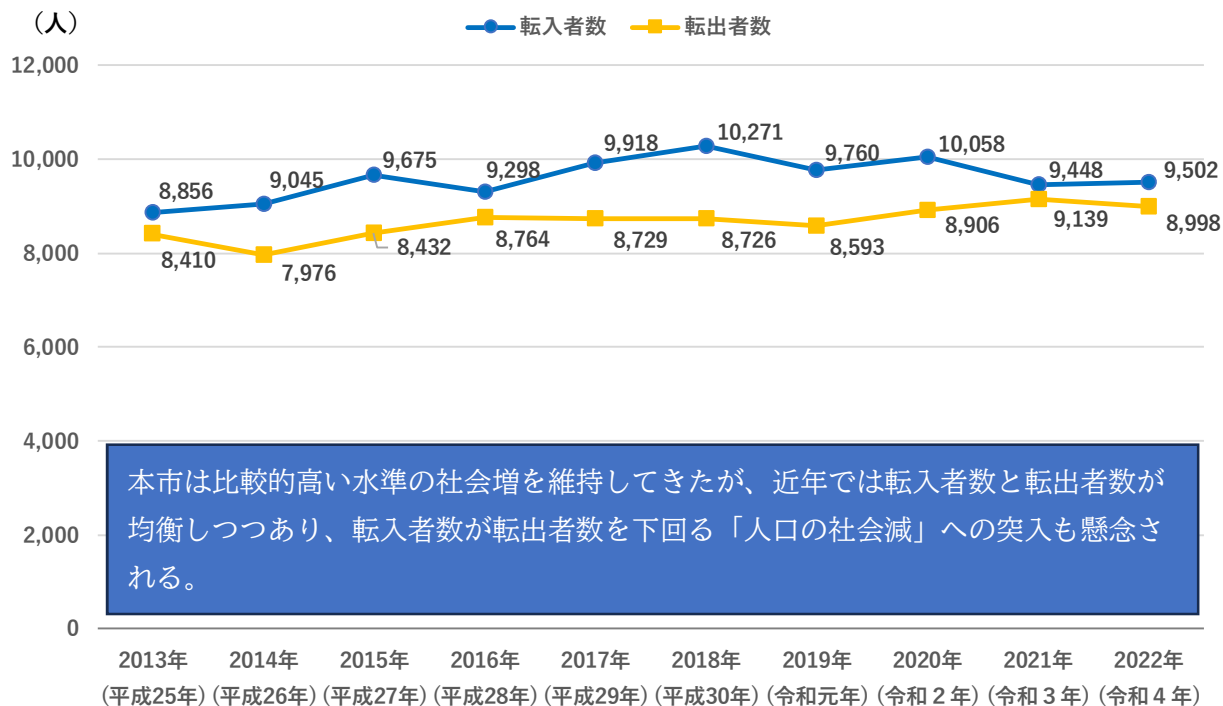
2015年（平成27年）をピークとして低下傾向にある点は国・県も概ね同様であるが、低下の幅は本市が最も大きく、今後の少子化が懸念される。

5. 本市人口の自然動態の推移（人口推計検討資料より再掲）



資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」（各年1月1日時点）

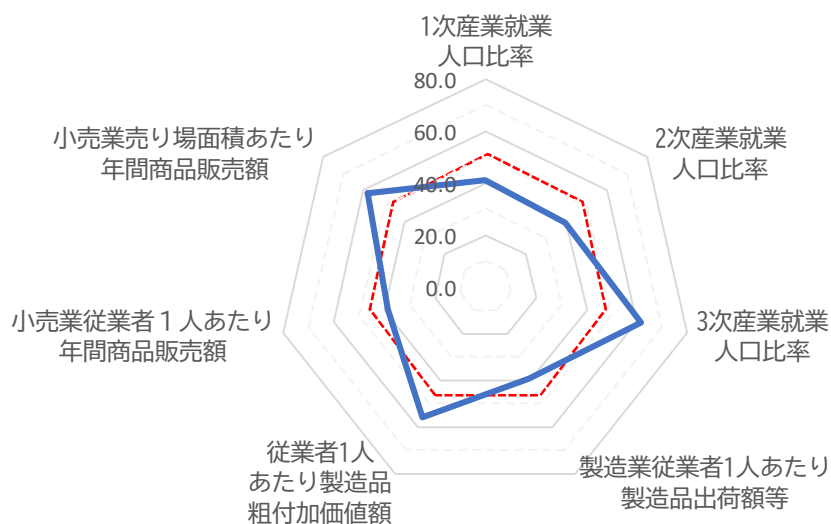
6. 本市人口の社会動態の推移（人口推計検討資料より再掲）



資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」（各年1月1日時点）

(3) 産業

	1次産業就業人口比率	2次産業就業人口比率	3次産業就業人口比率	製造業従業者1人あたり製造品出荷額等	従業者1人あたり製造品粗付加価値額	小売業従業者1人あたり年間商品販売額	小売業売り場面積あたり年間商品販売額
	%	%	%	億円	億円	億円	億円/100m ²
朝霞市	0.6	17.9	78.1	0.19	0.44	0.17	1.10
(偏差値)	41.3	39.5	61.3	39.2	56.0	38.5	58.1
川越市	1.7	22.3	72.8	0.42	0.34	0.20	0.95
東松山市	1.5	26.6	68.4	0.30	0.45	0.20	0.68
戸田市	0.1	20.1	76.2	0.22	0.12	0.21	1.15
志木市	0.5	19.1	77.5	0.21	0.42	0.17	0.78
和光市	0.7	14.8	80.7	0.25	0.33	0.24	1.43
新座市	1.0	20.3	75.0	0.19	0.51	0.19	0.83
富士見市	1.3	19.6	75.3	0.26	0.44	0.16	1.02
坂戸市	1.2	25.8	70.9	0.24	0.41	0.18	0.77
鶴ヶ島市	1.0	23.5	72.5	0.20	0.46	0.22	0.93
ふじみ野市	0.9	21.2	74.4	0.26	0.14	0.18	0.69
(比較都市平均)	1.0	21.3	74.4	0.25	0.36	0.20	0.92
埼玉県	1.5	22.2	73.0	0.34	0.13	0.20	0.94

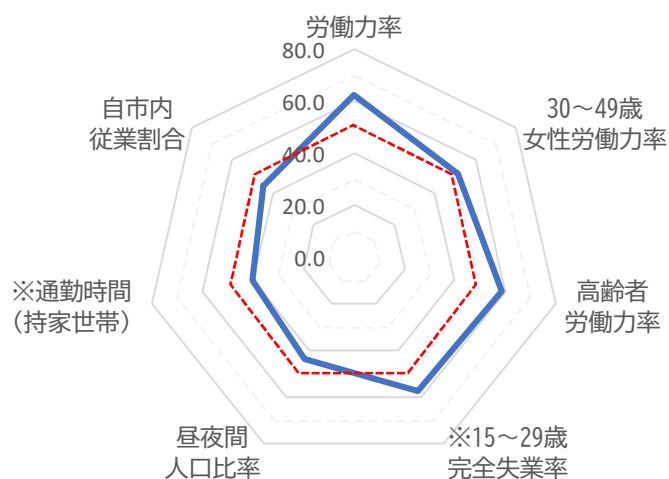


- ✓ 本市の産業3区分別の就業人口比をみると、本市の場合、第3次産業に就業している者の割合が相対的に高いことがわかる。
- ✓ 製造業をみると、従業者1人あたりの付加価値額は高いものの、出荷額としては比較対象都市を下回る水準である。
- ✓ 小売業を見ると、従業者1人あたりの販売額は比較対象都市の水準を下回るものの、売り場面積あたりの販売額は高い水準にある。

(4) 就労

	労働力率	30～49歳 女性労働力率	高齢者 労働力率	※15～29歳 完全失業率	昼夜間 人口比率	※通勤時間 (持家世帯)	自市内 従業割合
	%	%	%	%	%	分	%
朝霞市	69.0	77.6	30.3	4.9	82.9	56.6	35.2
(偏差値)	62.5	51.3	58.2	57.1	43.5	39.9	44.4
川越市	62.2	76.5	27.5	5.7	96.8	44.4	51.8
東松山市	60.6	78.2	27.2	6.0	102.6	32.6	49.2
戸田市	70.9	78.2	32.8	4.8	91.7	51.3	40.3
志木市	62.5	76.4	25.1	6.0	79.5	57.0	32.3
和光市	71.5	78.6	31.5	3.8	86.3	54.3	33.3
新座市	64.5	76.7	30.3	5.8	88.0	52.6	37.6
富士見市	65.3	76.6	29.4	5.0	75.4	55.7	32.2
坂戸市	58.4	77.5	24.7	8.0	92.4	39.5	41.6
鶴ヶ島市	61.1	79.7	27.5	6.5	84.2	43.7	33.9
ふじみ野市	62.2	76.2	25.9	5.2	82.6	56.1	36.8
(比較都市平均)	63.9	77.5	28.2	5.7	87.9	48.7	38.9
埼玉県	62.9	77.5	27.5	3.5	89.6	46.9	58.7

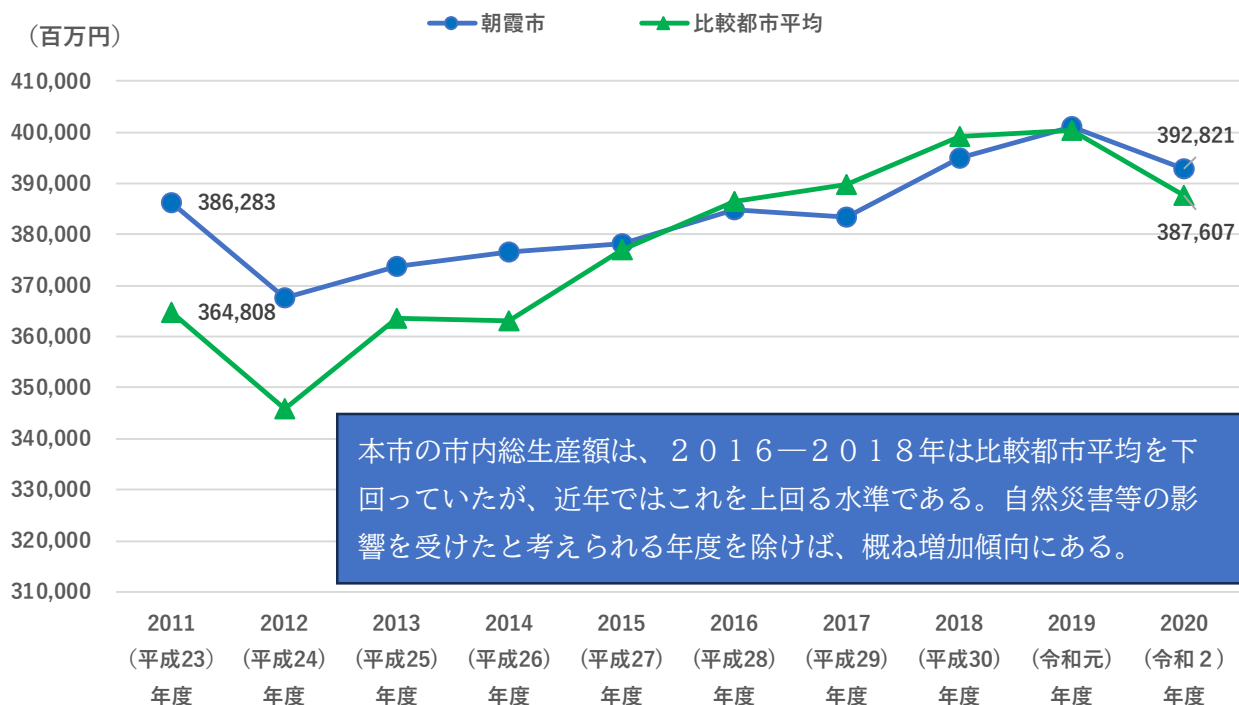
※数値が小さい方が好ましいと考えられる指標については、100－偏差値の値を表示した。



- ✓ 労働力率は高い水準にあるが、子育て期にあたる30～49歳女性の労働力率は比較対象都市と同水準であり、特段の特徴は見られない。
- ✓ 完全失業率、若年層（ここでは15～29歳）の完全失業率ともに比較対象都市の水準を下回っているものの、県の水準より高い。
- ✓ 昼夜間人口比率、自市内従業割合（本市に常住する就業者が本市内で従業している割合）は低く、ベッドタウンの性格が強い。

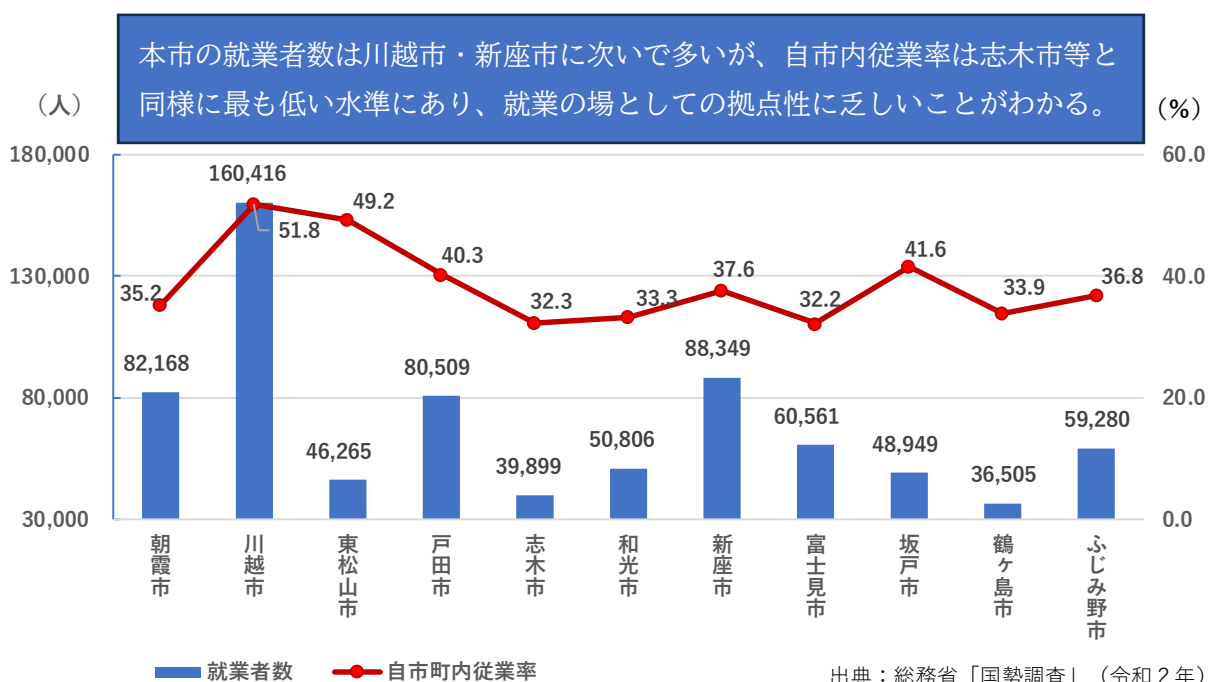
■ 産業・就労に関する補足資料

1. 本市の市町村内総生産額の推移



資料：埼玉県「市町村民経済計算」

2. 就業者数・自市内従業率の比較

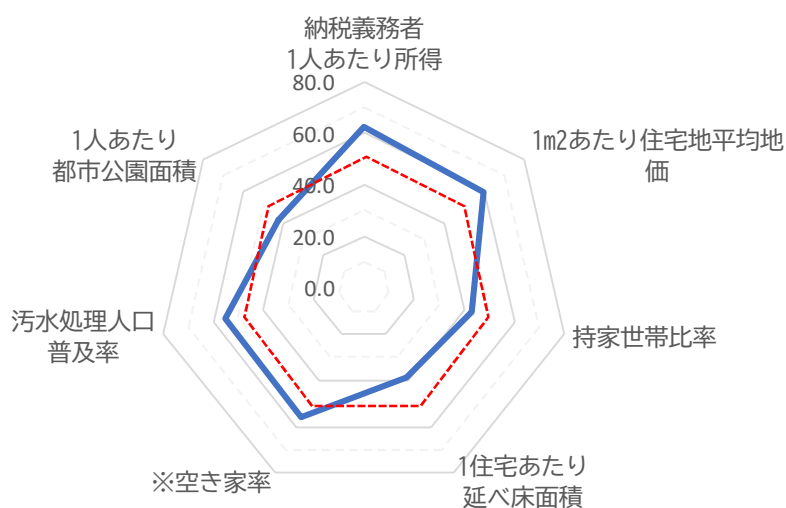


出典：総務省「国勢調査」(令和2年)

(5) 所得・住宅・生活環境

	納税義務者 1人あたり所得	1m ² あたり住 宅地平均地価	持家世帯比率	1住宅あたり 延べ床面積	※空き家率	汚水処理人口 普及率	1人あたり 都市公園面積
	千円	万円	%	m ²	%	%	m ²
朝霞市	3,927	22.8	56.0	68.9	9.3	98.6	2.2
(偏差値)	62.3	59.2	43.0	38.5	55.8	55.4	42.3
川越市	3,537	13.3	69.0	87.3	9.2	96.4	4.7
東松山市	3,256	6.3	68.5	97.4	13.2	98.1	23.4
戸田市	3,855	27.1	47.2	66.9	8.4	99.0	9.9
志木市	3,899	21.3	65.4	76.7	9.2	99.6	4.3
和光市	4,033	23.4	47.4	65.5	8.9	99.1	5.2
新座市	3,569	19.1	66.0	79.6	8.3	98.4	1.8
富士見市	3,659	19.9	57.4	73.0	9.8	99.6	4.2
坂戸市	3,269	6.7	63.3	85.1	12.3	91.7	4.5
鶴ヶ島市	3,463	8.5	65.4	86.2	11.6	94.6	7.8
ふじみ野市	3,713	18.3	63.5	78.1	12.2	96.5	2.2
(比較都市平均)	3,625	16.4	61.3	79.6	10.3	97.3	6.8
埼玉県	3,595	11.6	65.9	87.2	10.2	93.6	7.2

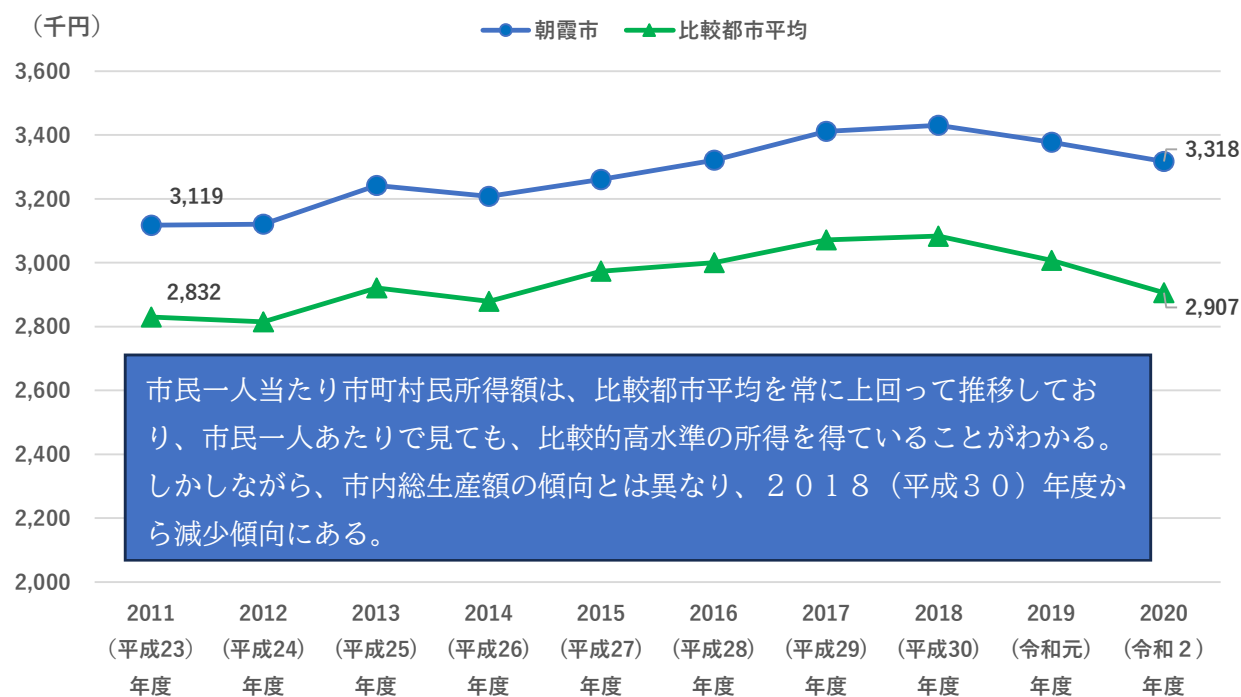
※数値が小さい方が好ましいと考えられる指標については、100－偏差値の値を表示した。



- ✓ 納税義務者1人あたり所得は和光市に次ぎ、相対的に見て高い所得水準にある市民が多いと思われる。
- ✓ 持家世帯比率、住宅面積は比較対象都市の水準を下回っており、住宅は比較的狭小である。また、空き家率は相対的に低い水準である。
- ✓ 汚水処理人口普及率は相対的に高い水準にあるが、1人あたり都市公園面積は比較対象都市の水準を下回っている。

■ 所得・住宅・生活環境に関する補足資料

1. 市民一人当たり市町村民所得額の推移

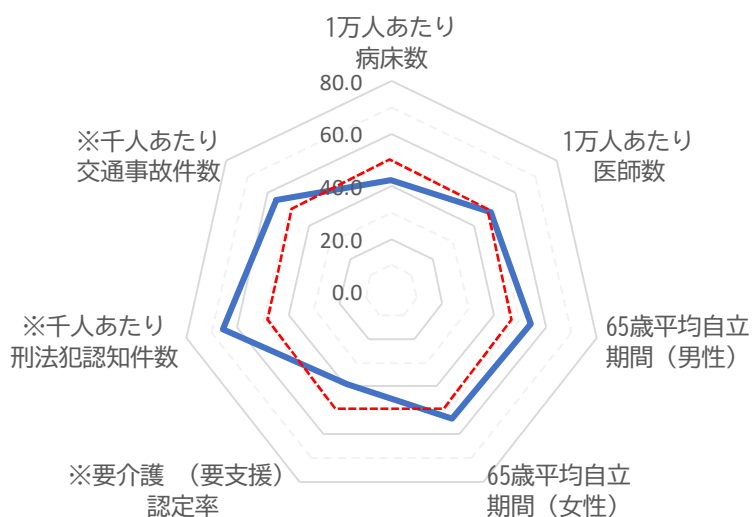


資料：埼玉県「市町村民経済計算」

(6) 健康・医療、安全安心等

	1万人あたり 病床数	1万人あたり 医師数	65歳平均自立 期間（男性）	65歳平均自立 期間（女性）	※要介護（要 支援）認定率	※千人あたり 刑法犯認知件	※千人あたり 交通事故件数
	床	人	年	年	%	件	件
朝霞市	51.9	14.8	18.2	21.0	16.8	4.2	1.9
（偏差値）	42.6	48.1	54.5	53.4	39.2	65.4	56.1
川越市	125.9	26.8	18.0	20.7	16.2	5.1	3.0
東松山市	127.1	17.3	18.2	20.9	14.9	6.1	2.4
戸田市	110.7	19.7	17.2	20.3	16.0	6.1	1.9
志木市	26.4	7.1	18.4	21.5	16.1	4.0	1.8
和光市	157.9	34.1	18.6	21.5	11.4	4.1	2.5
新座市	64.1	11.9	18.0	21.0	16.3	5.2	1.7
富士見市	65.6	15.1	17.9	20.4	16.5	5.4	1.7
坂戸市	46.8	9.6	18.0	20.7	13.8	5.8	2.3
鶴ヶ島市	51.0	11.4	18.0	21.1	12.9	5.4	3.2
ふじみ野市	52.6	10.5	17.7	20.9	16.0	5.7	1.7
（比較都市平均）	82.8	16.4	18.0	20.9	15.0	5.3	2.2
埼玉県	88.4	18.4	18.5	21.3	15.8	5.4	2.2

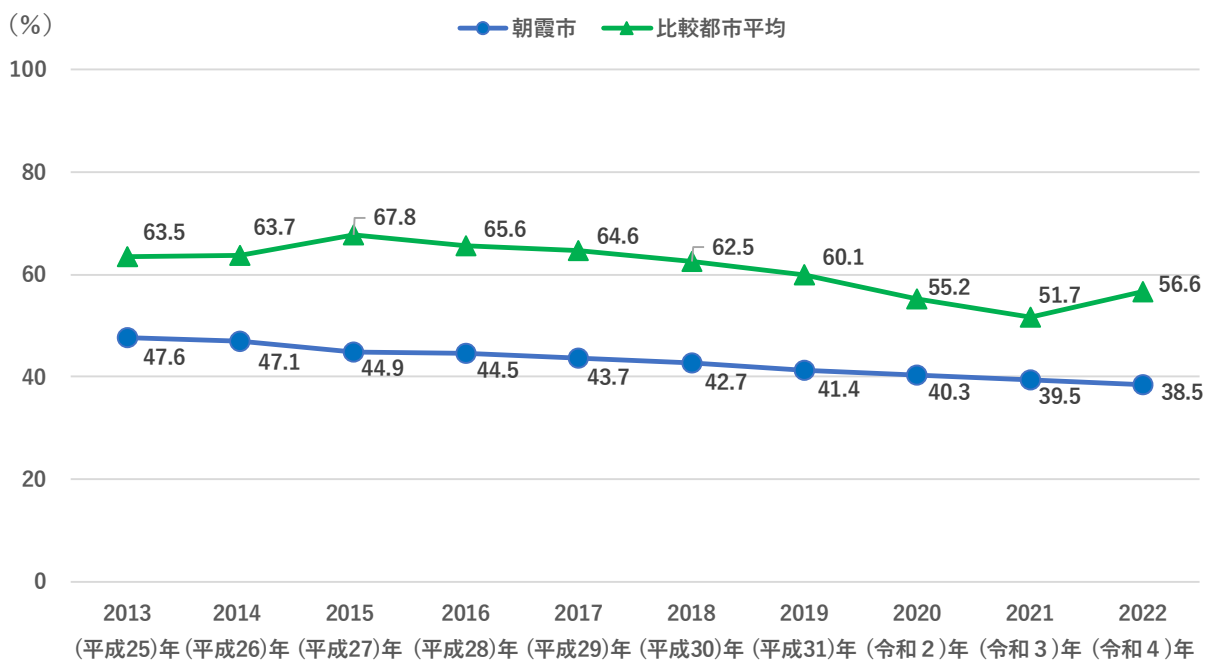
※数値が小さい方が好ましいと考えられる指標については、100－偏差値の値を表示した。



- ✓ 1万人あたり病床数、医師数とも比較対象都市の水準を下回り、医療提供基盤がやや弱い。
- ✓ 他方、65歳平均自立期間（健康寿命）は男女とも相対的に高い水準にあり、健康で自立した生活が可能な市民が多い。
- ✓ 千人あたり刑法犯認知件数、交通事故発生件数とも比較対象都市の水準を下回っており、相対的に安全で安心できる環境と言える。

■ 健康・医療、安全安心等に関する補足資料

1. 本市の自治会加入率の推移



資料：朝霞市「自治会・連合会加入率推移」（平成25年～27年は4月1日時点、平成28年以降1月1日時点）

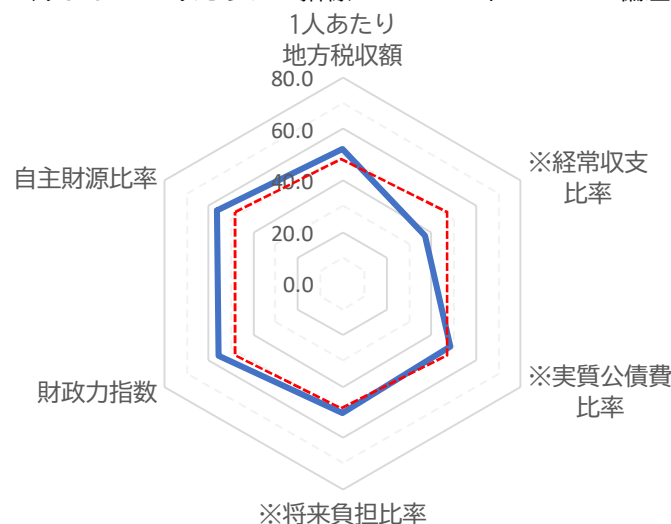
比較都市平均は各市公表資料から算出。調査日が各市で異なる等するため参考値である。

本市の自治会加入率は直近の10か年で一貫して低下傾向にあり、2022（令和4）年には38.5%となっている。調査日等が異なるため参考ではあるが、比較都市平均は50%台後半となっており、大きな乖離がある。なお、比較都市中最も高い水準であるのは川越市（70%台）であり、最も低い水準であるのは近隣の和光市（本市と同水準）となっている。

(7) 行財政

	1人あたり 地方税収額	※経常収支 比率	※実質公債費 比率	※将来負担 比率	財政力指数	自主財源比率
	万円	%	%	%		%
朝霞市	16.1	92.6	4.9	17.0	0.98	53.2
(偏差値)	52.0	36.9	48.5	50.5	55.8	56.3
川越市	16.1	95.2	6.2	62.2	0.95	50.6
東松山市	14.7	88.4	3.2	18.6	0.85	46.8
戸田市	20.5	90.7	8.1	26.2	1.21	61.5
志木市	14.6	90.8	1.4	0.0	0.84	43.9
和光市	19.0	89.2	4.0	37.5	1.05	58.5
新座市	15.1	88.1	5.1	25.3	0.90	50.1
富士見市	13.9	87.3	2.5	0.0	0.82	43.8
坂戸市	13.9	85.8	6.8	9.8	0.81	46.0
鶴ヶ島市	14.3	89.4	6.5	0.0	0.85	49.3
ふじみ野市	14.5	89.8	1.8	0.0	0.79	45.1
(比較都市平均)	15.7	89.5	4.6	18.0	0.91	49.6
埼玉県	13.4	90.1	10.7	157.9	0.74	45.1

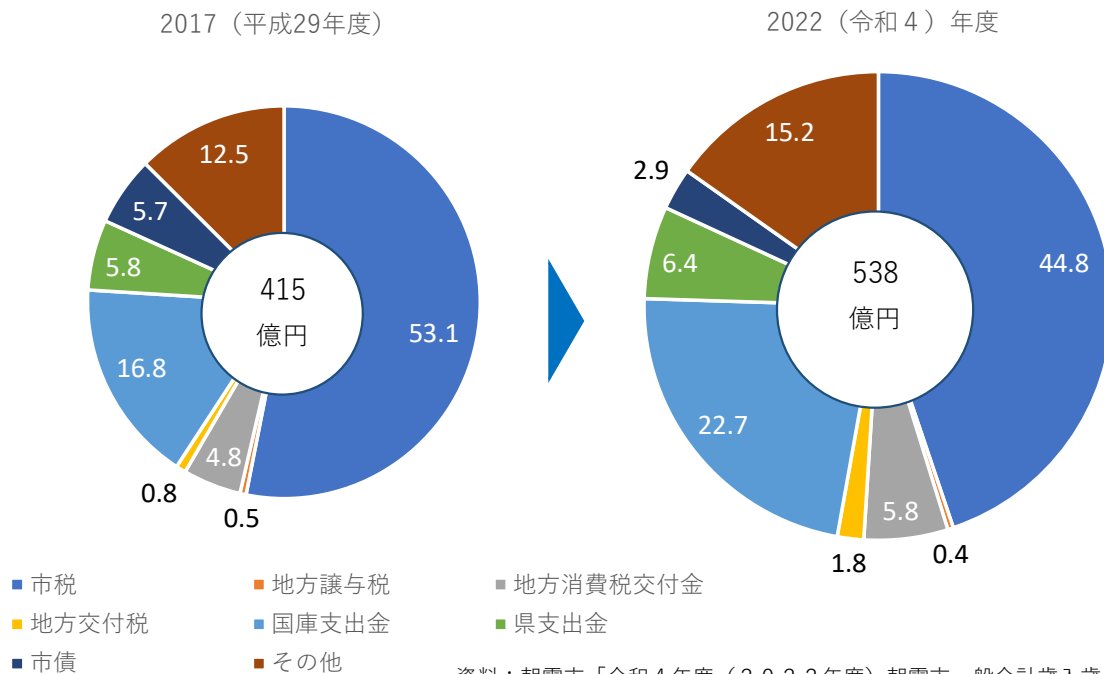
※数値が小さい方が好ましいと考えられる指標については、100－偏差値の値を表示した。



- ✓ 1人あたり地方税収額、自主財源比率、財政力指数はいずれも高い水準にあり、比較的良好な財政状況にある。
- ✓ 他方、経常収支比率は川越市に次いで高い水準にあり、財政の硬直化が見られている。
- ✓ 実質公債費比率は比較対象都市平均を下回る。また、将来負担比率は比較対象都市と同程度となっている。

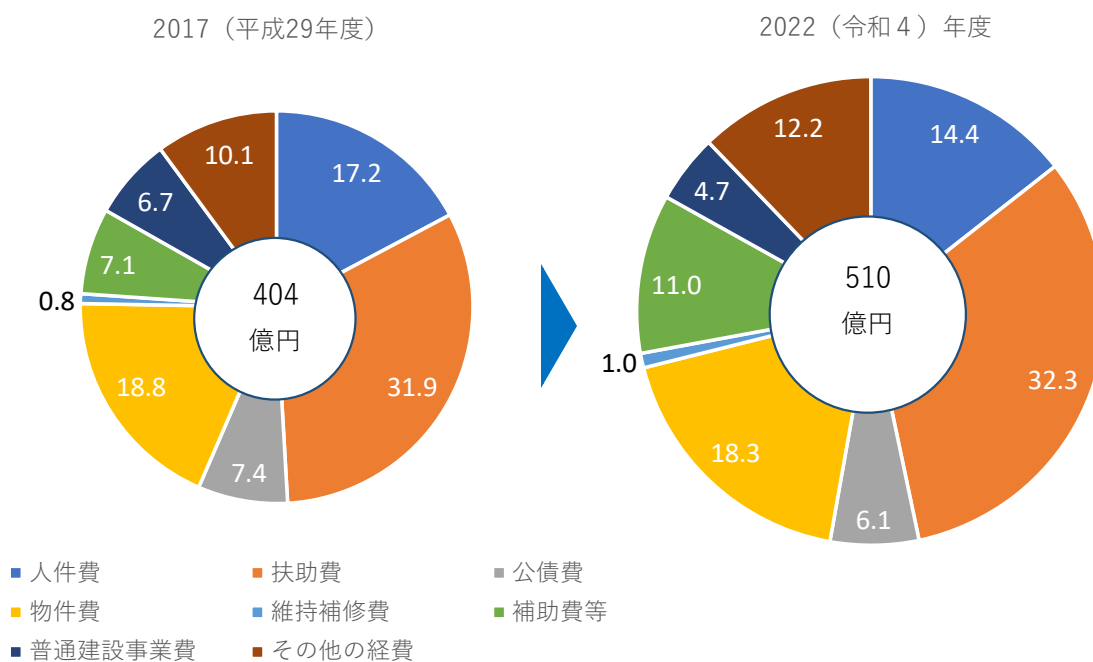
■ 行財政に関する補足資料

1. 本市の一般会計歳入構造の推移（決算）内訳の単位は%



本市の2022（令和4）年度一般会計決算による歳入は、538億円となっており、2017（平成29）年度から約123億円（29.6%）増加している。内訳では市税が最多を占めているが、その割合は50%台から40%台へと低下し、替わって国庫支出金が占める割合が増大している。

2. 本市の一般会計歳出構造の推移（決算） 内訳の単位は%

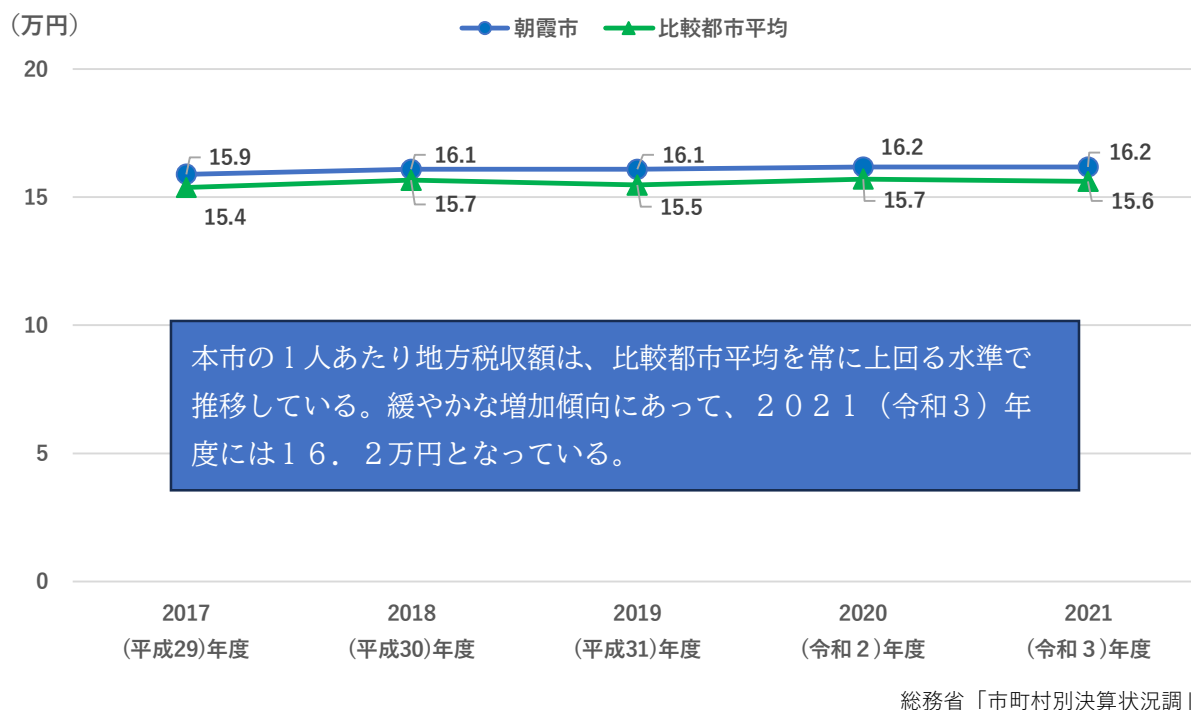


資料：朝霞市「令和4年度（2022年度）朝霞市一般会計歳入歳出決算書」

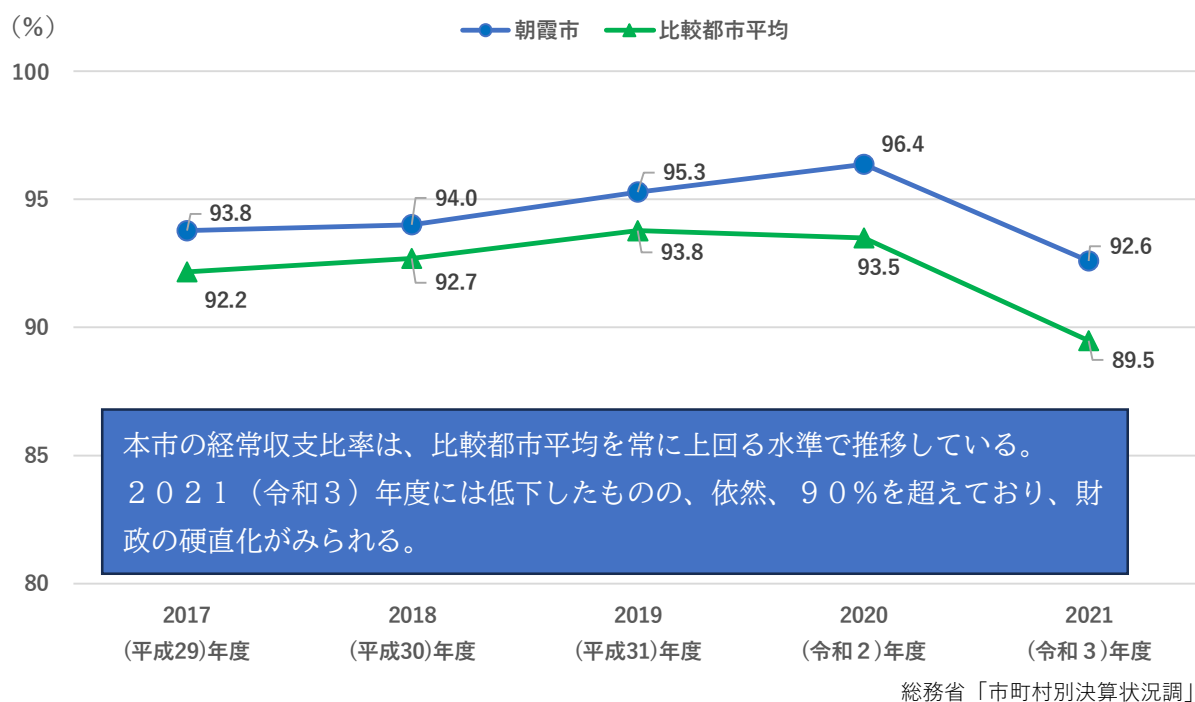
本市の2022（令和4）年度一般会計決算による歳出は、510億円となっており、2017（平成29）年度から約106億円（26.2%）増加している。人件費・扶助費・公債費といった義務的経費合計の割合は、人件費・公債費が占める比の低下に伴い、56.3%から52.8%へと減少している。

3. 本市の主要財政指標の推移

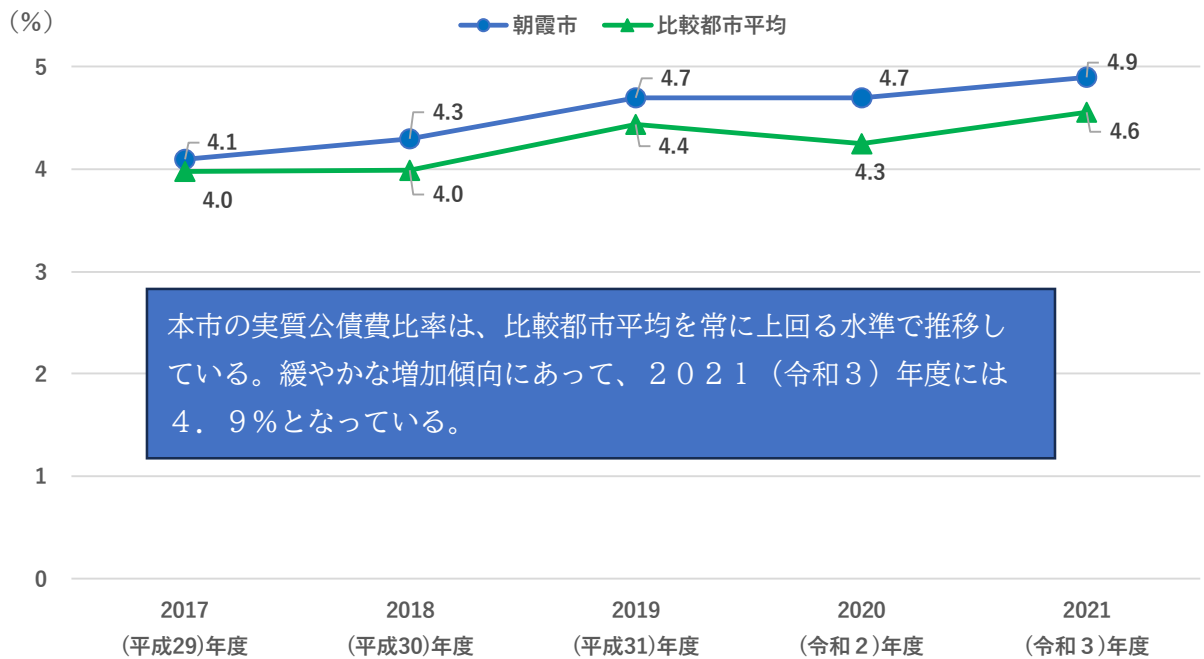
(1) 1人あたり地方税収額の推移



(2) 経常収支比率の推移



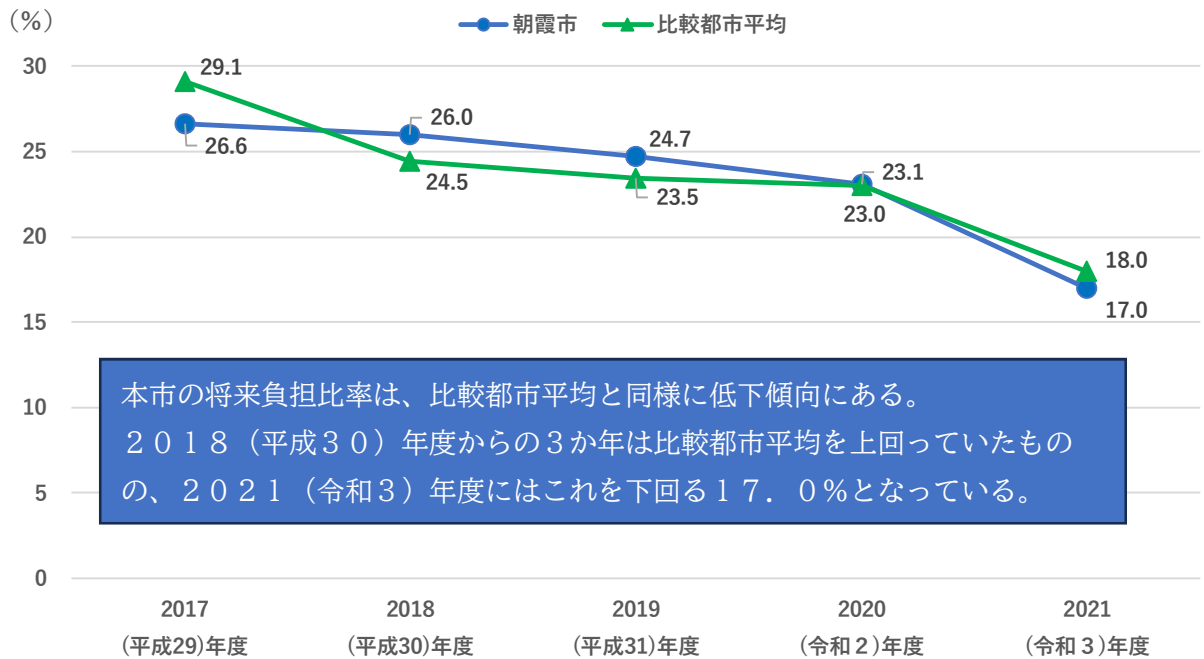
(3) 実質公債費比率の推移



本市の実質公債費比率は、比較都市平均を常に上回る水準で推移している。緩やかな増加傾向にあって、2021（令和3）年度には4.9%となっている。

総務省「市町村別決算状況調」

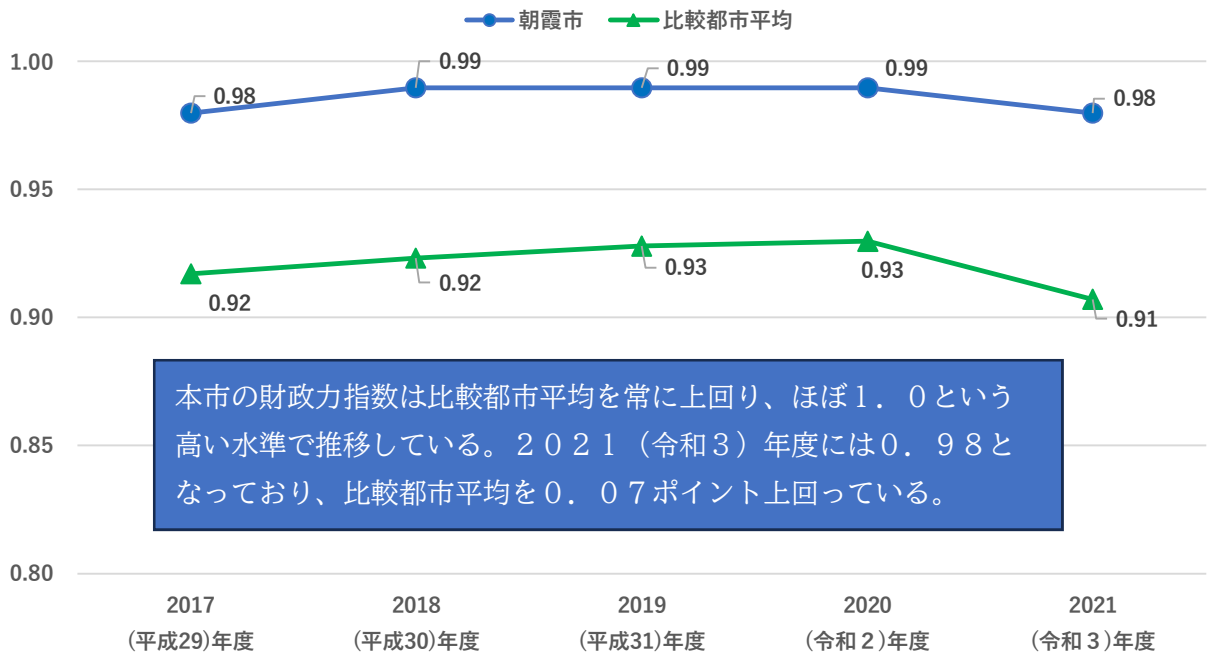
(4) 将来負担比率の推移



本市の将来負担比率は、比較都市平均と同様に低下傾向にある。2018（平成30）年度からの3か年は比較都市平均を上回っていたものの、2021（令和3）年度にはこれを下回る17.0%となっている。

総務省「市町村別決算状況調」

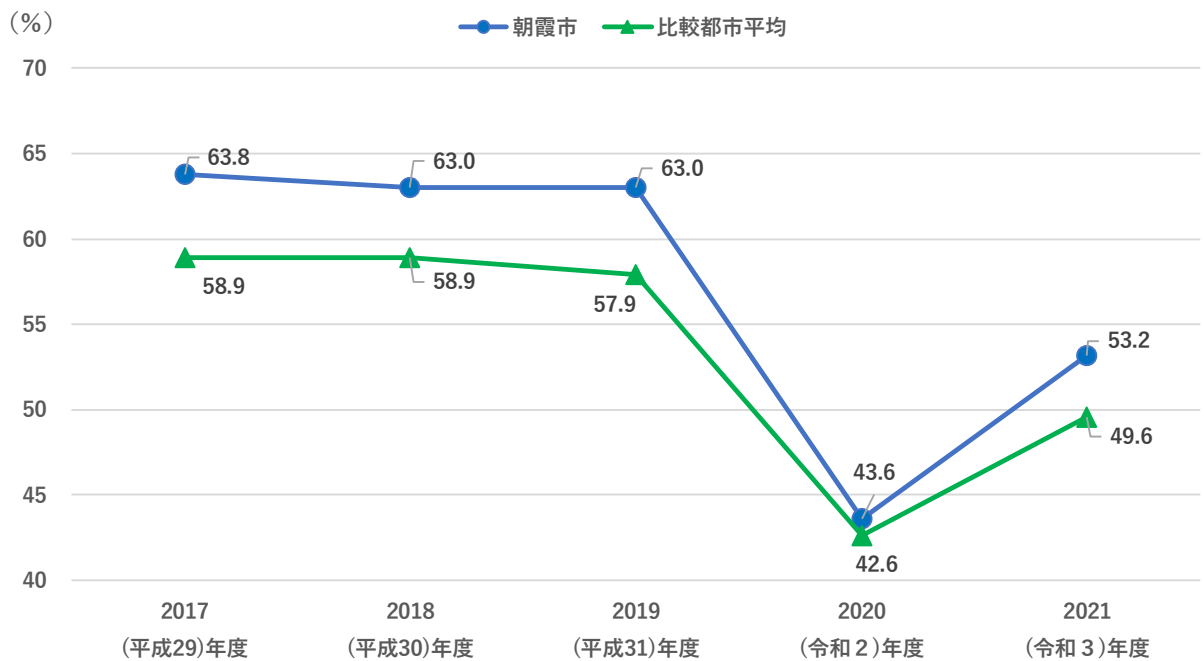
(5) 財政力指数の推移



本市の財政力指数は比較都市平均を常に上回り、ほぼ1.0という高い水準で推移している。2021（令和3）年度には0.98となっており、比較都市平均を0.07ポイント上回っている。

総務省「市町村別決算状況調」

(6) 自主財源比率の推移



総務省「市町村別決算状況調」

本市の自主財源比率は、新型コロナウイルス感染症対策としての国補助金等の影響によって一時的に低下しているが、常に比較都市平均を上回って推移している。

4 課題の整理～時代潮流と統計指標から～

ここでは、基本構想の検討に資することを目的として、本調査「2時代潮流—朝霞市を取り巻く外部環境」および「3主要統計指標の都市比較—統計から見た朝霞市の内部環境」から、課題を整理する。

《課題》

(1) 人口増加傾向を可能な限り維持するとともに、いずれ訪れる人口減少局面に備える必要がある

本市の総人口は、2023年（令和5年）1月には144,062人となっており、2014年（平成26年）からの10か年の間に、11,613人（8.8%）という高い水準の人口増加が果たされた。

しかしながら、我が国全体の人口は既に減少局面へと突入しており、本市への主要な人口供給元と考えられる東京都の人口も、2030年（令和12年）をピークに減少に転じると推計されている。（「未来の東京」戦略 version up 2023）

近年、2022年（令和4年）および2023年（令和5年）には、本市の対前年増加率は0.3%にとどまっており、人口増加は鈍化傾向にあるとみられる。

これまで、本市の人口増加を支えてきた人口の自然増（出生者数>死亡者数）、人口の社会増（転入者数>転出者数）のいずれも均衡に近づいており、このままの状況が続けば、本市の人口もいずれ減少局面に転じることが推測できる。

今後も、現在の人口増加傾向を可能な限り維持していくことが望ましいが、同時に、いずれ訪れる人口減少局面に備えていく必要がある。このとき、単純に人口の増加を目指すのではなく、総人口の水準を維持しながら、生産年齢人口を確保する等、将来にわたってバランスの良い人口構成を維持していく必要がある。

《課題の背景》

時代潮流 ①人口減少と高齢化の進行

主要統計指標 (1)(2) 人口

別添 人口推計検討資料

《課題》

(2) 社会変革の進展を好機と捉え、移住・定住等を促していく必要がある

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機として、就業、学習、日常的な買い物等、様々な場面でのオンライン化が進み、暮らしや働き方の変革が急速に進展した。その結果、人々の居住地選定や企業の立地選定の自由度が増し、都市部から地方への人の移住や企業の移転もみられている。

先にも述べたとおり、これまで人口増加を支えてきた自然増は既に均衡に近づきつつあり、急激な出生者数の増加や、死亡者数の減少は予測しにくい。このため、これからの本市人口の増加（あるいは可能な限りの維持）には、人口の社会増の維持が不可欠であり、移住・定住を促す取組がこれまで以上に重要となる。

他方、本市の特性として「ベッドタウンであること」がある。本市の場合、市民の自市内従業率は低く、就業者は比較的長い時間をかけて都内等に通勤しており、「働く場」としての拠点性は低い。

オンライン化等によって働き方の自由度が増す中、新規の起業・創業を促す等の取組を通じ、『住まい、働く場』としての機能を高めていくことも重要である。

《課題の背景》

時代潮流

②新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機とした社会変革の進展

主要統計指標

(1) (2) 人口、(3) 産業、(4) 就労

《課題》

(3)「子育てがしやすいまち」を実感できるよう、子育て支援と教育の充実が必要である

埼玉県によれば、2022年（令和4年）の本市合計特殊出生率は、1.25となっている。これは、人口規模が小さい美里町や滑川町を除けば県下の市で最も高い数値であり、合計特殊出生率の高さは、本市の特徴の一つとなっている。

しかしながら、この1.25という数値は、県（1.17）を上回ってはいるものの、国（1.26）の水準を下回り、人口維持に必要とされる2.07（人口置換水準という。）には遠く及ばない値である。かつ、本市の合計特殊出生率は低下傾向にあり、2015年（平成27年）をピークとして0.3ポイント低下している。

若年層（ここでは25～39歳）の有配偶率は比較的高いため、今後は、これら結婚・出産・子育て期にある市民のニーズを踏まえながら、子育て支援のさらなる充実に努め、子育てがしやすいまちを実感できるよう、引き続き魅力向上を図っていく必要がある。

また、子どもを育てる際の教育環境が重視されることから、ICTを最大限活用しながら、子どもたちが豊かな人生を切り拓き、社会の創り手となれるような、更なる教育内容の充実と教育環境の整備を図っていくことが重要となる。

《課題の背景》

時代潮流

③子ども・子育て支援の充実と教育の新たな展開

主要統計指標

(1)(2)人口

《課題》

(4) 豊かで安全・安心な、朝霞市での暮らしの魅力向上に向けた取組が重要である

本調査「3 主要統計指標の都市比較—統計から見た朝霞市の内部環境」から見てくることは、“朝霞市民は、経済的には比較的豊かであり”“病院や医師は多くはないものの”“健康で長生きであり”“犯罪や交通事故が比較的少ない環境の中で暮らしている”ということである。

「人生100年時代」の本格的な到来が本市においても見込まれる中、QOL（生活の質）の重視を基本として、健康寿命の延伸、生涯学習や地域活動などの社会への参画促進といった取組の充実が必要となる。

また、市民誰もがその人らしく活躍できる朝霞市の実現に向け、社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）と多様性（ダイバーシティ）を尊重し、社会的な孤立や差別・偏見のない地域社会づくりを促していく必要がある。

一方、人口増加を続ける本市でも、流入人口の増加等にもなって自治会加入率が低下するなど、地域コミュニティの担い手が減少している。地域コミュニティは防災、福祉、防犯などにおいて多様な機能を有しており、担い手の確保に努めつつ、安全・安心なまちづくりをこれからも進めていく必要がある。

なお、本市は、第5次総合計画後期基本計画において、SDGsの視点を踏まえて施策を推進することとしており、これからも第5次総合計画から引き続き、SDGsの視点を踏まえた取組を推進していくことが重要である。

《課題の背景》

時代潮流

- ①人口減少と高齢化の進行
- ④人生100年時代の到来とQOL（生活の質）の重視
- ⑤社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）と多様性（ダイバーシティ）の尊重
- ⑥安全・安心な暮らしに対する意識の高まり
- ⑦持続可能な社会の構築に向けた取組の進展

主要統計指標

- (5) 所得・住宅・生活環境
- (6) 健康・医療、安全安心等

《課題》

(5) デジタルを活用した効率的・効果的な行政運営と、健全な財政運営が重要である

デジタル技術の発展は著しく、国が策定した「自治体デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進計画」を受けて、朝霞市においても「朝霞市行政情報デジタル化推進方針」を制定し、行政手続のオンライン化、自治体情報システムの標準化・共通化、AI・RPAの利用推進などに取り組んでいる。

行政の効率化のみならず、このようなデジタル活用により朝霞市民の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させるとともに、地域課題の解決にもつなげていくことが求められる。このため、デジタルデバインドに配慮しながら、デジタルを活用した効果的な行政運営の在り方を引き続き検討していく必要がある。

朝霞市の財政は比較的良好な状態にあるが、ベッドタウンという性格から、今後の人口の動向次第では、歳入における個人市民税への影響も懸念される所であり、引き続き、財源確保に向けた取組が求められる。

一方、歳出については、高齢化にともなう扶助費の増や、公共施設の老朽化に伴う維持・管理費などが見込まれ、今後も健全な財政運営が求められる。

《課題の背景》

時代潮流

⑧DX（デジタル・トランスフォーメーション）の進展

主要統計指標

(7) 行財政

連番	指摘箇所	指摘事項	対応
1	全般	統計に用いられている指標等、用語の注釈を入れてほしい。	内部環境の指標につき、解説を用意した。(P11)
2	全般	大見出し、中見出し、小見出し、説明と見ていくと、説明と見出しが合致していない箇所があるので、記載内容を見直してもらいたい。(P4など)	内容を精査し、見出しや本文に修正を加えた。
3	全般	『安全安心』について、P6外部環境では「防災防犯意識を高める」、「消防救急体制の充実」などと狭義な内容であることに対し、P17内部環境では医療や健康寿命、犯罪等広義となっているので、語句の指す内容の統一が必要ではないか。	内容を精査し、本文においてふれる事項等に修正を加えた。また、分野の見出しを「健康・医療、安全安心等」と改めた。
4	全般	5次前期や後期の計画策定の際は、都市計画や財政の分析も行っているが、その調査はないのか。	「行財政」に関する補足資料として、P26～30に一般会計等に係る資料を追加した。
5	P3(2)	「基礎調査の内容」として、調査報告書に経過報告は不要ではないか。	経過報告の内容を削除し、スペースが空いたため。時代潮流、統計指標、課題の整理の説明を追記した。
6	外部環境全般	大きい括りのものから、個別的な政策へという順序に並べた方がわかりやすいのではないか。	内容のレベル感を勘案し、並べ替えた。
7	P6④	①の「高齢化の進行」との関係が強いため、項目を分けず、一連の流れでまとめた方が良いのではないか。	①でいう「高齢化」は、人口減少や人口構造の変化、それらが及ぼす社会的影響という流れで言及している。対して、④はQOL等個人生活の充実支援という側面から述べているので、中間報告のままとしている。
8	P7⑤	タイトルに多様性の「重視」とあるが、「尊重」という言葉を使った方が良いと思う。また、一か所「ですます調」になっているので、修正してほしい。	修正した。
9	P7⑤	「障害者」というキーワードがないため、内容に追記してもらいたい。	加筆した。
10	P7⑥	内容を見ると、国土強靱化・防災・防犯が並列で記載しているため、タイトルで自然災害等とまとめることに違和感がある。	タイトルを「安全・安心な暮らしに対する意識の高まり」とした。
11	P7⑥	能登半島地震の引用は近年の例として引用するには近視眼的すぎるのではないか。	具体的な災害を記載せず、異状気象への対応など、汎用的な表現に変更した。
12	P8⑦	ここでのSDGsには環境問題の記載しかない。タイトルを環境関連とした上で、各項目の説明の中でSDGsに触れるか、特出して③としてSDGsの内容を集約するか、どちらかにした方が良いのではないか。	内容を精査し、本文においてふれる事項等に修正を加えた。
13	P8⑧	取り上げられ方が少し唐突な印象があるので、まとめ方を検討してもらいたい。	⑧のDXにつなげる意図があるので、中間報告の位置のままとしている。
14	内部環境全般	比較対象が近い市ばかりで、目線が狭いように思う。首都圏平均や県平均を入れるなど、広い目線で見ることで論じられるものもあると思う。	埼玉県の数値を盛り込んだ。なお、国や、県外他自治体の数値は、比較が広汎となり過ぎ狙いがばやけることや、統計の数値が同一基準で算定されておらず比較困難(例：健康寿命)なケースがあるため、盛り込んでいない。
15	内部環境全般	高齢化への対応につながる調査が不足しているのではないか。例えば、統計指標に「介護認定率」などを入れた方が良いのではないか。	「要介護(要支援)認定率」を追加した。 ※ただし、認定率上位を見ると、秩父市・皆野町・小鹿野町に続くのがさいたま市であり、必ずしも「高齢化の状況」が反映されたものではないため、注意が必要と考える。
16	内部環境全般	比較対象都市について、競合・協力関係にあるという観点で抽出しているが、民間の場合では、目標とする相手を調査し、比較することが一般的ではないかと思う。民間調査などで朝霞より評価が高いと言われている都市を目標とするため、比較対象都市に入れることも検討してはどうか。	具体的な目標とすべき都市の選出が難しく、また、本市と馴染まない都市の比較になってしまうと効果が薄いと考えられるため、比較対象都市の変更は行わないが、埼玉県の数値を盛り込んだ。

17	内部環境全般	六角形のグラフについて、外に向かうほど良い指標となることが一般的であるが、現在、指標によっては外に向かうことが良くないものが混ざっており、情報が適切に伝わらないのではないか。 グラフが不格好になってしまい、見て違和感があるのは直した方が良いと思う。	全ての指標について、外に向かうほど良いものとなるよう、数値の修正を行った。
18	内部環境全般	外部環境と内部環境から主要課題を導くとのことだが、内部環境が他市との比較のみで、市の実情がわからない。内部と外部を比較できないので、外部環境に関連する市の数値が必要ではないか。	「健康・医療・安全安心等」に関する補足資料として、P24に自治体加入率の推移について追加した。
19	内部環境全般	町内会の加入率減少という市の情報が基礎調査内ではわからないので、そうした資料の追加が必要ではないか。	
20	都市比較<地勢>	比較対象が近隣・東武東上線沿線市となっている中で、日照時間等を比較する効果が薄いと思う。	日照時間に限らず、東武線沿線都市および県を比較する中で意義が薄いというご意見を踏まえ、「地勢」という項目そのものは削除し、通勤時間、住宅平均地価を他の分類に移動した。
21	都市比較<人口> P13	「人口」の分析において、「人口増減率」とあるが、何に対しての増減率なのかかわからない。	内部環境の指標につき、解説を用意した。(P11)
22	都市比較<所得・住宅・生活環境> P21	「生活」の各指標について、指標が多岐に渡り、関連性が弱く、これらを一律に「生活」としてまとめることに違和感がある。	括りを「生活」から「所得・住宅・生活環境」に改めた。
23	全般	「まちづくりの主要課題」という表現があるが、「主要」と言い切ってよいのか。	「課題の整理」と表現を改めた。
24	全般 (課題の整理)	町内会の加入率減少など、コミュニティが希薄になっており、一方で地域共生社会を推進する上ではコミュニティが重要なことから、課題とすべきではないか。	地域コミュニティの担い手が減少していることについて、P34の課題(4)に追記した。
25	P34 (旧 P28)	「朝霞のライフスタイル」が何を指すのかわからない	「朝霞市での暮らし」と表現を改めた。

**朝霞市民意識調査
及び青少年アンケート
結果報告書
(速報版)**

**令和6年(2024年)2月
朝霞市**

目次

第1部 朝霞市市民意識調査結果.....	1
I 調査の概要.....	2
1. 調査の目的.....	3
2. 調査の方法.....	3
3. 集計・分析のための地区区分.....	3
4. 調査項目.....	3
5. 回収結果.....	3
6. 報告書の見方.....	4
7. 回答者の属性.....	5
II 回答結果.....	12
1. 朝霞市の住みよさについて.....	13
2. 日頃の地域との関わりについて.....	19
3. 市政について.....	35
4. 市の全般的な取組について.....	45
5. これからのまちづくりについて.....	52
6. 自由意見.....	71
第2部 朝霞市青少年アンケート結果.....	73
I 調査の概要.....	74
1. 調査の目的.....	75
2. 調査の方法.....	75
3. 集計・分析のための地区区分.....	75
4. 調査項目.....	75
5. 回収結果.....	75
6. 報告書の見方.....	76
7. 回答者の属性.....	77
II 回答結果.....	82
1. 朝霞市について日頃感じていること.....	83
2. これからのまちづくりについて.....	93
3. 地域との関わりについて.....	99
4. 市の取組について.....	111
5. 自由意見.....	113

第1部 朝霞市市民意識調査結果

I 調査の概要

1. 調査の目的

この市民意識調査は令和8年度(2026年度)から10年間のまちづくりの指針となる「第6次朝霞市総合計画」を策定するに当たって、まちづくりに対する市民の意向を把握し、基礎資料として活用するために行ったものである。

2. 調査の方法

- ①調査対象 市内在住の18歳以上の男女(令和5年4月1日時点での満年齢)
- ②対象者数 3,000人
- ③抽出方法 住民基本台帳(令和5年11月1日現在)から無作為抽出
- ④調査方法 郵送による配布・回収、インターネットによる回答を併用
- ⑤調査期間 令和5年11月24日送付、12月25日締切

3. 集計・分析のための地区区分

A地区	大字上内間木、大字下内間木
B地区	朝志ヶ丘、北原、田島、西原、浜崎、宮戸
C地区	大字台、大字根岸、岡、仲町、根岸台
D地区	泉水、西弁財、東弁財、三原
E地区	青葉台、幸町、栄町、膝折町、本町、溝沼、陸上自衛隊朝霞駐屯地

4. 調査項目

- ① 朝霞市の住みよさについて
- ② 日頃の地域との関わりについて
- ③ 市政について
- ④ 市の全般的な取組について
- ⑤ まちづくりへの市民の参加について
- ⑥ これからのまちづくりについて
- ⑦ 自由意見

5. 回収結果

- ①調査票発送数 3,000票
- ②有効回収数 965票(紙回答:731票、Web回答:234票)
- ③有効回収率 32.2%(紙回答:24.4%、Web回答:7.8%)

6. 報告書の見方

①用語について

- ・ 図表中の「n」(=number)は、設問に対する回答者数を示す。
- ・ 選択肢の文字数が多いものは、本文や図表中で省略した表現を用いている。

②集計について

- ・ 比率は、全て百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。このため、比率の合計が100%にならない場合がある。なお、集計上の無回答には、無回答のほか無効な回答を含んでいる。
- ・ 複数回答形式の設問については、設問に対する回答者数を母数として比率(%)を算出している。このため、合計が100%を超えることがある。

③意識調査の信頼性について

- ・ 本調査は、調査対象となる母集団から標本を抽出し、母集団の比率を推測する標本調査であるため、調査結果には統計上の誤差が生じることがある。今回の単純集計の場合の標本誤差(信頼度95%とした場合)は、次の式により求められる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N=母集団の数
n=比率算出の基数(回答サンプル数)
p=回答の比率(0 ≤ p ≤ 1)

- ・ 今回の市民意識調査では、母集団の数122,235人を(令和5年11月1日現在)として、有効回収数(サンプル数=965票)から標本誤差を計算すると、±3.2%以内になる(信頼度95%とした場合)。

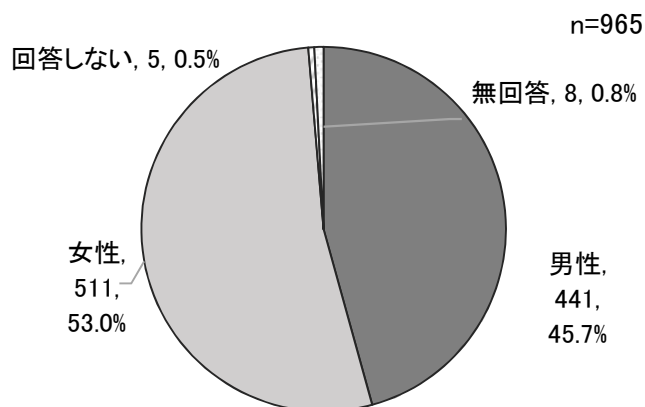
④経年比較について

- ・ これまで実施した意識調査との経年比較を行った。(昭和59年度、平成元年度、平成6年度、平成11年度、平成16年度、平成25年度、令和元年度実施。)

7. 回答者の属性

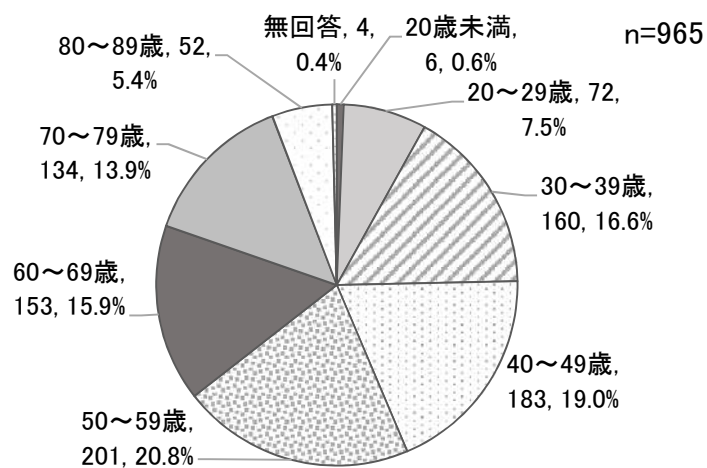
F1 あなたの性別は。

回答者の性別は、「女性」の割合が 53.0%、「男性」の割合が 45.7%となっている。



F2 あなたの年齢は。

回答者の年代は、「50～59 歳」の割合が 20.8%で最も高く、続いて「40～49 歳」(19.0%)、「30～39 歳」(16.6%)となっている。

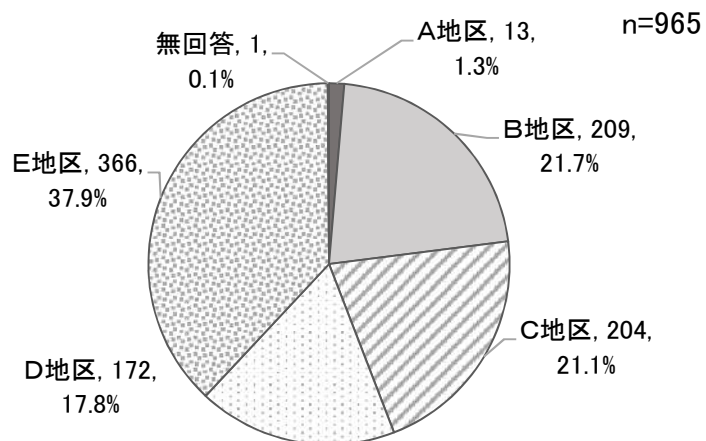


F3 あなたのお住まいはどの地区ですか。

回答者の住んでいる地区は、「E地区」の割合が37.9%で最も高く、続いて「B地区」(21.7%)、「C地区」(21.1%)、「D地区」(17.8%)、A地区(1.3%)となっている。

町(丁)・大字別でみた住んでいる地区は、「根岸台」の割合が13.3%で最も高く、続いて「本町」(10.6%)、「三原」(9.7%)となっている。

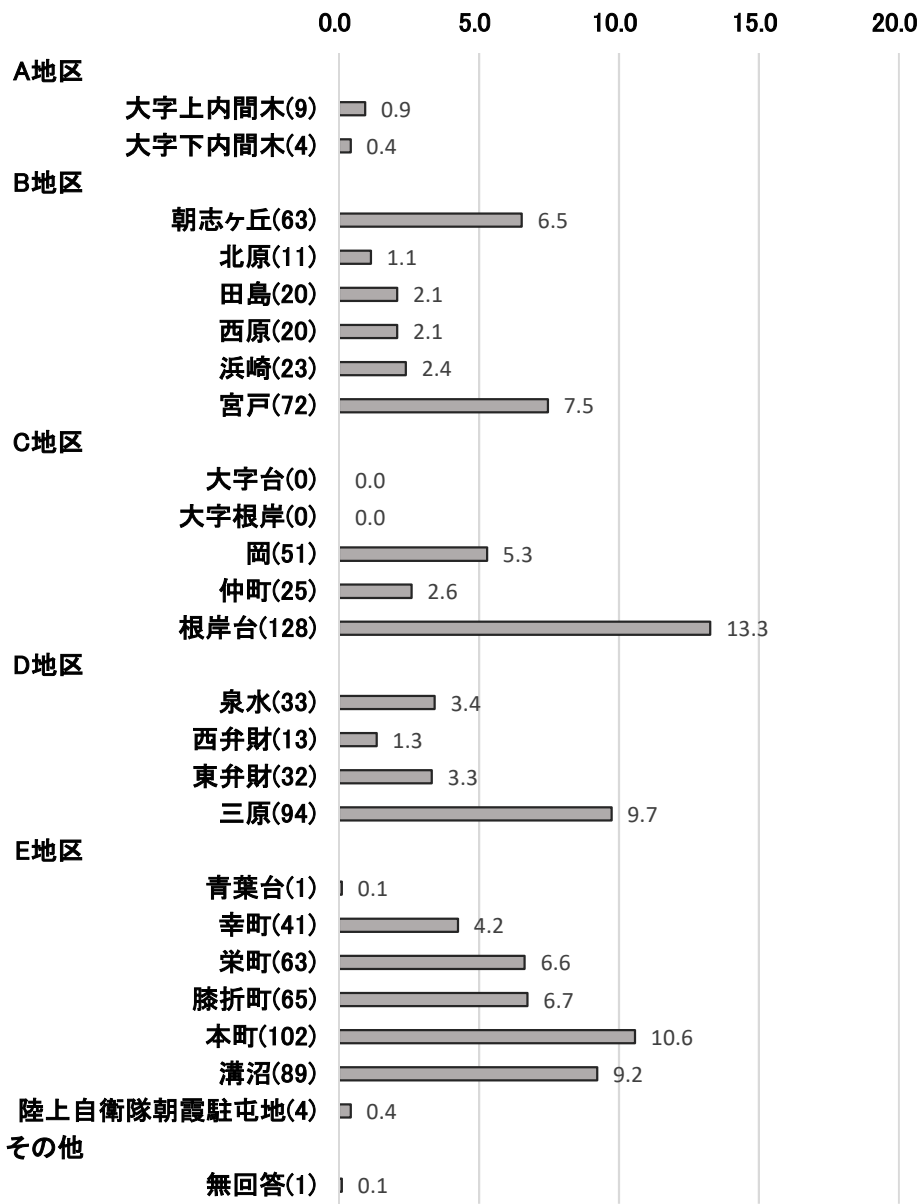
※地区区分については、4ページ「3.集計・分析のための地区区分」参照。



【町（丁）・大字別居住地区】

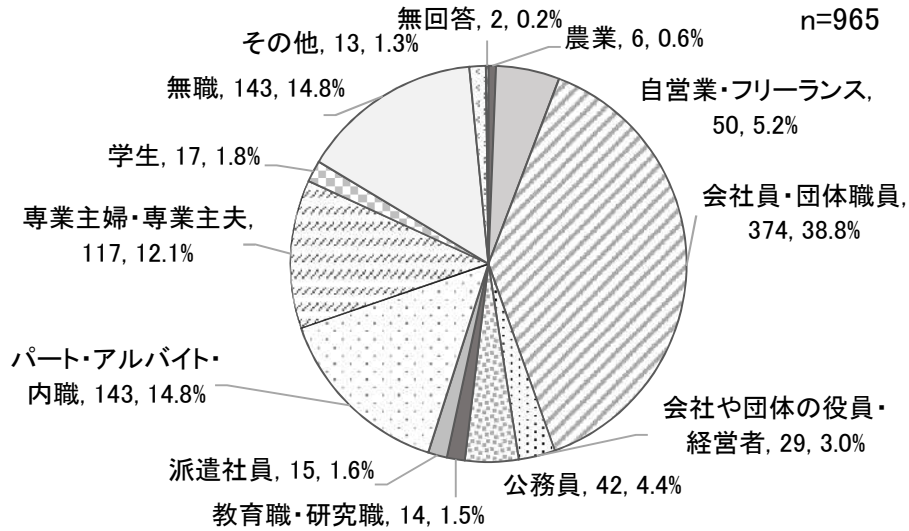
n=965

(%)



F4 あなたの主な職業・就業形態等は。

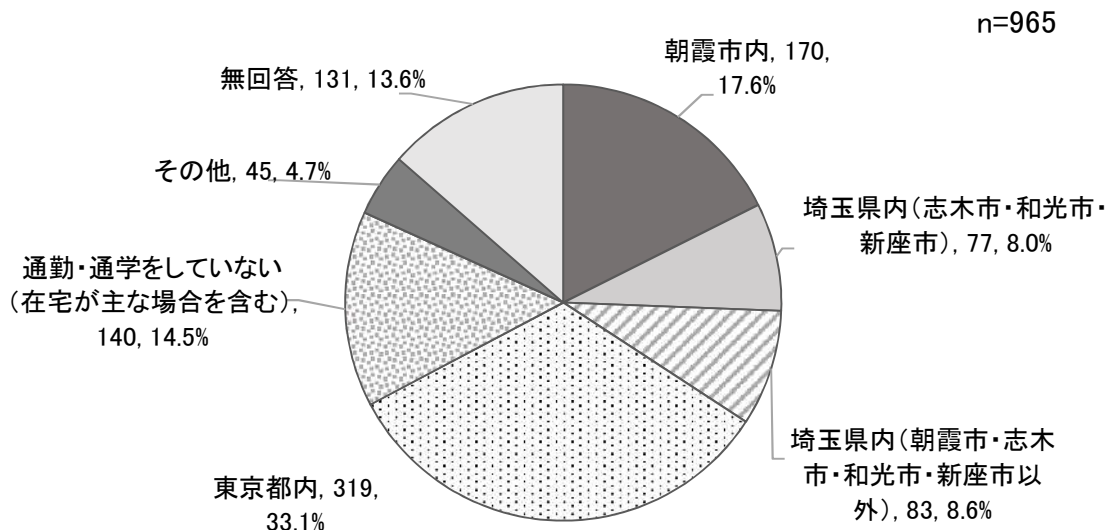
回答者の職業は、「会社員・団体職員」の割合が 32.9%で最も高く、続いて、「無職」(17.7%)、「パート・アルバイト・内職」(16.7%)、「専業主婦・専業主夫」(15.8%)となっている。



F5 あなたの勤務先、通学先はどちらですか。

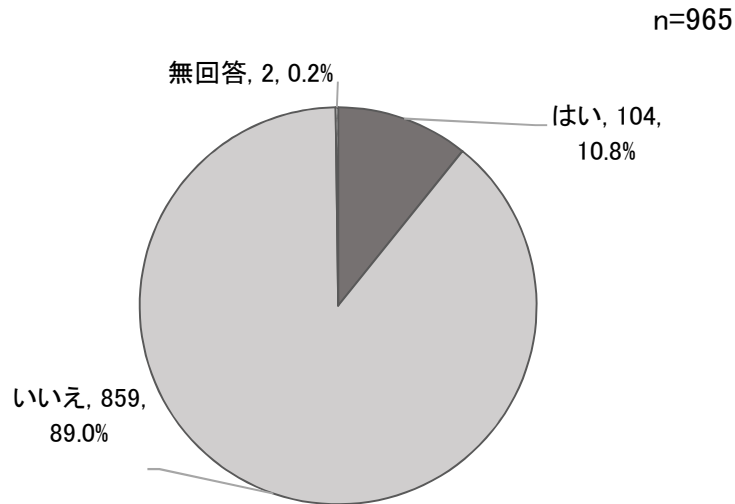
回答者の勤務先、通学先は、「東京都内」の割合が 33.1%で最も高く、続いて、「朝霞市内」が 17.6%、「通勤・通学していない」(14.5%)、「埼玉県内(朝霞市・志木市・和光市・新座市以外)」(8.6%)となっている。

また、朝霞市内を含めた“埼玉県内”は 34.2%となっている。



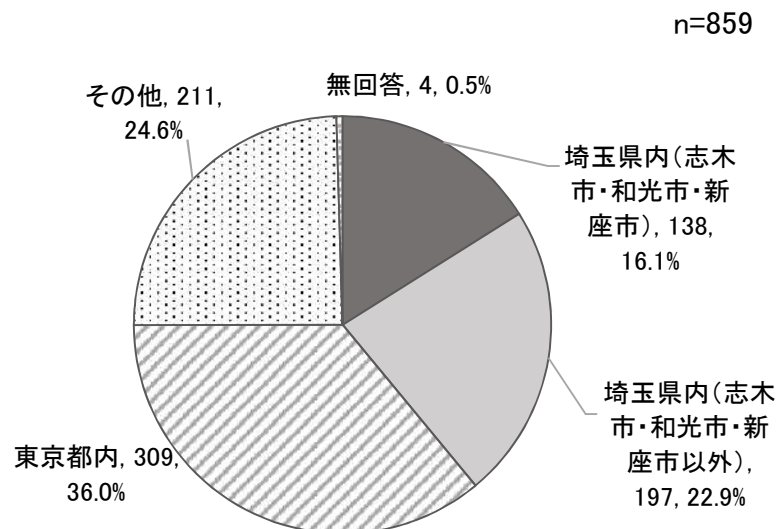
F6 あなたは、生まれた時、または幼少の頃から朝霞市にお住まいですか。

回答者が生まれた時から朝霞市に住んでいるかどうかについては、「はい」の割合が 10.8%、「いいえ」の割合が 89.0%となっている。



F7 F6で「いいえ」と回答された方にお聞きします。朝霞市に住む以前はどちらにお住まいでしたか。

市外から転入してきた回答者の以前の住まいは、「その他」を除くと、「東京都内」の割合が 36.0%で最も高く、続いて「埼玉県内(志木市・和光市・新座市)」(22.9%)、「埼玉県内(志木市・和光市・新座市以外)」(16.1%)となっている。

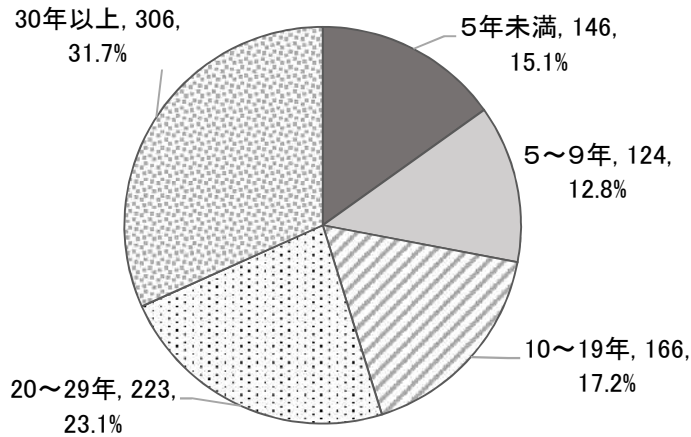


F8 あなたは、朝霞市にお住まいになってどれくらいになりますか。

回答者の朝霞市に住んでいる年数は、「30年以上」の割合が31.7%で最も高く、続いて「20～29年」(23.1%)、「10～19年」(17.2%)となっている。

また、「5年未満」(15.1%)、「5～9年」(12.8%)を合わせた“10年未満”の割合が27.9%となっている。

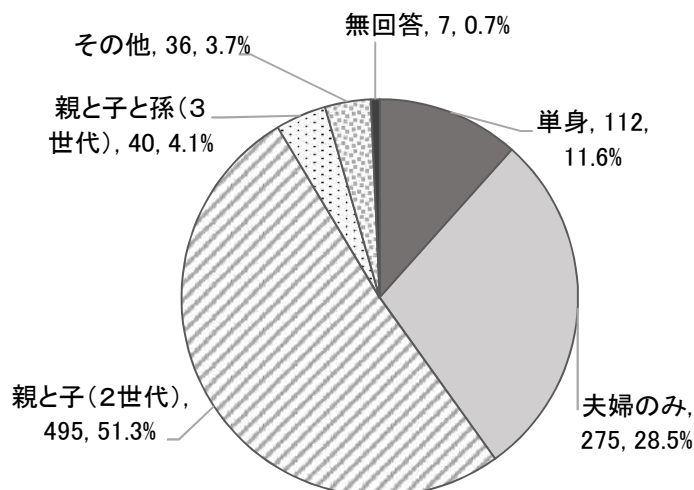
n=965



F9 あなたの同居している世帯・家族の構成は。

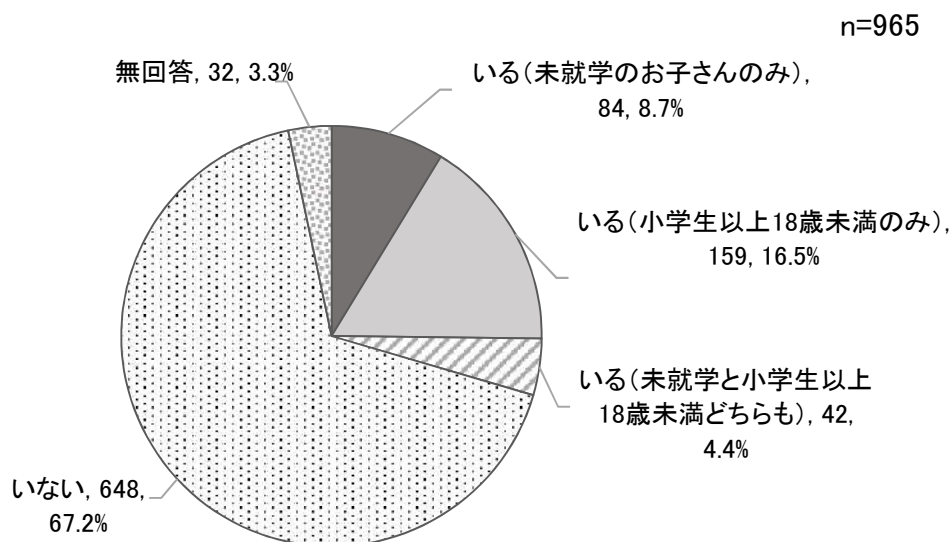
回答者の家族構成は、親と子(2世代)の割合が51.3%で最も高く、続いて「夫婦のみ」(28.5%)、「単身」(11.6%)と続いている。

n=965



F10 あなたと同居している世帯・家族の中に 18 歳未満のお子さんはいますか。

回答者と同居している世帯・家族の中に 18 歳未満のお子さんがあるかどうかについては、「いない」の割合が 67.2%で最も高く、続いて「いる(小学生以上 18 歳未満のお子さんのみ)」(16.5%)、「いる(未就学のお子さんのみ)」(8.7%)となっている。



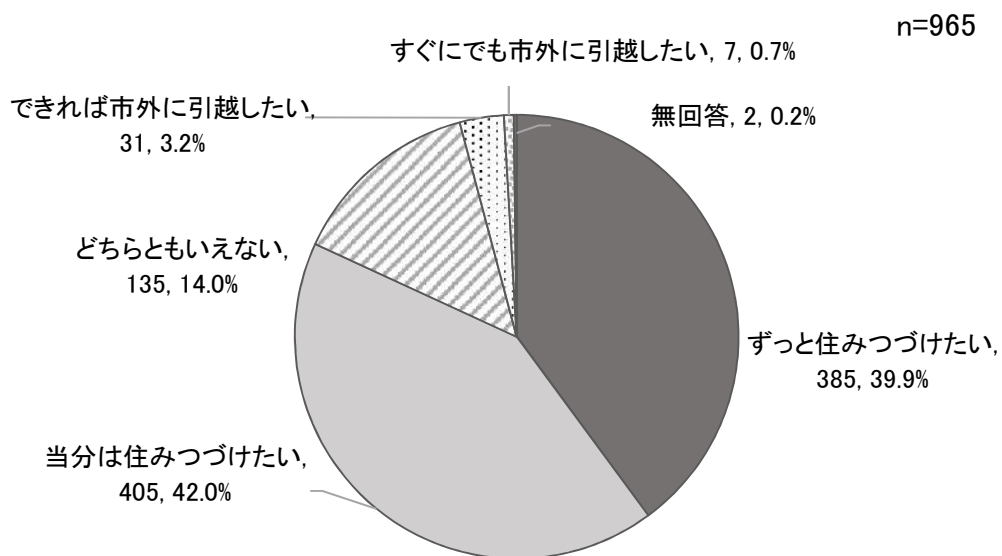
II 回答結果

1. 朝霞市の住みよさについて

問 1 あなたは、これからも朝霞市に住みつづけたいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

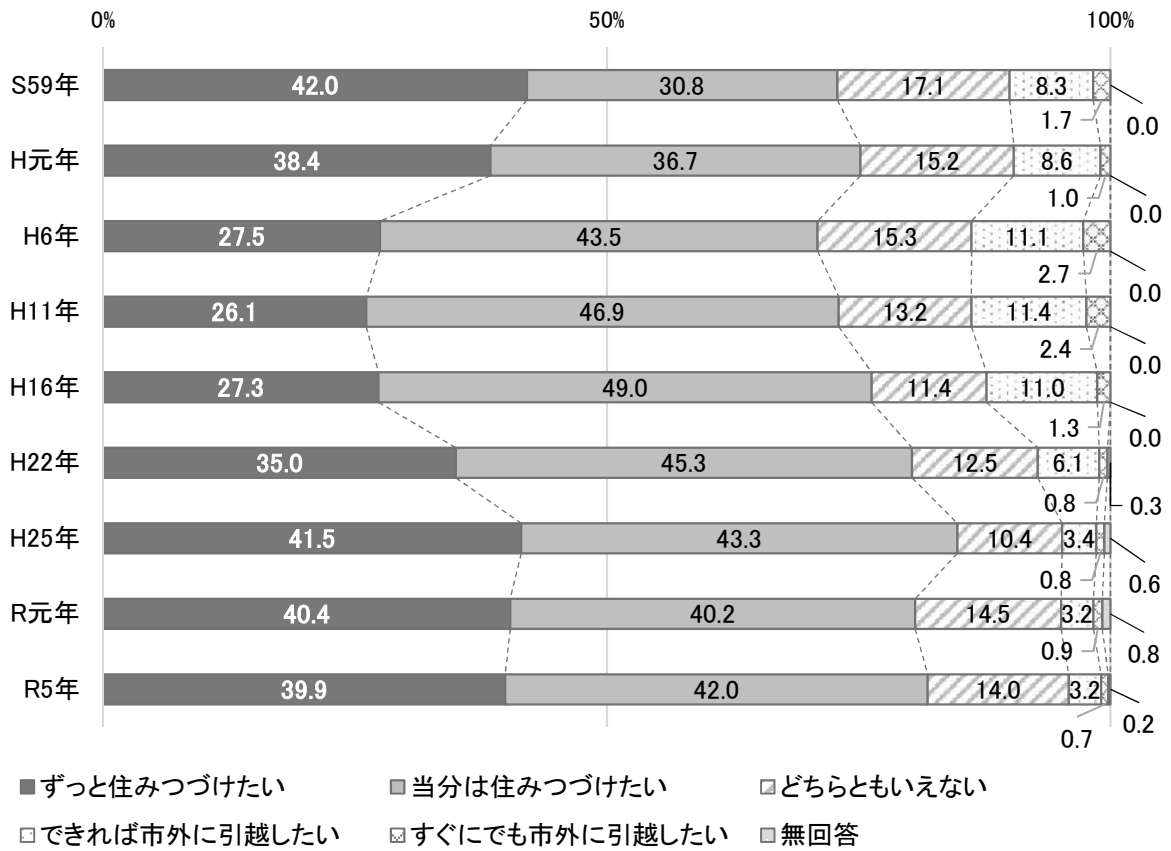
〈全体〉

朝霞市への定住意向は、「ずっと住みつづけたい」(39.9%)、「当分は住みつづけたい」(42.0%)を合わせた“住みつづけたい”の割合が 81.9%となっている。一方、「出来れば市外に移りたい」(3.2%)、「すぐにでも市外に移りたい」(0.7%)を合わせた“住みつづけたくない”の割合は 3.9%となっている。



〈経年比較〉

平成 22 年以降、「ずっと住みつづけたい」、「当分は住みつづけたい」を合わせた“住みつづけたい”の割合が 8 割を超えている。

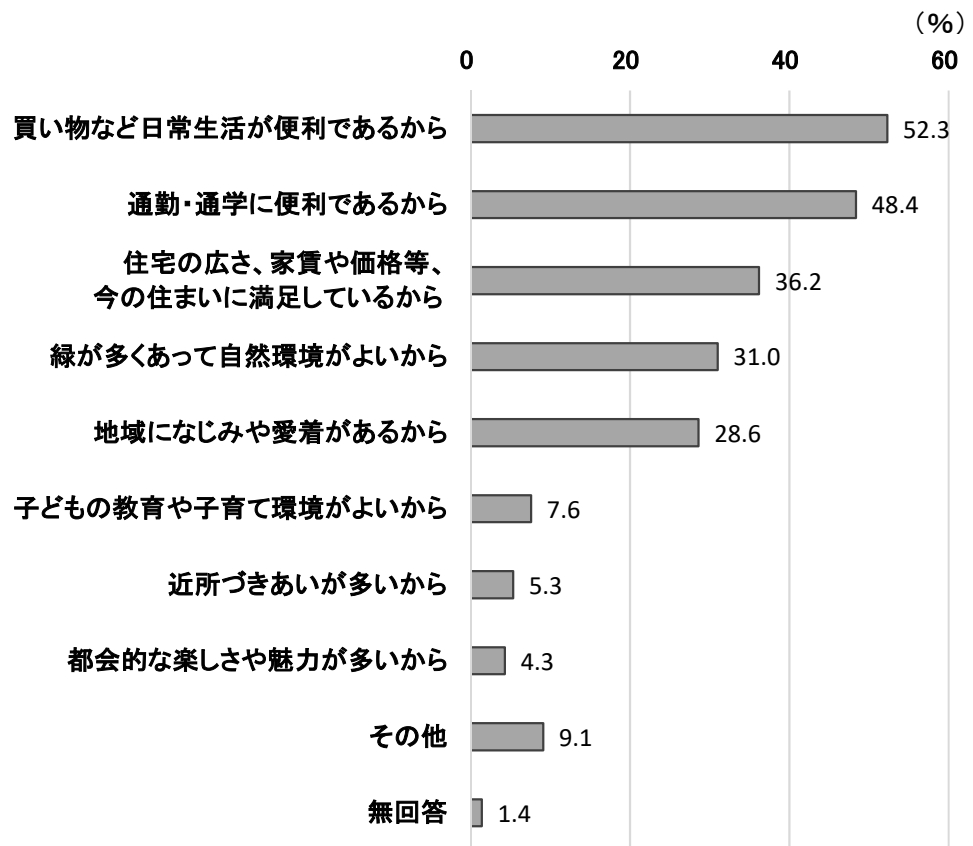


問2 問1で「ずっと住みつづけたい」「当分は住みつづけたい」を選んだ方にお聞きします。あなたが朝霞市に住みつづけたいとお考えになった理由を、次の中から3つまで選んでください。

〈全体〉

住みつづけたい理由は、「買い物など日常生活が便利であるから」の割合が52.3%で最も高く、続いて「通勤・通学に便利であるから」(48.4%)、「住宅の広さ、家賃の価格等、今の住まいに満足しているから」(36.2%)、「緑が多くあって自然環境がよいから」(31.0%)、「地域になじみや愛着があるから」(28.6%)となっている。

n=790

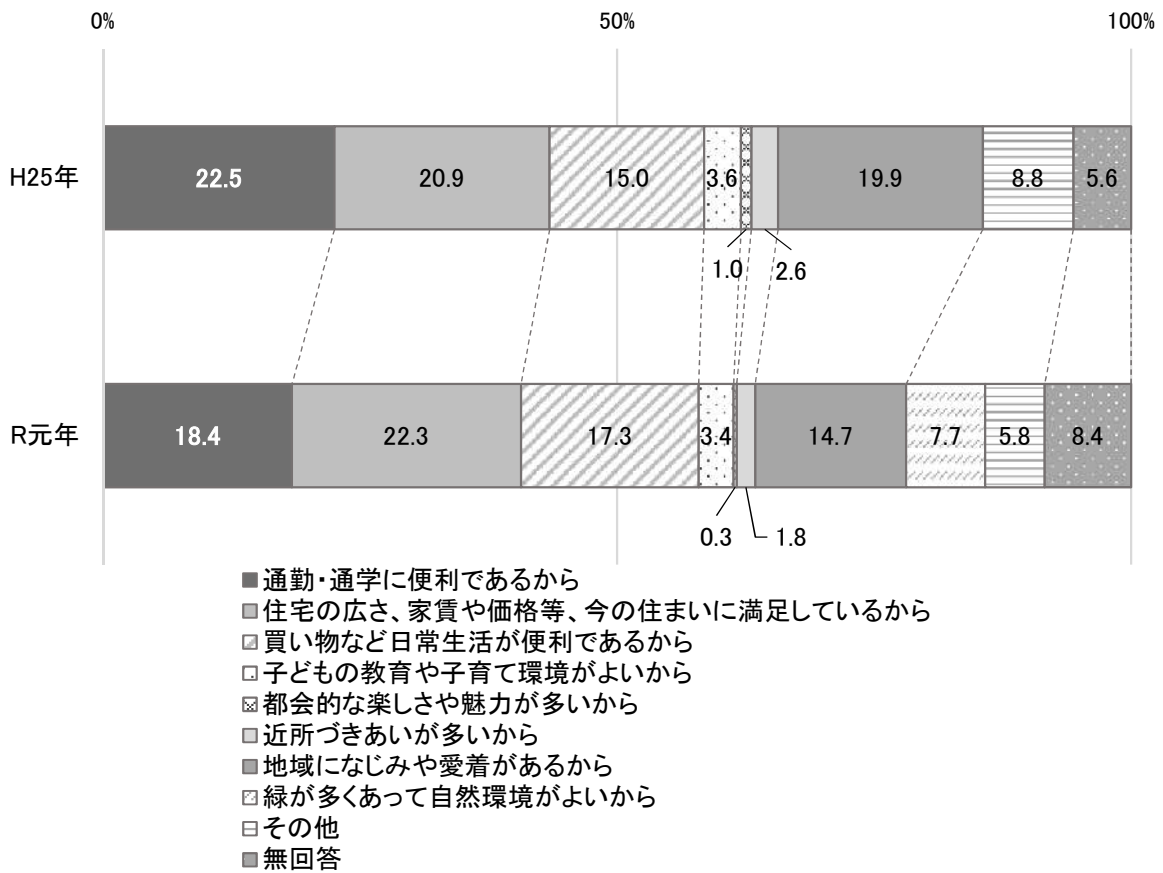


〈経年比較〉

令和元年は、「住宅の広さ、家賃や価格等、今の住まいに満足しているから」、「買い物など日常生活が便利だから」が増加している一方で、「通勤・通学に便利だから」、「地域になじみや愛着があるから」は減少傾向にあった。

※令和元年に追加した選択肢「緑が多くあって自然環境がよいから」は、経年比較の対象外としている。

※令和5年に、単一回答から複数回答に変更しているため、過去2回の調査は参考として示す。

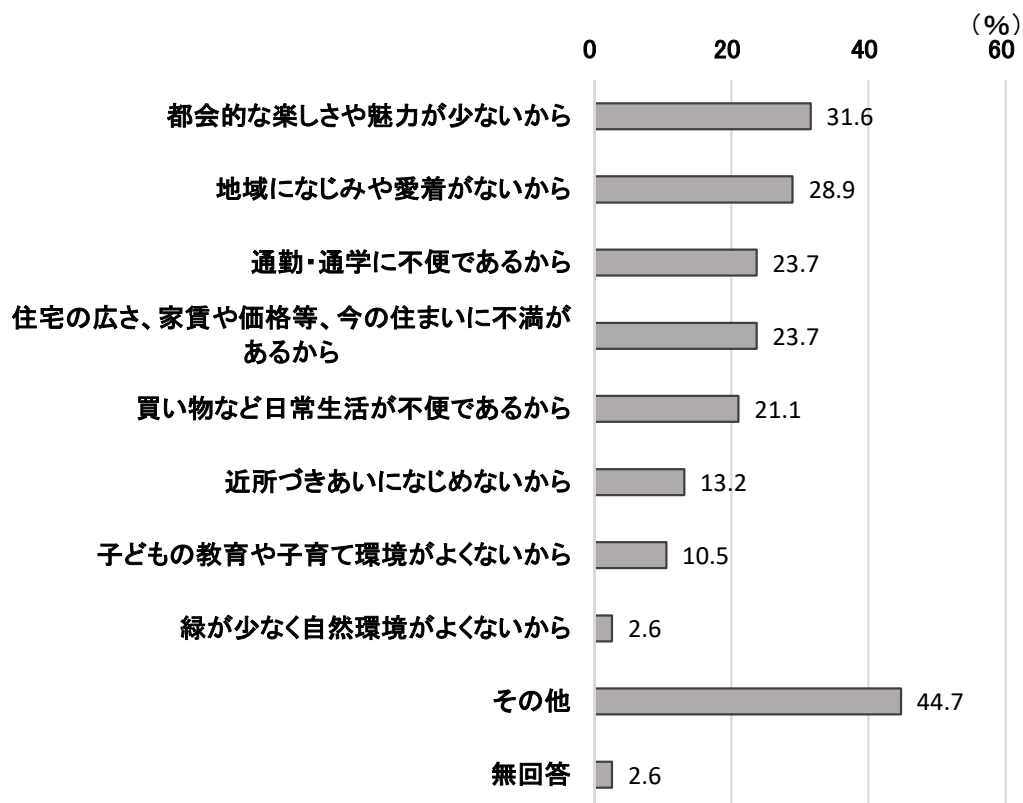


問3 問1で「できれば市外に引越したい」「すぐにでも市外に引越したい」を選んだ方にお聞きします。あなたが市外に引越したいとお考えになった理由を、次の中から3つまで選んでください。

〈全体〉

市外に移りたい理由は、「都会的な楽しさや魅力が少ないから」の割合が31.6%で最も高く、続いて「地域になじみや愛着がないから」(28.9%)となっている。

n=38

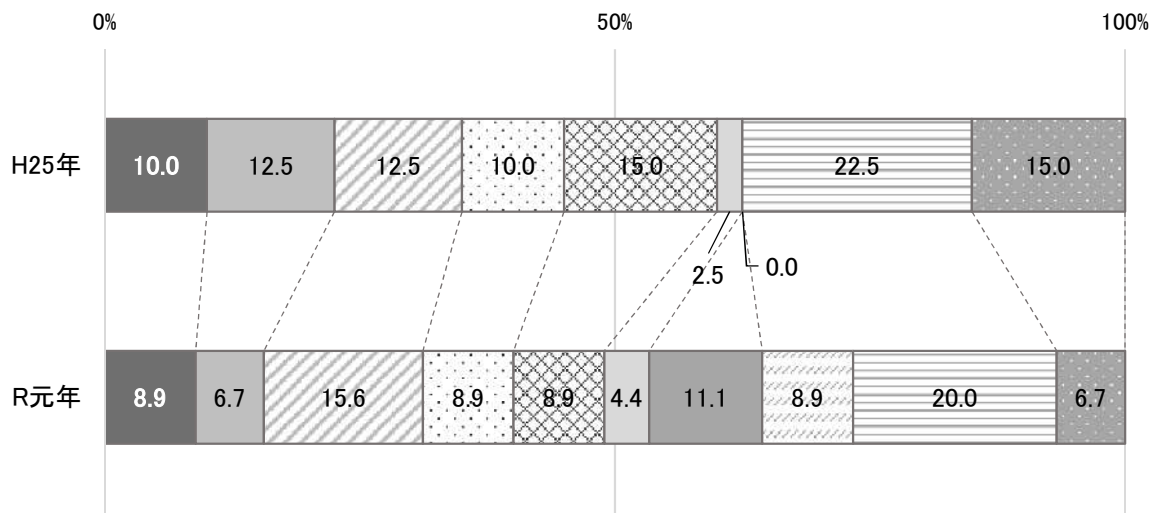


〈経年比較〉

「買い物など日常生活が不便だから」、「地域になじみや愛着がないから」、「近所づきあいになじめないから」が増加している一方で、「通勤・通学に不便であるから」、「住宅の広さ、家賃や価格等、今の住まいに不満があるから」、「子どもの教育や子育て環境がよくないから」、「都会的な楽しさや魅力が少ないから」は減少している傾向にあった。

※令和元年に追加した選択肢「緑が少なく自然環境がよくないから」は、経年比較の対象外としている。

※令和5年に、単一回答から複数回答に変更しているため、過去2回の調査は参考として示す。



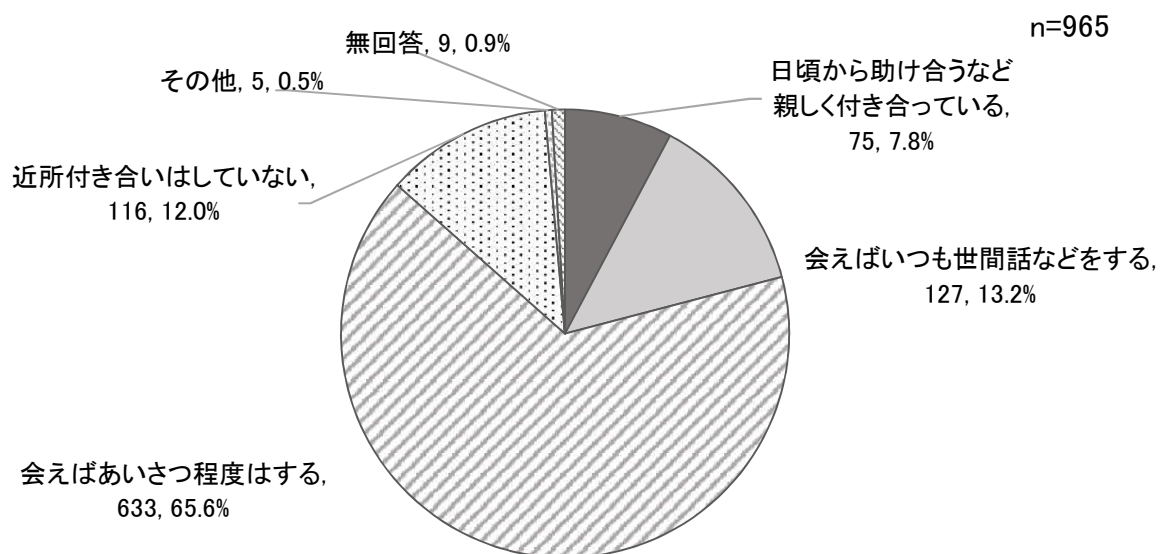
- 通勤・通学に不便であるから
- 住宅の広さ、家賃や価格等、今の住まいに不満があるから
- 買い物など日常生活が不便であるから
- 子どもの教育や子育て環境がよくないから
- ☒ 都会的な楽しさや魅力が少ないから
- 近所づきあいになじめないから
- 地域になじみや愛着がないから
- 緑が少なく自然環境がよくないから
- その他
- 無回答

2. 日頃の地域との関わりについて

問4 あなたは日頃、近所の方とどのようなお付き合いをしていますか。次の中から1つ選んでください。

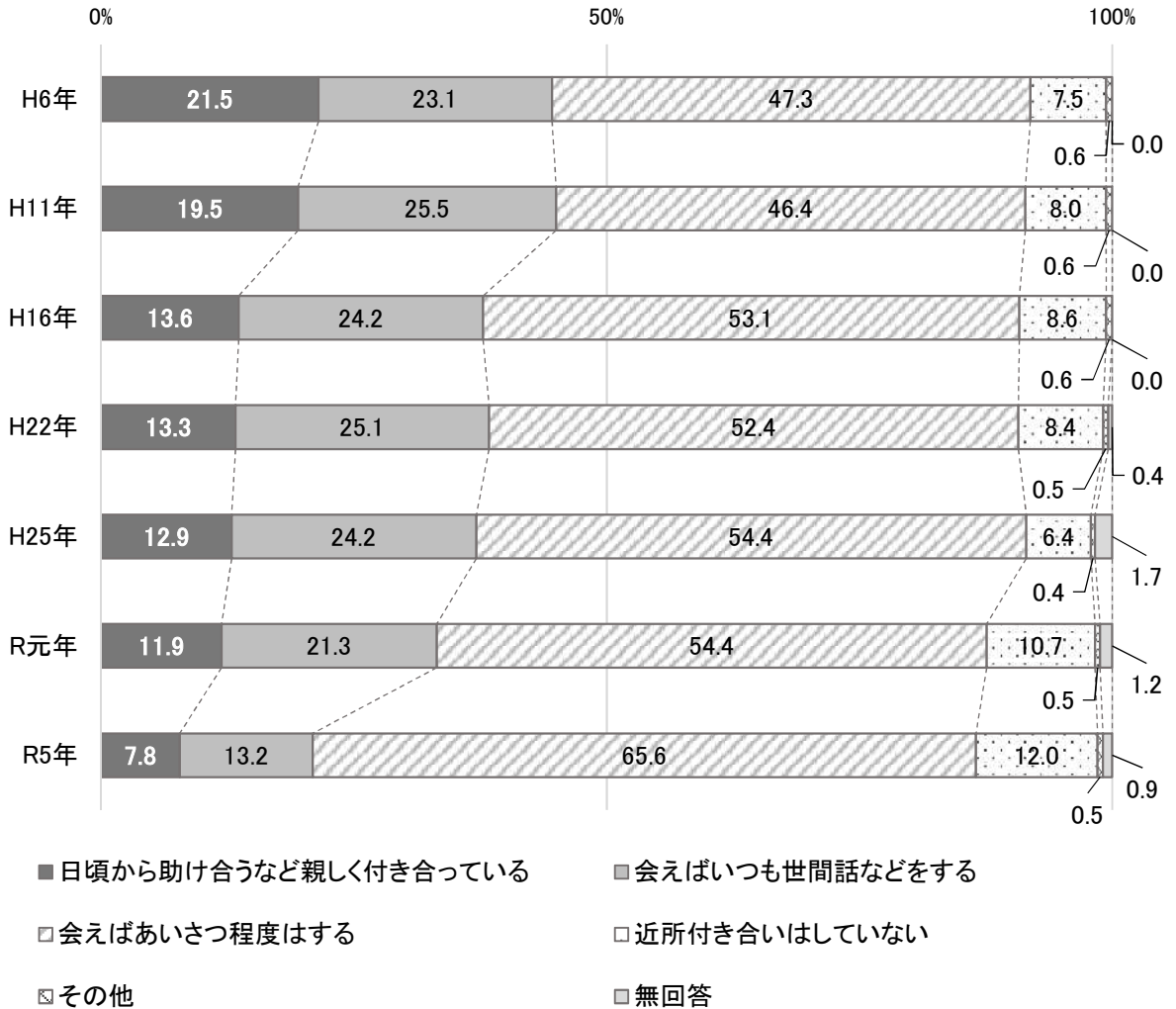
〈全体〉

近所との日頃の付き合いは、「会えばあいさつ程度はする」の割合が65.6%で最も高く、続いて「会えばいつも世間話などをする」(13.2%)、「近所付き合いはしていない」(12.0%)となっている。



〈経年比較〉

「近所づきあいはしていない」の割合は、平成11年以降ほぼ横ばいで推移していたが、令和元年以降増加している。一方で、「日頃から助け合うなど親しく付き合っている」の割合は、平成6年以降減少を続け、令和5年に10%を下回った。

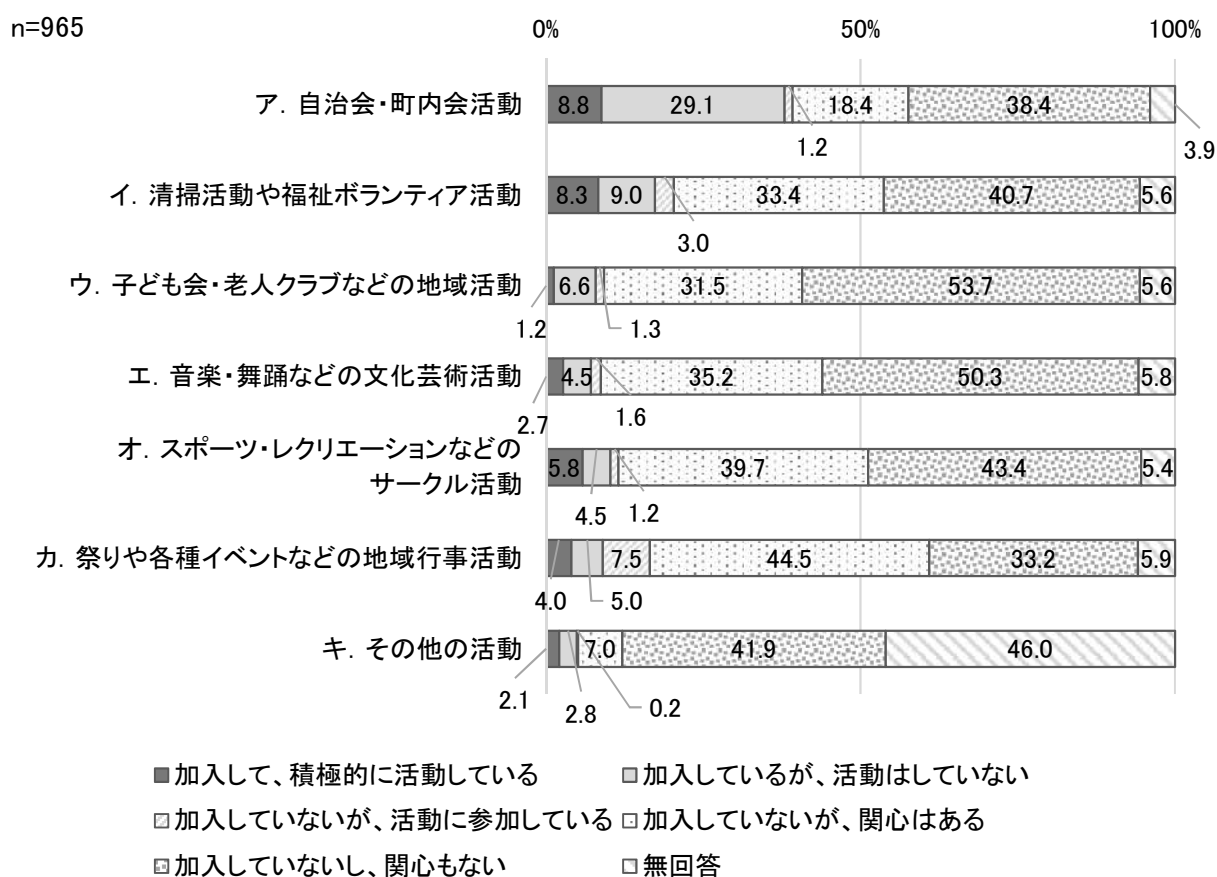


問5 あなたは日頃、地域の自治会・町内会やボランティア団体などで、コミュニティ活動を行っていますか。次の活動（ア～キ）それぞれについて1つずつ選んでください。

〈全体〉

コミュニティ活動への参加は、「加入して、積極的に活動している」の割合は「自治会・町内会活動」が8.8%で最も高く、続いて「清掃奉仕や福祉ボランティア活動」（8.3%）となっている。また、「加入しているが、活動はしていない」の割合も「自治会・町内会活動」が29.1%で最も高い。

「加入していないが、関心はある」の割合は「祭りや各種イベントなどの地域行事活動」が44.5%で最も高く、続いて「スポーツ・レクリエーションなどのサークル活動」（39.7%）、「音楽・舞踊などの文化芸術活動」（35.2%）となっている。

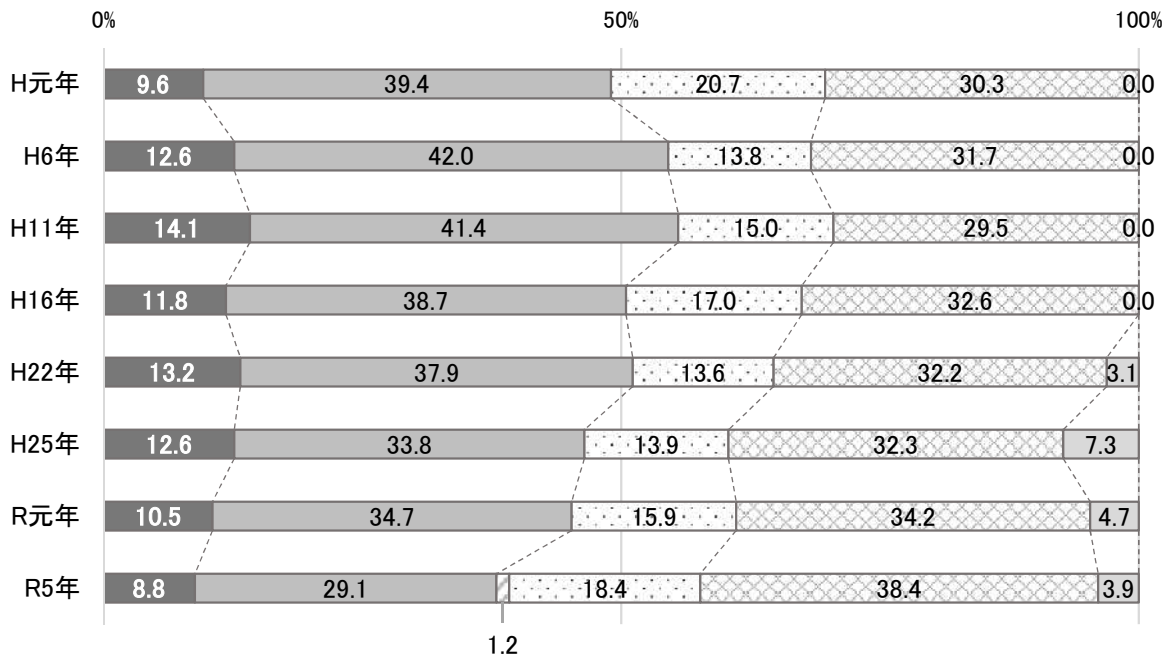


ア 自治会・町内会活動

〈経年比較〉

「加入して、積極的に活動している」の割合は平成 22 年以降、「加入しているが、活動はしていない」の割合は平成 11 年以降、減少傾向にある。一方、「加入していないが、関心はある」の割合は令和元年以降増加している。

※令和 5 年に追加した選択肢「加入していないが、活動に参加している」は、経年比較の対象外としている。



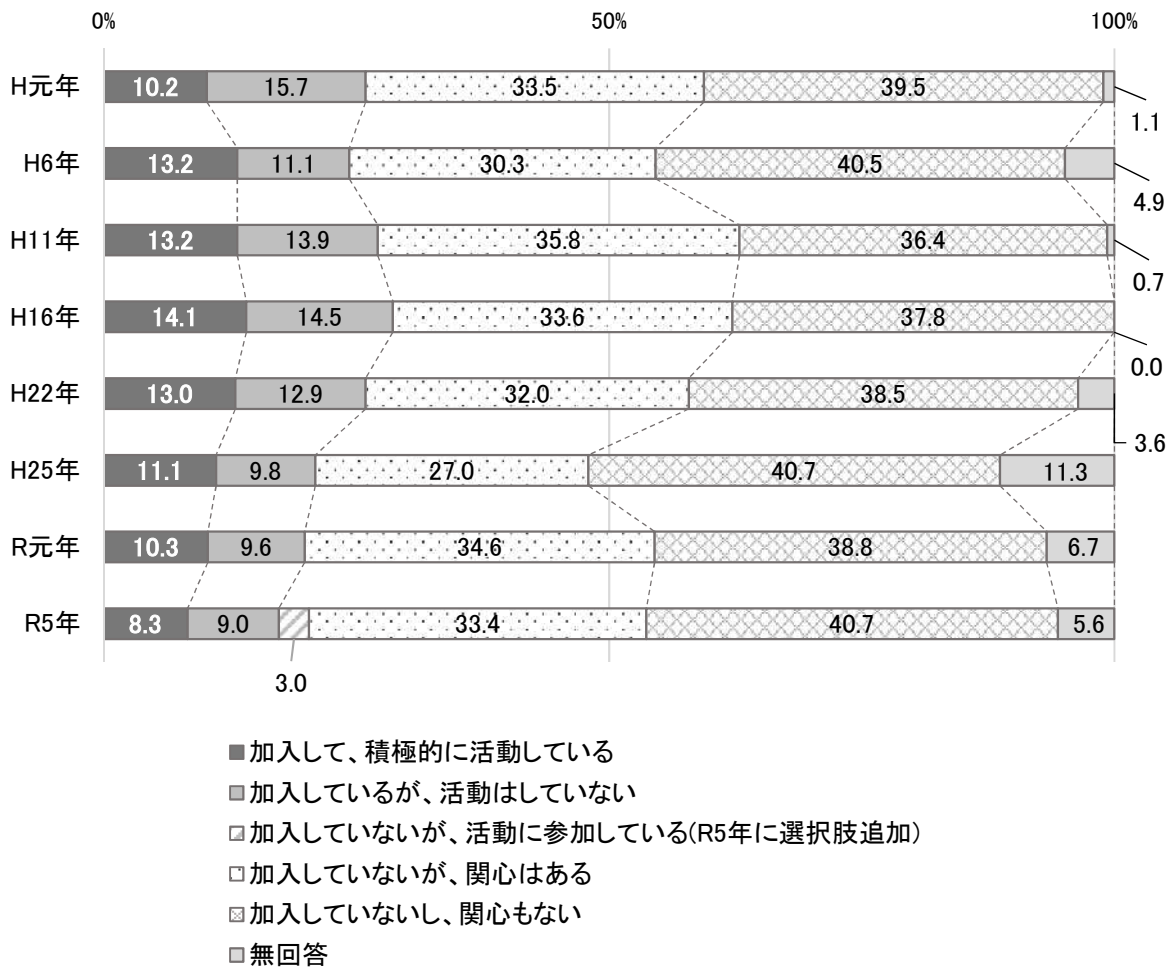
- 加入して、積極的に活動している
- ▣ 加入しているが、活動はしていない
- ▤ 加入していないが、活動に参加している(R5年に選択肢追加)
- ▥ 加入していないが、関心はある
- ▧ 加入していないし、関心もない
- 無回答

イ 清掃活動や福祉ボランティア活動

〈経年比較〉

「加入して、積極的に活動している」、「加入しているが、活動はしていない」の割合は平成 16 年以降、減少している。一方、「加入していないが、関心はある」の割合は令和元年、増加に転じたものの、令和 5 年は横ばいである。

※令和 5 年に追加した選択肢「加入していないが、活動に参加している」は、経年比較の対象外としている。

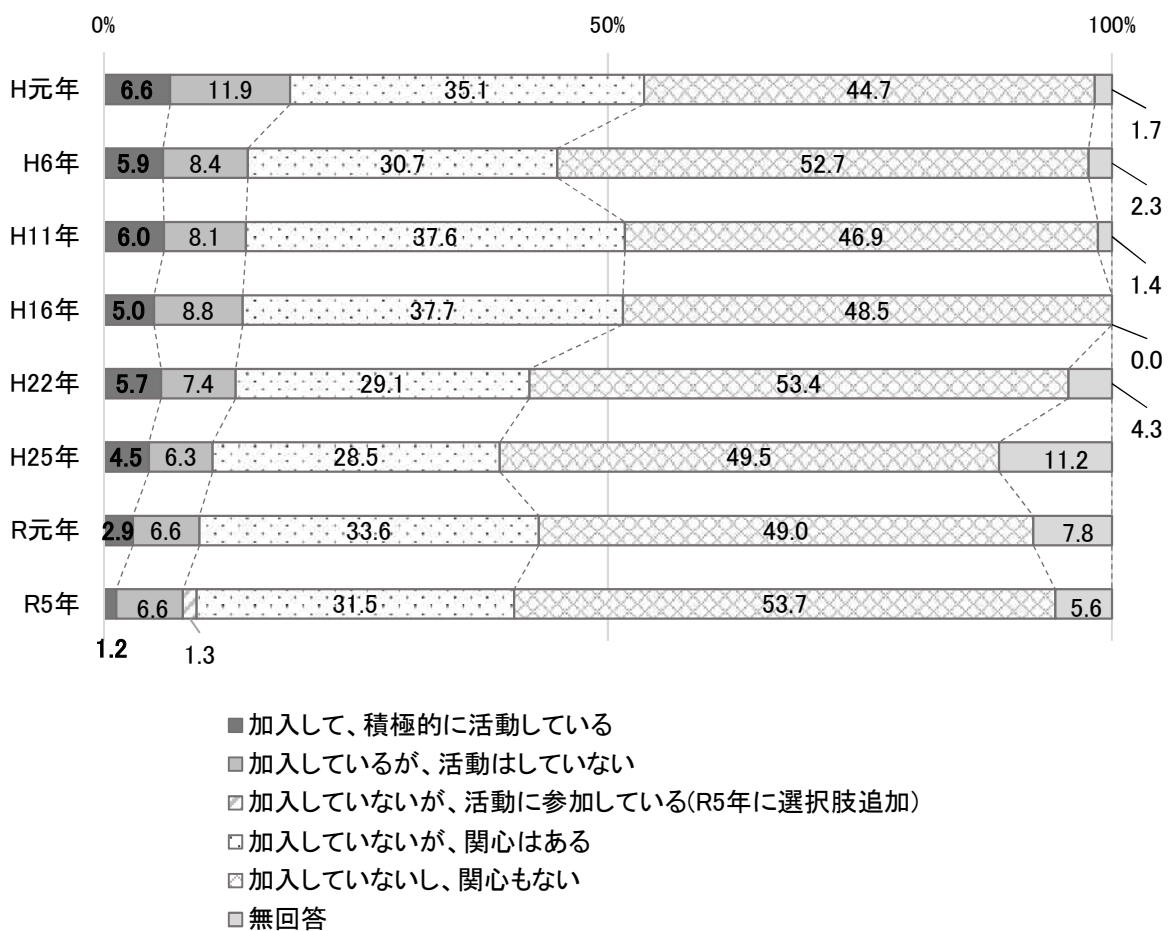


ウ 子ども会・老人クラブなどの地域活動

〈経年比較〉

「加入して、積極的に活動している」の割合は平成 22 年以降、減少している。一方、「加入していないが、関心はある」の割合は令和元年、増加に転じたものの、令和 5 年は横ばいである。また、「加入していないし、関心もない」の割合が、令和 5 年に 50%を上回った。

※令和 5 年に追加した選択肢「加入していないが、活動に参加している」は、経年比較の対象外としている。

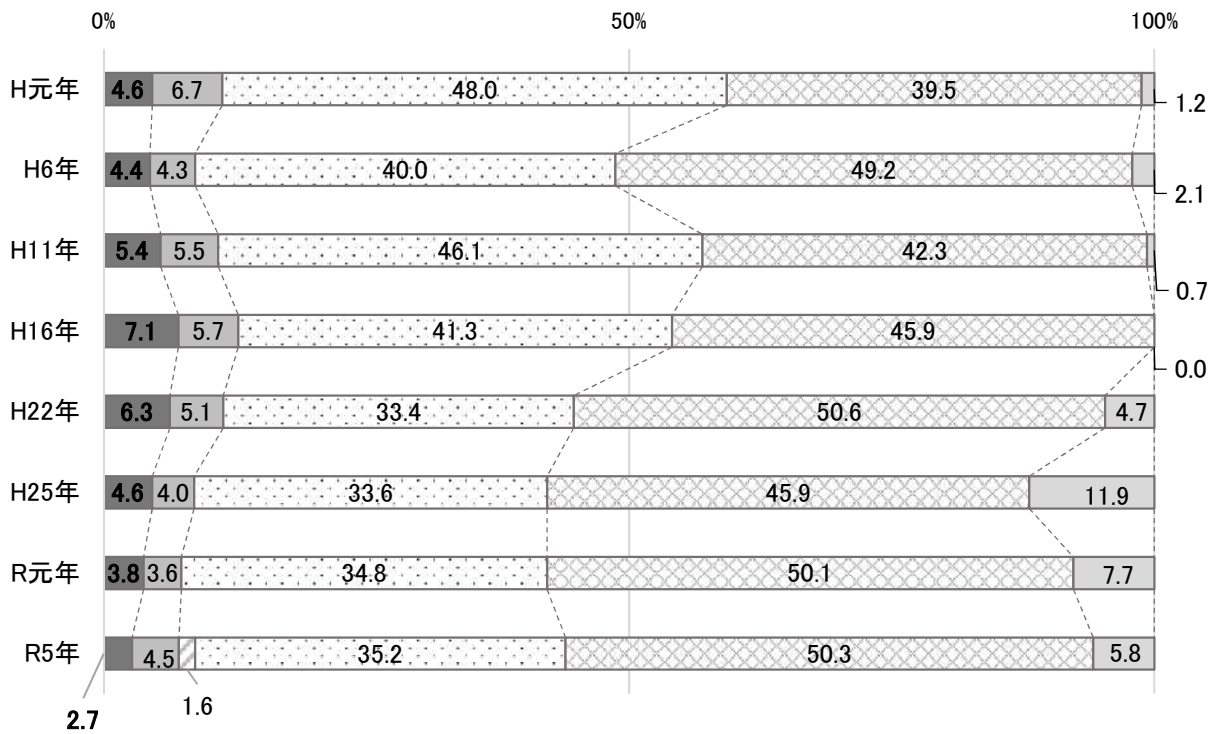


エ 音楽・舞踊などの文化芸術活動

〈経年比較〉

「加入して、積極的に活動している」、「加入しているが、活動はしていない」の割合は平成 16 年以降、減少している。

※令和 5 年に追加した選択肢「加入していないが、活動に参加している」は、経年比較の対象外としている。



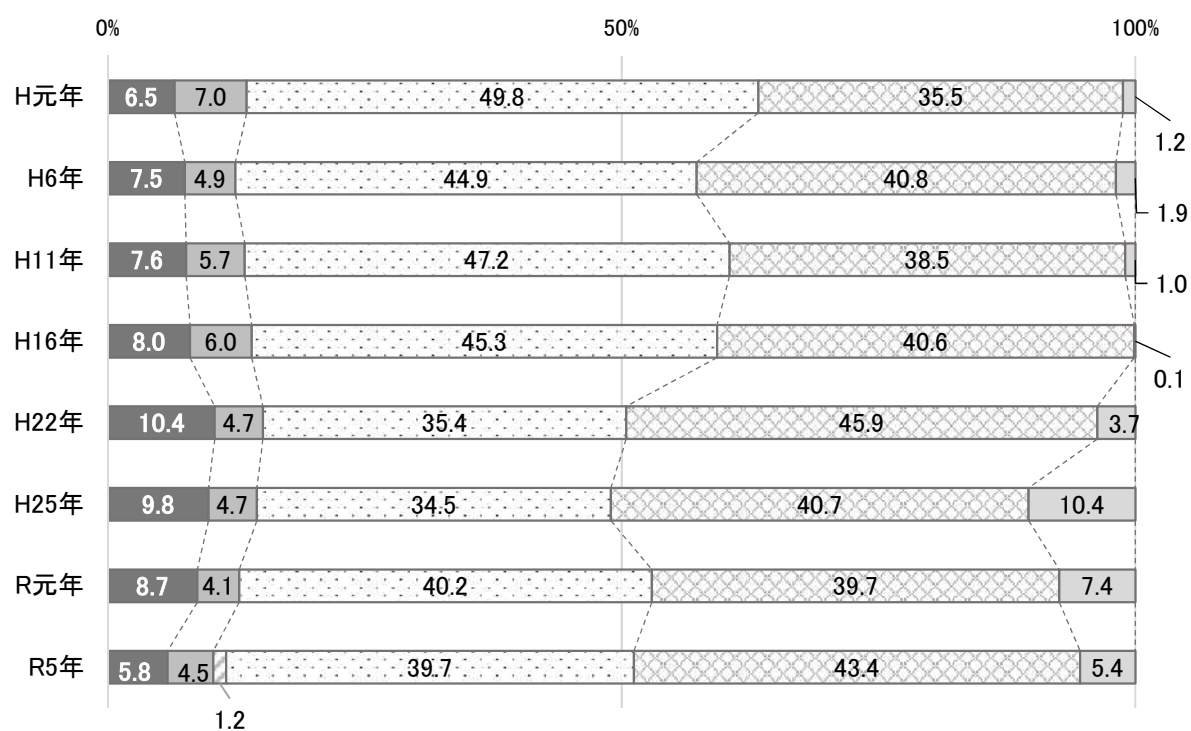
- 加入して、積極的に活動している
- 加入しているが、活動はしていない
- ▣ 加入していないが、活動に参加している(R5年に選択肢追加)
- 加入していないが、関心はある
- ▣ 加入していないし、関心もない
- 無回答

オ スポーツ・レクリエーションなどのサークル活動

〈経年比較〉

「加入して、積極的に活動している」の割合は平成 22 年以降、減少している。「加入しているが、活動はしていない」は、平成 22 年以降、横ばいとなっている。また、「加入していないが、関心はある」の割合は令和元年では増加に転じたものの、令和 5 年は横ばいである。

※令和 5 年に追加した選択肢「加入していないが、活動に参加している」は、経年比較の対象外としている。



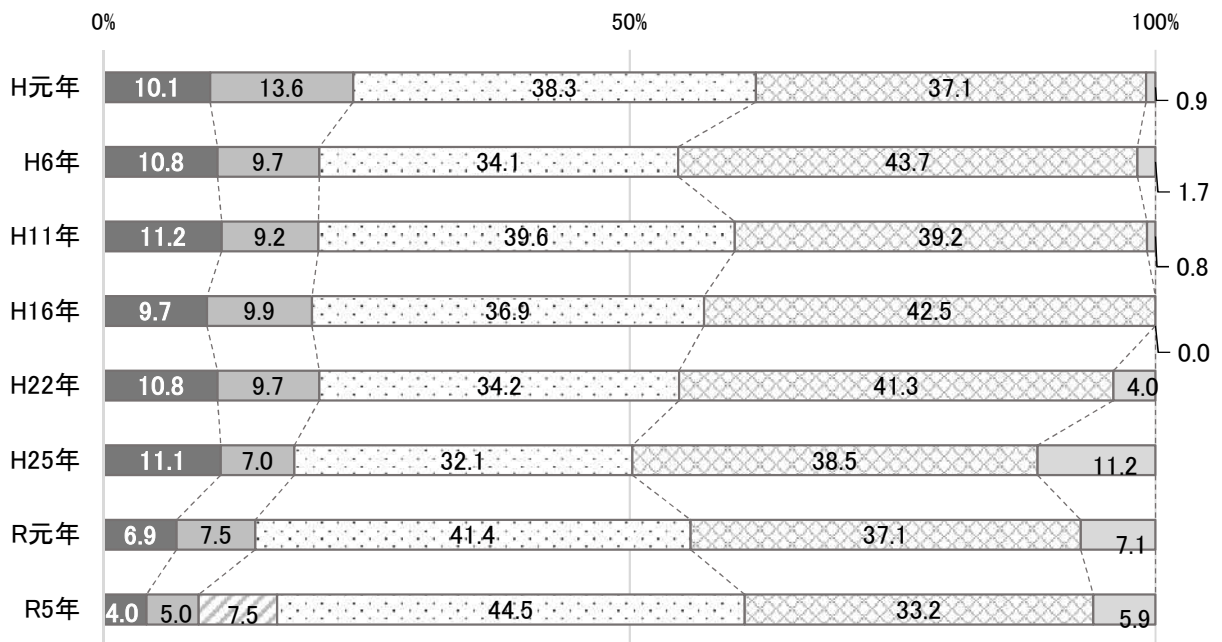
- 加入して、積極的に活動している
- 加入しているが、活動はしていない
- 加入していないが、活動に参加している(R5年に選択肢追加)
- 加入していないが、関心はある
- 加入していないし、関心もない
- 無回答

カ 祭りや各種イベントなどの地域行事活動

〈経年比較〉

「加入して、積極的に活動している」の割合は令和元年以降、減少している。一方、「加入していないが、関心はある」の割合は令和元年以降、増加している。

※令和 5 年に追加した選択肢「加入していないが、活動に参加している」は、経年比較の対象外としている。



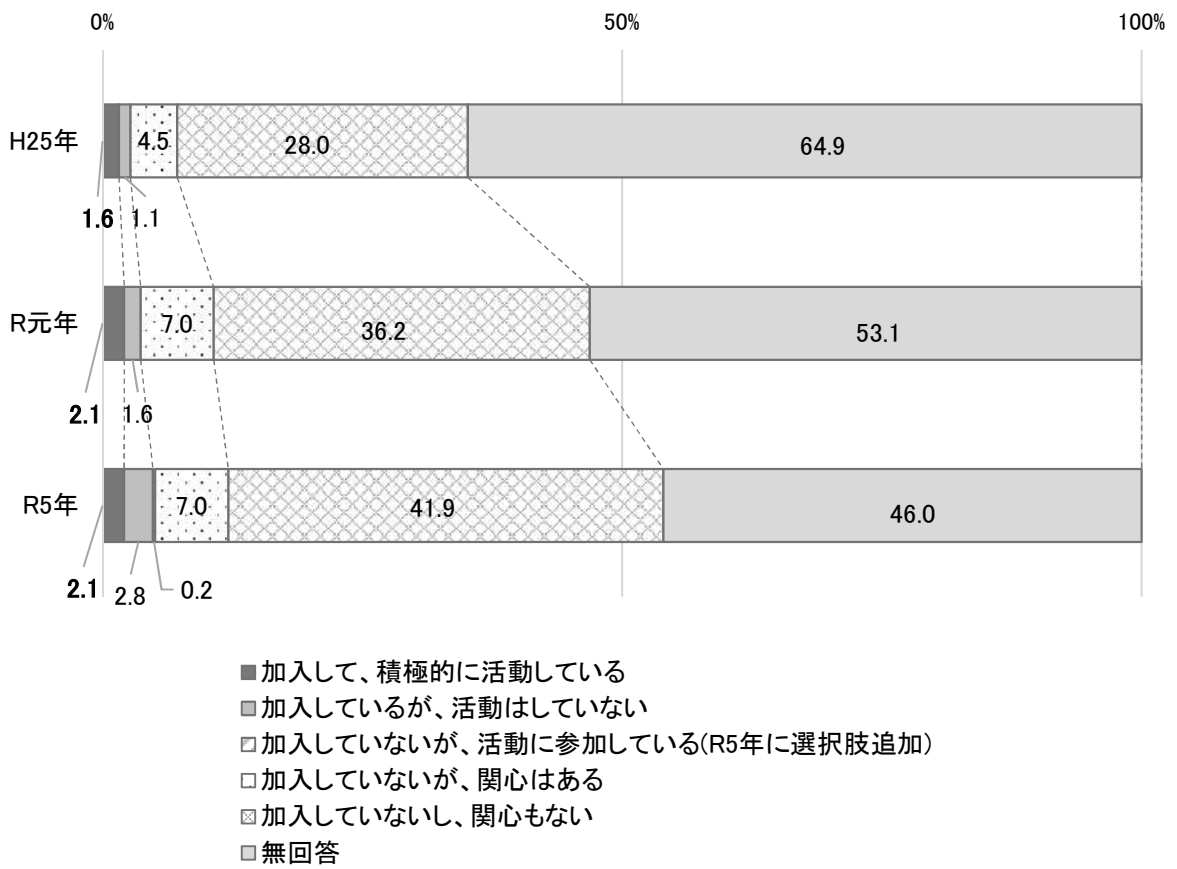
- 加入して、積極的に活動している
- 加入しているが、活動はしていない
- ▣ 加入していないが、活動に参加している(R5年に選択肢追加)
- 加入していないが、関心はある
- ▣ 加入していないし、関心もない
- 無回答

キ その他の活動

〈経年比較〉

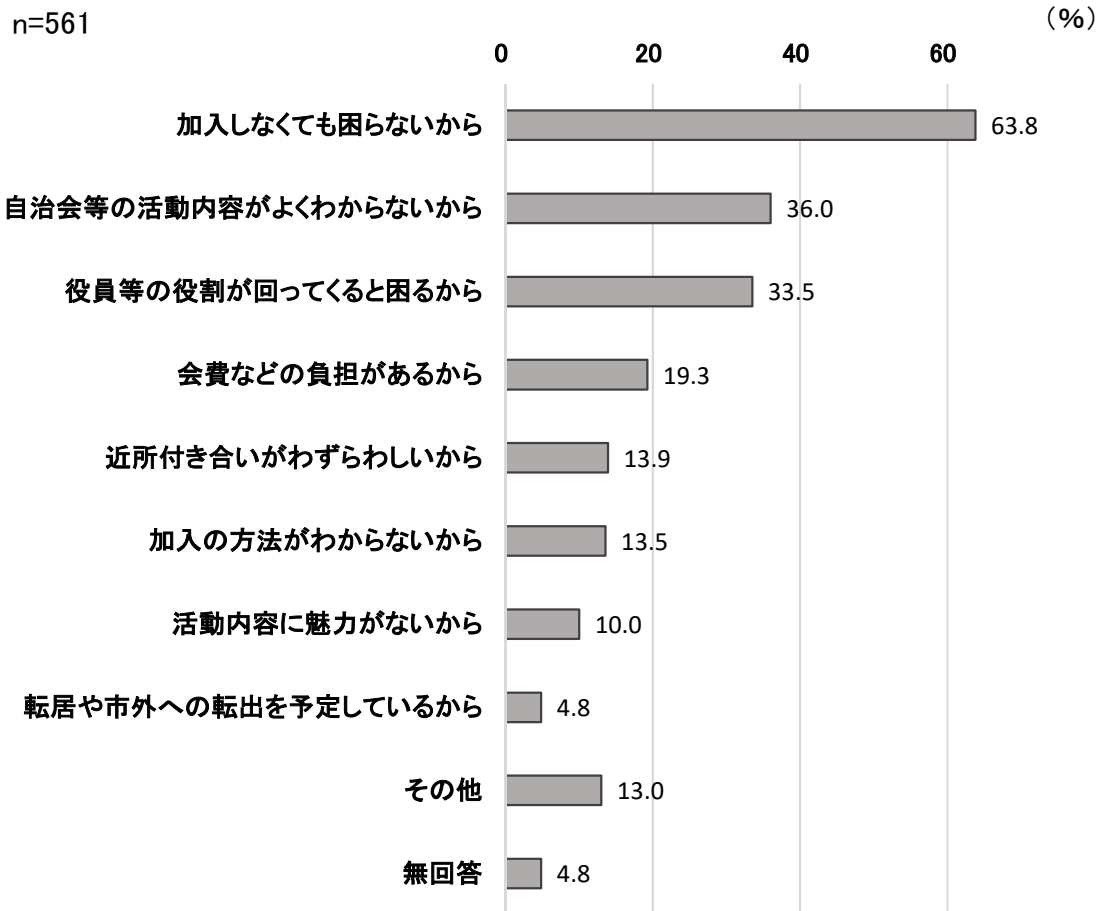
「加入していないし、関心もない」の割合が増加している。

※令和 5 年に追加した選択肢「加入していないが、活動に参加している」は、経年比較の対象外として
いる。



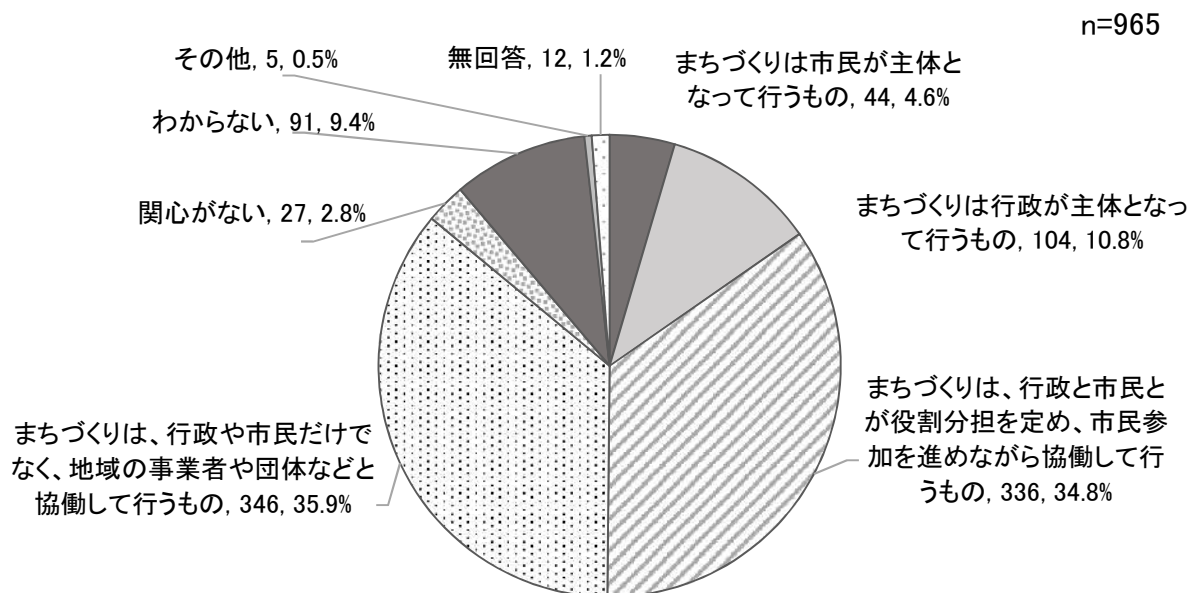
問5-1 問5の「ア自治会・町内会活動」に「加入していないが、活動に参加している」、「加入していないが、関心はある」または「加入していないし、関心もない」を選んだ方にお聞きします。加入していない理由は何ですか。あなたの考えに近いものを3つまで選んでください。

加入していない理由は、「加入しなくても困らないから」の割合が63.8%で最も高く、続いて「自治会等の活動内容がよくわからないから」(36.0%)、「役員等の役割が回ってくると困るから」(33.5%)となっている。



問6 まちづくり（住みよい地域づくりのための取組）の役割分担に関して、あなたの考えに最も近いものを次の中から1つ選んでください。

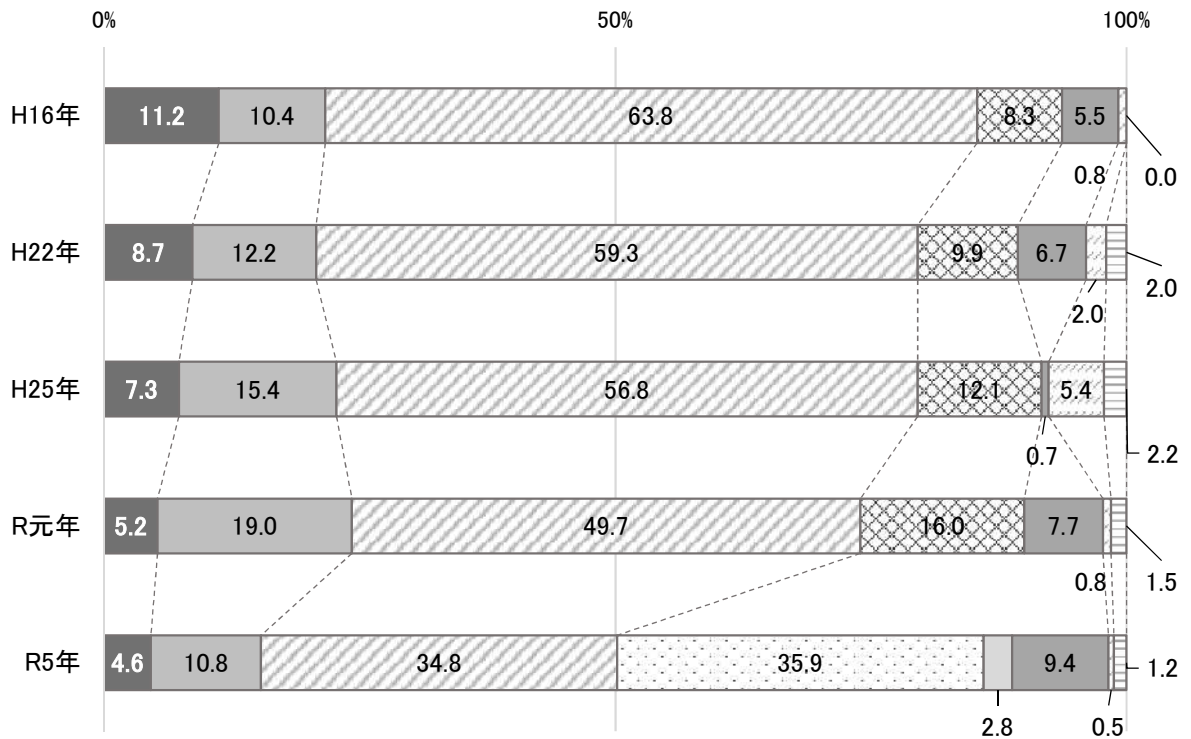
まちづくりの役割分担について、「まちづくりは、行政や市民だけでなく、地域の事業者や団体などと協働して行うもの」の割合が 35.9%、「まちづくりは、行政と市民とが役割分担を定め、市民参加を進めながら協働して行うもの」の割合が 34.8%で高い。



〈経年比較〉

「まちづくりは行政が主体となって行うもの」の割合は、平成 16 年以降、増加していたが、令和 5 年に減少に転じている。一方、「まちづくりは市民が主体となって行うもの」、「まちづくりは、行政と市民とが役割分担を定め、市民参加を進めながら協働して行うもの」の割合は、平成 16 年以降、減少している。

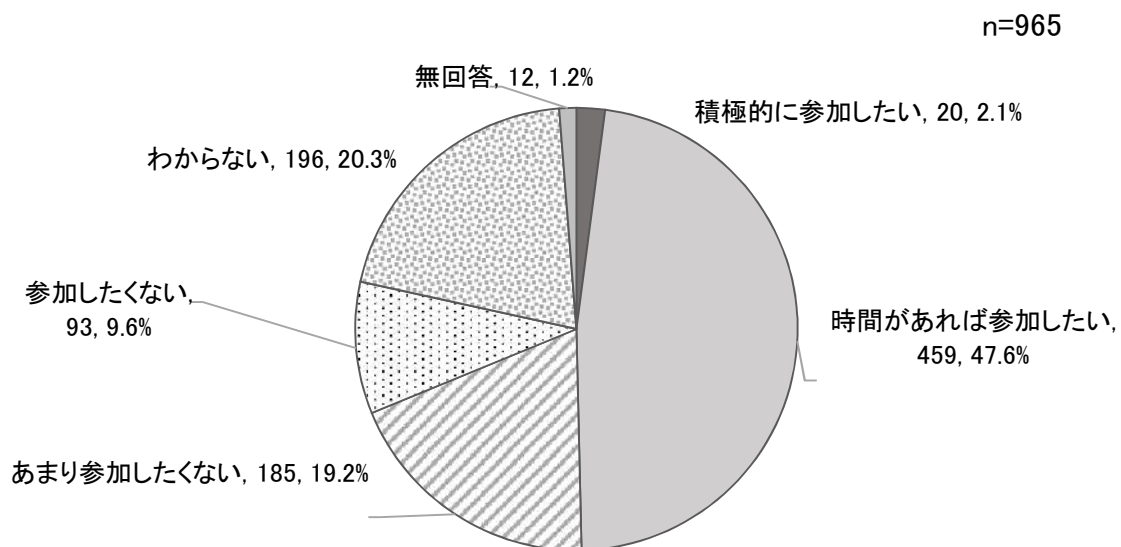
※令和 5 年に追加した選択肢「まちづくりは、行政や市民だけでなく、地域の事業者や団体などと協働して行うもの」、「関心がない」と、令和 5 年に削除した選択肢「民間事業者にまかせられる事業については、なるべく民間事業者にまかせる」は、経年比較の対象外としている。



- まちづくりは市民が主体となって行うもの
- まちづくりは行政が主体となって行うもの
- まちづくりは、行政と市民とが役割分担を定め、市民参加を進めながら協働して行うもの
- まちづくりは、行政や市民だけでなく、地域の事業者や団体などと協働して行うもの(R5年に選択肢追加)
- 民間事業者にまかせられる事業については、なるべく民間事業者にまかせる(R5年に選択肢削除)
- 関心がない (R5 年に選択肢追加)
- わからない
- その他
- 無回答

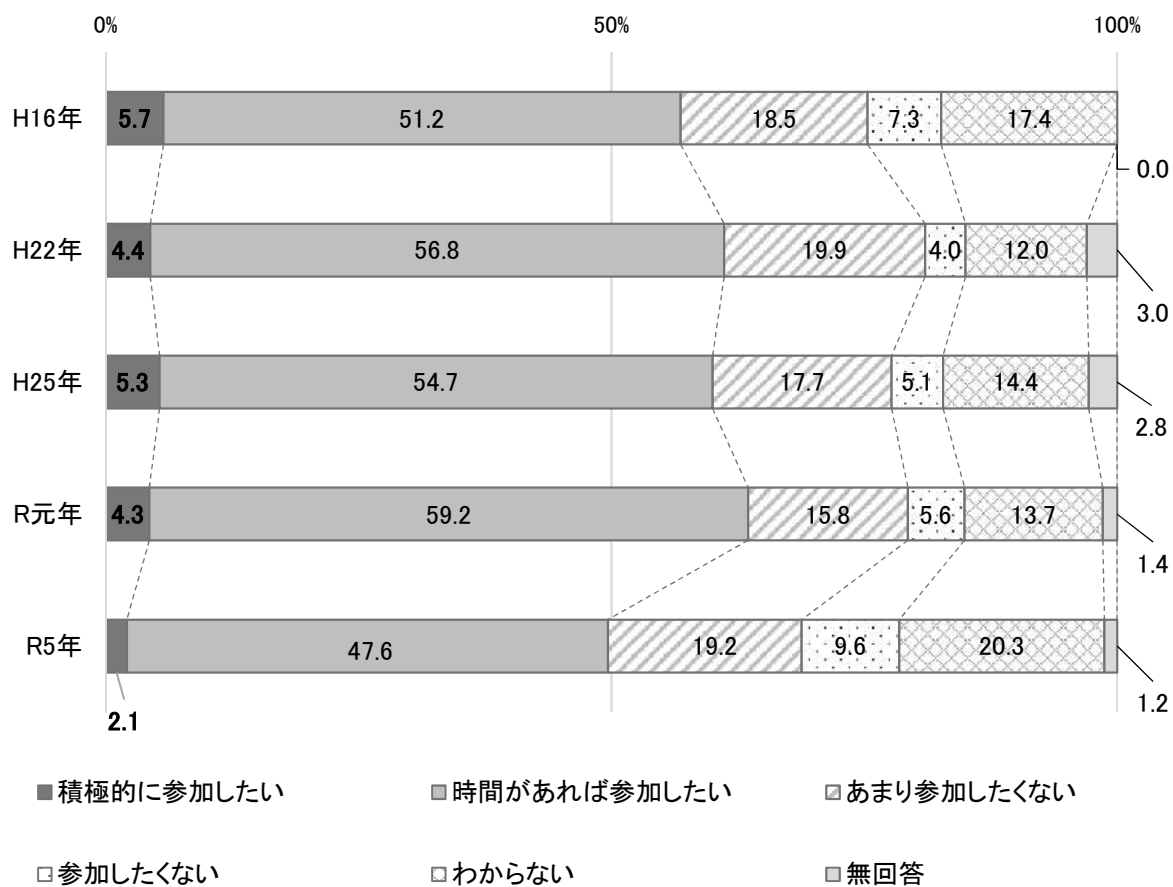
問7 今後、あなたのまちづくりに対する意欲を次の中から1つ選んでください。

今後のまちづくりに対する意欲は、「時間があれば参加したい」の割合が47.6%で最も高く、続いて「わからない」(20.3%)、「あまり参加したくない」(19.2%)となっている。



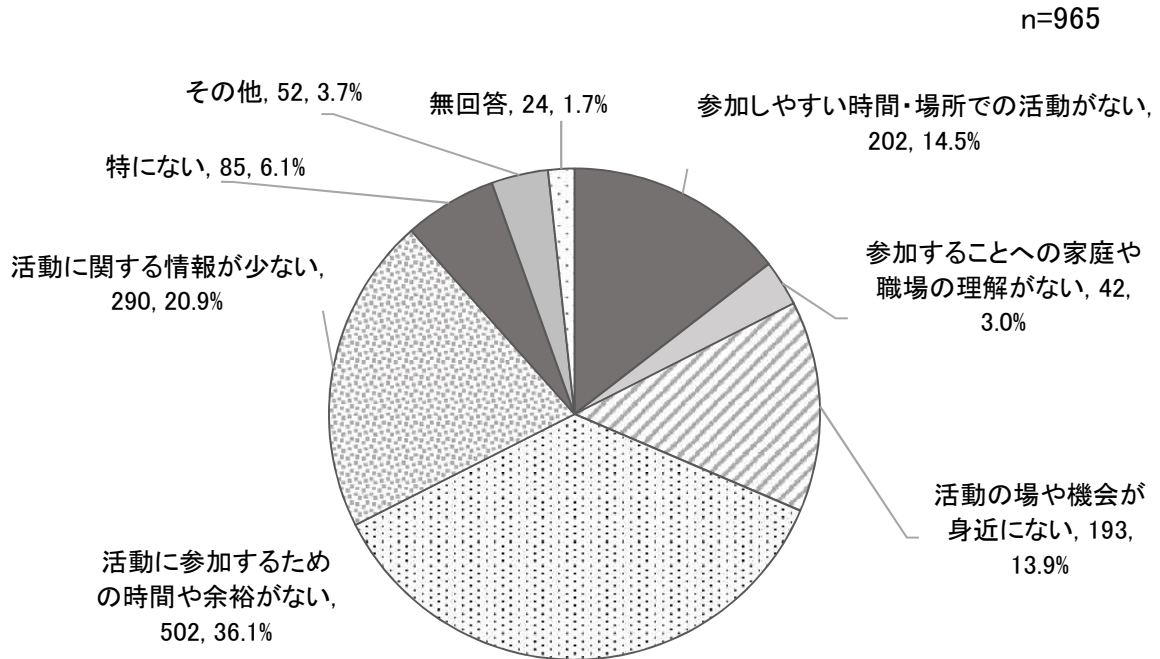
〈経年比較〉

「積極的に参加したい」と「時間があれば参加したい」を合わせた割合は、令和元年に増加に転じたものの、令和5年に大きく減少した。また、「あまり参加したくない」の割合も平成22年以降、減少していたが、令和5年に増加した。



問8 あなたが、まちづくりに参加するためには、どのようなことが障害となりますか。次の中から2つまで選んでください。

まちづくりに参加するための障害は、「活動に参加するための時間や余裕がない」の割合が36.1%で最も高く、続いて「活動に関する情報が少ない」(20.9%)、「参加しやすい時間・場所での活動がない」(14.5%)、「活動の場や機会が身近にない」(13.9%)となっている。



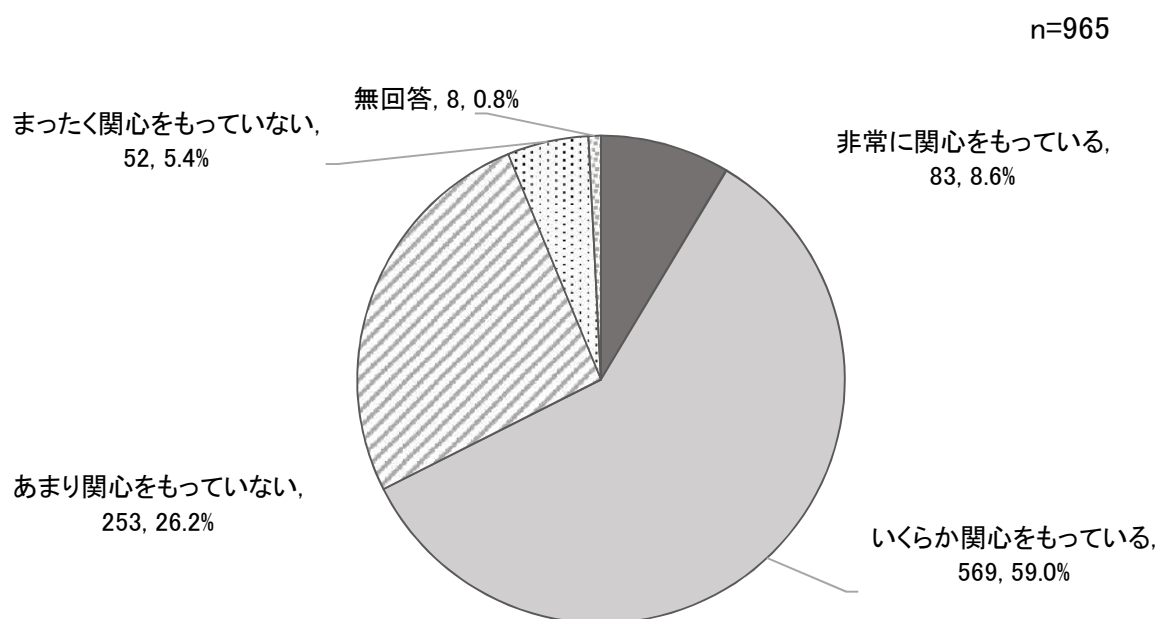
3. 市政について

問9 あなたの市政に対する関心の度合いを次の中から1つ選んでください。

〈全体〉

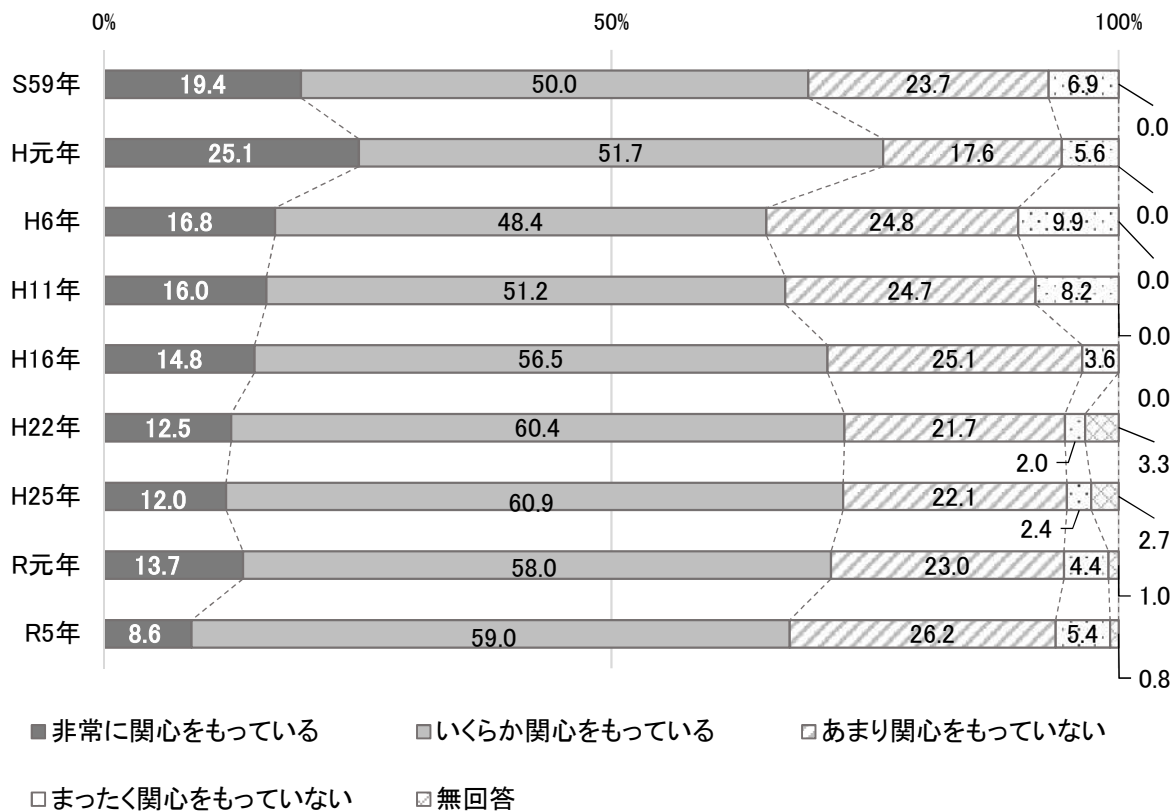
市政に対する関心は、「いくらか関心をもっている」の割合が 59.0%で最も高く、続いて「あまり関心をもっていない」(26.2%)、「非常に関心をもっている」(8.6%)、「まったく関心をもっていない」(5.4%)となっている。

「非常に関心をもっている」と「いくらか関心をもっている」を合わせた“関心がある”の割合は約 70%である。



〈経年比較〉

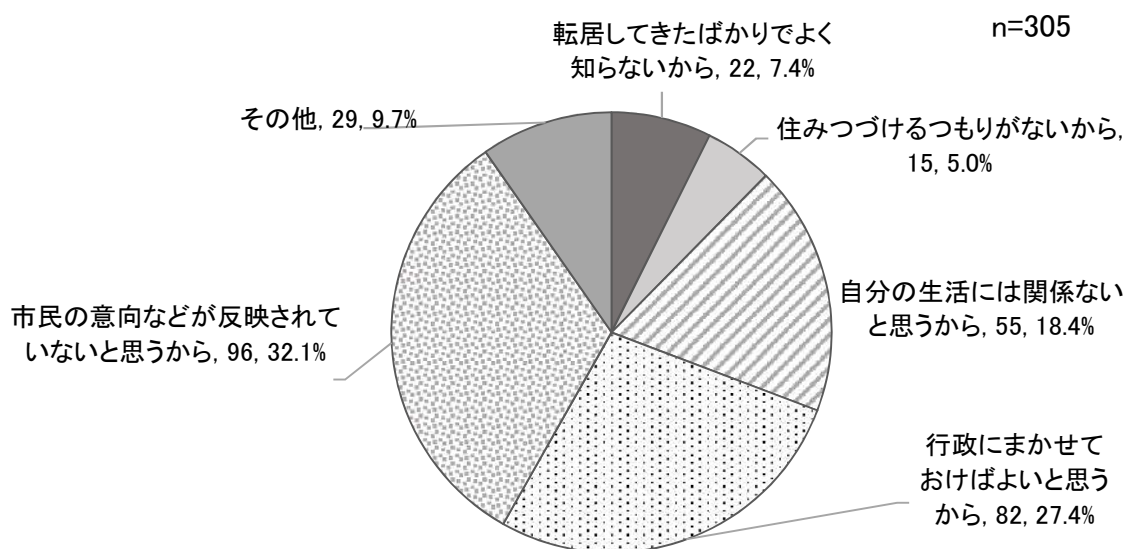
「非常に関心をもっている」の割合は、平成元年以降、減少傾向にある。「いくらか関心をもっている」と合わせた“関心がある”割合は、平成11年以降増加がみられたが、令和元年以降減少している。



問9-1 問9で「あまり関心をもっていない」「まったく関心をもっていない」を選んだ方にお聞きします。あなたが市政に関心がないのはどのような理由からですか。次の中から1つ選んでください。

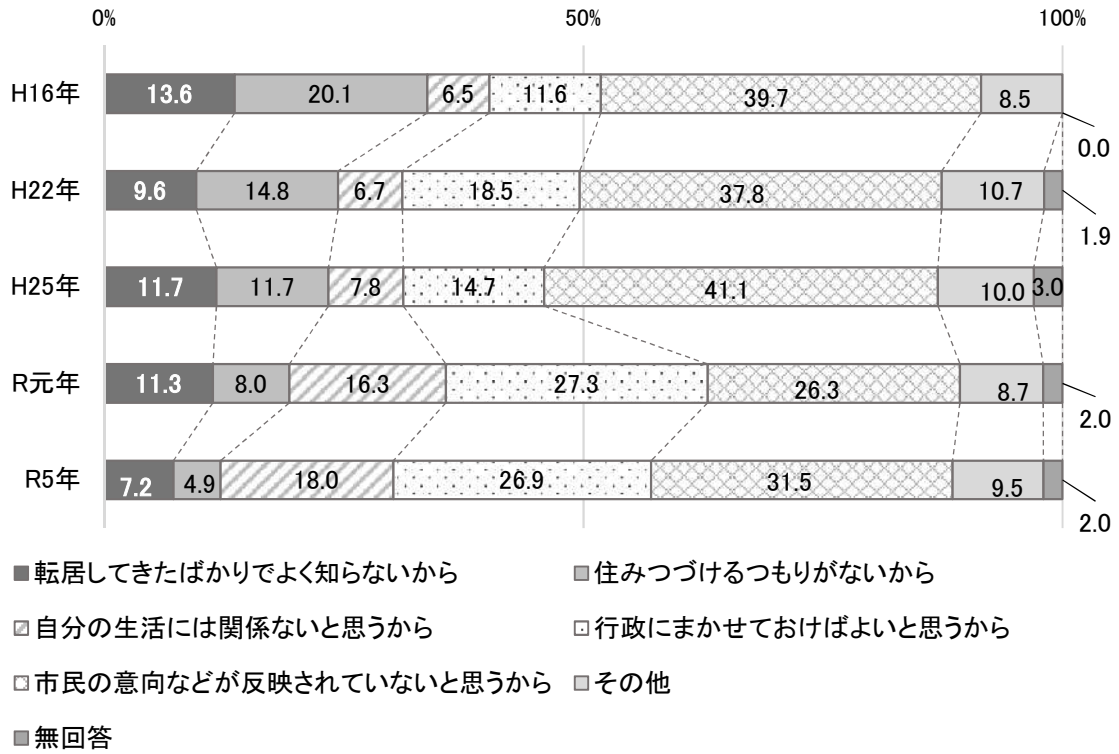
〈全体〉

市政に関心がない理由は、「市民の意向などが反映されていないと思うから」の割合が32.1%で最も高く、続いて「行政にまかせておけばよいと思うから」(27.4%)、「自分の生活には関係ないと思うから」(18.4%)となっている。



〈経年比較〉

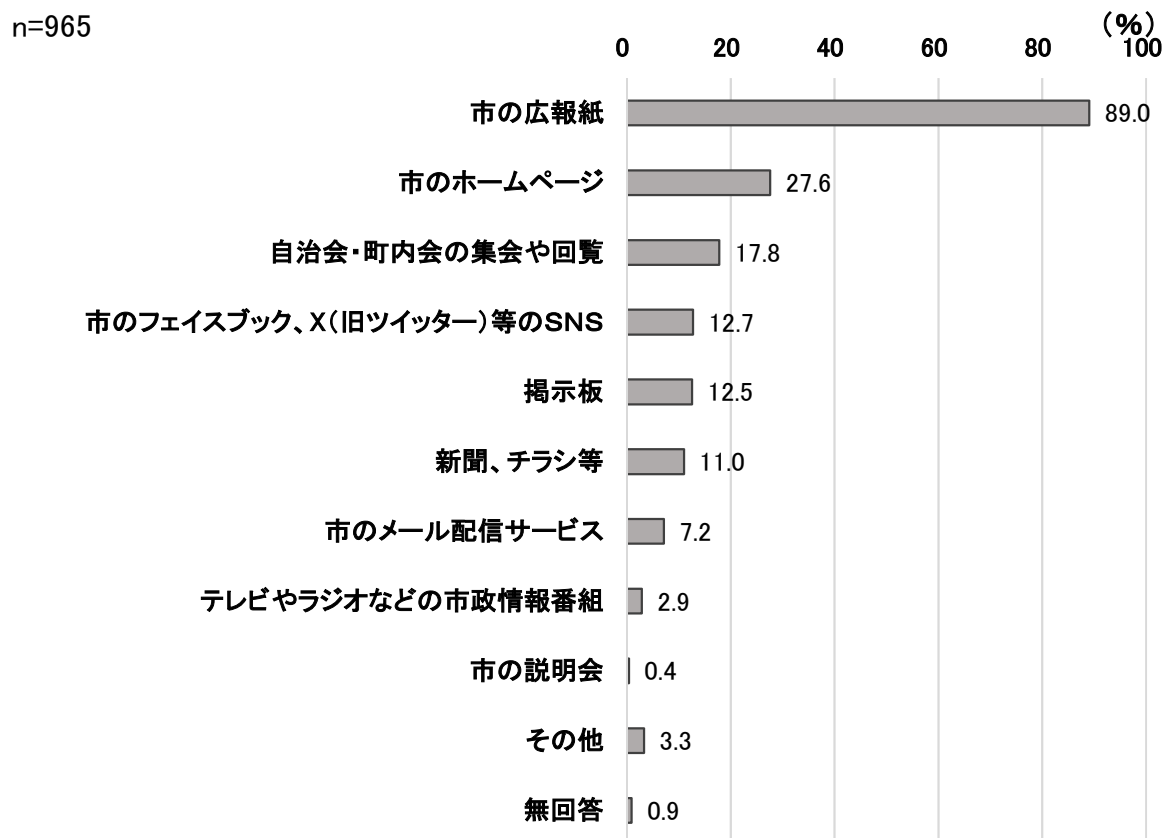
「住み続けるつもりがないから」の割合は平成 16 年以降、減少している。一方、「自分の生活には関係ないと思うから」の割合は平成 16 年以降、増加している。また、「行政にまかせておけばよいから」の割合は令和元年に増加に転じ、令和 5 年も同程度となっている。



問10 あなたは、普段、市政情報（市が発信する情報、市からのお知らせ）をどのような媒体で入手していますか。次の中からすべて選んでください。

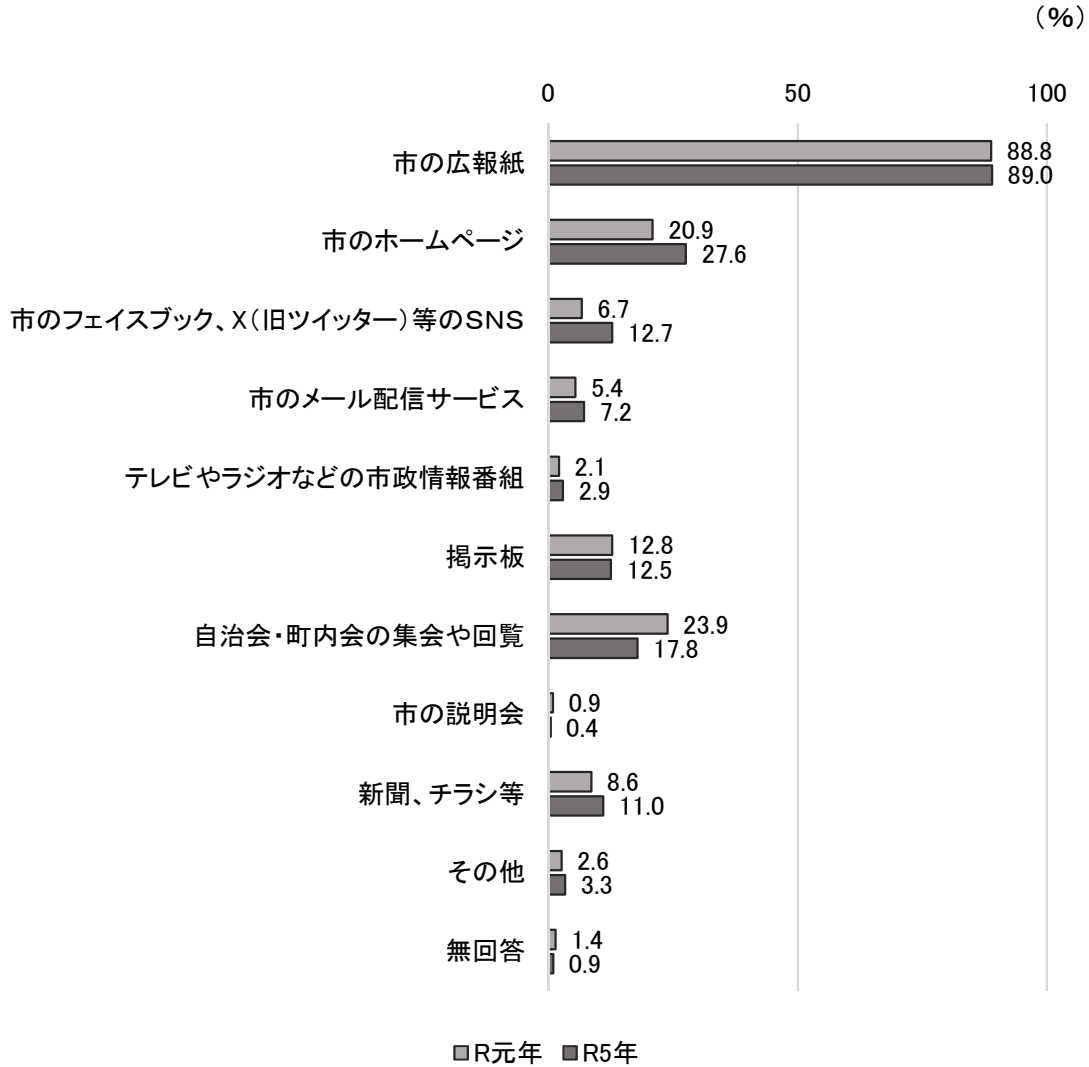
〈全体〉

市政情報の入手媒体は、「市の広報紙」の割合が89.0%で最も高く、続いて「市のホームページ」(27.6%)、「自治会・町内会の集会や回覧」(17.8%)、「市のフェイスブック、X(旧ツイッター)等のSNS」(12.7%)となっている。



〈経年比較〉

市政情報の入手媒体は、「市のホームページ」、「市のフェイスブック、X(旧ツイッター)等のSNS」の割合が5ポイント以上増加している。一方で、「自治会・町内会の集会や回覧」は減少している。

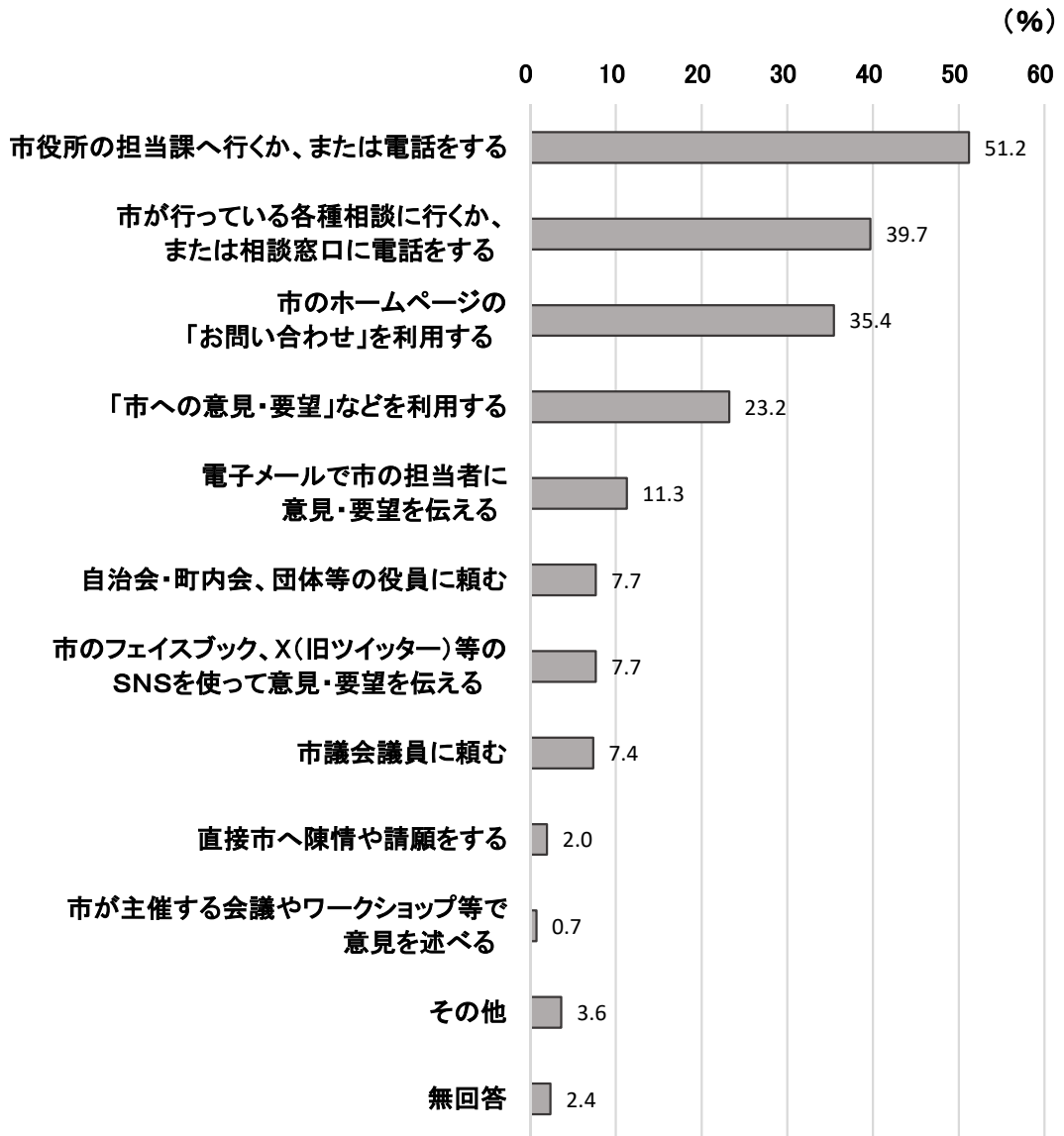


問11 あなたは、意見や要望などを市に伝えたい場合はどのような手段を選びますか。次の中から3つまで選んでください。

〈全体〉

市への意見や要望の伝達手段は、「市役所の担当課へ行くか、または電話をする」の割合が51.2%で最も高く、続いて「市が行っている各種相談に行くか、または相談窓口で電話をする」(39.7%)、「市のホームページの「お問い合わせ」を利用する」(35.4%)となっている。

n=965

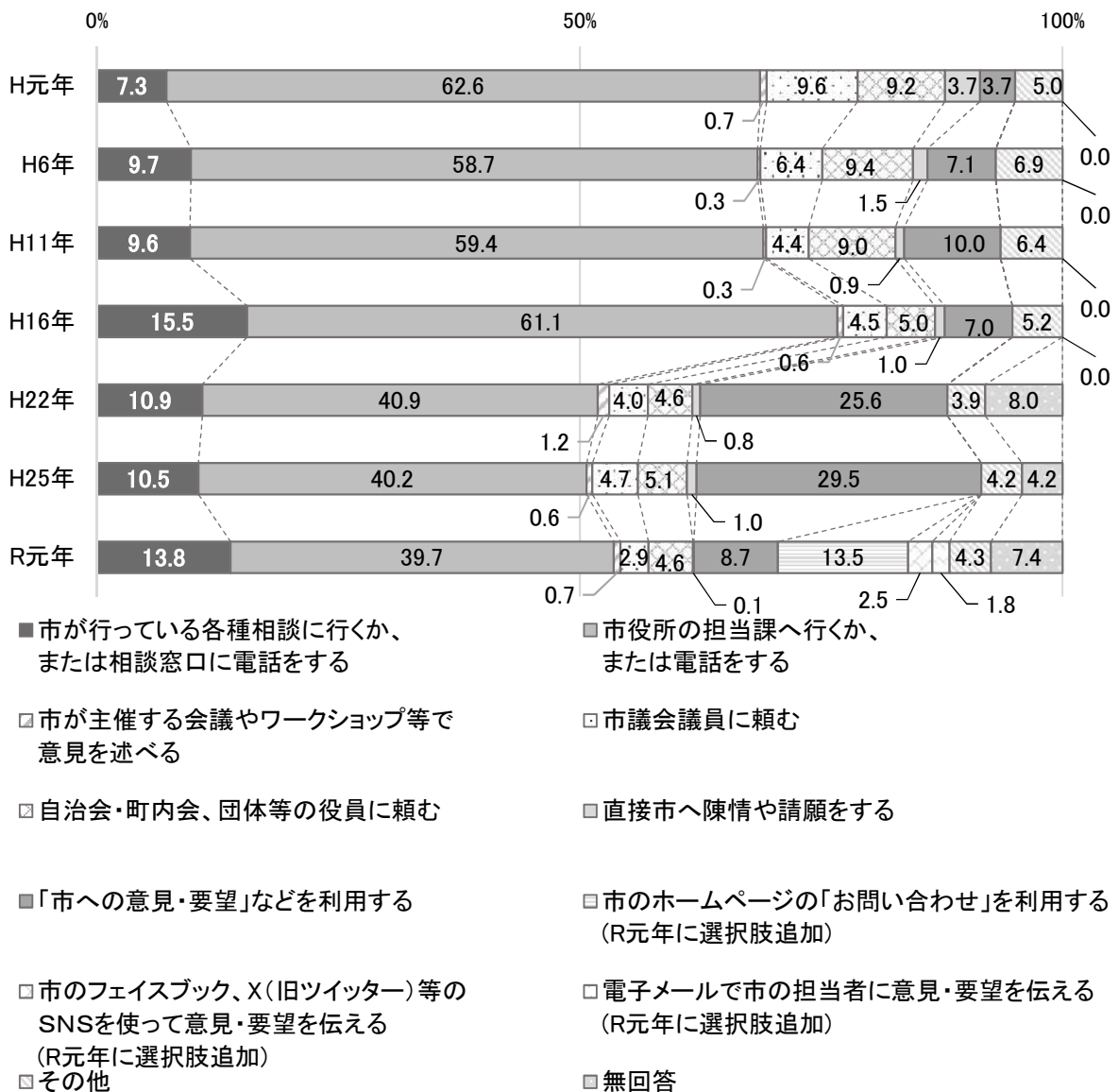


〈経年比較〉

「市が行っている各種相談に行くか、または相談窓口で電話をする」の割合は平成 16 年以降、減少していたが、令和元年に増加に転じている。一方、「『市への意見・要望』などを利用する」の割合は平成 16 年以降、増加していたが、令和元年に減少に転じている。

※選択肢「市のホームページの「お問い合わせ」を利用する」、「市のフェイスブック、X(旧ツイッター)等の SNS を使って意見・要望を伝える」、「電子メールで市の担当者に意見・要望を伝える」は、令和元年に追加したため、経年比較の対象外としている。

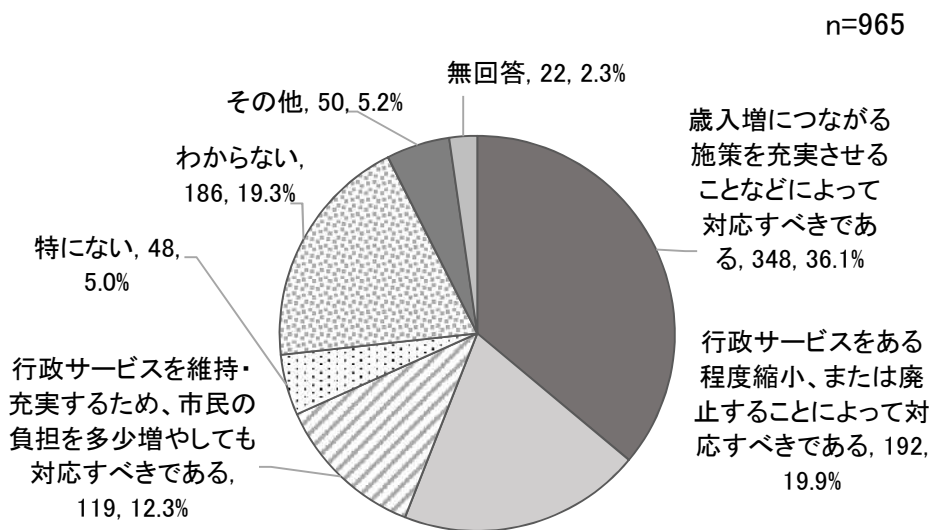
※令和 5 年に、単一回答から複数回答に変更しているため、過去の調査は参考として示す。



問12 今後、少子高齢化の進展により社会保障に関する支出の増加が見込まれるなど、市の財政状況がより厳しくなっていくことが予想されます。市が提供しているサービスの維持・充実について、市の努力で対応できる範囲を超えることがあった場合、どのように対応すべきだと思いますか。あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

〈全体〉

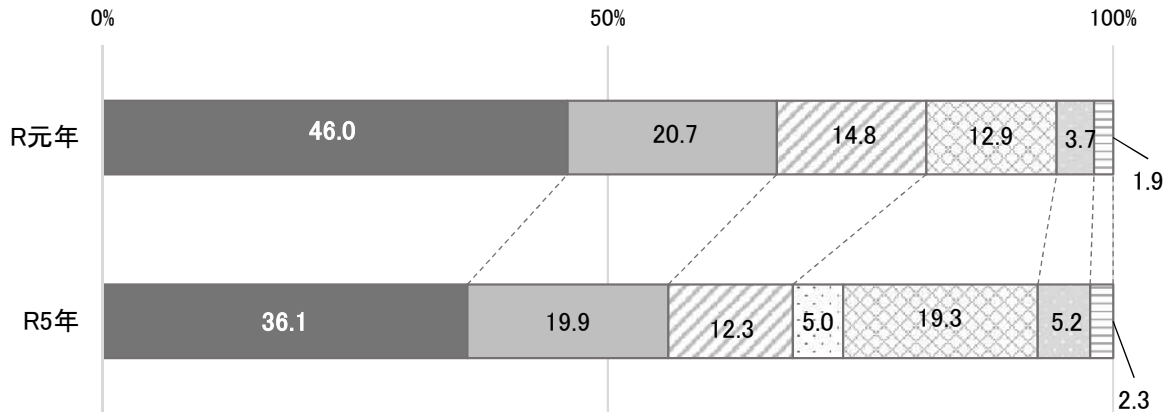
行政サービスの維持・充実の考え方については、「歳入増につながる施策を充実させることなどによって対応すべきである」の割合が36.1%で最も高く、続いて「行政サービスをある程度縮小、または廃止することによって対応すべきである」(19.9%)、「行政サービスを維持・充実するため、市民の負担を多少増やしても対応すべきである」(12.3%)、「わからない」(19.3%)となっている。



〈経年比較〉

「歳入増につながる施策を充実させることなどによって対応すべきである」、「行政サービスをある程度縮小、または廃止することによって対応すべきである」、「行政サービスを維持・充実するため、市民の負担を多少増やしても対応すべきである」の割合が減少し、「わからない」の割合が増加した。

※選択肢「特にない」は、令和5年に追加したため、経年比較の対象外としている。



- 歳入増につながる施策を充実させることなどによって対応すべきである
- 行政サービスをある程度縮小、または廃止することによって対応すべきである
- 行政サービスを維持・充実するため、市民の負担を多少増やしても対応すべきである
- 特にない
- ⊠ わからない
- その他
- 無回答

4. 市の全般的な取組について

問13 以下に示す第5次朝霞市総合計画の政策分野ごとの取組（1から31）について、それぞれのよう感じていますか。次の取組ごとに、当てはまる番号を1つずつ選んでください。

第5次朝霞市総合計画前期基本計画の分野ごとの取組 31 項目のそれぞれについて、満足度と重要度を調査した。

〈満足度・全体〉

「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合が高く、5割を超えている取組は、「廃棄物処理」（58.7%）、「上下水道整備」（56.9%）、「防災・消防」（54.2%）の3項目である。

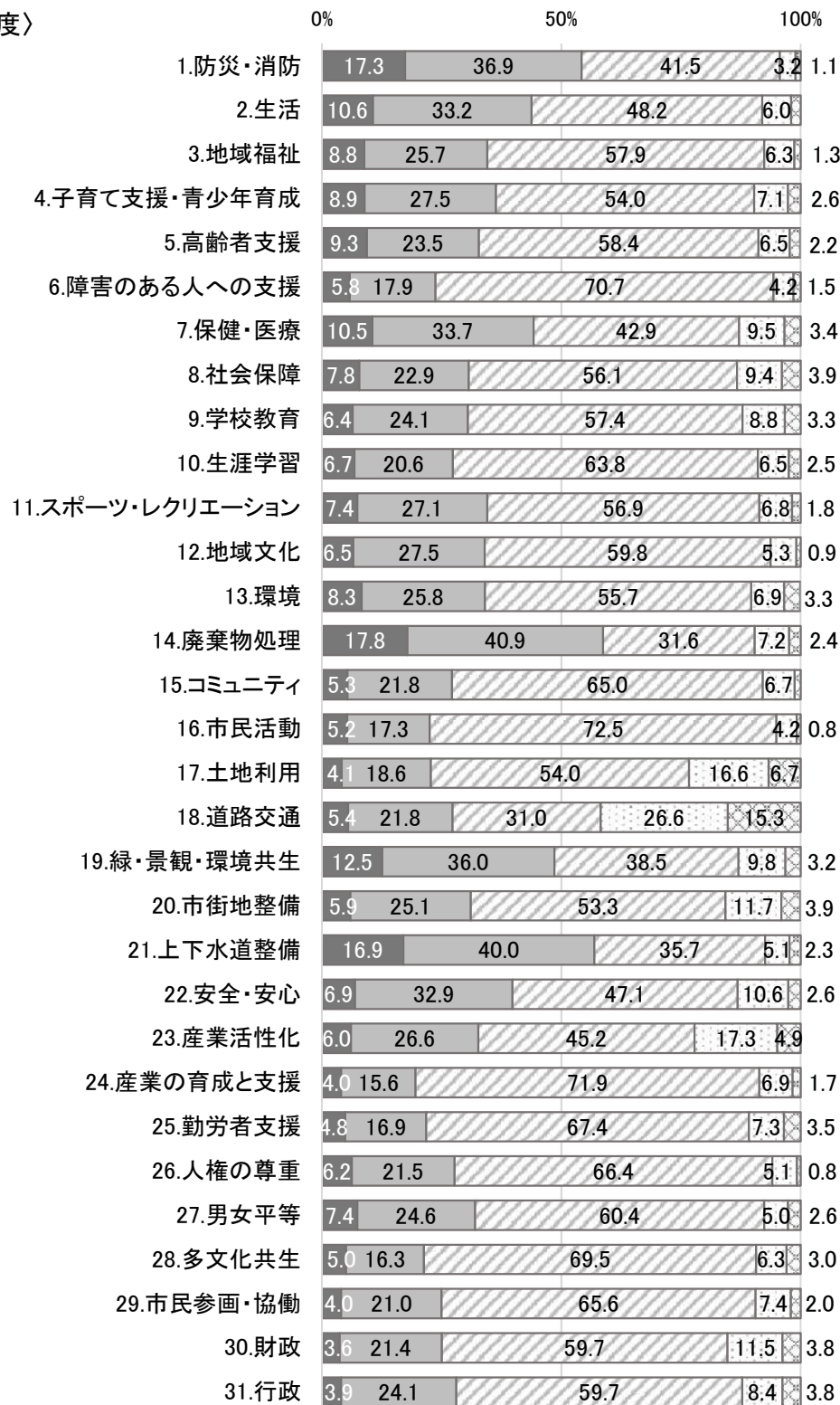
また、「やや不満である」と「不満である」を合わせた割合が高く、2割を超えている取組は、「道路交通」（41.8%）、「土地利用」（23.3%）、「産業活性化」（22.2%）の3項目である。

〈重要度・全体〉

「重要である」と「どちらかといえば重要である」を合わせた割合が高く、8割を超えている取組は、「防災・消防」（91.7%）、「生活」（88.1%）、「道路交通」（87.2%）、「保健・医療」（87.0%）、「廃棄物処理」（86.8%）、「上下水道整備」（83.6%）、「子育て支援・青少年育成」（83.1%）、「安全・安心」（82.5%）、「高齢者支援」（81.7%）、「学校教育」（81.5%）、「緑・景観・環境共生」（80.4%）、「地域福祉」（80.0%）の12項目である。

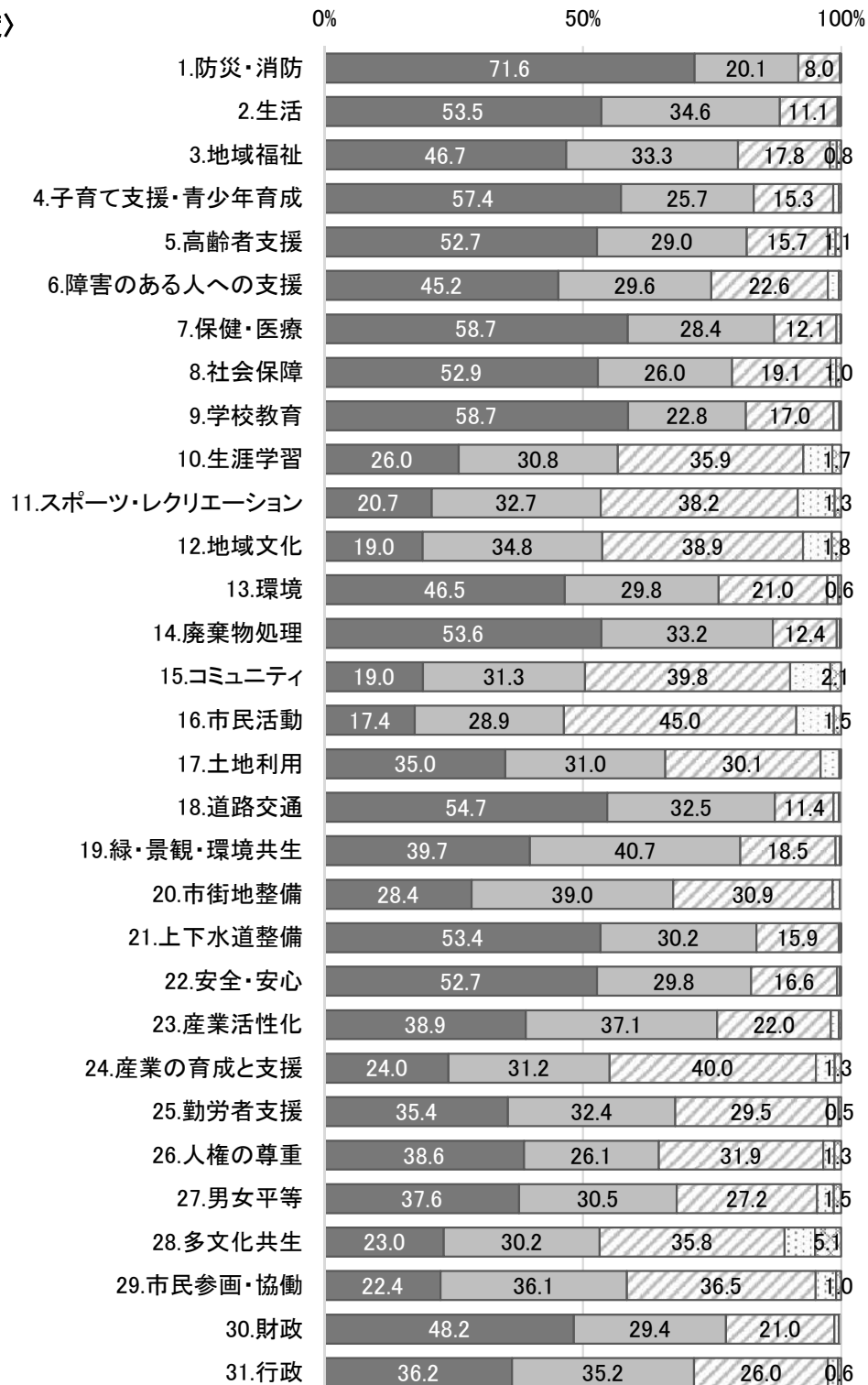
また、「あまり重要でない」と「重要でない」を合わせた割合が高く、1割を超えている取組は、「多文化共生」（11.1%）の1項目であり、次いで、「コミュニティ」（9.9%）、「市民活動」（8.7%）、「スポーツ・レクリエーション」（8.4%）が高い。

〈満足度〉



満足している
 まあ満足している
 どちらともいえない
 やや不満である
 不満である
 無回答

〈重要度〉



- 重要である □ やや重要である □ どちらともいえない
- あまり重要でない □ 重要でない ■ 無回答

(2) 各分野の取組に対する満足度・重要度（加重平均）

市の全般的な取組について、各分野の取組に対する満足度・重要度の評価について、下記のとおり無回答を除く回答者の加重平均値を求め、数値化した。

＜満足度＞ ＜重要度＞ ＜ポイント＞

A：「満足している」 A：「重要である」 2ポイント

B：「ある程度満足している」 B：「どちらかといえば重要である」 1ポイント

C：「わからない」 C：「わからない」 0ポイント

D：「やや不満である」 D：「あまり重要でない」 -1ポイント

E：「不満である」 E：「重要でない」 -2ポイント

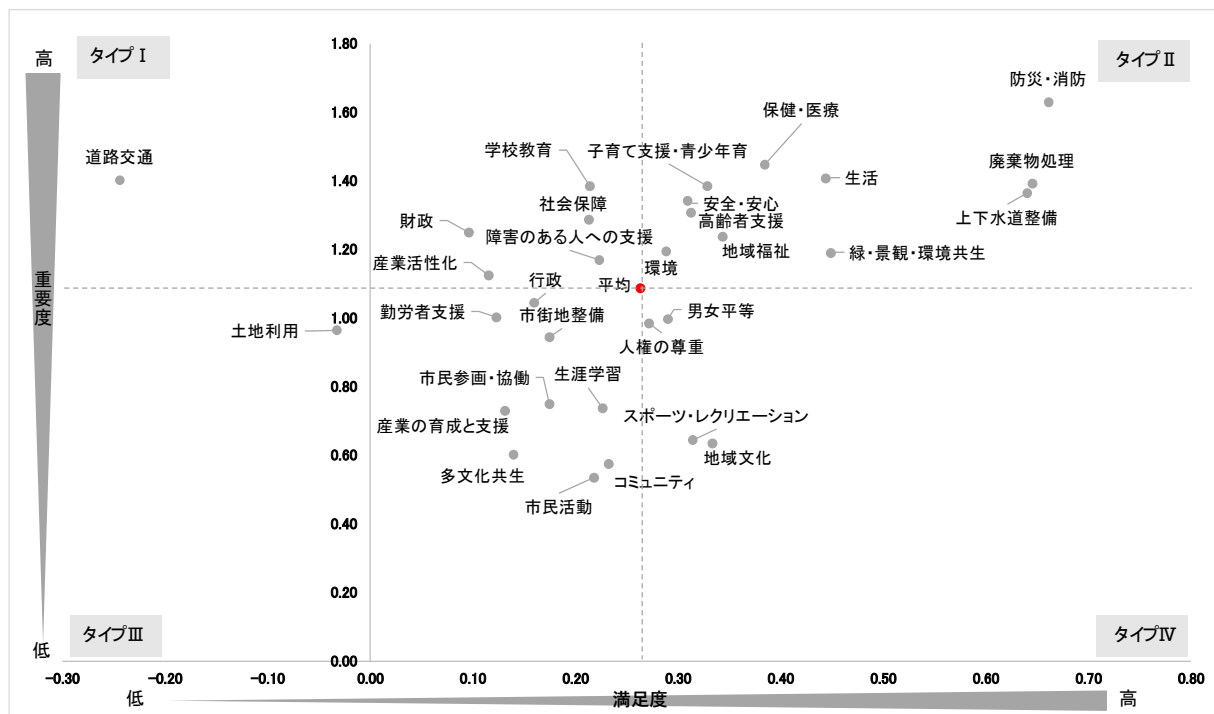
$$\text{加重平均} = \frac{A \times 2 + B \times 1 + C \times 0 + D \times (-1) + E \times (-2)}{\text{(無回答を除く回答総数)}}$$

※回答者が全員「満足している」「重要である」であれば、2.0ポイントとなり、全員が「ある程度満足している」「どちらかといえば重要である」であれば、1.0ポイントとなる。

満足度は「土地利用」、「道路交通」を除きプラス評価で、また重要度はすべてプラスの評価となっている。

分野ごとの取組	満足度	重要度
1.防災・消防	0.66	1.63
2.生活	0.44	1.41
3.地域福祉	0.34	1.24
4.子育て支援・青少年育成	0.33	1.38
5.高齢者支援	0.31	1.31
6.障害のある人への支援	0.22	1.17
7.保健・医療	0.38	1.45
8.社会保障	0.21	1.29
9.学校教育	0.21	1.38
10.生涯学習	0.23	0.74
11.スポーツ・レクリエーション	0.31	0.64
12.地域文化	0.33	0.64
13.環境	0.29	1.19
14.廃棄物処理	0.65	1.39
15.コミュニティ	0.23	0.57
16.市民活動	0.22	0.54
17.土地利用	-0.03	0.97
18.道路交通	-0.24	1.40
19.緑・景観・環境共生	0.45	1.19
20.市街地整備	0.17	0.94
21.上下水道整備	0.64	1.36
22.安全・安心	0.31	1.34
23.産業活性化	0.12	1.12
24.産業の育成と支援	0.13	0.73
25.勤労者支援	0.12	1.00
26.人権の尊重	0.27	0.98
27.男女平等	0.29	1.00
28.多文化共生	0.14	0.60
29.市民参画・協働	0.17	0.75
30.財政	0.10	1.25
31.行政	0.16	1.04
平均	0.26	1.09

また、満足度と重要度の相関関係をマトリクス（散布図）で表した。縦軸は「重要度」、横軸は「満足度」を表しており、2本の破線は、それぞれ「重要度」の全項目（31項目）の平均値と、「満足度」の全項目（31項目）の平均値の位置を示している。



なお、4つの象限別には、以下のとおり分類される。

タイプ I	「重要度」が平均値以上で、「満足度」は平均値以下のもの。 重要度が高いが、現在の満足度が低いことから、 今後力を入れて取り組むべきと考えられる項目
タイプ II	「重要度」が平均値以上で、「満足度」も平均値以上のもの。 今後の重要度が高いが、現在の満足度も高いことから、 現状維持を図るべきと考えられる項目
タイプ III	「重要度」が平均値以下で、「満足度」も平均値以下のもの。 現在の満足度が低い、今後の重要度も低いことから、 状況に応じて取り組むべきと考えられる項目
タイプ IV	「重要度」が平均値以下で、「満足度」は平均値以上のもの。 現在の満足度が高く、今後の重要度は低いことから、 水準の維持は求められるが、市民からみた優先度は高くないと考えられる項目

【参考】興味・関心の有無の割合

各取組の満足度・重要度割合は、各取組に「興味・関心がない」と回答した人を除いて算出した。この際、用紙の調査票では、満足度・重要度を合わせて、取組ごとの興味・関心を聞いたが、一方、インターネットによる回答では、満足度または重要度ごと、かつ取組ごとに、興味・関心の有無を聞いた。以下には、参考として、満足度・重要度ごとの興味・関心の有無の割合について示す。

〈満足度に関する興味・関心の有無〉

満足度についての各取組への関心は、すべての取組で 7 割が「興味・関心がある」と答えている。「道路交通」(91.7%)が最も高く、「産業の育成と支援」(73.3%)は最も低い。

〈重要度に関する興味・関心の有無〉

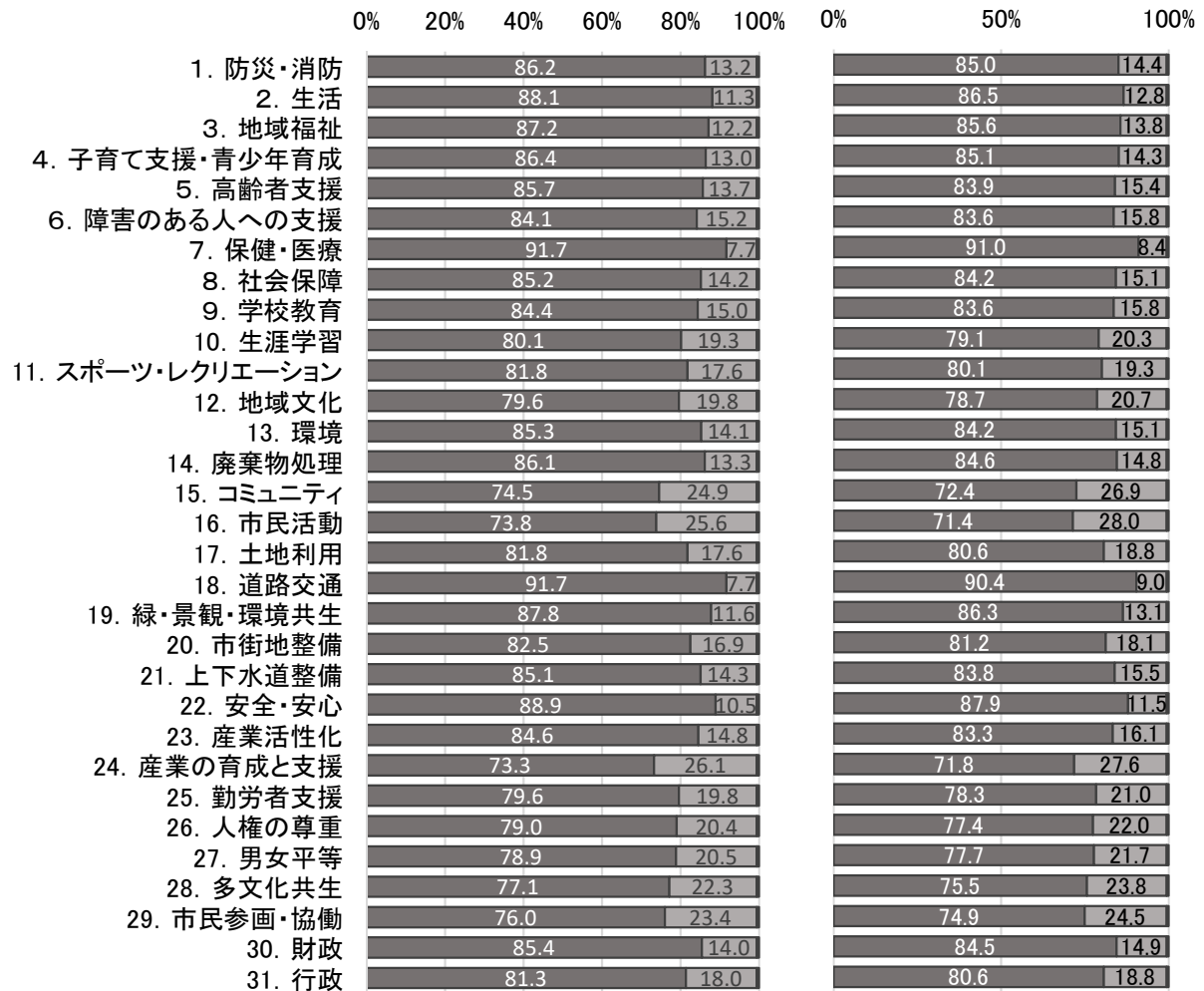
重要度についての各取組への関心は、すべての取組で 7 割が「興味・関心がある」と答えている。「道路交通」(90.4%)が最も高く、「市民活動」(71.4%)は最も低い。

【満足度に関する興味・関心の有無】

【重要度に関する興味・関心の有無】

n=965

n=965



■興味・関心がある □興味・関心がない □無回答

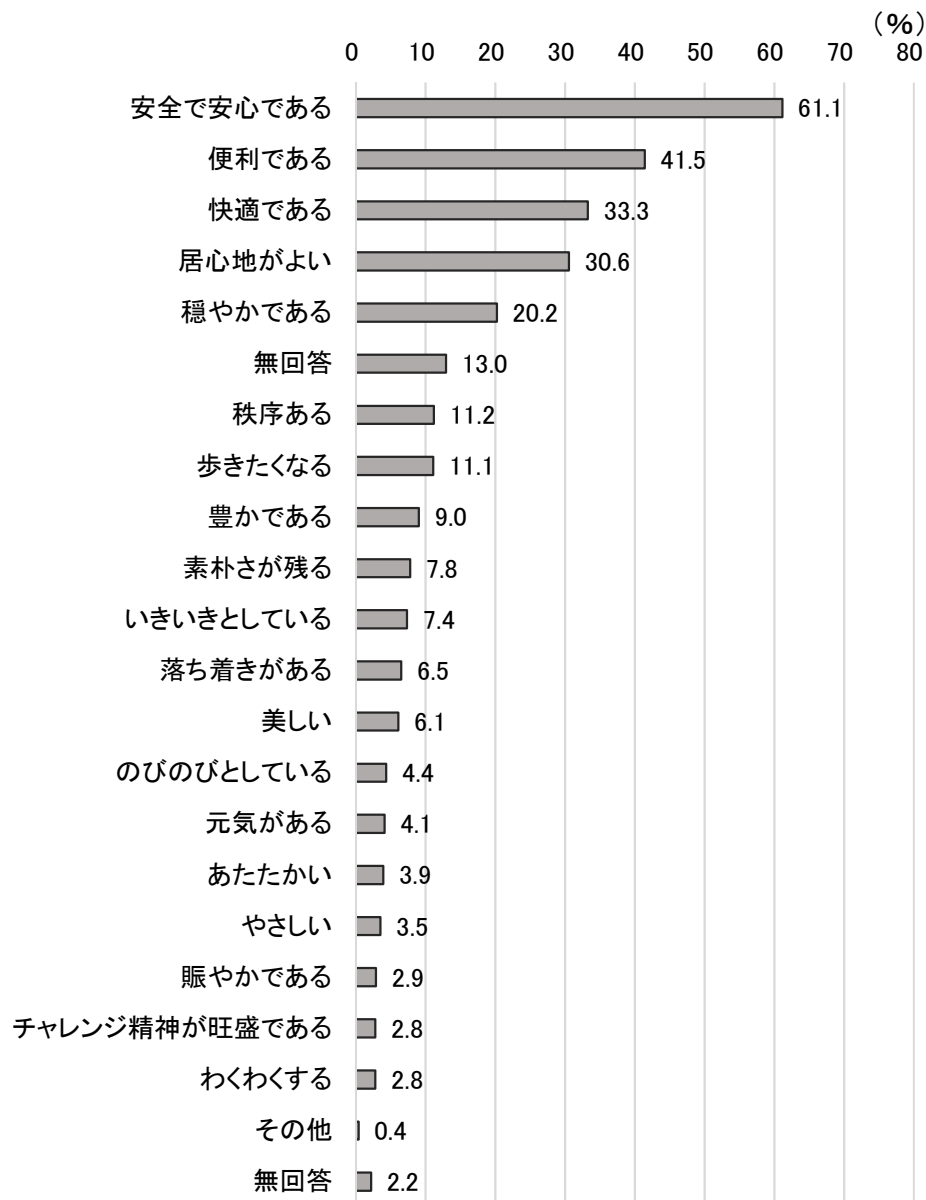
5. これからのまちづくりについて

問14 将来の朝霞市はどのようなまちであればよいと思いますか。あなたのイメージに近いものを、次の中から3つまで選んでください。

〈全体〉

将来の朝霞市の望ましいイメージは、「安全で安心である」の割合が61.1%で最も高く、続いて「便利である」(41.5%)、「快適である」(33.3%)、「居心地がよい」(30.6%)となっている。

n=965



問14-1 あなたの考える、朝霞市のキャッチフレーズや将来の都市イメージを自由に記入してください。

【安全・安心】

- ・ 誰もが安全に安心して暮らせるまち朝霞
- ・ 災害に強く安心できるまち
- ・ 安全、安心、明るい明日へ朝霞
- ・ 暮らしやすく安心・安全で元気のある町朝霞
- ・ 健康寿命を伸ばし安心して一生を終えることができるような街
- ・ 老若男女安心して暮らせる街
- ・ "子供の頃から安心して住み続けるまち" あさか

【住みやすい・暮らしやすい・居心地が良い】

- ・ すみやすい あったかいまち 朝霞
- ・ 居心地がよくわくわくするまち朝霞
- ・ 穏やかで居心地の良い町朝霞
- ・ おとなも子どももみんな住みやすいまち朝霞
- ・ 都心に近い小田舎、住み良い町 朝霞
- ・ 誰もが住みたくなるまち朝霞
- ・ 自然豊かな 便利で居心地がいいまち 朝霞
- ・ 長く住み続けたいまち 朝霞
- ・ どこに行ってもわくわくする 居心地がいい街
- ・ いきいきとして住みやすいまち朝霞
- ・ 世代を超えて 住み続けたいまち 朝霞

【緑・自然】

- ・ みどり豊かな快適環境都市
- ・ 暮らしと緑の共存
- ・ 都心に近く緑の多い朝霞
- ・ 緑豊かな街、朝霞!!
- ・ 緑と人がつながる街朝霞。
- ・ 都心から近い自然の多いまち
- ・ 緑と成長し続ける街、朝霞
- ・ 利便性と自然が共存している街
- ・ 自然豊かで緑がまぶしい、誰も見放さないやさしい街
- ・ 自然と都市の共存、豊かな人間

【子ども・子育て】

- ・ 若い人、子どもたちが元気で明るいまち
- ・ 子育てに適しているまち
- ・ 素朴でおだやか 子供と散歩が出来る町
- ・ 子どもが安心して成長できる町

- ・ 子どもにも高齢者にも優しいうるおいのあるまち
- ・ 子供たちが安心して住める朝霞

【その他】

- ・ 「オンリーワン(only one)朝霞」
- ・ いきいきとした暮らしが息づく町 朝霞
- ・ 「ここは朝霞、みんなが集まるたんぽぽのまち」
- ・ 笑顔の多いまち
- ・ いつか「帰ろう」と思えるまち朝霞
- ・ 私が私らしくいられるまち朝霞
- ・ フレッシュシティ
- ・ 朝霞とともに生きていく
- ・ 帰るのが楽しみなまち 朝霞
- ・ 『「あ」いのある「サ」ポートが充実した「か」んきょうのまち 朝霞』
- ・ ほっとする街 朝霞
- ・ あなたと共に 朝霞で生きたい

問15 あなたが、以前の朝霞市と比較して充実してきたと思うまちづくりの分野は何ですか。また、今後10年間で朝霞市が特に力を入れるべきだと思うまちづくりの分野は何ですか。
 (1)と(2)について、あなたのイメージに近いものを、1～13の中からそれぞれ3つまで選んで番号を記入してください。

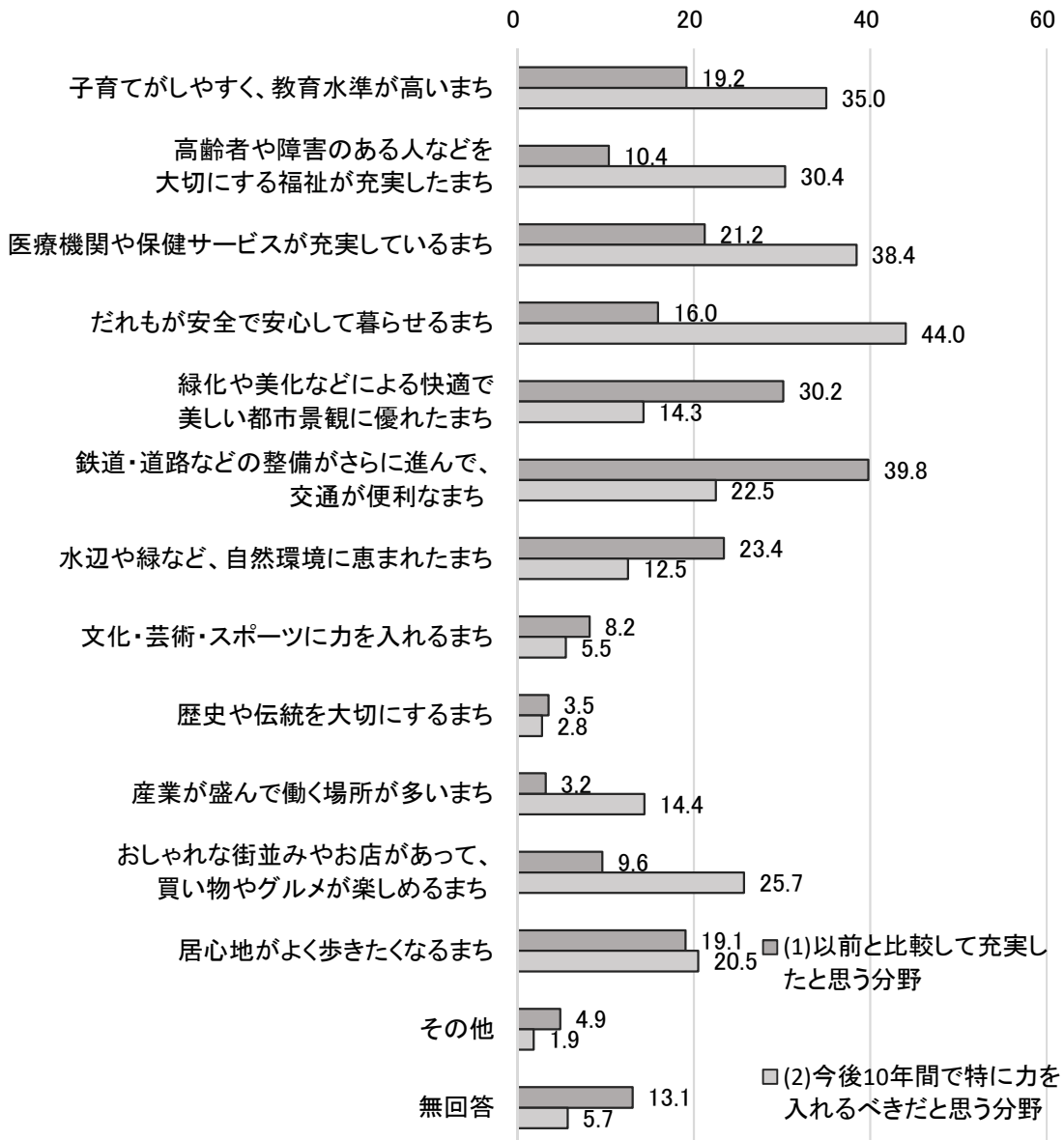
〈全体〉

「(1)以前と比較して充実したと思う分野」は、「鉄道・道路などの整備がさらに進んで、交通が便利なまち」(39.8%)が最も高く、次いで、「緑化や美化などによる快適で美しい都市景観に優れたまち」(30.2%)、「水辺や緑など、自然環境に恵まれたまち」(23.4%)である。

「(2)今後10年間で特に力を入れるべきだと思う分野」は、「だれもが安全で安心して暮らせるまち」(44.0%)が最も高く、次いで、「医療機関や保健サービスが充実しているまち」(38.4%)、「子育てがしやすく、教育水準が高いまち」(35.0%)となっている。

n=965

(%)

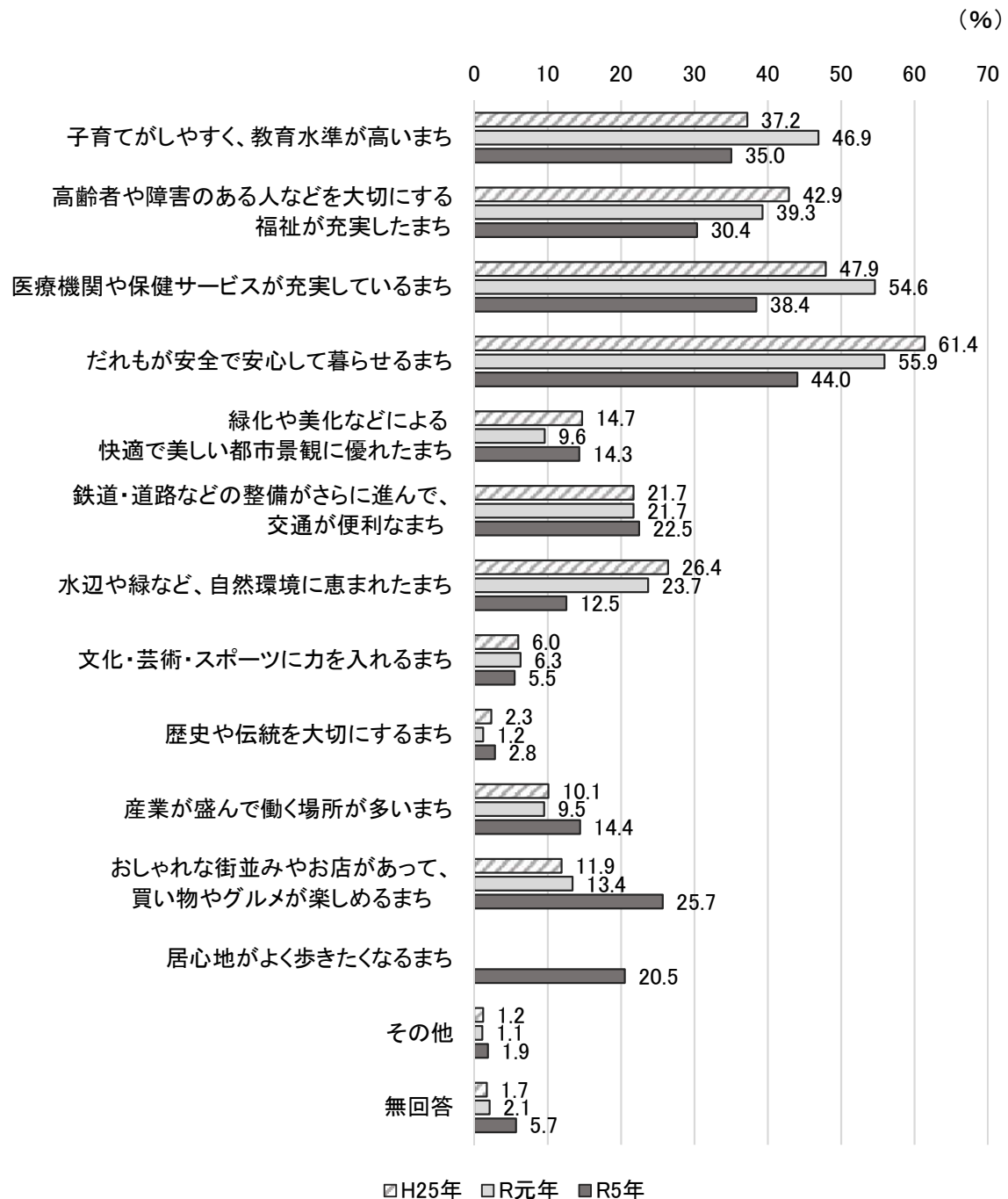


〈経年比較〉

将来の朝霞市で力を入れるべき分野の上位項目の「だれもが安全で安心して暮らせるまち」、「医療機関や保険サービスが充実しているまち」、「子育てがしやすく、教育水準が高いまち」のいずれも割合が減少している。一方、新設項目の「おしゃれな街並みやお店があって、買い物やグルメが楽しめるまち」のほか、「産業が盛んで働く場所が多いまち」の割合は増加している。

※平成 25 年、令和元年調査では、将来の朝霞市をどのようなまちにしていきたいかを聞いた。

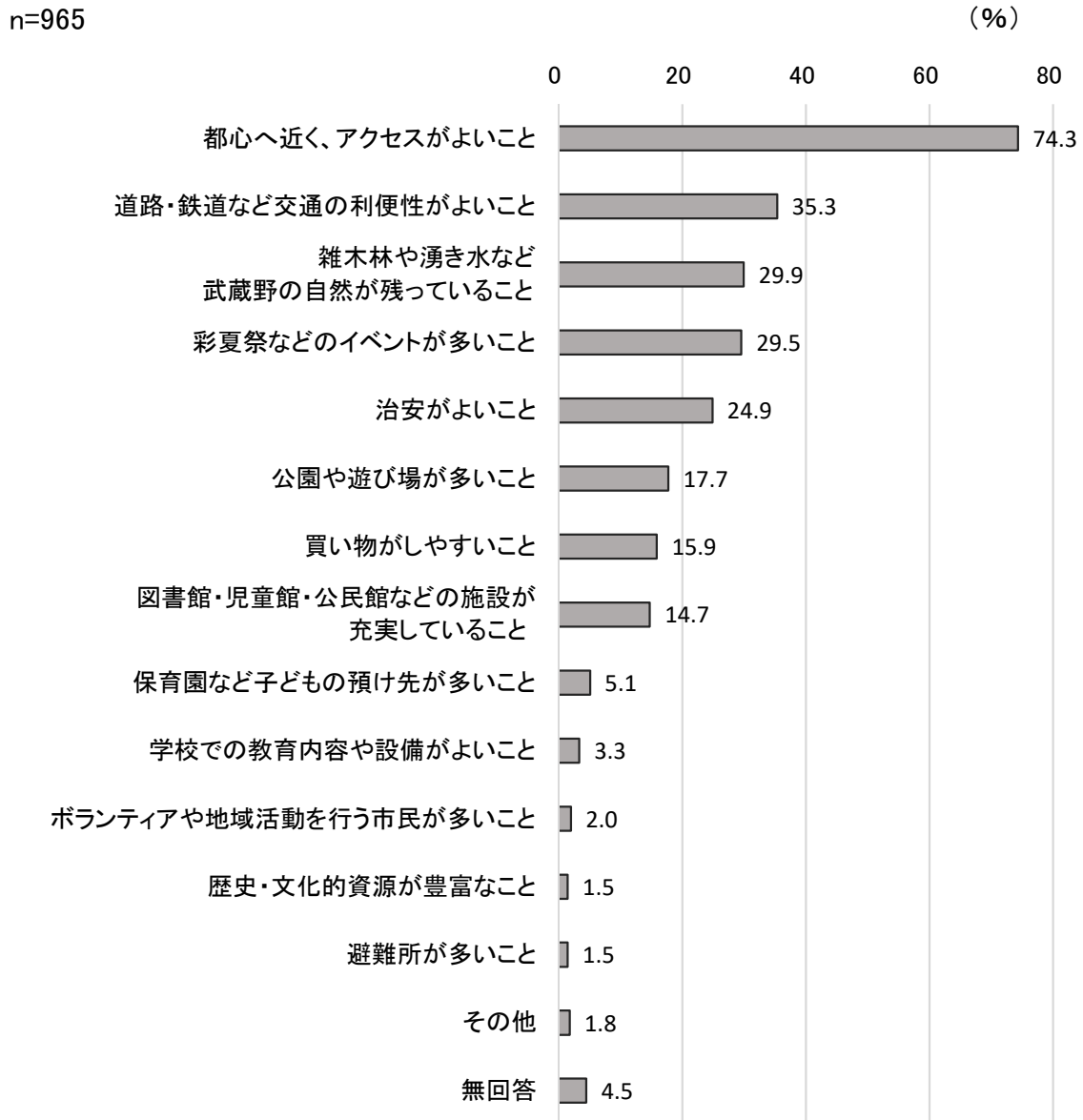
※選択肢「居心地がよく歩きたくなるまち」は、令和 5 年に追加したため、経年比較の対象外としている。



問16 あなたは、未来に生かしていきたい朝霞市の強みは何だと思えますか。次の中からあなたのお考えに最も近いものを3つまで選んでください。

〈全体〉

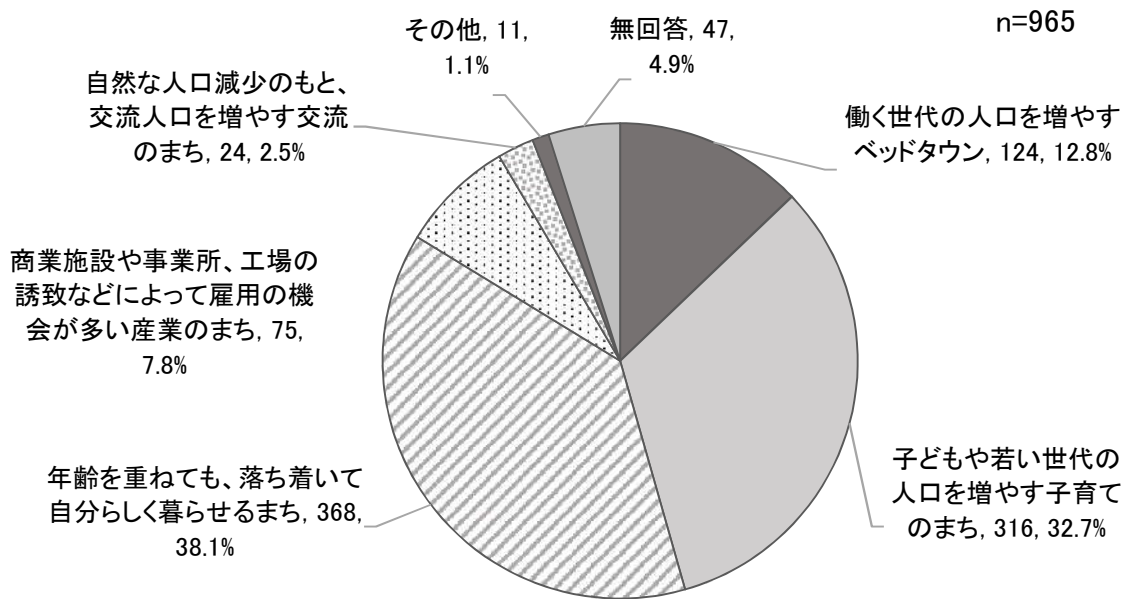
未来に生かしていきたい朝霞市の強みは、「都心へ近く、アクセスがよいこと」の割合が74.3%で最も高く、続いて「道路・鉄道など交通の利便性がよいこと」(35.3%)、「雑木林や湧き水など武蔵野線の自然が残っていること」(29.9%)、「彩夏祭などのイベントが多いこと」(29.5%)となっている。



問17 今後、人口減少・少子高齢化が進むことが予想される中、朝霞市のまちづくりはどのような方向をめざすべきと考えますか。次の中からあなたのお考えに最も近いものを1つ選んでください。

〈全体〉

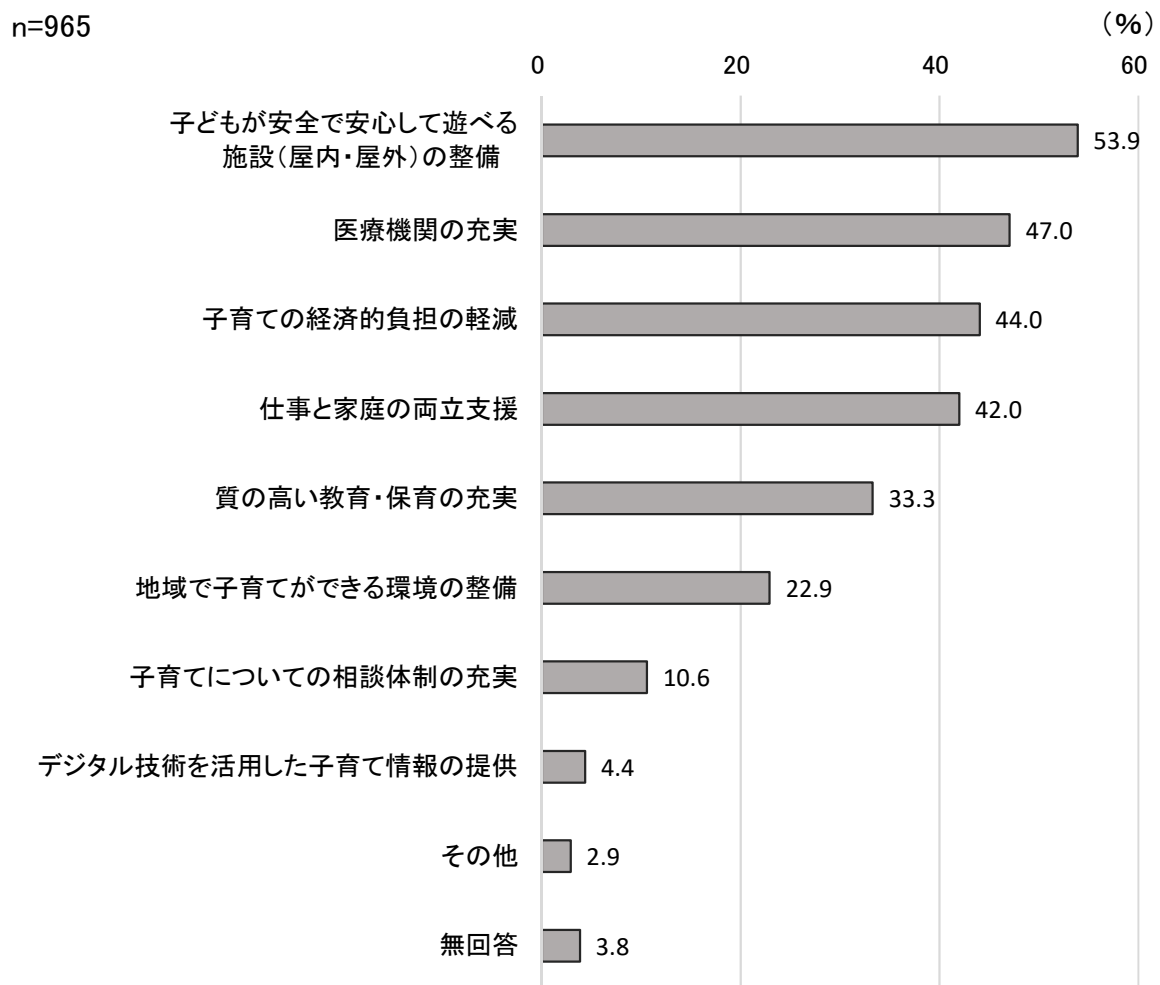
人口減少・少子高齢化を踏まえたまちづくりの方向性は、「年齢を重ねても、落ち着いて自分らしく暮らせるまち」の割合が38.1%で最も高く、続いて「子どもや若い世代の人口を増やす子育てのまち」(32.7%)、「働く世代の人口を増やすベッドタウン」(12.8%)となっている。



問18 あなたは、朝霞市が若者や子育て世帯に選ばれるまちになるために、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

〈全体〉

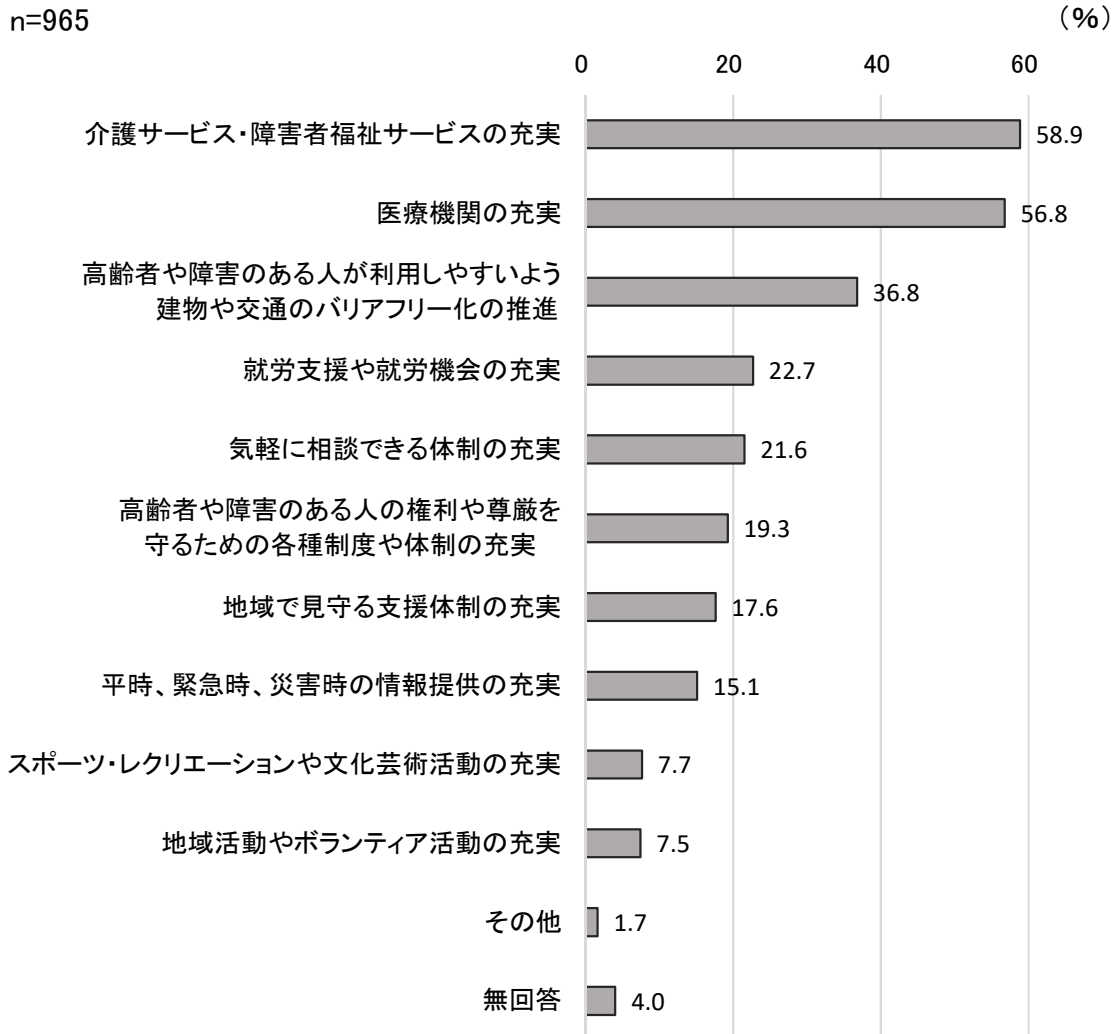
子育て世帯に選ばれるまちになるためのまちづくりの方向性は、「子どもが安全で安心して遊べる施設（屋内・屋外）の整備」の割合が53.9%で最も高く、続いて「医療機関の充実」（47.0%）、「子育ての経済的負担の軽減」（44.0%）、「仕事と家庭の両立支援」（42.0%）となっている。



問19 あなたは、高齢者や障害のある人が安心して暮らせるまちになるために、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

〈全体〉

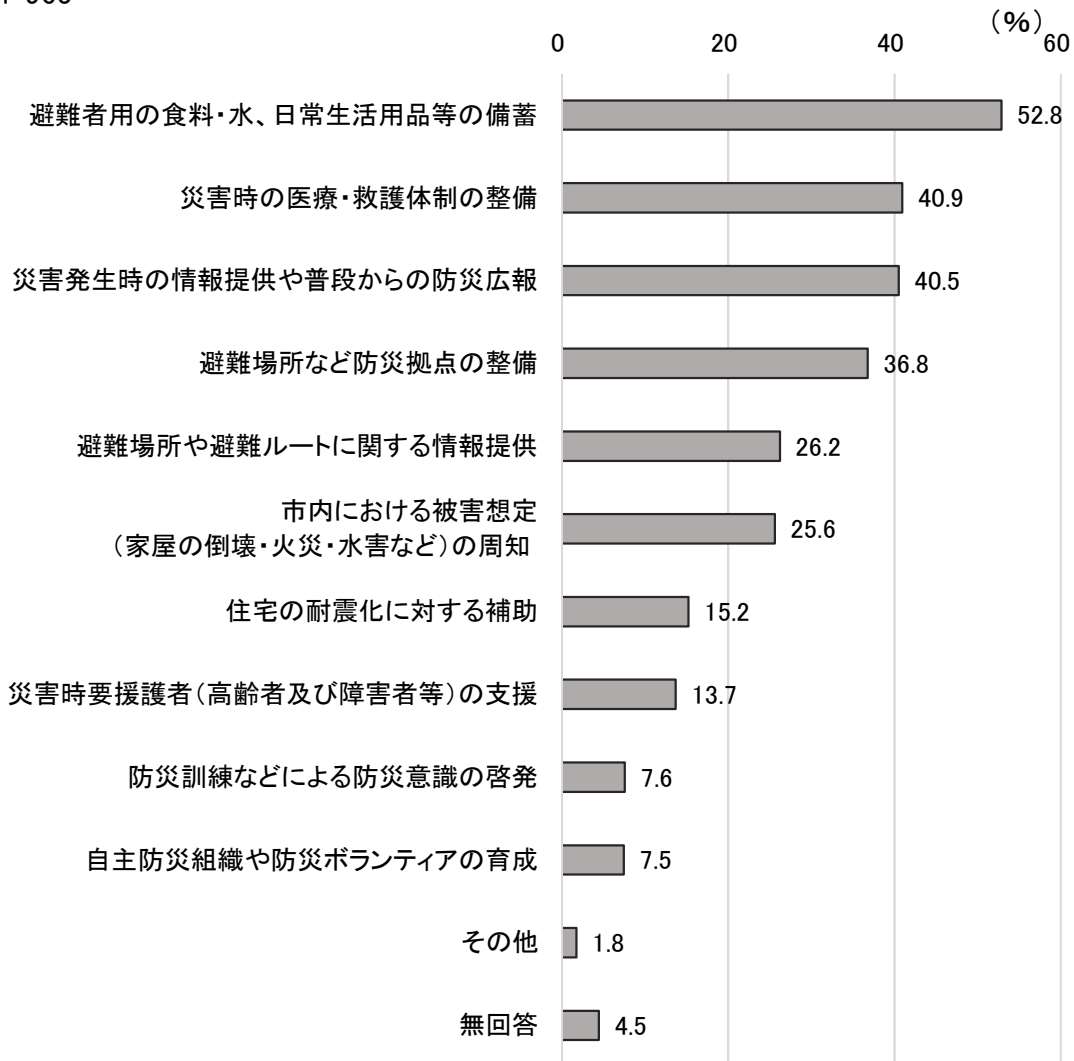
高齢者や障害のある人が安心して暮らせるまちになるために重要なこととしては、「介護サービス・障害者福祉サービスの充実」の割合が58.9%、次いで「医療機関の充実」(56.8%)となっており、「高齢者や障害のある人が利用しやすいよう建物や交通のバリアフリー化の推進」(36.8%)が続く。



問20 あなたは、災害対策として、行政にどのようなことを期待していますか。次の中から3つまで選んでください。

災害対策として行政に期待していることは、「避難者用の食料・水、日常生活用品等の備蓄」の割合が52.8%で最も高く、続いて「災害時の医療・救護体制の整備」(40.9%)、「災害発生時の情報提供や普段からの防災広報」(40.5%)となっている。

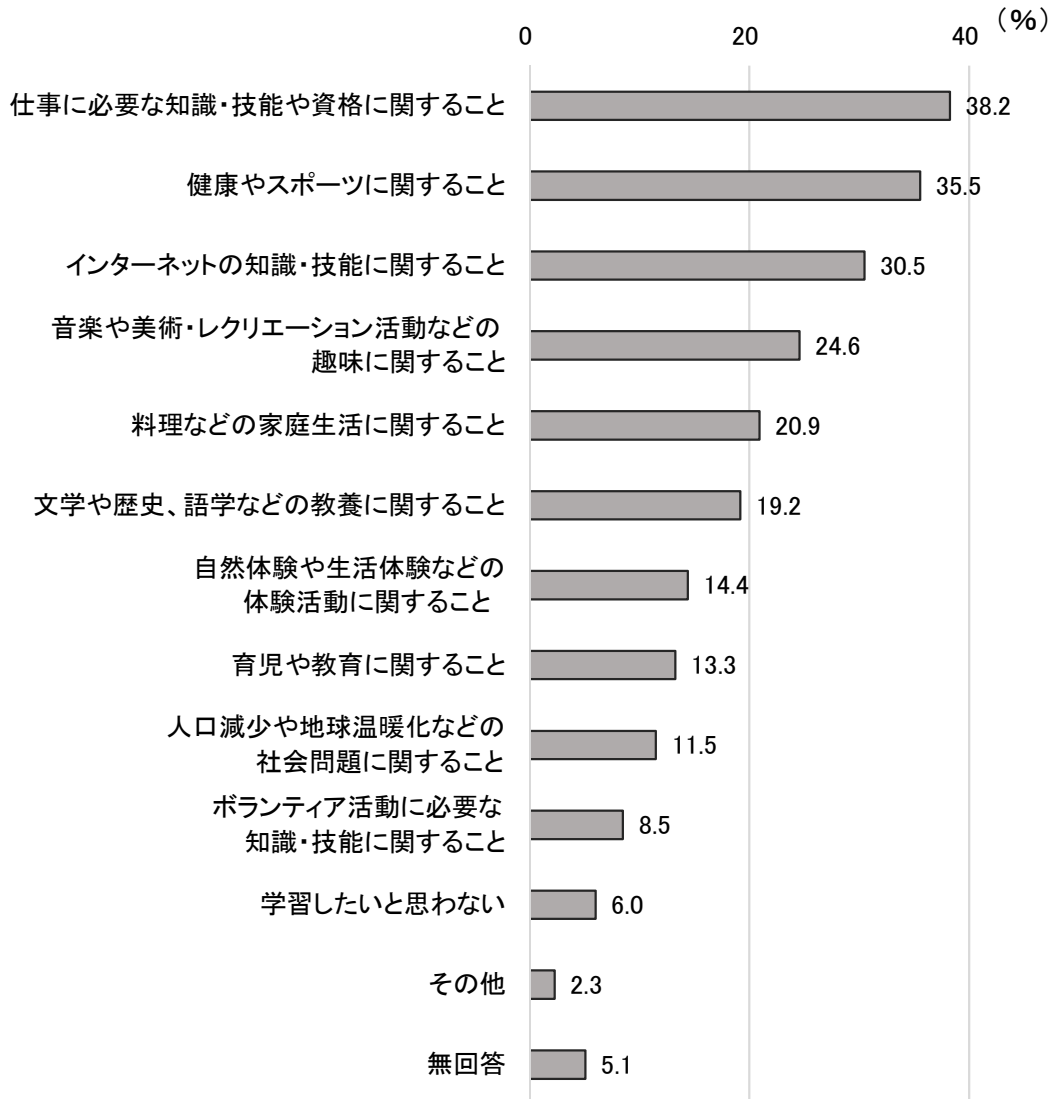
n=965



問21 あなたは、これから学習するとすれば、どのようなことを学びたいですか。次の中から3つまで選んでください。

これから学習したいことは、「仕事に必要な知識・資格に関すること」の割合が38.2%で最も高く、「健康やスポーツに関すること」(35.5%)、「インターネットの知識・技能に関すること」(30.5%)が続く。

n=965

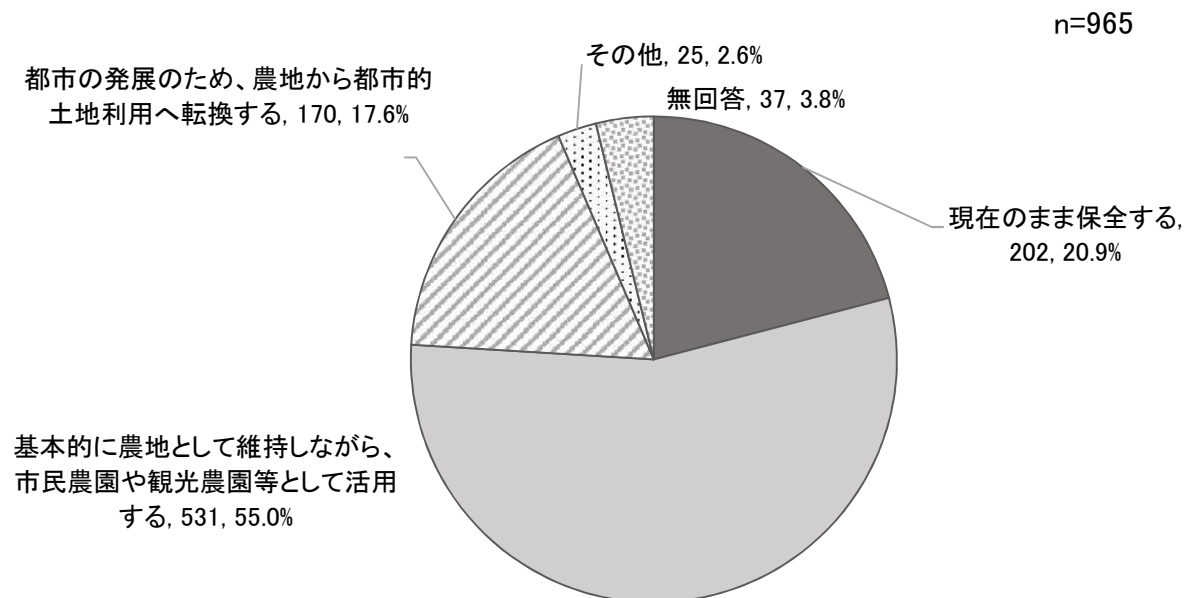


問21-1 問21で「学習したいと思わない」以外を選んだ方にお聞きします。学習のために、どのような施設を利用していきたいですか。(複数回答可)

(整理中)

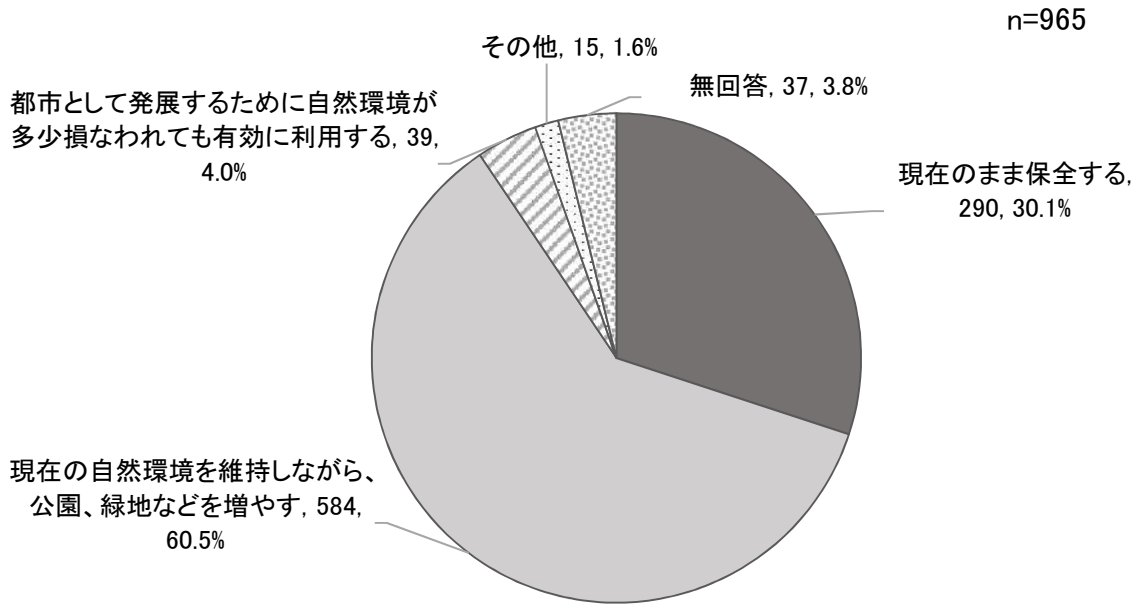
問22 市街地の農地について、今後どのようにしたらよいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

市街地の農地について、「基本的に農地として維持しながら、市民農園や観光農園等として活用する」の割合が55.0%と最も高く、「現在のまま保全する」(20.9%)、「都市の発展のため、農地から都市的土地利用へ転換する」(17.6%)が続く。



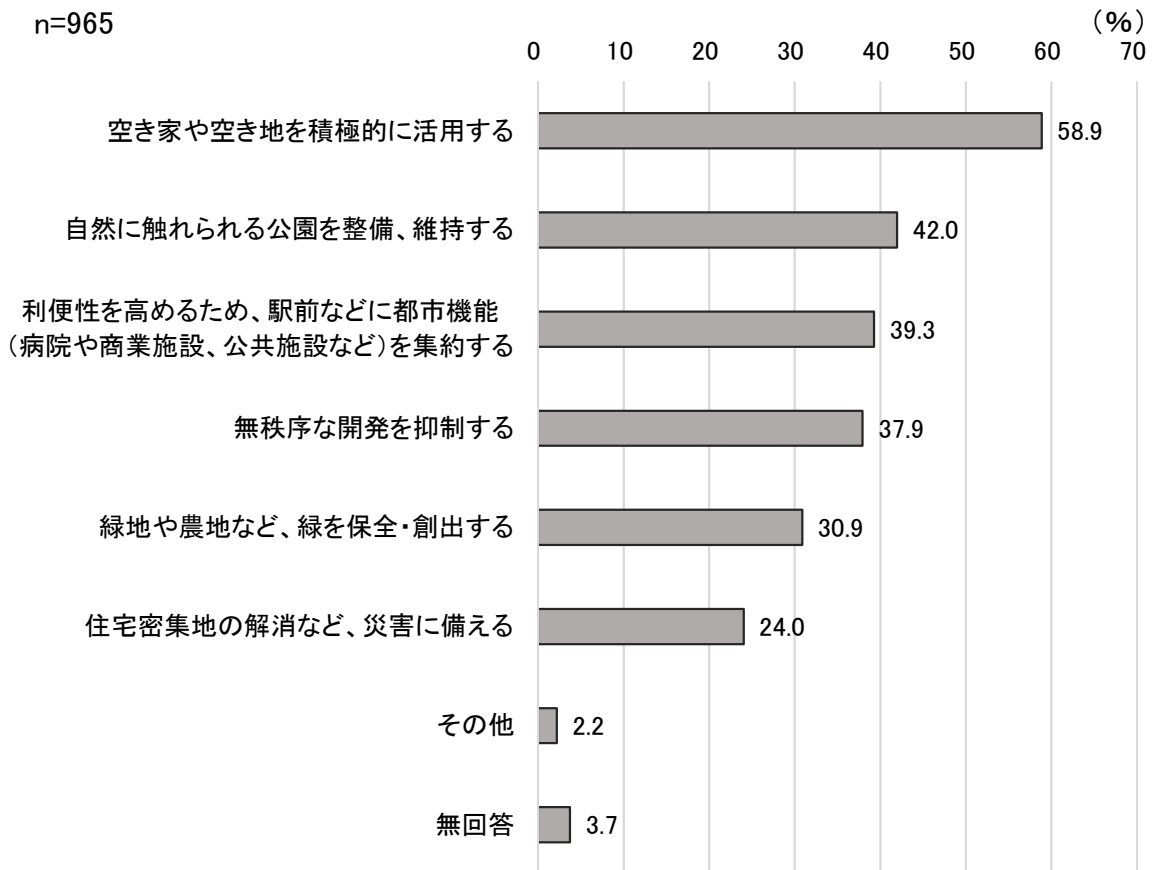
問23 自然環境（黒目川、新河岸川、武蔵野の原生林などの水辺・緑地など）について、今後どのようにしたらよいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

自然環境の今後について、「現在の自然環境を維持しながら、公園、緑地などを増やす」の割合が60.5%と最も高い。「現在のまま保全する」は30.1%であり、一方、「都市として発展するために自然環境が多少損なわれても有効に利用する」は4.0%であった。



問24 今後、どのような土地利用が望ましいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

今後の土地利用について、「空き家や空き地を積極的に活用する」の割合が58.9%と最も高く、「自然に触れられる公園を整備、維持する」(42.0%)、「利便性を高めるため、駅前などに都市機能(病院や商業施設、公共施設など)を集約する」(39.3%)、「無秩序な開発を抑制する」(37.9%)が続く。

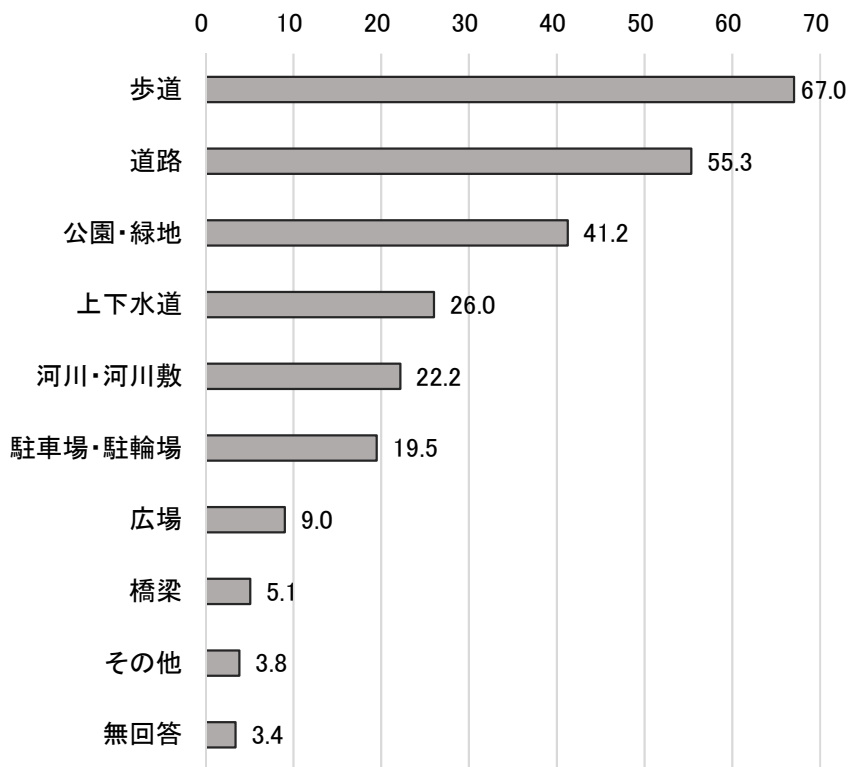


問25 市内の都市基盤の維持・整備について、今後、力を入れるべきだと思うものは何ですか。次の中から3つまで選んでください。

今後、維持・整備に力を入れるべき都市基盤について、「歩道」の割合が67.0%と最も高く、「道路」(55.3%)、「公園・緑地」(41.2%)が続く。

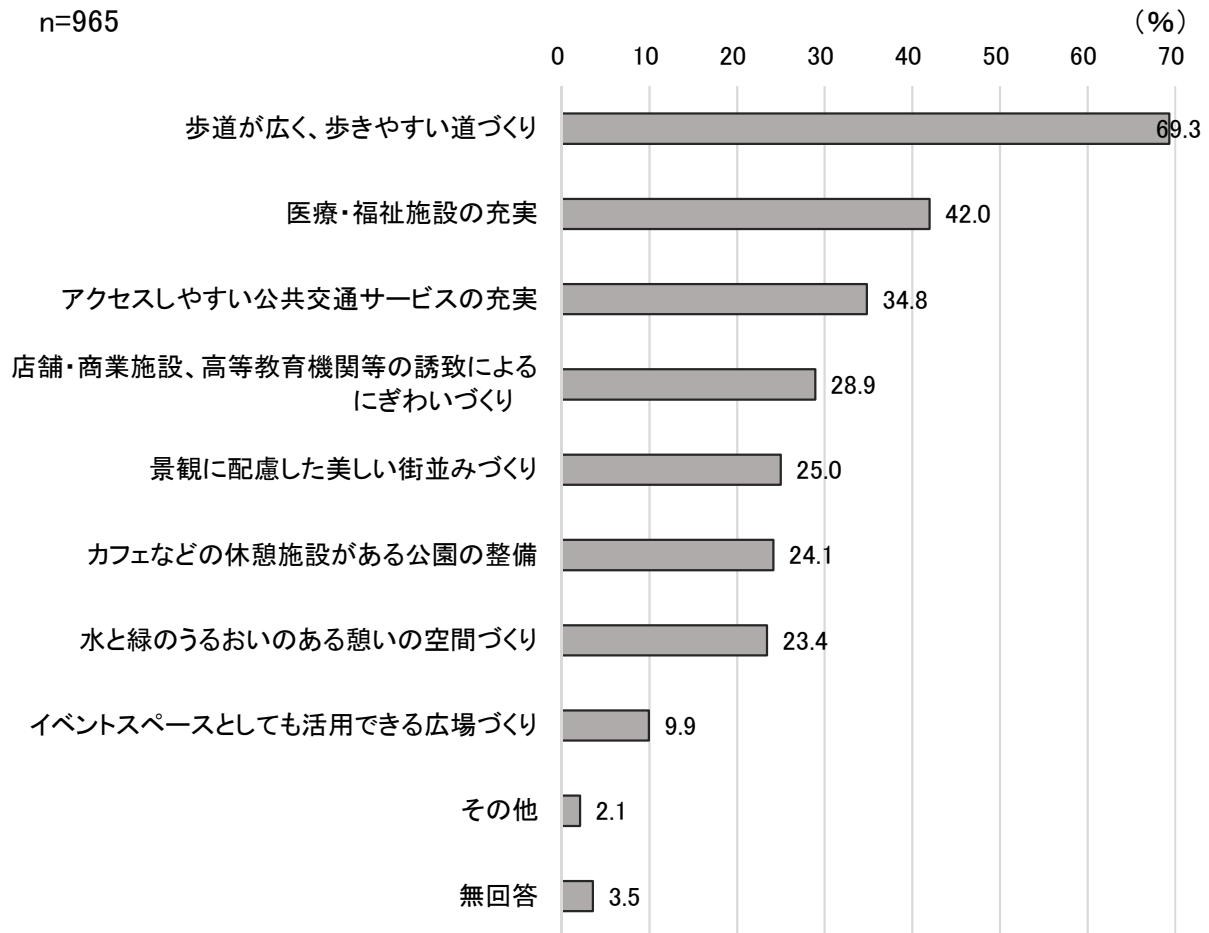
n=965

(%)



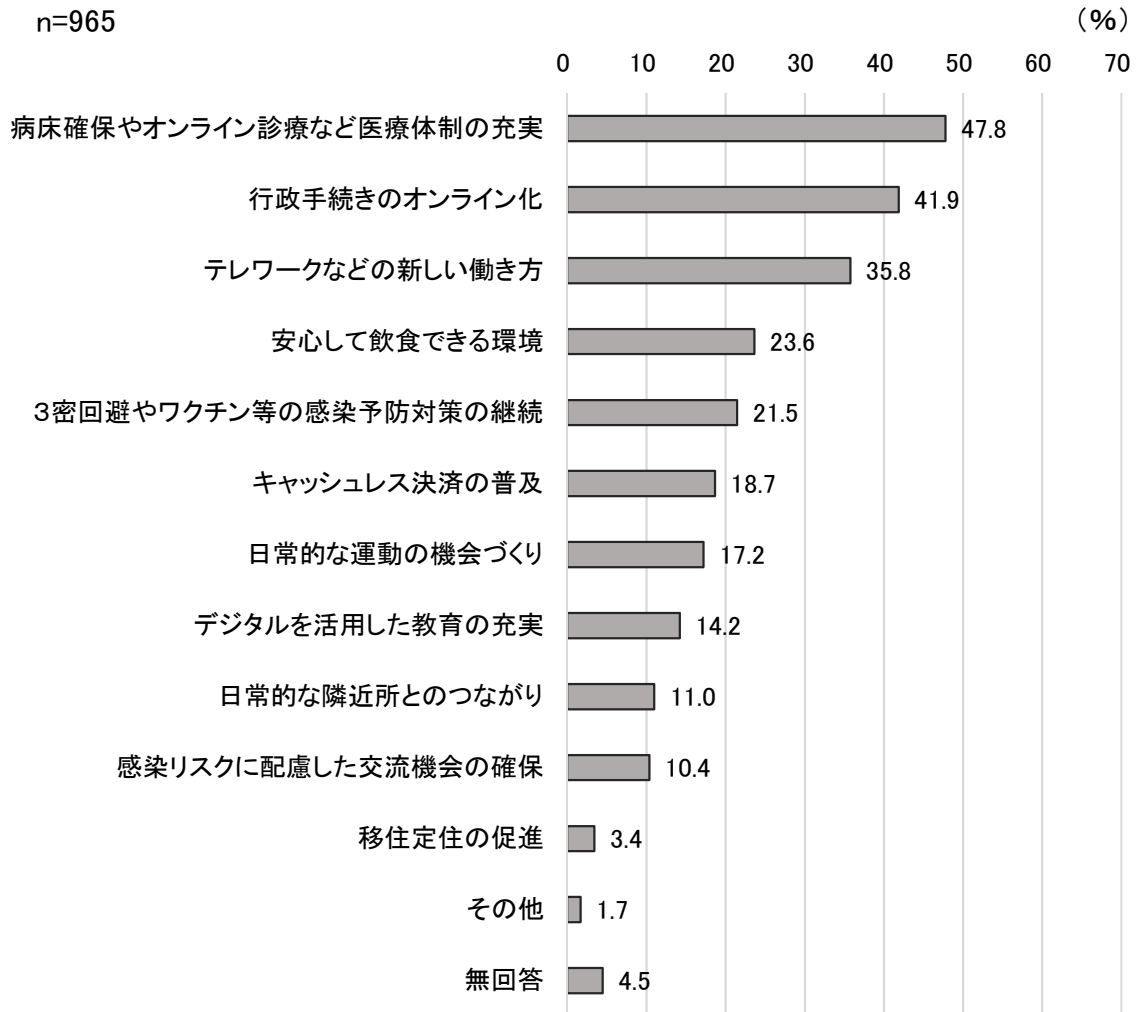
問26 今後、まちなかの魅力を高めるために、どのような取組が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

まちなかの魅力を高めるための取組について、「歩道が広く、歩きやすい道づくり」の割合が69.3%と最も高く、「医療・福祉施設の充実」(42.0%)、「アクセスしやすい公共交通サービスの充実」(34.8%)、「店舗・商業施設、高等教育機関等の誘致によるにぎわいづくり」(28.9%)が続く。



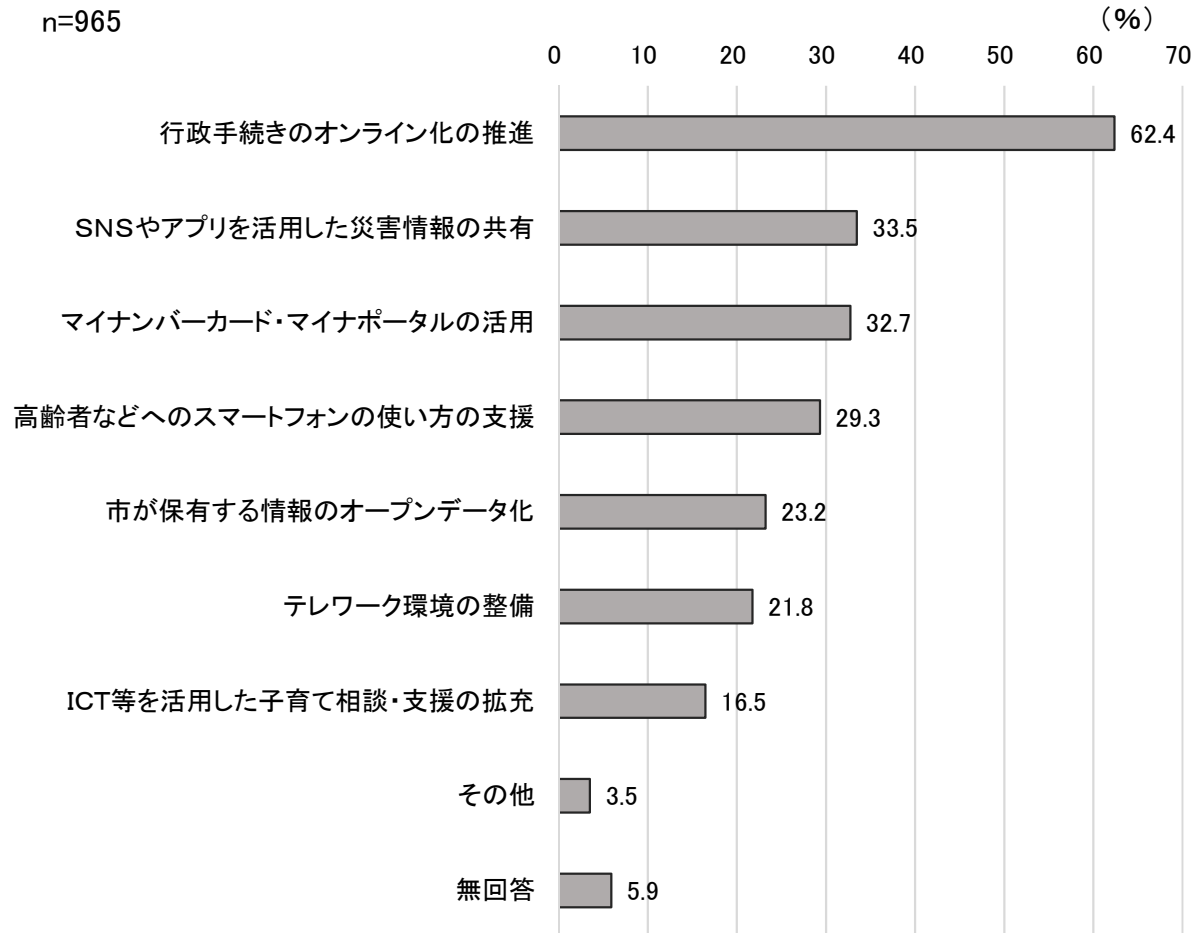
問27 新型コロナウイルス感染症の流行を経験して、今後重要だと思うことは何ですか。次の中から3つまで選んでください。

新型コロナウイルス感染症流行を踏まえ、今後重要だと思うことは、「病床確保やオンライン診療など医療体制の充実」の割合が47.8%と最も高く、「行政手続きのオンライン化」(41.9%)、「テレワークなどの新しい働き方」(35.8%)が続く。



問28 朝霞市において、今後どのようなデジタル化の取組が重要と考えますか。次の中から3つまで選んでください。

デジタル化の取組について重要なことは、「行政手続きのオンライン化の推進」の割合が62.4%と最も高く、「SNSやアプリを活用した災害情報の共有」(33.5%)、「マイナンバーカード・マイナポータルを活用」(32.7%)、「高齢者などへのスマートフォンの使い方の支援」(29.3%)が続く。



6. 自由意見

問29 自由意見欄

最後に、今後のまちづくりや市政について、ご意見などがありましたらご自由にお書きください。

(整理中)

第2部 朝霞市青少年アンケート結果

I 調査の概要

1. 調査の目的

この青少年アンケートは令和8年度(2026年度)から10年間のまちづくりの指針となる「第6次朝霞市総合計画」を策定するに当たって、まちづくりに対する青少年の意向を把握し、基礎資料として活用するために行ったものである。

2. 調査の方法

- ① 調査対象 市内在住の12歳以上18歳未満の男女(令和5年4月1日時点での満年齢)
- ② 対象者数 1,000人
- ③ 抽出方法 住民基本台帳(令和5年11月1日現在)から無作為抽出
- ④ 調査方法 郵送配布・回収、インターネットによる回答を併用
- ⑤ 調査期間 令和5年11月24日送付、12月25日締切

3. 集計・分析のための地区区分

A地区	大字上内間木、大字下内間木
B地区	朝志ヶ丘、北原、田島、西原、浜崎、宮戸
C地区	大字台、大字根岸、岡、仲町、根岸台
D地区	泉水、西弁財、東弁財、三原
E地区	青葉台、幸町、栄町、膝折町、本町、溝沼、陸上自衛隊朝霞駐屯地

4. 調査項目

- ① 朝霞市の「住みよさ」について
- ② 日頃の地域との関わりについて
- ③ 市政について
- ④ 市の全般的な取組について
- ⑤ まちづくりへの市民の参加について
- ⑥ これからのまちづくりについて
- ⑦ 自由意見

5. 回収結果

- ① 調査票発送数 1,000票
- ② 有効回収数 271票(紙回答:168票、Web回答103票)
- ③ 有効回収率 27.1%(紙回答:16.8%、Web回答:10.3%)

6. 報告書の見方

①用語について

- ・ 図表中の「n」(=number)は、設問に対する回答者数を示す。
- ・ 選択肢の文字数が多いものは、本文や図表中で省略した表現を用いている。

②集計について

- ・ 比率は、全て百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。このため、比率の合計が100%にならない場合がある。なお、集計上の無回答には、無回答のほか無効な回答を含んでいる。
- ・ 複数回答形式の設問については、設問に対する回答者数を母数として比率(%)を算出している。このため、合計が100%を超えることがある。

③意識調査の信頼性について

- ・ 本調査は、調査対象となる母集団から標本を抽出し、母集団の比率を推測する標本調査であるため、調査結果には統計上の誤差が生じることがある。今回の単純集計の場合の標本誤差(信頼度95%とした場合)は、次の式により求められる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N=母集団の数
n=比率算出の基数(回答サンプル数)
p=回答の比率(0≦p≦1)

- ・ 今回の市民意識調査では、母集団の数7,501人を(令和5年11月1日現在)として、有効回収数(サンプル数=271票)から標本誤差を計算すると、±6.0%以内になる(信頼度95%とした場合)。

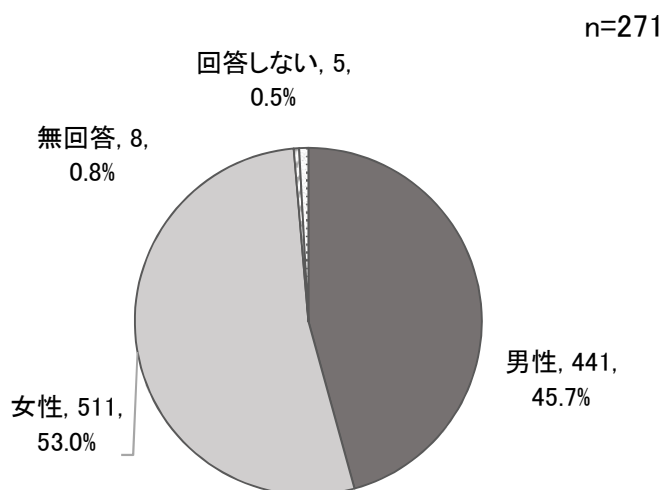
④ 経年比較について

- ・ これまで実施した意識調査との経年比較を行った(平成22年度、平成25年度、令和元年度実施)。
- ・ 平成22年度調査では、朝霞市に立地する市立中学校及び県立高校から、各学校とも1クラスずつ抽出し、在学する生徒を対象に調査を行っているため、前々回調査との経年比較については、それぞれの結果を単純に比較することができないが、一部参考として記載している。

7. 回答者の属性

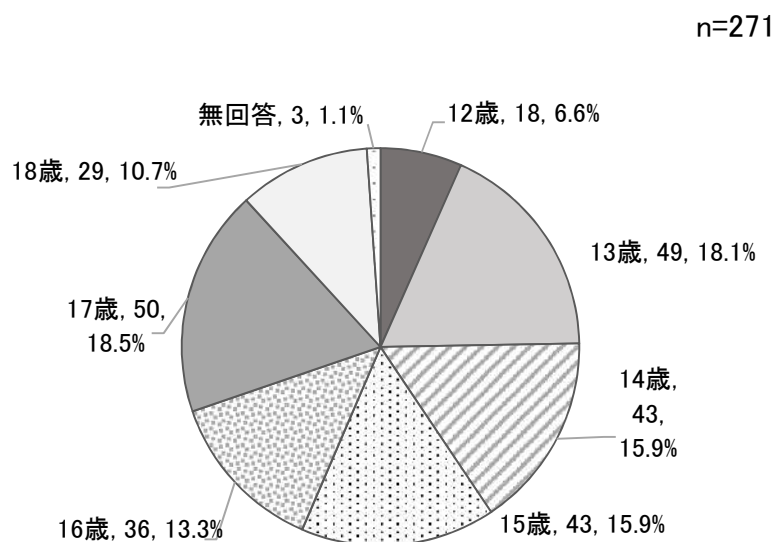
F1 あなたの性別は。

回答者の性別は、「女性」の割合が 53.0%、「男性」の割合が 45.7%となっている。



F2 あなたの年齢は。

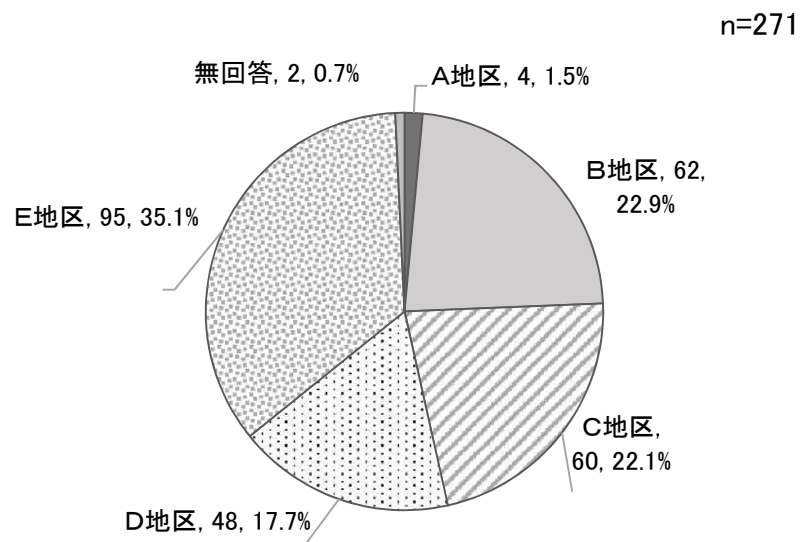
回答者の年齢は、「17 歳」の割合が 18.5%と最も高い。また、「12~15 歳」の割合が 56.4%、「16~18 歳」の割合が 42.5%となっている。



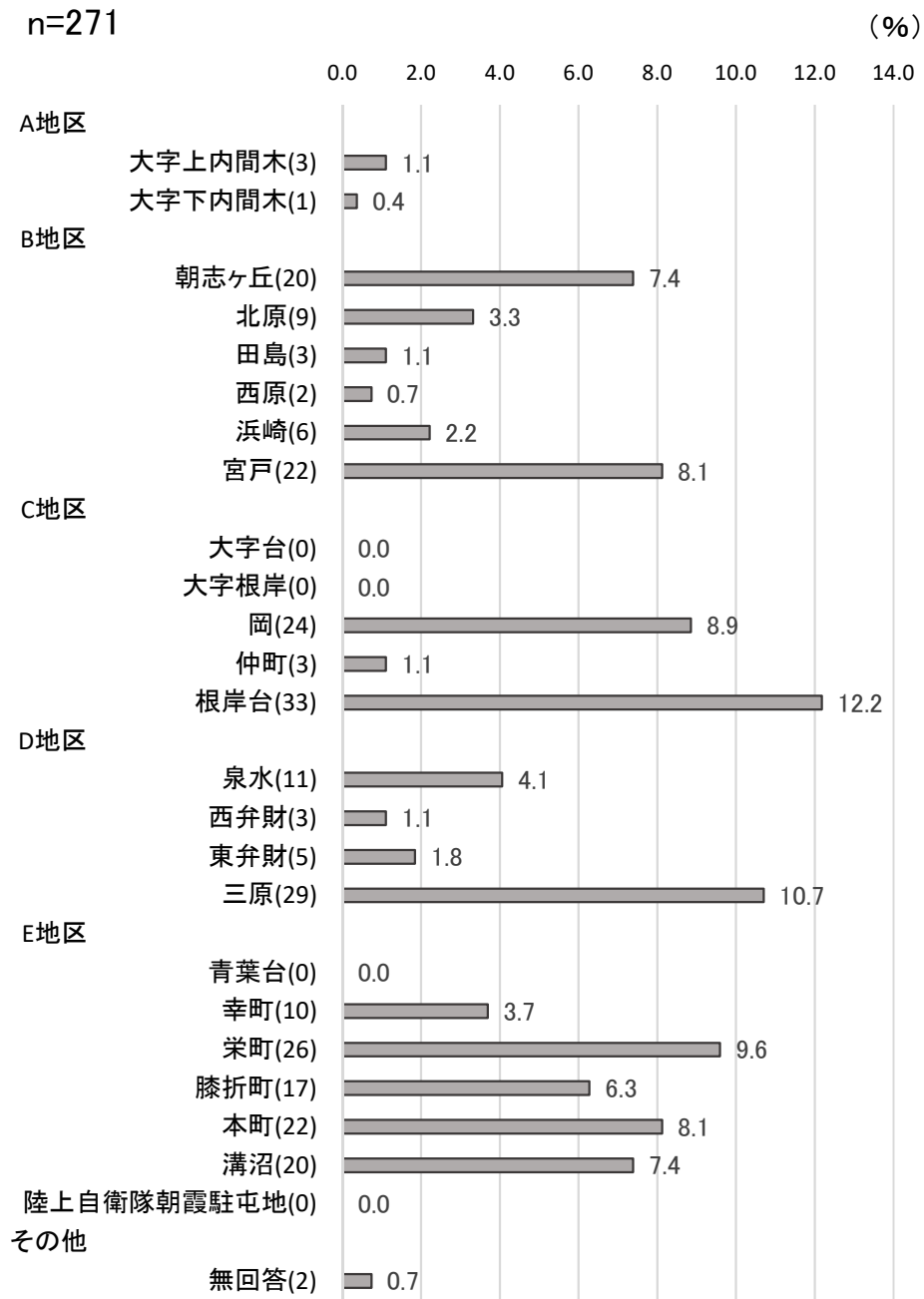
F3 あなたのお住まいはどの地区ですか。

回答者の住んでいる地区は、「E 地区」の割合が 35.1%で最も高く、続いて「B 地区」(22.9%)、「C 地区」(22.1%)、「D 地区」(17.7%)、「A 地区」(1.5%)となっている。

町(丁)・大字別でみた住んでいる地区は、「根岸台」の割合が 12.2%で最も高く、続いて「三原」(10.7%)、「栄町」(9.6%)となっている。

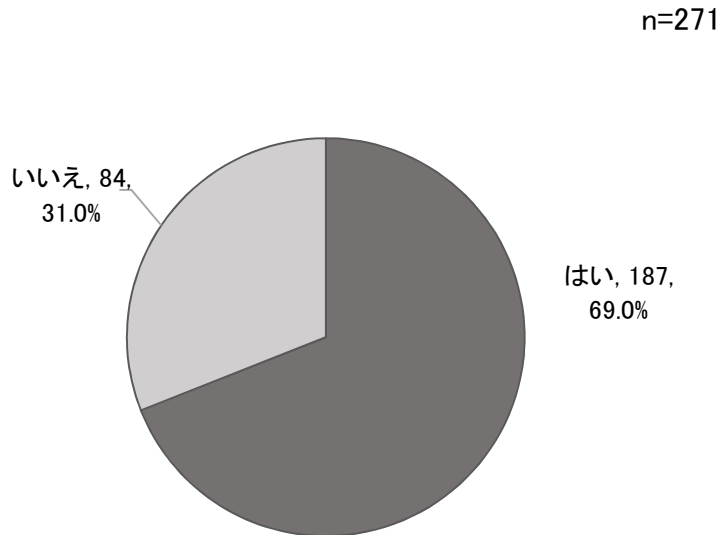


【町（丁）・大字別居住地区】



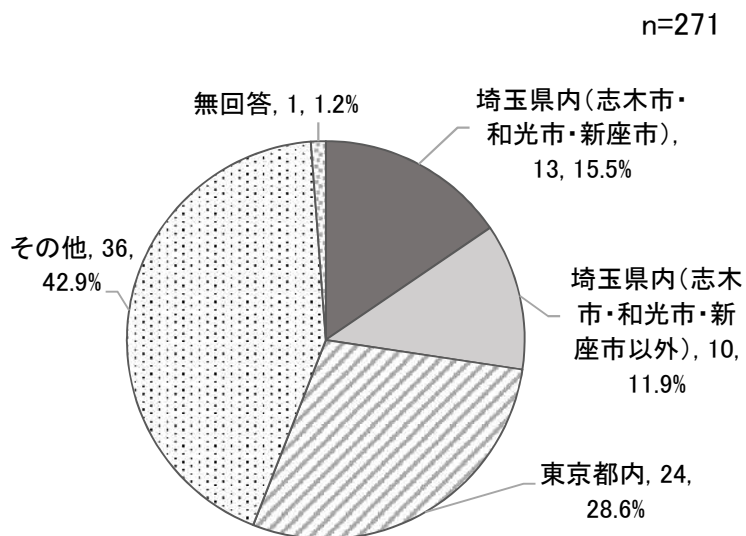
F4 あなたは、生まれた時、または幼少の頃から朝霞市にお住まいですか。

回答者が生まれた時から朝霞市に住んでいるかどうかについては、「はい」の割合が 69.0%、「いいえ」の割合が 31.0%となっている。



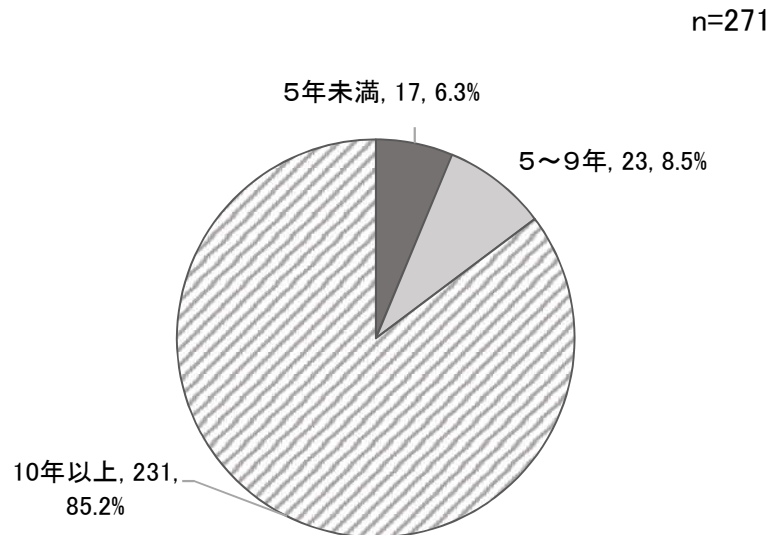
F5 F4で「いいえ」と回答された方にお聞きします。朝霞市に住む以前はどちらにお住まいでしたか。

市外から転入してきた回答者の以前の住まいは、「その他」を除くと、「東京都内」の割合が 28.6%と最も高く、続いて、「埼玉県内(志木市・和光市・新座市)」(15.5%)、「埼玉県内(志木市・和光市・新座市以外)」(11.9%)となっている。



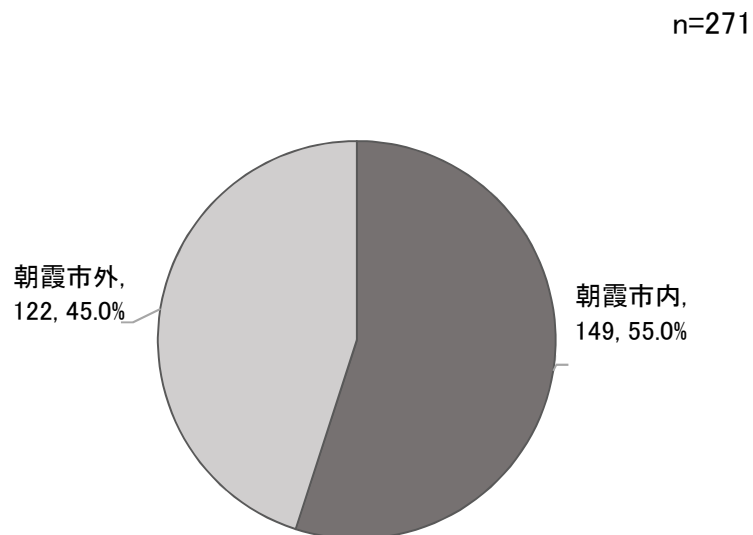
F6 あなたは、朝霞市にお住まいになってどれくらいになりますか。

回答者の朝霞市に住んでいる年数は、「10年以上」の割合が85.2%で最も高く、続いて「5～9年」(8.5%)、「5年未満」(6.3%)となっている。



F7 あなたの通学や通勤先は。

回答者の通勤・通学先は、「朝霞市内」の割合が55.0%、「朝霞市外」の割合が45.0%である。



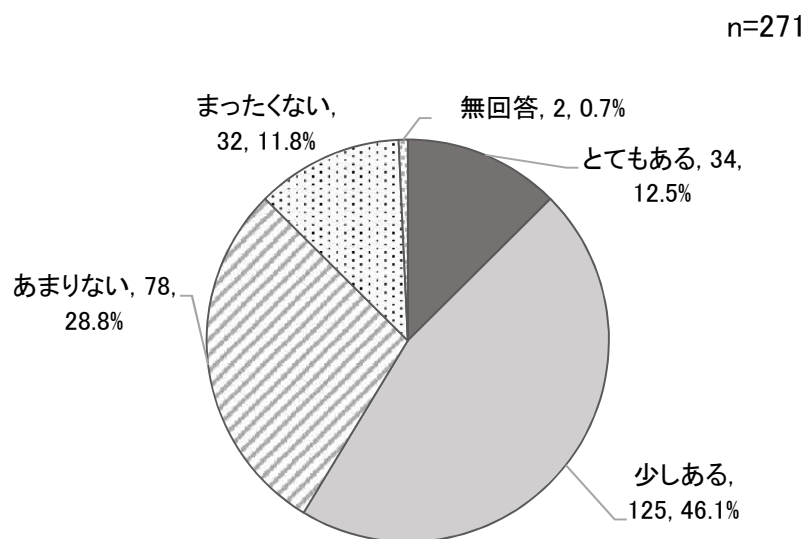
II 回答結果

1. 朝霞市について日頃感じていること

問1 あなたは、「朝霞市のまちづくり」に関心がありますか。次の中から1つ選んでください。

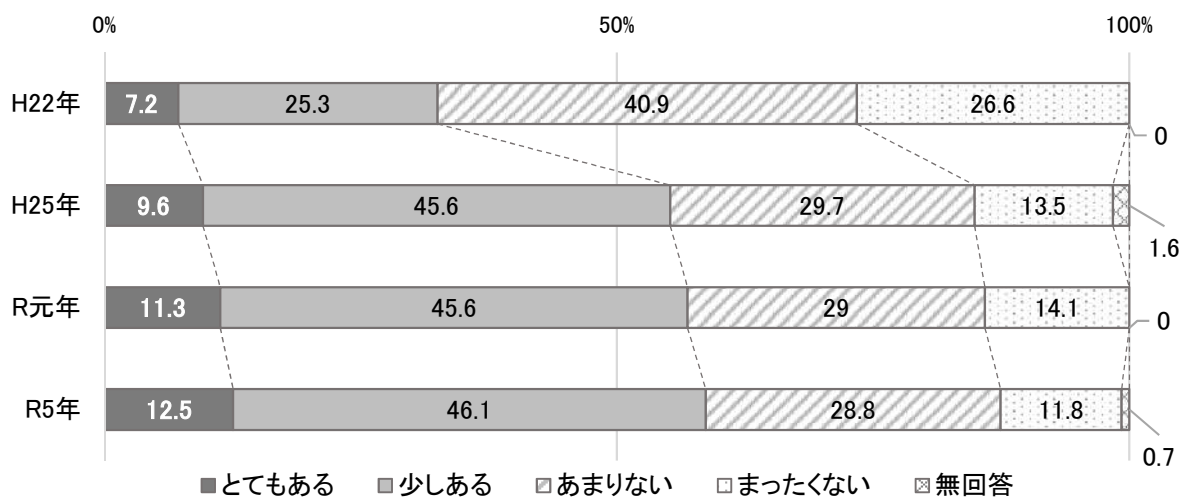
〈全体〉

朝霞市のまちづくりへの興味や関心は、「とてもある」(12.5%)、「少しある」(46.1%)を合わせた“興味・関心がある”の割合が58.6%となっている。一方、「あまりない」(28.8%)、「まったくない」(11.8%)を合わせた“興味・関心がない”の割合が40.6%となっている。



〈経年比較〉

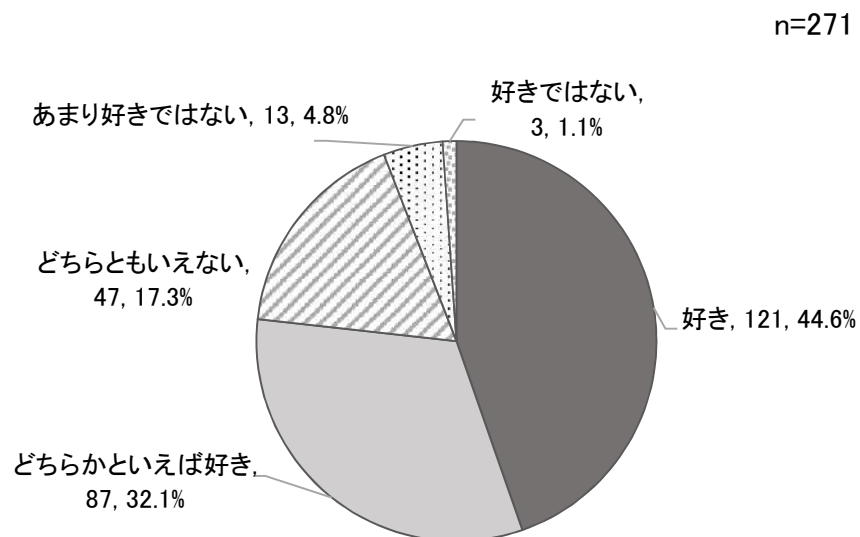
「とてもある」、「少しある」の割合は平成 22 年以降、増加している。



問2 あなたは「朝霞市」が好きですか。次の中から1つ選んでください。

〈全体〉

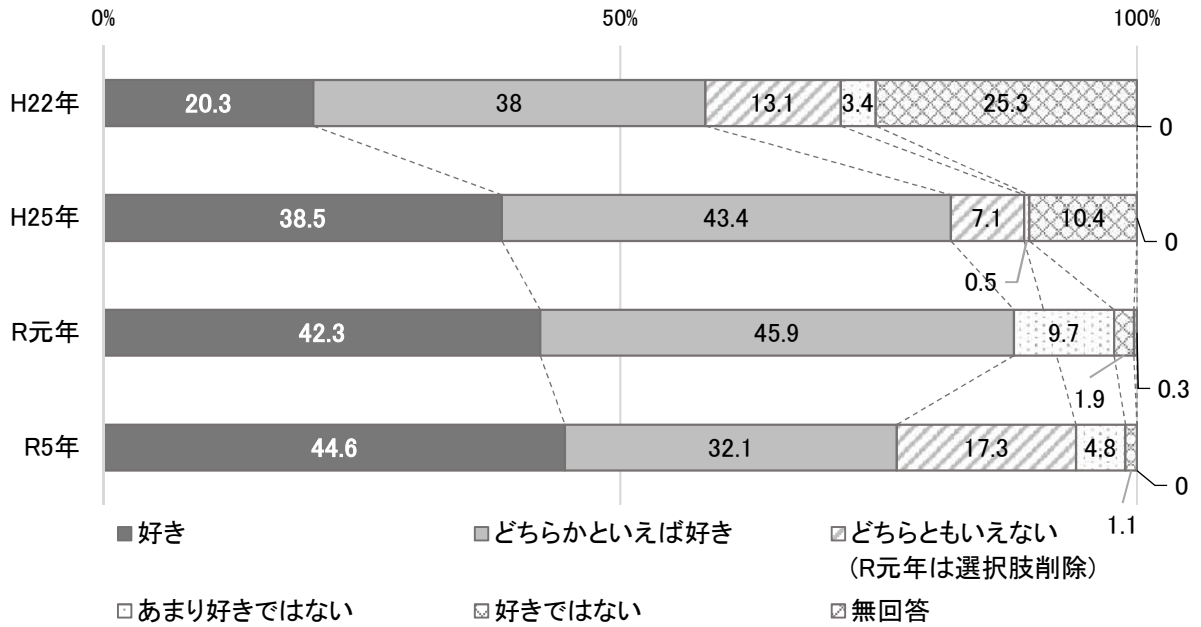
朝霞市が好きかどうかは、「好き」(44.6%)、「どちらかといえば好き」(32.1%)を合わせた“好き”の割合が76.7%となっている。一方、「あまり好きではない」(4.8%)、「好きではない」(1.1%)を合わせた“嫌い”の割合が5.9%となっている。



〈経年比較〉

「好き」の割合は平成 22 年以降、増加している。「どちらかといえば好き」の割合は、増加傾向にあったが、令和 5 年に減少した。

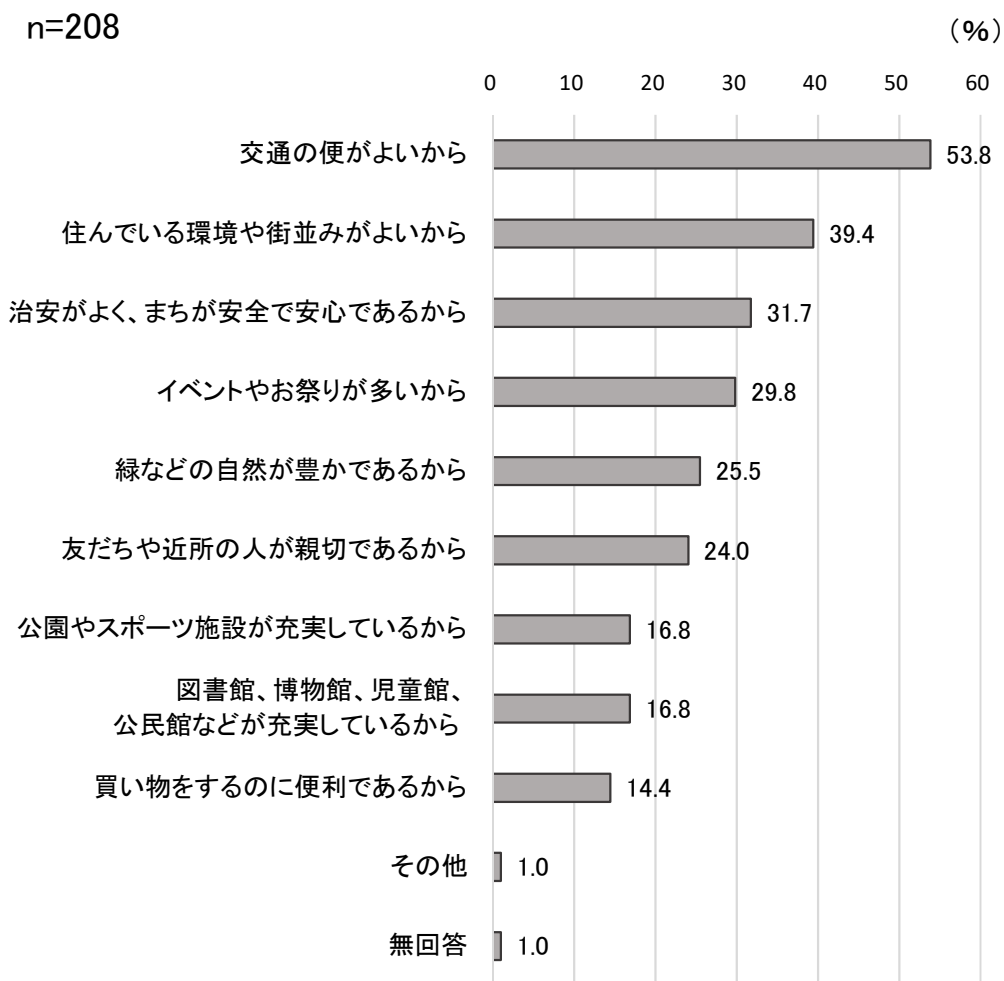
※平成 22 年、平成 25 年は、選択肢「嫌い」を「好きではない」に読み替えている。



問3 問2で「好き」「どちらかといえば好き」を選んだ方にお聞きします。その理由は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

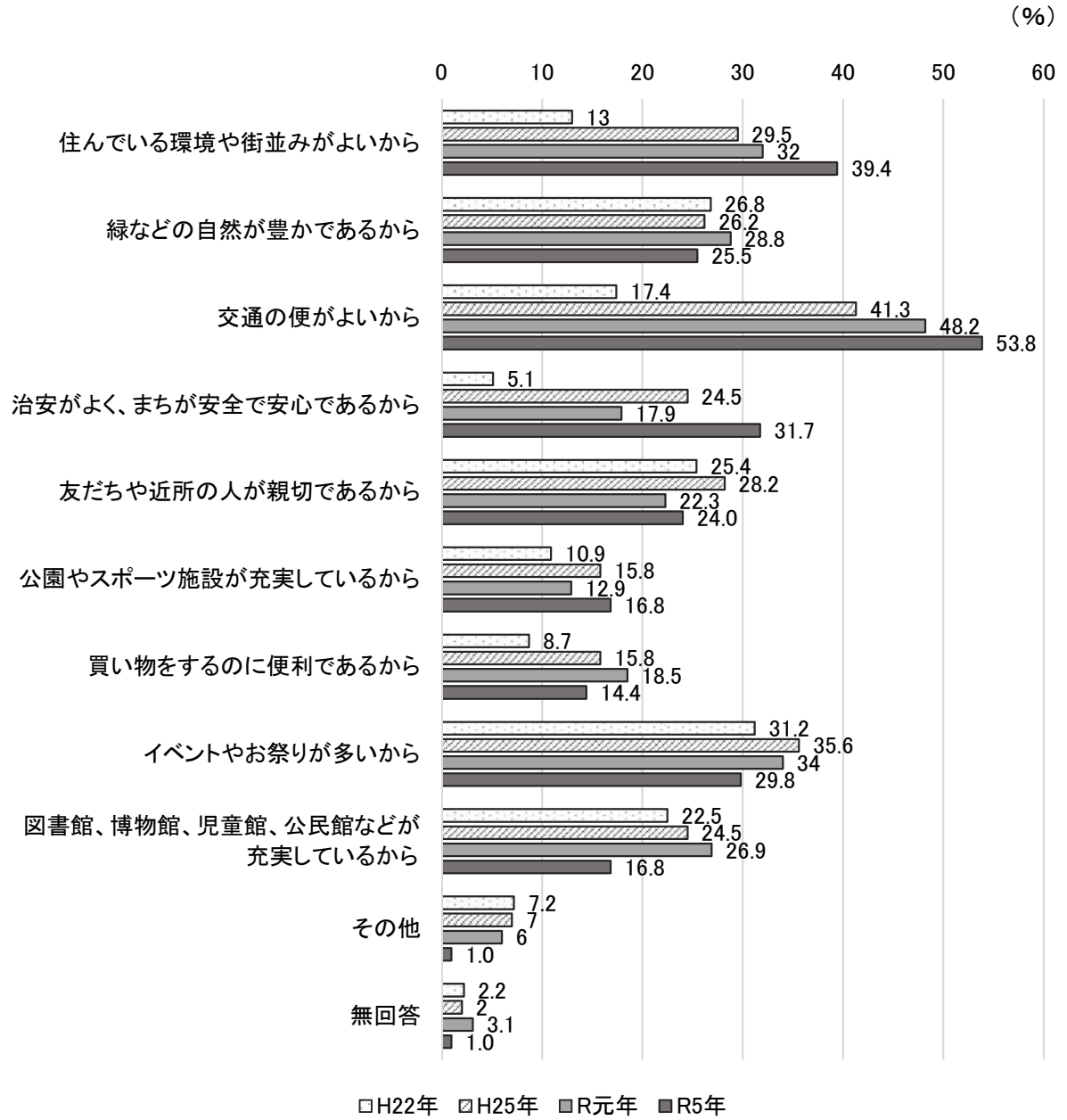
〈全体〉

朝霞市が好きな理由は、「交通の便がよいから」の割合が 53.8%で最も高く、続いて「住んでいる環境や街並みがよいから」(39.4%)、「治安がよく、まちが安全で安心であるから」(31.7%)となっている。



〈経年比較〉

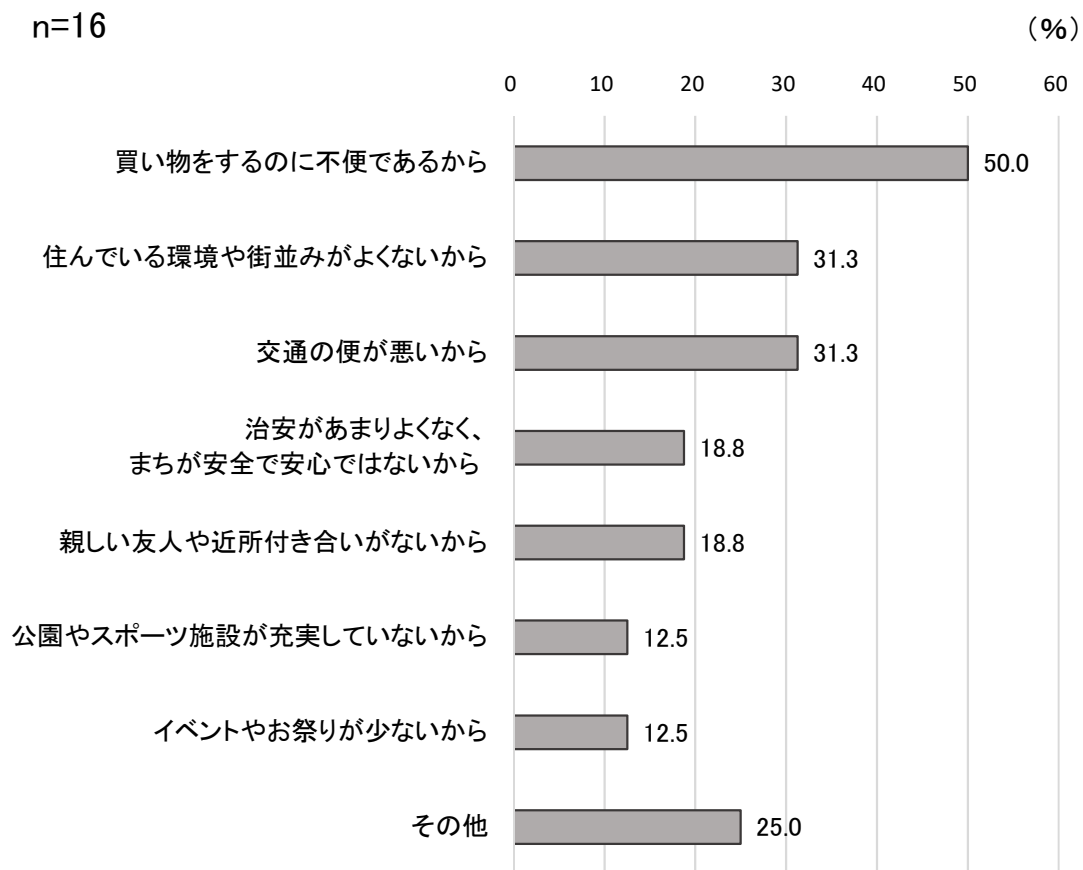
「交通の便がよい」の割合は平成 22 年以降、増加している。「住んでいる環境や街並みがよいから」、
「治安がよく、まちが安全であるから」の割合が、令和 5 年に大きく増加している。



問4 問2で「あまり好きではない」「好きではない」を選んだ方にお聞きします。その理由は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

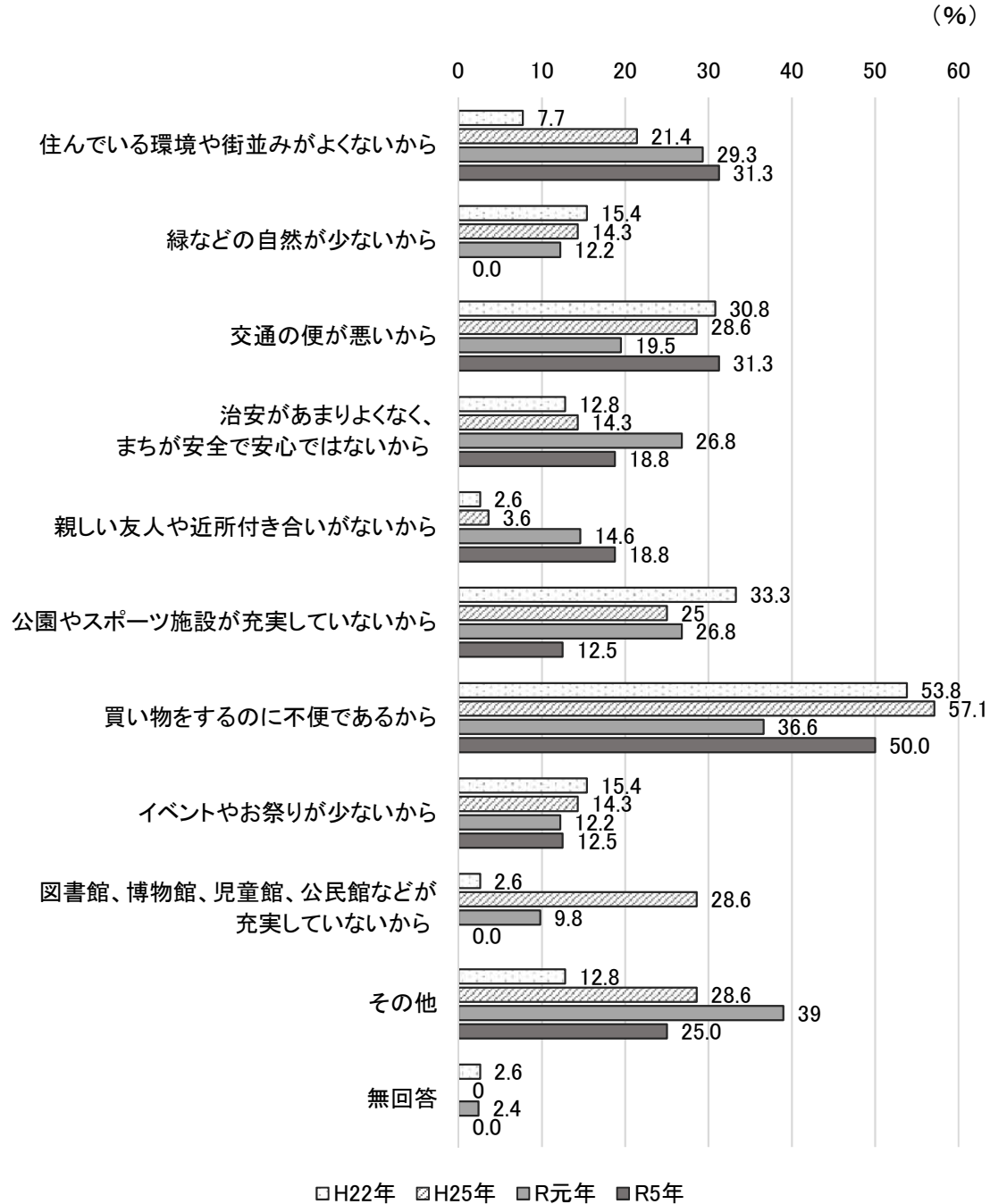
〈全体〉

朝霞市が好きではない理由は、「買い物をするのに不便であるから」の割合が 50.0%で最も高く、続いて「住んでいる環境や街並みがよくないから」、「交通の便が悪いから」（ともに 31.3%）となっている。



〈経年比較〉

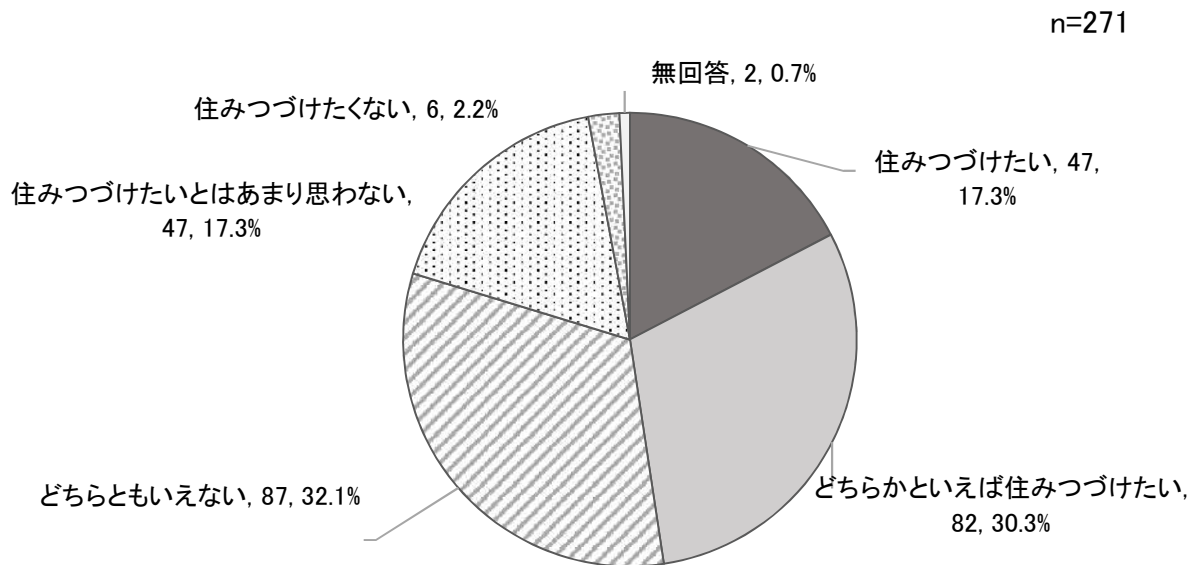
「住んでいる環境やまちなみがよくない」割合は平成 22 年以降、増加している。「交通の便が悪いから」の割合は、平成 22 年以降、減少していたが、令和 5 年に大きく増加している。また、「買い物をするのに不便であるから」の割合は令和元年に減少したが、令和 5 年に再び増加している。



問5 大人になっても、朝霞市に住みつづけたいですか。次の中から1つ選んでください。

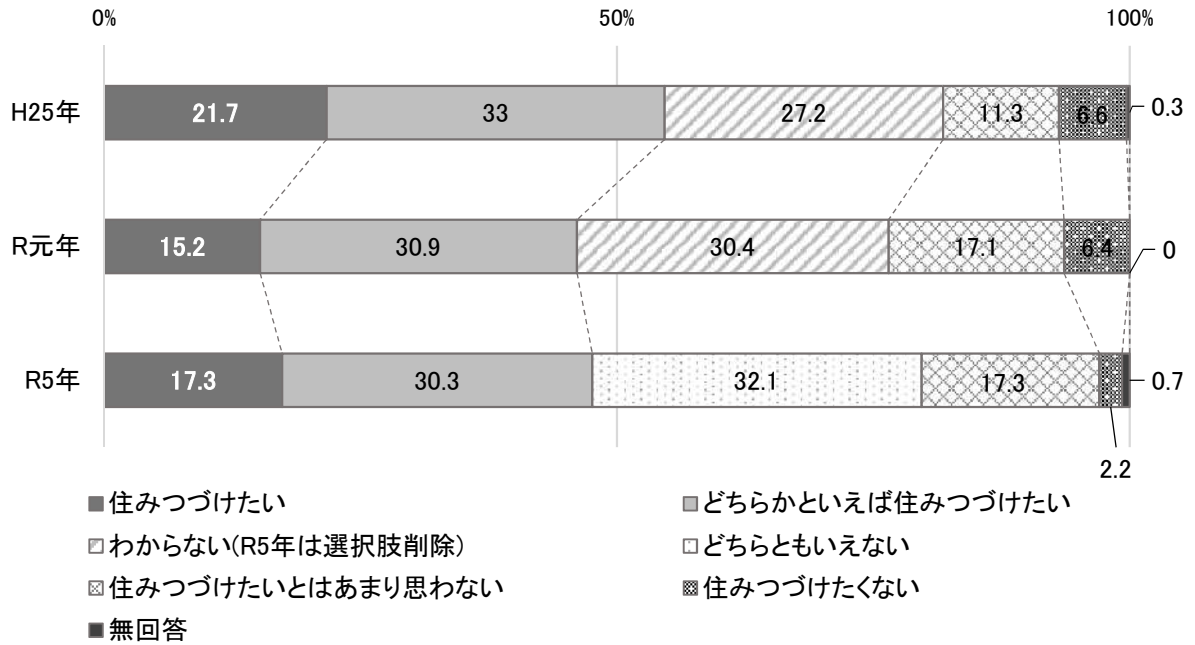
〈全体〉

大人になっても朝霞市に住みたいかどうかは、「住みつづけたい」(17.3%)、「どちらかといえば住みつづけたい」(30.3%)を合わせた“住みつづけたい”の割合が47.6%となっている。一方、「住みつづけたいとはあまり思わない」(17.3%)、「住みつづけたくない」(2.2%)を合わせた“住みつづけたくない”の割合が19.5%となっている。



〈経年比較〉

「住みつけたい」、「どちらかといえば住みつけたい」の割合は令和5年に増加したが、依然5割を下回っている。一方、令和5年の新設の選択肢「どちらともいえない」は、平成25年、令和元年の選択肢「わからない」と同程度となっている。

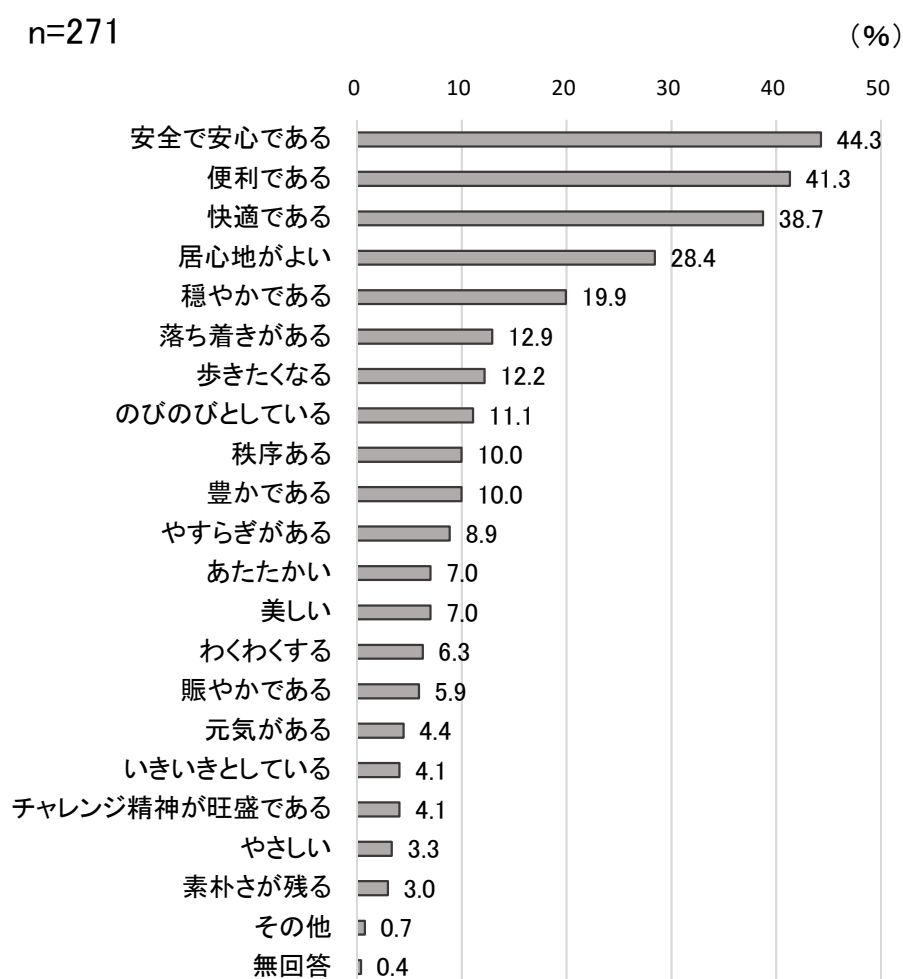


2. これからのまちづくりについて

問6 将来の朝霞市はどのようなまちであればよいと思いますか。あなたのイメージに近いものを、次の中から3つまで選んでください。

〈全体〉

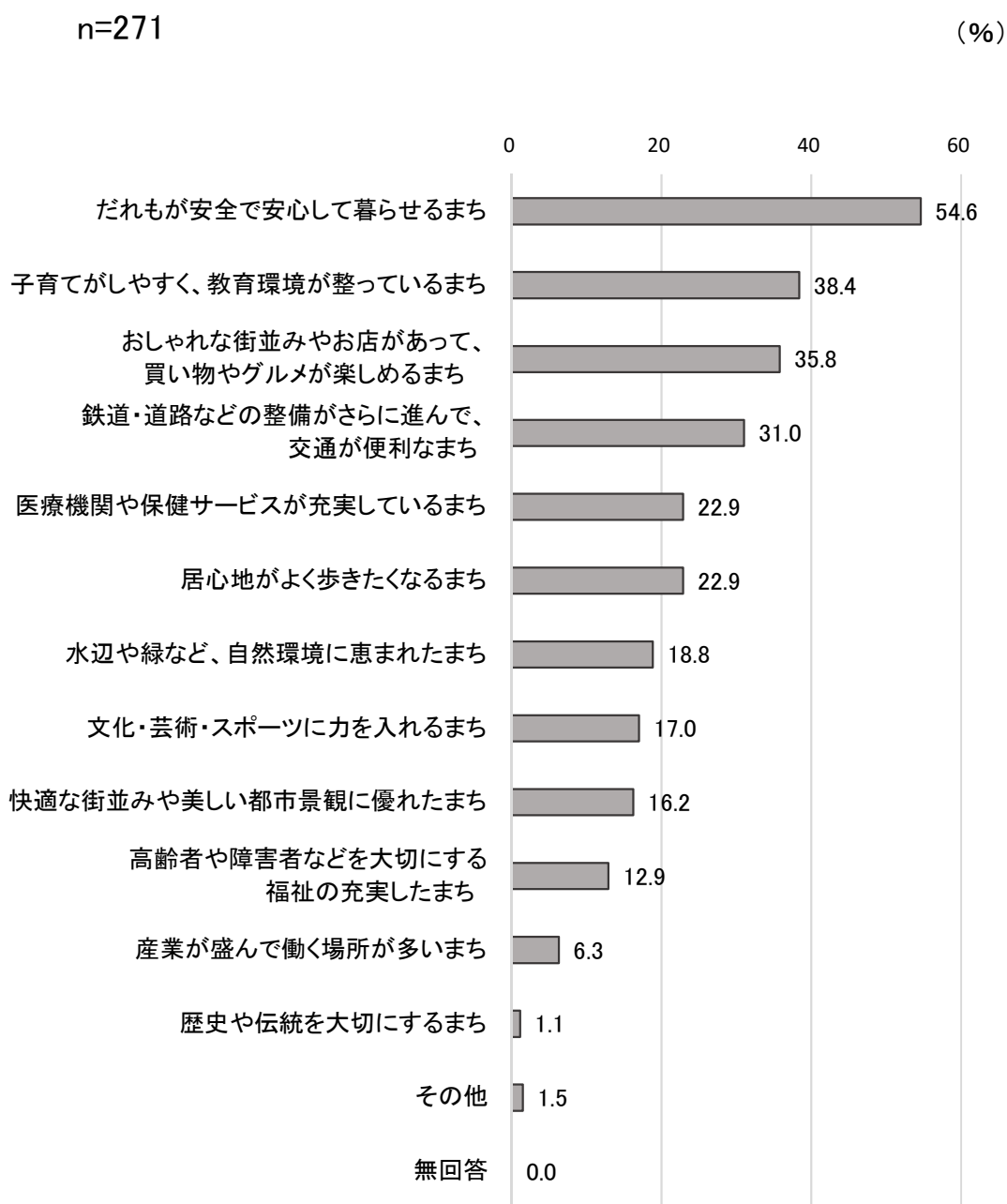
将来の朝霞市の望ましいイメージは、「安全で安心である」の割合が44.3%で最も高く、続いて「便利である」(41.3%)、「快適である」(38.7%)、「居心地がよい」(28.4)となっている。上位項目の順位は、市民意識調査と同様である。



問7 あなたは、将来の朝霞市をどのようなまちにしていきたいと思いますか。あなたのイメージに近いものを、次の中から3つまで選んでください。

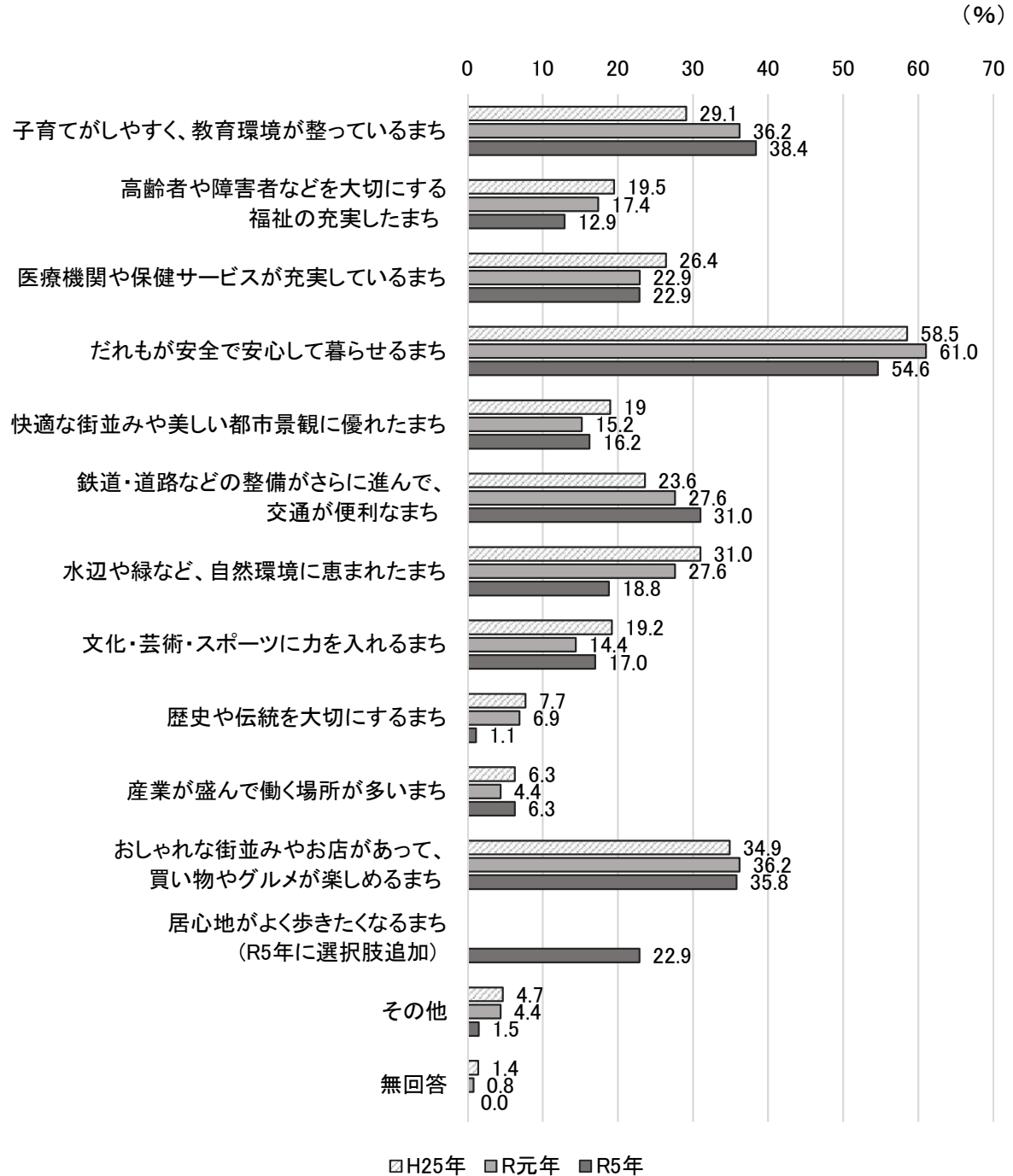
〈全体〉

まちづくりの方向性は、「だれもが安全で安心して暮らせるまち」の割合が54.6%で最も高く、続いて「子育てがしやすく、教育環境が整っているまち」(38.4%)、「おしゃれな街並みやお店があって、買い物やグルメが楽しめるまち」(35.8%)となっている。



〈経年比較〉

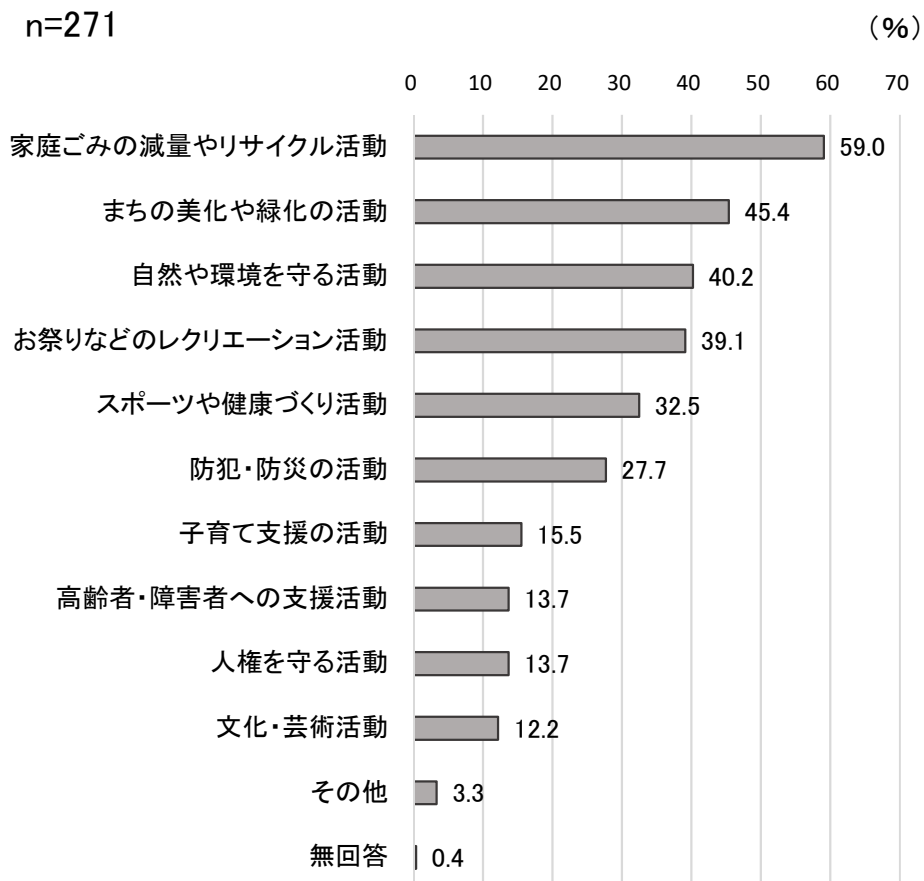
上位項目に大きな違いはみられないが、「だれもが安全で安心して暮らせるまち」は令和5年に減少している。一方、「子育てがしやすく、教育環境が整っているまち」、「鉄道・道路などの整備がさらに進んで、交通が便利なまち」の割合は、年々増加している。



問8 あなたは、朝霞市のまちづくりのために、どのようなことができると思いますか。あなたが現在または将来できると思う活動を、次の中からすべて選んでください。

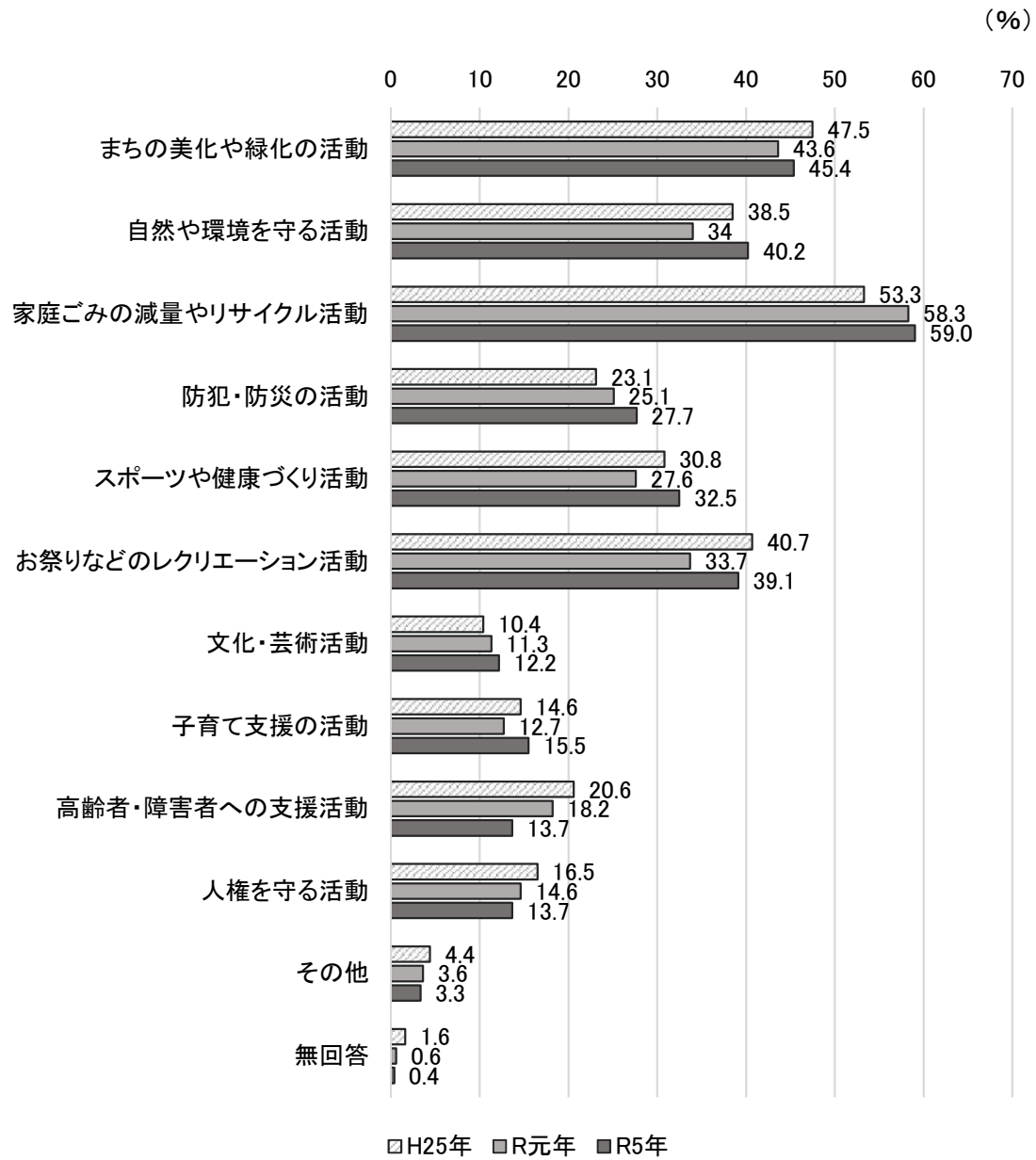
〈全体〉

現在、または将来できると思う活動は、「家庭ごみの減量やリサイクル活動」の割合が59.0%で最も高く、続いて「まちの美化や緑化の活動」（45.4%）、「自然や環境を守る活動」（40.2%）となっている。



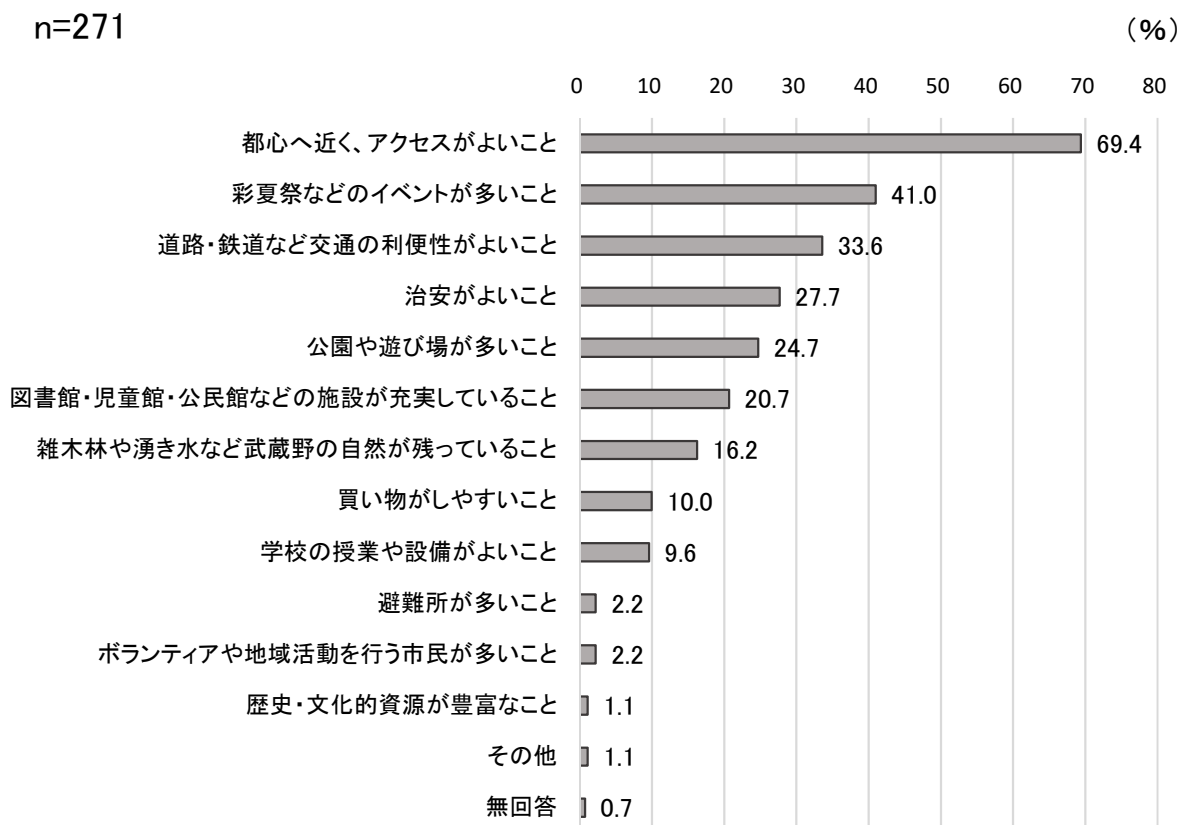
〈経年比較〉

上位項目に大きな違いはみられないが、「まちの美化や緑化の活動」、「自然や環境を守る活動」、「お祭りなどのレクリエーション活動」などは、令和5年に増加に転じた。



問9 あなたは、未来に生かしていきたい朝霞市の強みは何だと思いますか。次の中からあなたのお考えに最も近いものを3つまで選んでください。

未来に生かしていきたい朝霞市の強みは、「都心へ近く、アクセスがよいこと」の割合が69.4%で最も高く、続いて「彩夏祭などのイベントが多いこと」(41.0%)、「道路・鉄道など交通の利便性がよいこと」(33.6%)となっている。



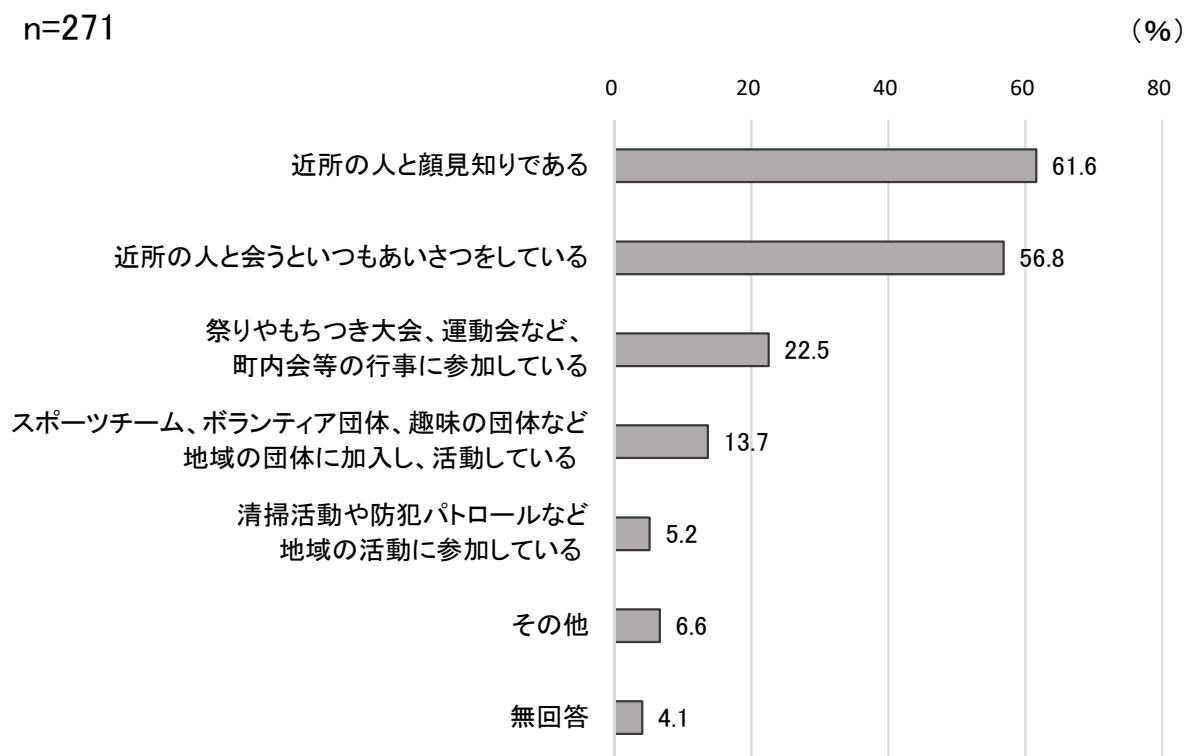
3. 地域との関わりについて

問10 あなたは、日頃、地域とどのような関わりをもっていますか。次の中からあなたに当てはまるものをすべて選んでください。

〈全体〉

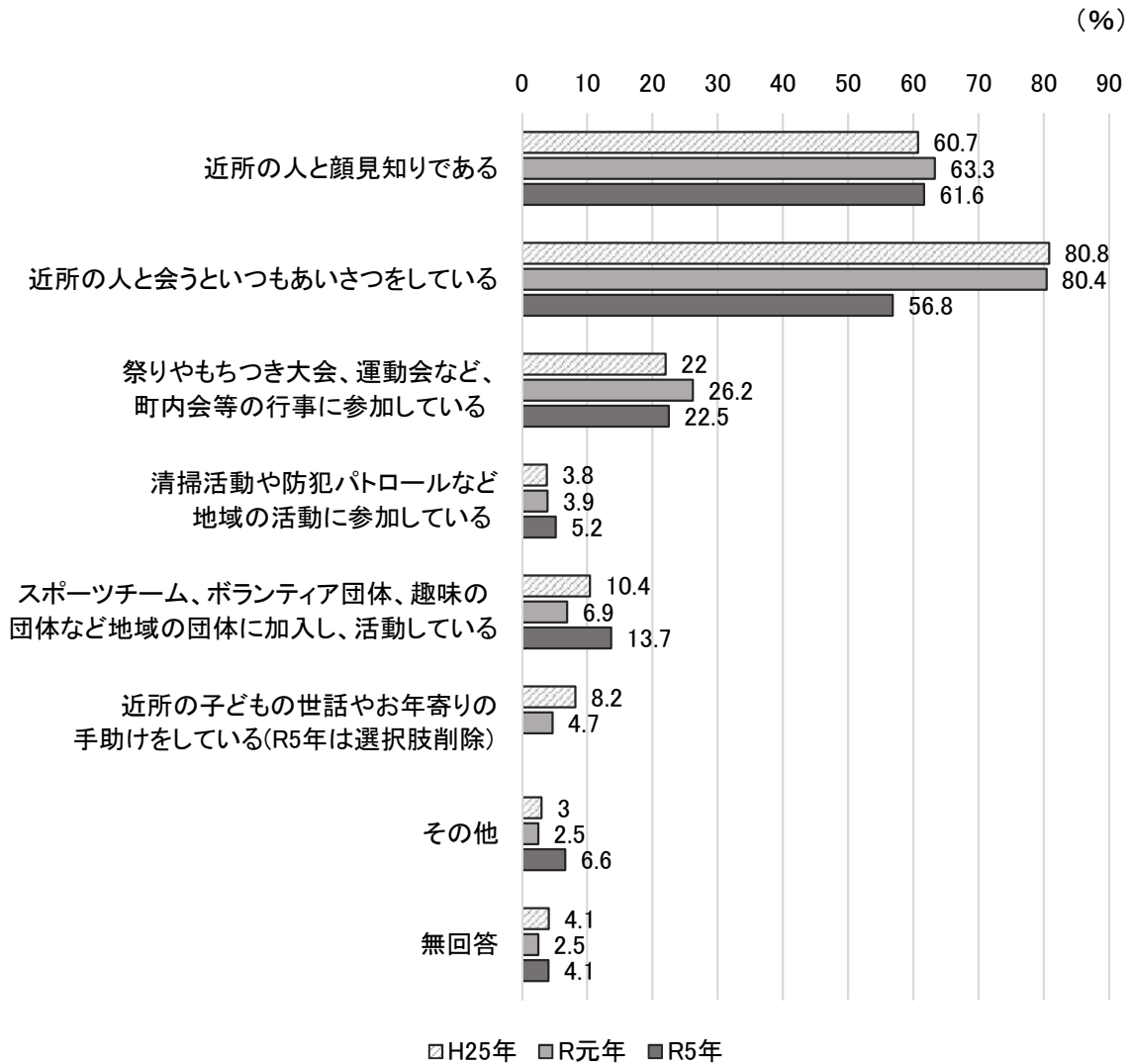
日頃の地域との関わりは、「近所の人と顔見知りである」の割合が61.6%で最も高く、続いて「近所の人と会うとあいさつをしている」(56.8%)となっている。

n=271



〈経年比較〉

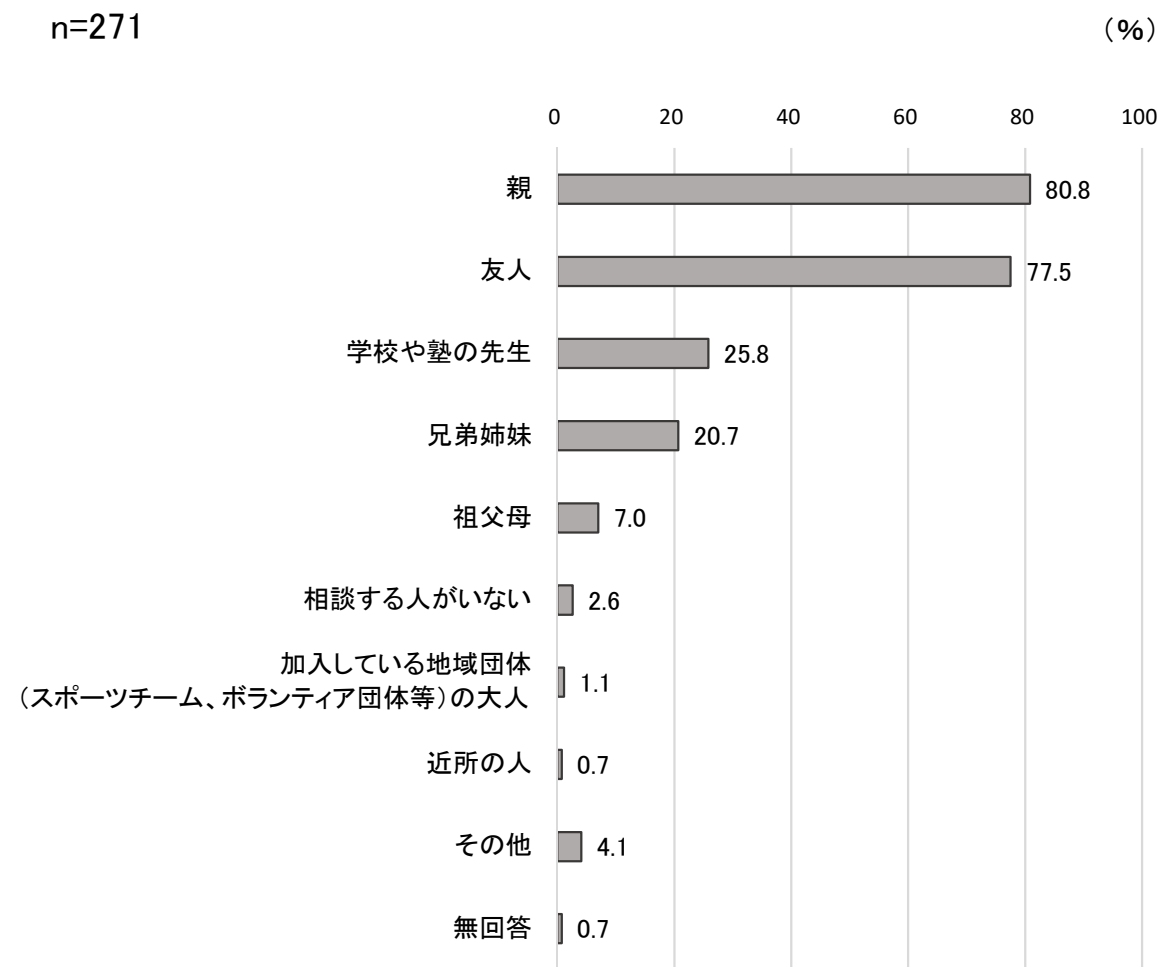
上位項目のうち、「近所の人と会うといつもあいさつをしている」の割合は、令和 5 年に大きく減少している。



問11 あなたは、困ったときや悩んだときに誰に相談することが多いですか。次の中から相談することが最も多い人の番号を3つまで選んでください。

〈全体〉

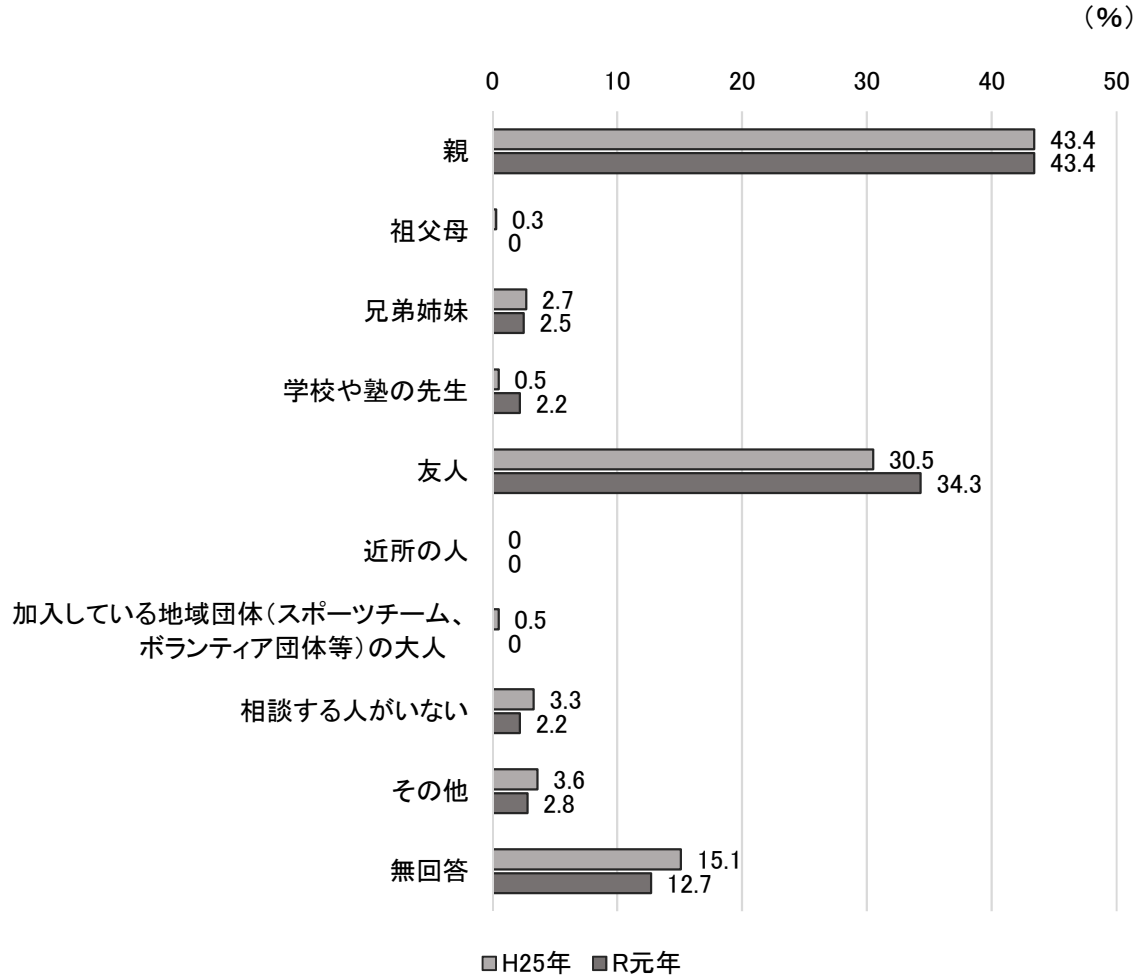
困ったとき、悩んだときに相談する相手は、「親」の割合が80.8%で最も高く、続いて「友人」(77.5%)となっている。



〈経年比較〉

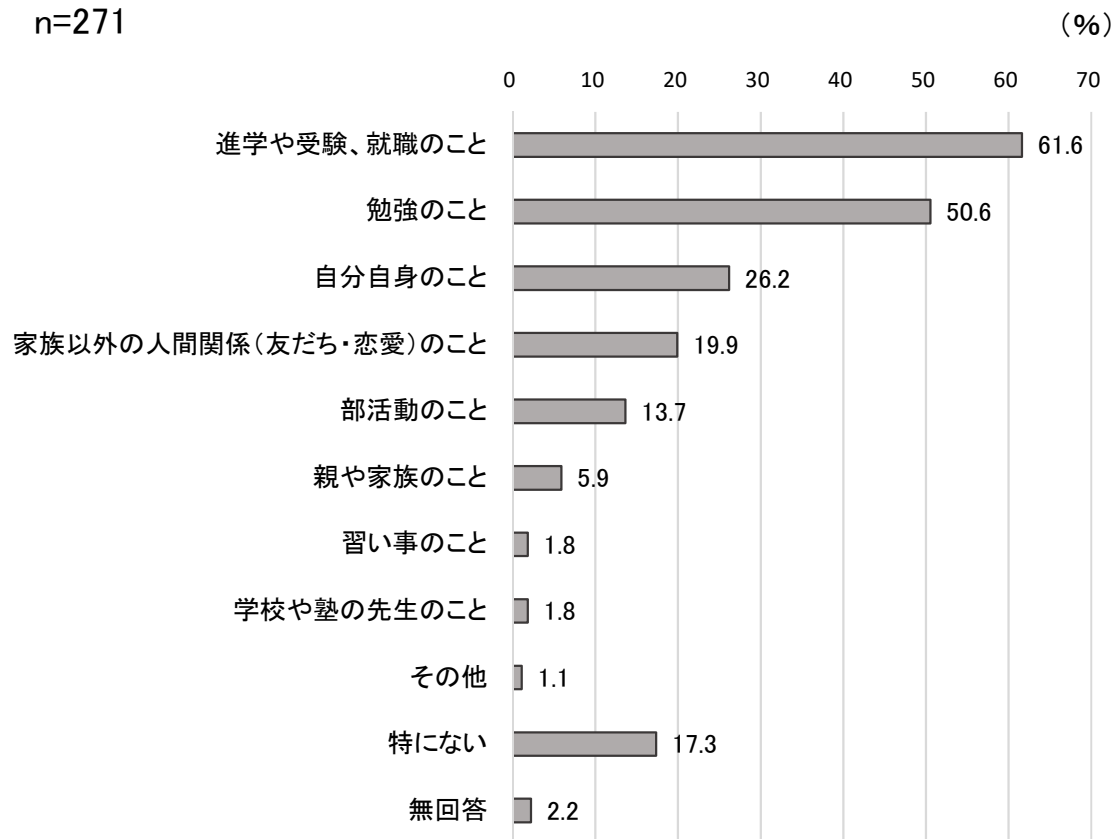
令和元年は、「友人」の割合が増加傾向となっている。

※令和5年に、単一回答から複数回答に変更しているため、令和元年結果は参考として示す。



問11-1 あなたが困っていることや心配なことは何ですか。次の中からあなたに当てはまるものを3つまで選んでください。

困っていることや心配なことは、「進学や受験、就職のこと」が61.6%と最も高く、続いて、「勉強のこと」(50.6%)が高い。

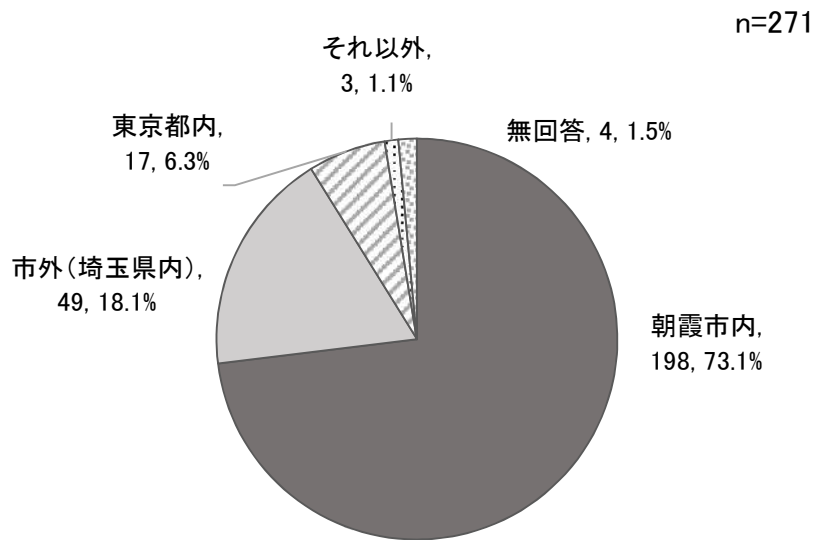


問12 あなたは、平日の放課後（働いている方は仕事が終わった後）や休日は、どこで何を
して過ごしていますか。次の中から、よく過ごしている場所（1つ）と、よくしていること（3
つまで）を選んでください。

【平日の過ごす場所】

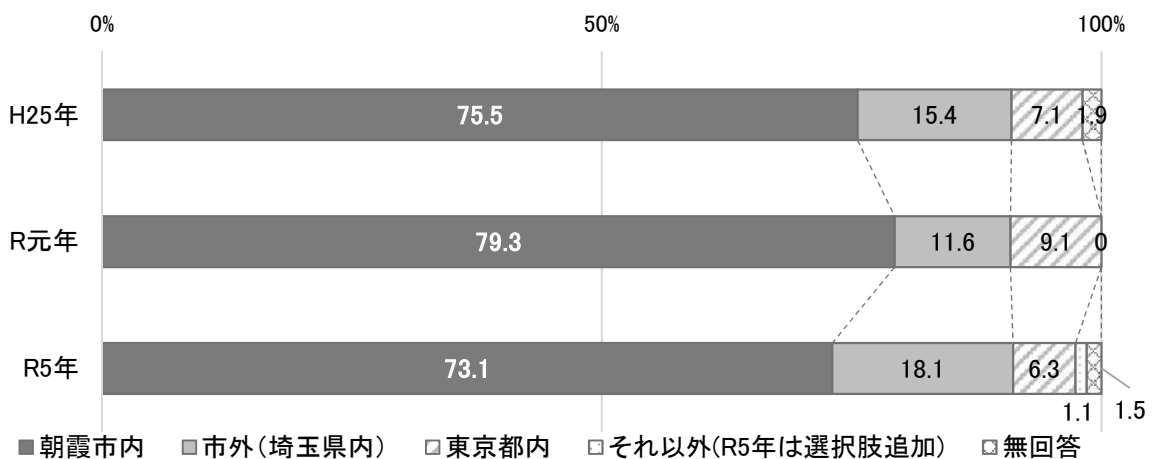
〈全体〉

平日によく過ごす場所は、「朝霞市内」の割合が73.1%で最も高く、続いて「市外（埼玉県内）」
（18.1%）となっている。



〈経年比較〉

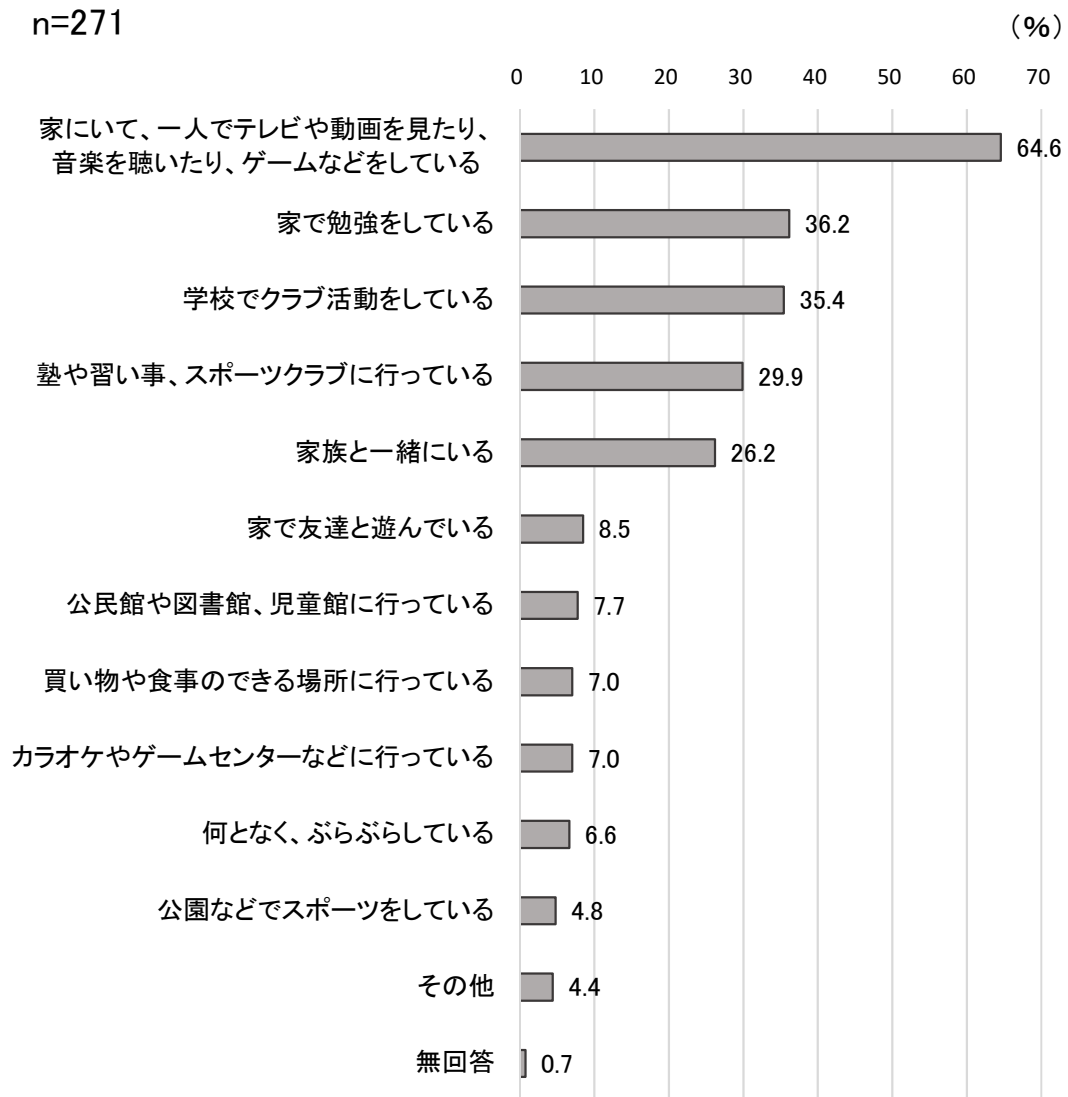
「朝霞市内」の割合が減少し、「市外（埼玉県内）」の割合が増加した。



【平日の過ごし方】

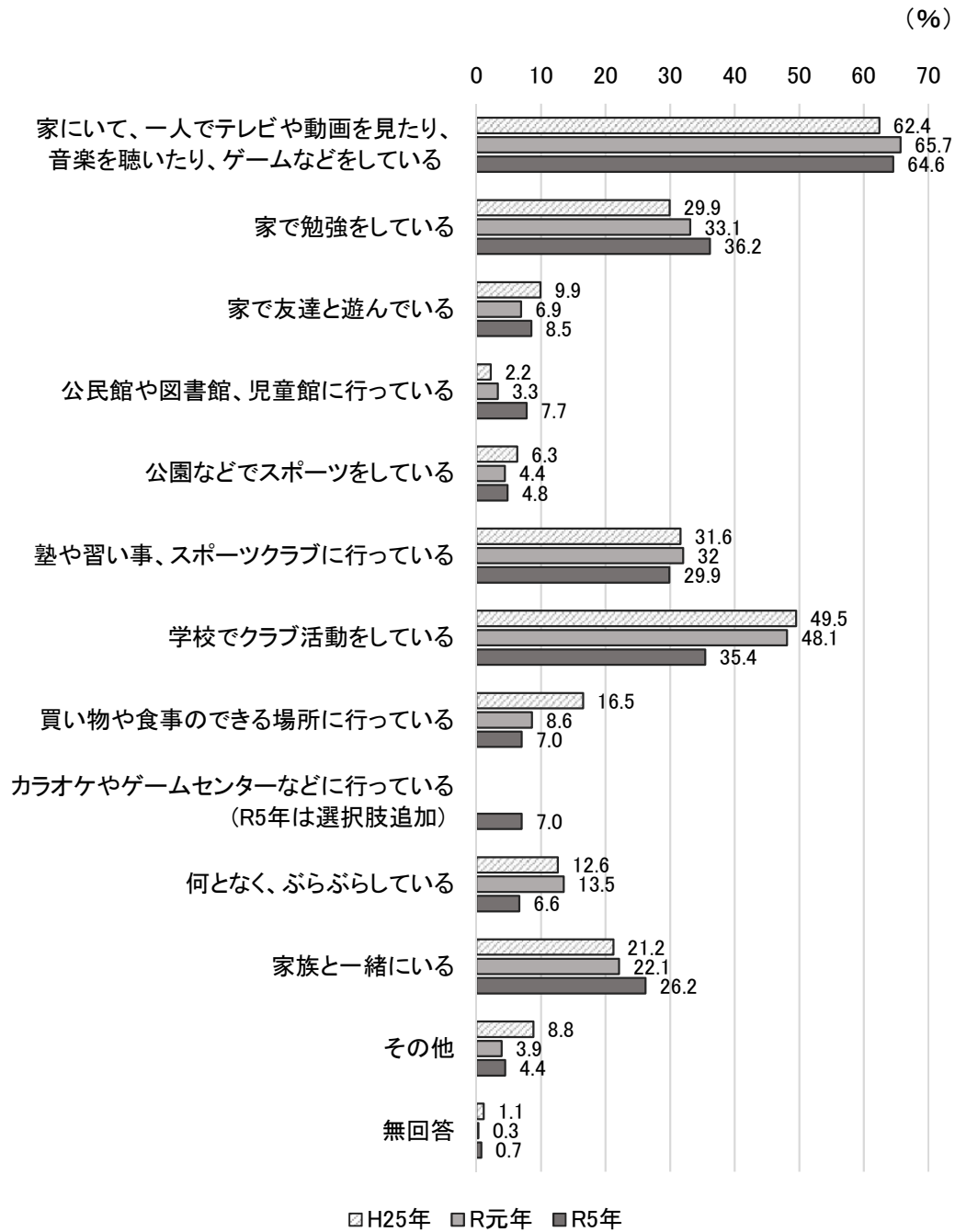
〈全体〉

平日の過ごし方は、「家にいて、一人でテレビや動画を見たり、音楽を聴いたり、ゲームなどを行っている」の割合が 64.6%で最も高く、続いて「家で勉強している」(36.2%)、「学校でクラブ活動をしている」(35.4%)となっている。



〈経年比較〉

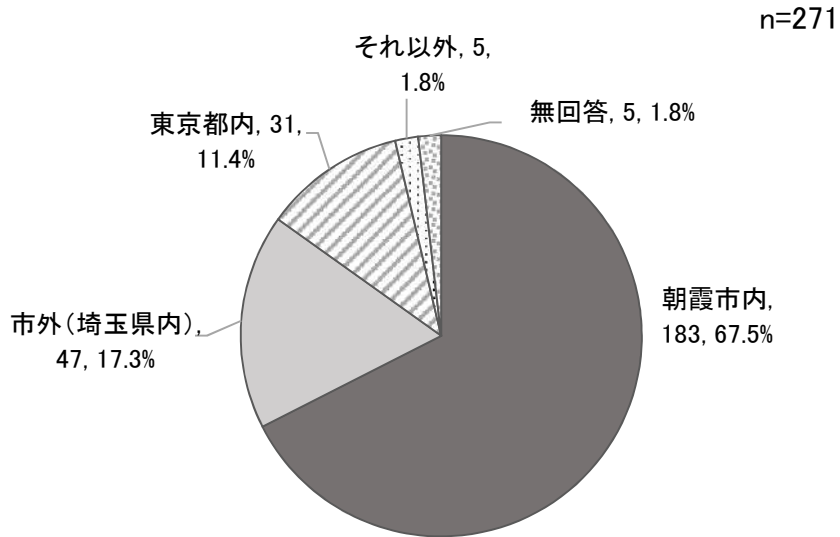
上位項目のうち、「家で勉強をしている」の割合は増加している。一方、「学校でクラブ活動をしている」の割合は減少している。



【休日の過ごす場所】

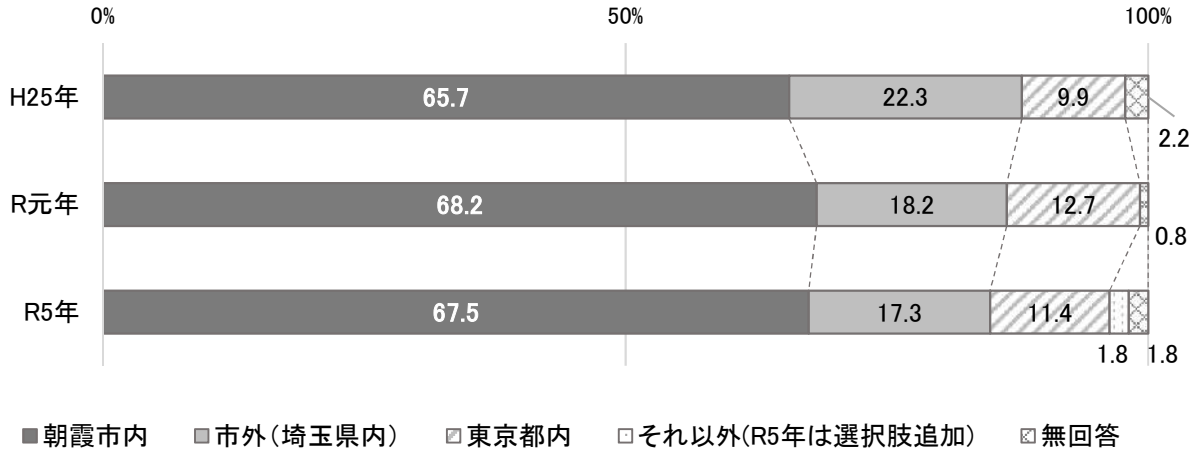
〈全体〉

休日によく過ごす場所は、「朝霞市内」の割合が 67.5%で最も高く、続いて「市外（埼玉県内）」（17.3%）となっている。



〈経年比較〉

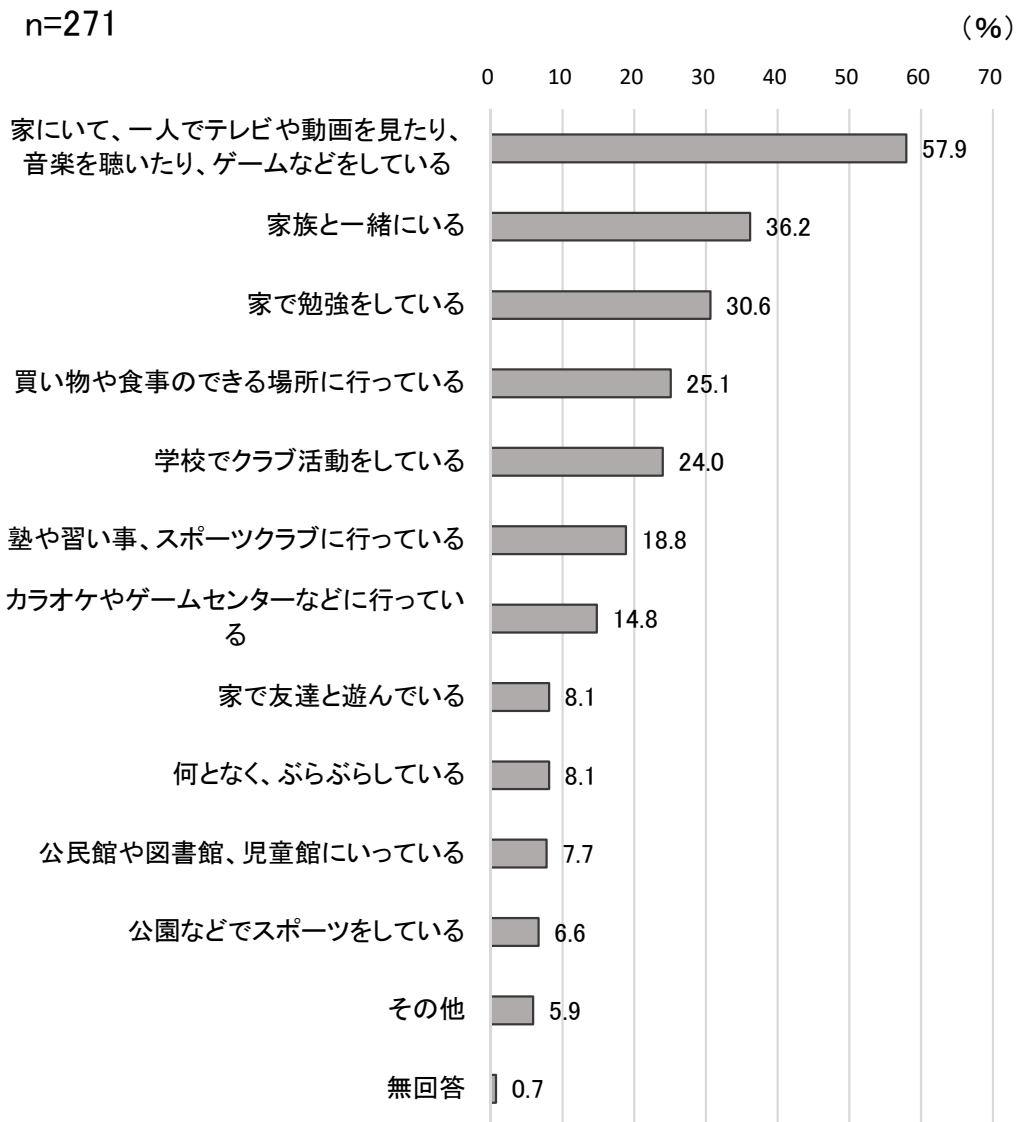
経年でみて、回答に大きな違いはみられない。



【休日の過ごし方】

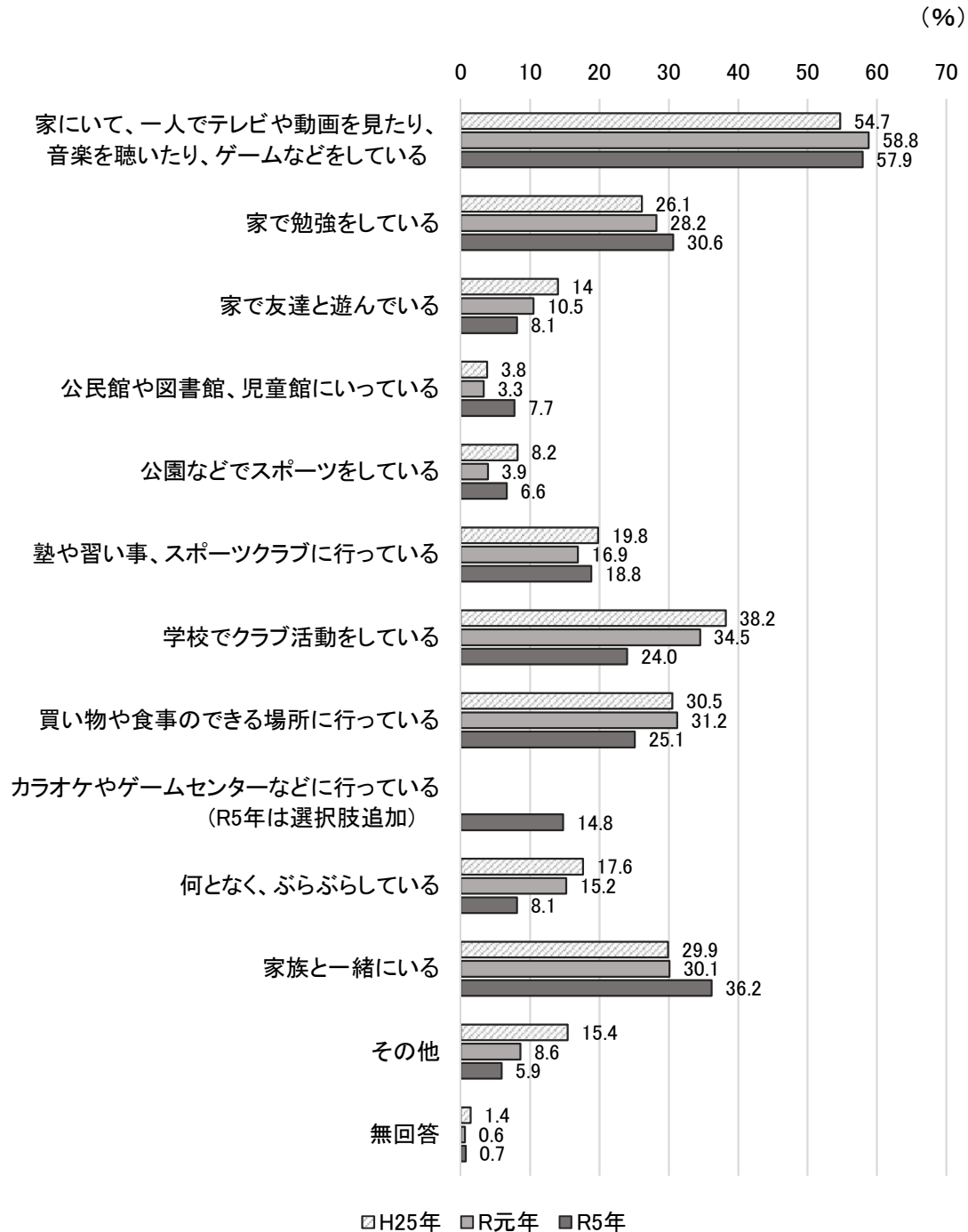
〈全体〉

平日の過ごし方は、「家にいて、一人でテレビや動画を見たり、音楽を聴いたり、ゲームなどを行っている」の割合が 57.9%で最も高く、続いて「家族と一緒にいる」(36.2%)、「家で勉強をしている」(30.6%)となっている。



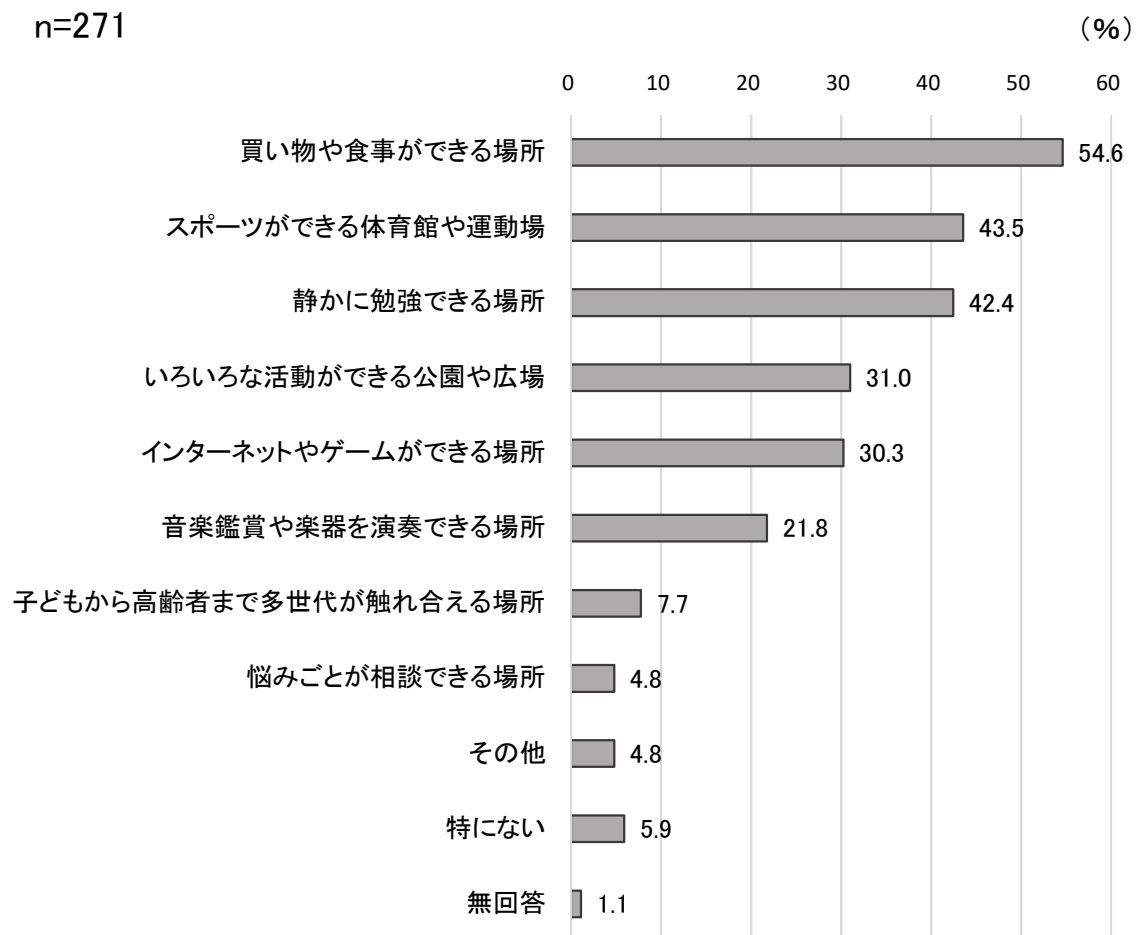
〈経年比較〉

上位項目のうち、「家で勉強をしている」、「家族と一緒にいる」の割合は増加している。一方、「学校でクラブ活動をしている」、「買い物や食事のできる場所に行っている」の割合は減少している。



問13 あなたは、学校や職場と家以外で、放課後や休日に過ごす場所としてどのような場所があればよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

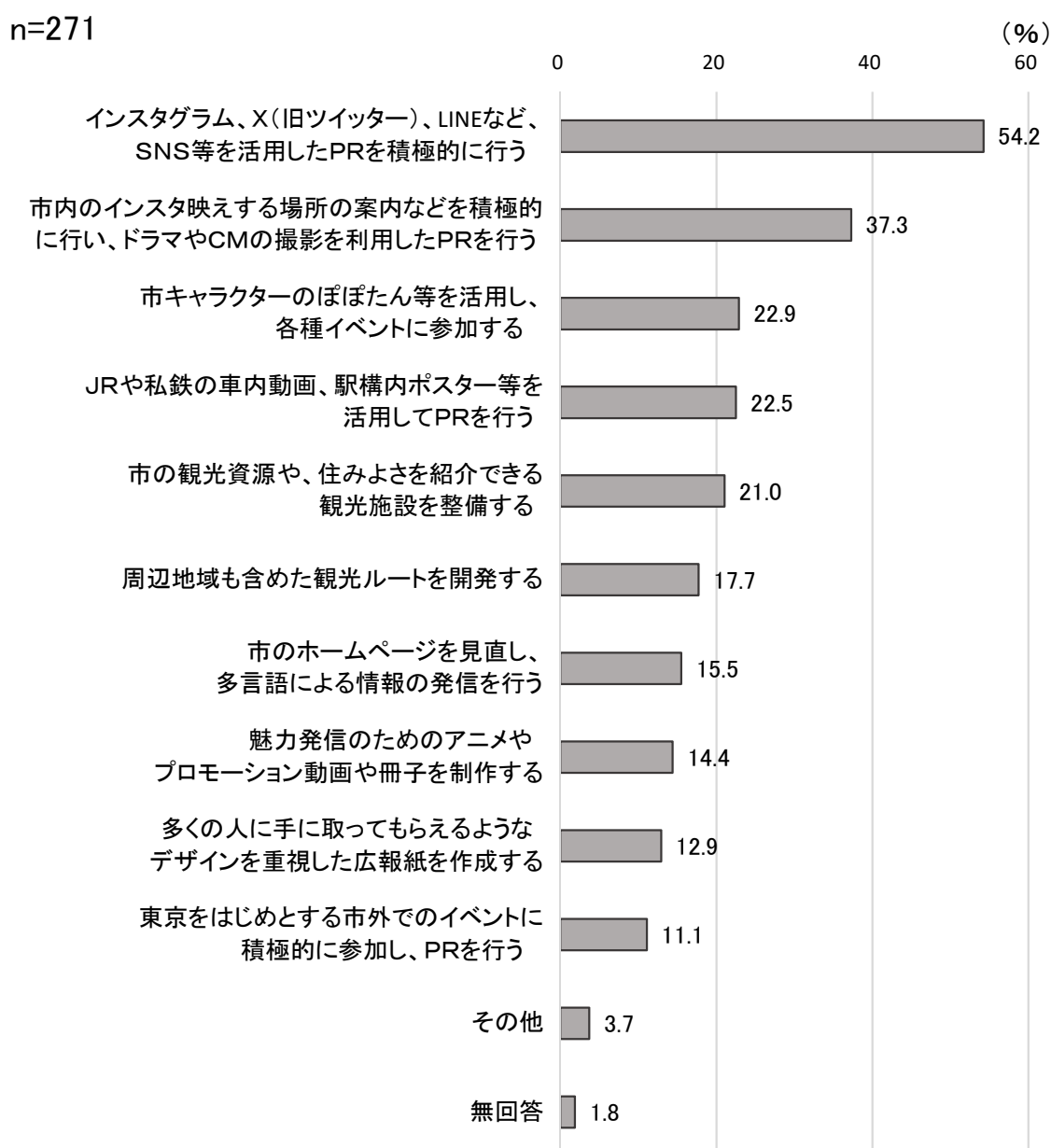
学校や職場と家以外で放課後や休日に望ましい場所は、「買い物や食事ができる場所」の割合が54.6%で最も高く、続いて「スポーツができる体育館や運動場」(43.5%)、「静かに勉強できる場所」(42.4%)となっている。



4. 市の取組について

問14 朝霞市の魅力や情報を市内外に発信する取組に関して、朝霞市がどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

朝霞市の魅力や情報発信に関して力を入れるべき取組は、「Instagram、X(旧ツイッター)、LINEなど、SNS等を活用したPRを積極的に行う」の割合が54.2%で最も高く、続いて「市内のインスタ映えする場所の案内などを積極的に行い、ドラマやCMの撮影を利用したPRを行う」(37.3%)となっている。

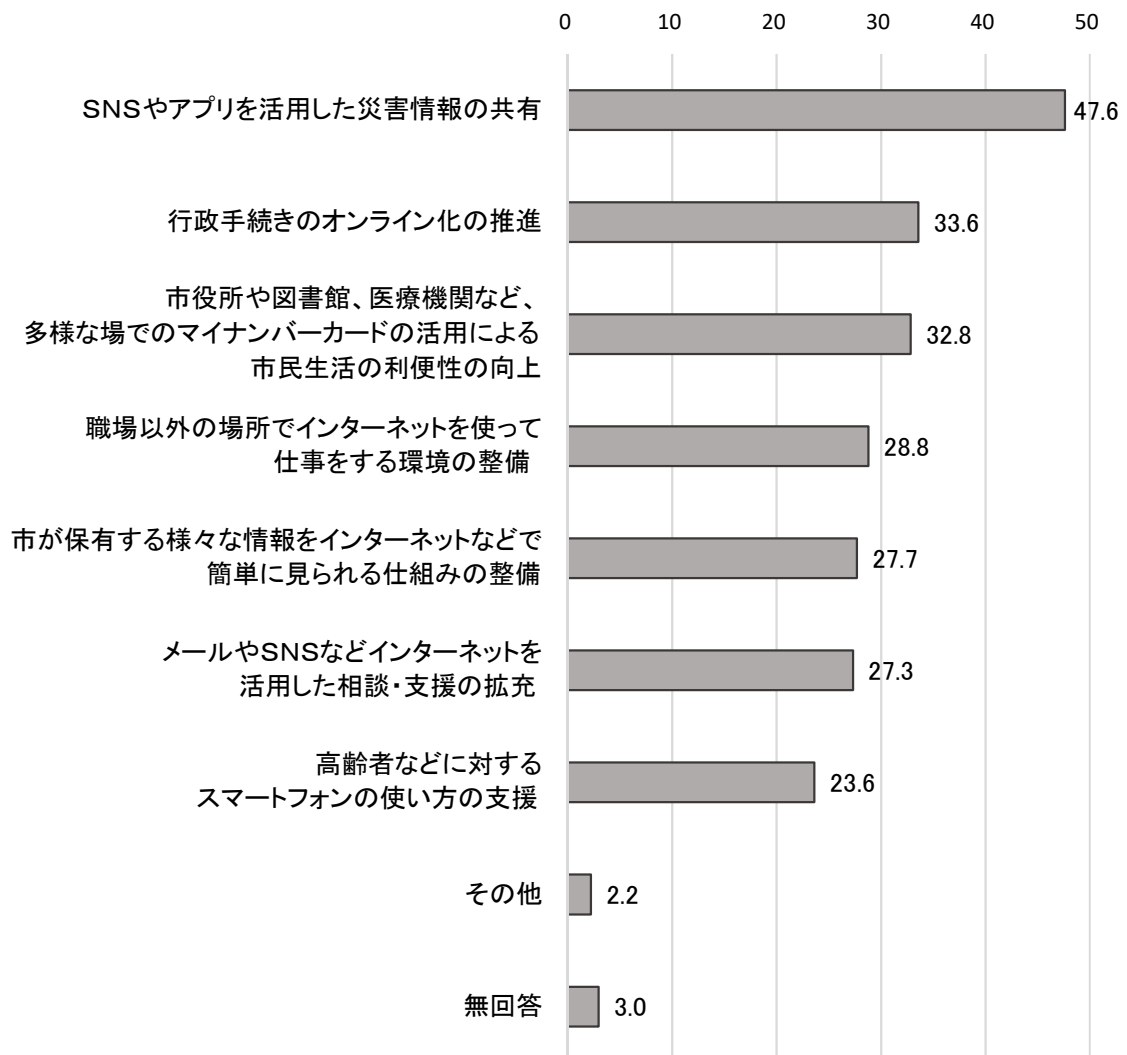


問15 朝霞市において、今後どのようなデジタル化の取組が重要と考えますか。次の中から3つまで選んでください。

重要と考えるデジタル化の取組は、「SNSやアプリを活用した災害情報の共有」の割合が47.6%で最も高く、続いて「行政手続きのオンライン化の推進」(33.6%)、「市役所や図書館、医療機関など、多様な場でのマイナンバーカードの活用による市民生活の利便性の向上」(32.8%)となっている。

n=271

(%)



5. 自由意見

問16 朝霞市の「自慢できるもの・こと」や「将来残したいもの・こと」はありますか。人物、場所、イベント、食べ物など自由に記述してください。

朝霞市の「自慢できるもの・こと」や「将来に残したいもの・こと」はありますかについて、自由意見欄に記入があったのは回答者271人のうち92人(33.9%)である。

【彩夏祭】

- ・ 「あさかの森」などの緑があふれる暮らしやすい場所があるところ。
- ・ 東京に近い。
- ・ 彩夏祭が最高に楽しい!!!
- ・ ぽぼたんが可愛い。(自まんのキャラクター)
- ・ 彩夏祭を将来に残したい。何十年も開催しているわけではないけれど、毎年何十万人の人が来ているし、何より楽しいので地域の活性化には欠かせないものだと思います。また、朝霞市外の鉄道駅にポスターを掲示して、もっと彩夏祭を盛り上げれば、他の市に住んでいる人にも、朝霞市の魅力が伝わるのではないかと思います。
- ・ 彩夏祭は自慢できるし将来残したい。朝霞の森のように小さい子から大人まで遊ぶことができる広い所は残しておきたい。
- ・ 彩夏祭やストリートテラス等のお祭りが多し。都心へのアクセスがよく、まわりは緑が多く、とれたての新鮮な野菜が食べられる等、住むにはとても快適なこと。
- ・ 駅前の人参のイルミネーション。散歩しやすい。彩夏祭。
- ・ 彩夏祭、毎年市外からも多くの人が集まるメインイベントなので、これからも続けて欲しい。むしろもっと規模を大きくし、沢山の人が満足できるものにして欲しい。
- ・ 彩夏祭、・ぽぼたん、・にんじんのオブジェ
- ・ 彩夏祭、都心へのアクセス。
- ・ 子供から大人まで楽しめ、利用できる朝霞の森・陸上競技場、野球場、体育館・彩夏祭、よさこい・四季折々のイベント(シンボルロードで行われているもの)
- ・ 地元の飲食店、グルメチャンピオンなど
- ・ 本田美奈子さん、他、朝霞の沢山の有名人をもっとアピール
- ・ 自衛隊イベント
- ・ おだやかな雰囲気をもっと残していきたい。彩夏祭などは朝霞市民からするとすごく自慢のできる良いイベントだと思います。
- ・ 彩夏祭。これだけは無くならないで欲しいです。彩夏祭は、学生だけ、朝霞市民だけではなく、色々な人が色々な所から足を運んで参加していて、参加者の夏を彩る良い祭りだと思います。そんな彩夏祭には、いつまでも色褪せず、長く続いて欲しいと思っています。

【イベント】

- ・ 祭やイベントごとは自慢できるし続けてほしいです。朝霞ストリートテラスの時、自分はボランティアで1回活動したことがあります。その時、大勢の人が「楽しい一日にしよう」と言って、とてもポジティブな人達を多く見ました。こういうのを将来残したいです。

- ・ イベントが多いと楽しい(現状維持)。
- ・ 朝霞はとても公園などが多く自然が多いです。またイベントもたくさんありとても賑やかで明るい町です。
- ・ "お祭りなどのイベントが多くある。黒目川などの美しい自然がある。"

【交通】

- ・ 交通の便が良い。→通学できる範囲が広く、進路の幅が広い。
- ・ 朝霞市の自慢できるところは交通のアクセスの良さだと思います。すぐに東京などの都会に行くことができ、電車の本数が多いです。なので、電車に関するアピールをもっとしていけたら良いと思います。電車だけでなく、朝霞駅はなかなかおしゃれな外観で写真映えも良いと思うので、そこも推していけばいいと思います。
- ・ 朝霞市の長所は、やはり交通の便である。高校生になり、通学もはじめ、電車を利用し移動することが増えた。北朝霞駅、朝霞台駅があることによって、他の市町村と比べ住みやすさや、行動範囲が広がっていると思う。しかし、前に違う市に住んでいる友達が朝霞に来た時に、「遊ぶ場所ないね〜。」と言われてしまった。公園や競技場などの設備は十分だと思うが、映画館やショッピングモールなど「朝霞のあの場所に行って遊びたい!!」という声上がるような施設がないように感じる。土地や自然を大切にしたいという市民の声があり、実現するのは厳しいかもしれないが、私と同年代くらいの子供も達は同じ意見を持っていると思う。東上線と武蔵野を接続するための町にはしたくない!!
- ・ 朝霞市は池袋や成増など東京の駅と近くて便利なので、交通の便がよい。朝霞には森林豊かな公園が多いので、自然保護をしつつ、将来も美しく残してほしい。
- ・ 緑が多く穏やかだけど、都内に近く交通の便がいいところ。

【自然・農産物】

- ・ 「あさかの森」などの緑があふれる暮らしやすい場所があるところ。
- ・ 畑、広い公園(朝霞の森など)。朝霞と言えば〇〇といえる、お土産があるといい。にんじんとか・・・。
- ・ 黒目川・朝霞の森・治安の良さ・豊かな自然・穏やかな雰囲気・青葉台。
- ・ 朝霞の良いところは都心にほどほどに近いけれど、都内ほどゴミゴミしていない。適度に自然が多く、ほどほどに空気がきれいいて、スーパーやドラックストアが多い点だと思います。引き続き、朝霞の森や周辺の公園や空き地(国有地内の樹木含む)、黒目川の遊歩道と公園や畑を残し、ゆとりのある街づくりをしてほしいです。溝沼に住んでいる祖父や祖母が言っている、「朝霞は歩行者やベビーカーを押す人が安心して歩ける道が少ない。ガードレールや車道と歩道の間の縁石を設置して、高齢者や子供が安心して歩けるようにしてほしい」ということを、市役所の人にお伝えしたいです。
- ・ 黒目川にカワセミがいること。あさかベーカリーがあること。
- ・ にんじんの生産。特撮ヒーローの撮影。←ヒーロー系大好き。なので朝霞が映ると嬉しい。黒目川の景色。
- ・ 北朝霞駅の人参モニュメントは結構気に入ってます。彩夏祭は最近行けてなかったけれど、好きなので残しておいてほしいです。黒目川の桜が綺麗で毎年見に行くので、これからもあってほしいです。
- ・ のどかで落ち着く黒目川の景観。
- ・ 黒目川沿いの BBQ できるところ
- ・ 朝霞の新鮮な野菜"

問17 あなたが朝霞市長だったとしたら、どのようなことをしてみたいですか。自由に記述してください。

「あなたが朝霞市長だったとしたら、どのようなことをしてみたいですか」について、自由意見欄に記入があったのは回答者271人のうち93人(34.3%)である。

【保健・医療】

- ・ 带状疱疹の50代以上へのワクチン費用補助。東京ではほとんどの市が対応しているのに朝霞市は対応できていない。遅れている。TVCMでは促進されているのに、市の補助がない。
- ・ 高校生まで医療費無料化。大学進学への補助。
- ・ 医療費20歳まで無償化。
- ・ "病院の増築(良い病院が少ない。とくに美容に力を入れておらず肌専門の皮膚科、整形外科)
- ・ 18歳まで公立私立校の無償化と医療費無料

【交通】

- ・ わくわく号の本数を増やす。(利用している人が多いため。)
- ・ 朝霞は坂が多いので、バスなどの交通機関を増やし、お年寄りも住みやすい町にしたい。
- ・ 朝霞台駅へのエレベーターの設置。朝霞市内にある(小中高関係なく)学校は20~30年おきに必ず建て替えを条例化する。プロ野球関連や鉄道関連の店が少なすぎるので一つは設置したい。市内でプロ野球試合が見れるように招待する。市バスで”快速”バスをつくる。
- ・ 交通の便や商業施設を豊かにする。
- ・ 市内でも、人口が集中し過ぎている地域(私の住むところなど)と、人口が比較的にはかなり少ない地域の差があるように、私の身近では感じられる。これが引き起こしているのが道路、特に歩道がせまくなっているという事態だと思う。それによって交通事故が、私の身の回りでは多くなってきているように感じる。よって、特に小学生、中学生の通学路を中心に、その道の安全性を向上してみたいと思う。かなり困難であるが、理想としては、人口の偏りも修正できれば解決に近づくように思う。
- ・ 私が住んでいるところは車がないと不便で学生としてはとても生活しづらいので、駅を増やす。バスの本数や、行先の駅の候補を増やす。
- ・ 今住んでいる朝霞市民により満足してもらえるようにする。朝霞市内を行き来しやすいように(朝霞駅から北朝霞駅など)次世代のモビリティを導入する。
- ・ "駅前の再開発バスロータリーを広くする(朝霞台)"

【公園・公共施設・都市開発】

- ・ ぼくが朝霞市長だったら、遊び場をいっぱい増やします。遊び場を増やしてボールが使える公園をたくさんつくります。あと、ゲームセンターなどが朝霞市には少ないので、大きなゲームセンターを開店してほしいです。イトーヨーカドーやイオンモール等の建物を建てていきたいです。とりあえず、積極的な活動をしていきます。
- ・ 誰もが参加できるイベントや、年齢別で楽しめるイベントを行いたい。公園や学校をもう少しキレイにして、子どもたちが気持ちよくできるようにしたい。せまい道路を広くしたり、道路に柵をつけたい。信号がない横断歩道はカーブミラーをつけたい。カーブミラーは冬もって見えないので、くもり止めもつけたい。

- ・ アスレチックが多い大きめの公園を造る。所沢ミュージアムのような室内の公共施設を造る。大きめの室内に大人も楽しめるスライダーがあるプールを造る。
- ・ 城山バスケットコートのようなスポーツが出来る公園を作り、環境を良くしてバスケットゴールを増やし、室内に卓球やフットサル等も付けて欲しい。定期テストの回数を減らす、もしくはなくす!! (テストで怒られ自分を追い込ませないようにするため)。学校の体育館を2つにする。
- ・ バスケットゴールやサッカーゴール、何でも遊べる広場(ボールも使える)を設置したいです。(自由に遊べるところが少ないから。)今の朝霞市のように緑が多く、散歩をしたくなるような景色にしたいです。勉強に集中できて、ちょっとした売店がある建物をつくりたいです。市長みずからも参加する祭りを多く開催したいです。
- ・ ボールを使える公園を作る、広くする。
- ・ ゆっくり休憩できる机があったり自由に遊んだり運動できる公園をつくる。
- ・ "地域の人とベンチを作るイベントを開催し、作ったベンチを川や公園などに設置する。
- ・ 災害に備えた土地を守るための対策。川の氾濫、土砂災害から人や家を守るための地盤を固める工事を行う。お年寄りも多い地域がたくさんあるので、道の整備もしたい。自転車、歩行者のための道を作る。
- ・ もっと朝霞駅を大きくして行って他の地域とのつながりを強くしたい。朝霞駅周辺を商店街風に見たら、もっと賑わうと思う。
- ・ 市内をもっとお洒落な町にする。若者向けの店やゲーセンを増やし、市内で休日も遊びたいと思えるようにする。
- ・ 川の近く、土手の整備。
- ・ もっと緑のあふれる市にしたい。

【イベント】

- ・ 小中学校の同窓会を市が開催する。→朝霞市に関心を向ける機会が高まる。
- ・ 季節に合ったイベントや職業体験などしてみたい。
- ・ 祭りを増やして人との交流を盛んにする。
- ・ イベントをたくさんする。
- ・ 米軍跡地の活用→運動施設、商業施設に。中央公園野球場の駐車場の拡大、ネット増強→様々なスポーツイベントやプロ野球2軍試合の開催。・市を豊かにするためのチャリティーイベント。

【PR】

- ・ インスタグラムや X、SNS 等を活用して様々な場所や施設などの PR 活動を行う。歩行者が通りやすくなるように、特に通学路などの道幅をかえる整備をしたい。
- ・ 「朝霞」という名前は、初めて見る人は「あさぎり」とよんでしまったり、読めなかったりするそうです。なので、「あさぎりではなくあさかです!」など、少し自虐的な PR をしてみたいです。また「朝霞」は個人的に、とてもキレイな名前だと思っているので、その点でもアピールしたいです。
- ・ 朝霞市の良さを更に理解してもらうために、名産や名所のを詰め込んだ PR 動画を作成し、SNS 上に発信してみたいです。朝霞市の名産には人参、あさか道中など、名所には旧高橋家住宅、黒目川の桜など、様々な分野で数々の魅力があります。その魅力を一つの動画に纏め、全国に知ってもらい、地域を活性化する活動に力を尽くしてみたいです。その他に朝霞市内をより住みやすい街にするため、急な坂全てに手摺りを設置したいです。市内には急な坂が数多くあり、たまに登りにくそうにして

いる高齢者の方を見ることがあります。自分はそこで、手摺りをつければ苦勞する人も大幅に減少するのではないか、と考えました。若い人から高齢者まで安心して過ごしやすい街にすることで、朝霞市が更に近代的な街に発展し、賑やかな地域になっていくと思います。